DocuSign

2022-03-03

DocuSign eSignature for Salesforce 管理者ガイド

2022-03-03

目次

DocuSign eSignature for Salesforce 管理者向けの概要. 9
DocuSign アプリケーションランチャーパッケージを **Salesforce** 組織にインストールする. 10
Salesforce 組織に **DocuSign** アカウントを接続する. 11
Salesforce 組織に実稼働環境の DocuSign アカウントを接続する. 12
Salesforce 組織にデモ環境の DocuSign アカウントを接続する. 13
DocuSign アプリケーションランチャーの機能にアクセスする. 15
新しいデバイスで **DocuSign** にアクセスするための検証コードを入力する. 15
DocuSign アプリ用に **Salesforce** の **IP** 制限を緩和する. 16
DocuSign CLM、**Gen**、**Negotiate**、**eSignature for Salesforce** の信頼済み **IP** 範囲を追加する. 17
[アプリケーションポリシーを管理]設定 - **Salesforce** ユーザーが自分で **DocuSign** へのアクセスを認証できるようにする. 19
DocuSign アカウントと **Salesforce** 組織の接続を解除して再接続する. 20
Gen、**Negotiate**、**eSignature for Salesforce**、および **CLM** を日本語やほかの言語で使用する. 21
Salesforce 組織の翻訳の有効化. 21
Salesforce ユーザーの翻訳の有効化. 22
[テンプレート]、[ボタン]、[設定]タブを使用して **DocuSign eSignature for Salesforce** を設定する. 23
Salesforce のページレイアウトに DocuSign eSignature for Salesforce のカスタムボタンを追加する. 24
[DocuSign セットアップ]タブで eSignature for Salesforce アプリの設定をカスタマイズする. 25
Salesforce 組織で DocuSign eSignature for Salesforce を無効または有効にする. 26
System Sender を有効にして非 DocuSign ユーザーが Apex Toolkit でエンベロープの送信と署名を行えるようにする. 27
Salesforce ページレイアウトに **DocuSign** コンポーネントを追加する. 28
Salesforce ページレイアウトに[DocuSign ファイル]コンポーネントを追加する. 28
Salesforce ページレイアウトに[DocuSign エンベロープのステータス]コンポーネントを追加する. 29
Salesforce のオブジェクトマネージャーを使用してページレイアウトに DocuSign のフィールドやボタンを追加する. 31

Salesforce ユーザーに DocuSign へのアクセス権を付与する. 31
DocuSign Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce のユーザー管理. 34
ユーザー管理ツールを使用して Salesforce 組織に DocuSign Gen、Negotiate、または eSignature のユーザーを作成する. 35
DocuSign CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce ユーザーのアクティブ化ステータスを確認する. 37
DocuSign CLM、Gen、Negotiate、または eSignature for Salesforce ユーザーのパスワードをリセットする. 38
DocuSign CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce ユーザーのアクティブ化メールを再送信する. 38
DocuSign の[ユーザー管理]ページで DocuSign ユーザーを検索する. 39
Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce のユーザーの権限を編集する. 40
[ユーザー管理]ページで Salesforce ユーザーから Gen、Negotiate、eSignature のアクセスを削除する. 41
DocuSign の[ユーザー管理]ページで Gen、Negotiate、eSignature のアクセスを削除して DocuSign ユーザーをクローズする. 42
Salesforce で DocuSign 権限セットのユーザーを追加または削除してアプリのセキュリティを管理する. 44
DocuSign ログイン権限セットによる Salesforce での DocuSign ユーザーのアクセス管理について. 44
DocuSign アプリケーションランチャーの権限セットにユーザーを追加する. 46
DocuSign アプリケーションランチャーの権限セットからユーザーを削除する. 47
DocuSign eSignature for Salesforce でエンベロープを作成して送信する. 47
DocuSign アプリケーションランチャーの標準の[DocuSign で送信]ボタンを使用してエンベロープを送信する. 49
ステップ 1: 標準の「DocuSign で送信」エンベロープに文書またはテンプレートを追加する. 49
ステップ 2: エンベロープに受信者を追加する. 51
ステップ 3: DocuSign と Salesforce のフィールドを追加してエンベロープを送信する. 52
DocuSign エンベロープテンプレートボタンを使って文書を署名者に送信する. 54
ステップ 1: 文書を表示または追加する. 55
ステップ 2: 受信者を表示または追加する. 56
ステップ 3: DocuSign と Salesforce のフィールドを表示または追加してエンベロープを送信する. 58
クイック送信用の DocuSign エンベロープテンプレートを使用してエンベロープを送信する. 59
DocuSign Negotiate[アクション]メニューを使用して文書を署名者に送信する. 60

ステップ 1: エンベロープに追加する文書を選択する. 60
ステップ 2: エンベロープに受信者を追加する. 61
ステップ 3: DocuSign と Salesforce のフィールドを追加してエンベロープを送信する. 63
フィールドの配置のみのエンベロープテンプレートのボタンを使って Salesforce レコードからエンベロープを送信する. 65
エンベロープテンプレートのボタン[今すぐ送信]を使って Salesforce レコードからエンベロープを送信する. 67
[DocuSign エンベロープのステータス]コンポーネントでリマインダーを送信したりエンベロープを無効にしたりする. 68
アクティブな DocuSign エンベロープのリマインダーを送信する. 68
アクティブな DocuSign エンベロープを無効化する. 69
DocuSign eSignature for Salesforce でエンベロープテンプレートを作成して電子署名プロセスを自動化する. 70
エンベロープテンプレートを作成して電子署名プロセスを自動化する. 71
ステップ 1: テンプレート名と Salesforce データソースを追加する. 72
ステップ 2: 文書をテンプレートに追加する. 73
ステップ 3: 受信者をテンプレートに追加する. 74
ステップ 4: テンプレートに追加する Salesforce の差し込みフィールドを作成する. 76
ステップ 5: テンプレート文書に DocuSign や Salesforce のフィールドを配置する. 77
ステップ 6: クイック送信や書き戻しなどのオプションを追加する. 78
ステップ 7: Salesforce ページレイアウトにエンベロープテンプレートのカスタムボタンを作成する. 80
Salesforce Experience Cloud のエンベロープテンプレートを作成する. 81
ステップ 1: 名前、データソース、Experience Cloud オプションを追加する. 82
ステップ 2: 文書をテンプレートに追加する. 83
ステップ 3: Experience Cloud のエンベロープテンプレートに受信者を追加する. . . 84
ステップ 4: テンプレートに追加する Salesforce の差し込みフィールドを作成する. 86
ステップ 5: テンプレート文書に DocuSign や Salesforce のフィールドを配置する. 88
ステップ 6: Experience Cloud のエンベロープテンプレートに配信元やリマインダーなどのオプションを追加する. 89
ステップ 7: Salesforce ページレイアウトにエンベロープテンプレートのカスタムボタンを作成する. 90
Salesforce の個人取引先オブジェクトを使用してエンベロープテンプレートを作成する. . . 91
ステップ 1: テンプレート名を追加して[取引先]オブジェクトを選択する. 92
ステップ 2: 文書をテンプレートに追加する. 93
ステップ 3: 受信者をテンプレートに追加する. 94

ステップ 4: テンプレートに追加する Salesforce の差し込みフィールドを作成する. 96
ステップ 5: テンプレート文書に DocuSign や Salesforce のフィールドを配置する. 97
ステップ 6: クイック送信や書き戻しなどのオプションを追加する. 99
ステップ 7: 取引先レイアウトにエンベロープテンプレートの一時的なカスタムボタンを作成する. 101
ステップ 8: 取引先レイアウトから[個人取引先]のカスタムボタンを削除する. . . . 101
ステップ 9: テンプレートボタンを Salesforce の個人取引先レイアウトに追加する 102
DocuSign CLM と DocuSign eSignature for Salesforce の互換性. 103
Gen テンプレートをエンベロープテンプレートに関連付けて、契約書の作成と署名を自動化する. 104
DocuSign エンベロープテンプレートを編集または削除する. 105
エンベロープテンプレートの名前を変更する. 105
エンベロープテンプレートを編集する. 106
エンベロープテンプレートを削除する. 106
エンベロープテンプレートの所有者を変更する. 107
エンベロープに Salesforce 文書を追加する. 108
標準の[DocuSign で送信]エンベロープに Salesforce ファイルを追加する. 109
DocuSign Negotiate エンベロープに Salesforce ファイルを追加する. 109
エンベロープテンプレートのオプション: [文書]ステップ. 110
エンベロープテンプレートの[文書]ステップにアクセスするには. 110
エンベロープテンプレートにアップロードした文書をプレビューする. 111
エンベロープテンプレートにアップロードした文書の名前を変更する. 112
エンベロープテンプレートにアップロードされた文書を削除する. 113
エンベロープテンプレートのオプション: [受信者]ステップ. 114
エンベロープテンプレートの[受信者]ステップにアクセスするには. 115
エンベロープテンプレートの受信者タイプ. 115
エンベロープテンプレートの受信者アクション. 116
エンベロープテンプレートの受信者アクションを変更する. 117
受信者の送信オプション: アクセスコード、同席での署名、今すぐ署名、SMS など. 118
エンベロープテンプレートの受信者に送信オプションを追加する. 119
エンベロープテンプレートで受信者の詳細を編集する. 120
エンベロープテンプレートで関連リストの受信者にフィルターを適用する. 121
エンベロープテンプレートの受信者の署名順を変更する. 123
受信者の署名順のフロー図を表示する. 124
受信者に送信されるメールの件名とメッセージをカスタマイズする. 125

エンベロープテンプレートから受信者を削除する. 125
[配信]オプションを使用してメールやテキストメッセージ(SMS)で eSignature for Salesforce エンベロープを送信する. 126
エンベロープテンプレートの受信者に SMS(テキストメッセージ)配信オプションを追加する. 128
エンベロープの受信者に SMS 配信オプションを追加する. 129
差し込みフィールドを使って受信者のメールアドレスと名前をオブジェクトから追加する. 130
差し込みフィールド構文を使用してエンベロープに[役割の指定]受信者を追加する. 132
差出人オプションを使用して差出人を受信者として追加する. 133
エンベロープテンプレートに同席で署名する受信者を追加する. 134
[今すぐ署名]オプションによるエンベロープ送信直後の差出人による署名. 136
エンベロープテンプレートのオプション: [差し込みフィールド]ステップ. 137
エンベロープテンプレートの[フィールドの配置]ステップにアクセスするには. 138
エンベロープテンプレートで差し込みフィールドのリレーションを使用する. 138
DocuSign エンベロープテンプレートの差し込みフィールドのタイプ. 139
エンベロープテンプレートの差し込みフィールドを編集する. 140
エンベロープテンプレートの差し込みフィールドを削除する. 141
エンベロープテンプレートのオプション: [フィールドの配置]ステップ. 141
エンベロープテンプレートの[フィールドの配置]ステップにアクセスするには. 142
エンベロープテンプレートに追加するフィールドのカテゴリと機能. 142
sqm1596607417112.html. . . . . .
qpi1597294213248.html. . . . . .
フィールド配置アクション: コピー、貼り付け、元に戻す、やり直す、拡大. 143
[フィールドの配置]のオプション: [アクション]ボタン. 144
受信者のプレビューアクション: 表示形式とデバイスに応じた表示. 145
[フィールドの配置]アクション: [サムネイル]メニュー. 146
自動配置テキストを使用して受信者のフィールドを自動配置するには. 148
eSignature for Salesforce エンベロープの文書に自動配置テキストを追加する. . 151
エンベロープテンプレートのオプション: [オプション]ステップ. 153
エンベロープテンプレートの[オプション]ステップにアクセスするには. 153
エンベロープテンプレートのタイプの比較 - デフォルト、クイック送信、フィールドの配置、および今すぐ送信. 154
エンベロープテンプレートの送信エクスペリエンスを変更する. 155
エンベロープイベントによる Salesforce フィールドの自動更新. 156
エンベロープイベントに応じて Salesforce 側のフィールドを自動更新する. 157

署名者によるエンベロープデータの更新を Salesforce 側に書き戻すしくみ. 158
エンベロープテンプレートに文書の書き戻しを設定する. 159
Salesforce モバイルアプリ用の DocuSign エンベロープテンプレートを設定する 161
DocuSign アプリケーションランチャー（CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce）の過去のバージョンをダウンロードする. 161
DocuSign アプリケーションランチャートラブルシューティングページを使用してアカウント全体の問題を解決する. 162
アプリケーションランチャートラブルシューティングパッケージをインストールする. 164
アプリケーションランチャーのトラブルシューティングページにアクセスする. 165
アプリケーションランチャーのトラブルシューティングページで DocuSign と Salesforce の接続を解除する. 166
アプリケーションランチャーのトラブルシューティングページで DocuSign と Salesforce の接続を解除してユーザーをリセットする. 167
アプリケーションランチャーのトラブルシューティングページでユーザー設定をクリアする. 168
アプリケーションランチャーのトラブルシューティングページでフォルダー権限をリセットする. 169
DocuSign アカウントにプロビジョニングされる製品をトラブルシューティングページで更新する. 170
古いバージョンの DocuSign eSignature for Salesforce アプリを Salesforce 組織からアンインストールする. 171
ステップ 1: 古いバージョンの eSignature for Salesforce 権限セットからユーザーを削除する. 172
ステップ 2: 古いバージョンの eSignature コンポーネントを Salesforce レイアウトから削除する. 173
ステップ 3: 古いバージョンの eSignature のカスタムボタンを Salesforce レイアウトから削除する. 174
ステップ 4: 古いバージョンの DocuSign eSignature for Salesforce アプリを Salesforce 組織からアンインストールする. 175
Salesforce 組織から DocuSign アプリケーションランチャーパッケージをアンインストールする. 176
ステップ 1: DocuSign アプリケーションランチャーの権限セットからユーザーを削除する 176
ステップ 2: Salesforce レイアウトから DocuSign アプリケーションランチャーコンポーネントを削除する. 177
ステップ 3（オプション）: Salesforce レイアウトから DocuSign アプリケーションランチャーのカスタムボタンを削除する. 178
ステップ 4: Salesforce 組織から DocuSign アプリケーションランチャーパッケージをアンインストールする. 179

eSignature for Salesforce トラブルシューティングガイド. 180
エンベロープテンプレートに受信者の DocuSign 役割と eSignature フィールドがない. . . 181
エンベロープテンプレートのエラー:「このエンベロープにはアクセスできません」. 182
文書プレビューエラー:「文書の生成時に問題が発生しました」. 183
PDF ファイルをエンベロープテンプレートにアップロードするとエラーメッセージ「PDF ファイルの検証が失敗しました」が表示される. 185
ユーザーの再認証が 1 時間ごとに要求される. 187
エンベロープと受信者のステータスが更新されない. 189
文書と日付が Salesforce 側に書き戻されない. 190
DocuSign 接続アプリのログイン履歴に「制限された IP（Restricted IP）」エラーが記録される. 191
エンベロープテンプレートエラー:「ドロップダウンフィールドのいくつかにオプションがありません」. 192
Gen から CLM にアップグレードした後で CLM の権限が有効になるまで 1 時間ほどかかる. 193
DocuSign と Salesforce のリレーションにより、Gen for Billing 管理者が DocuSign アプリケーションランチャーをアンインストールできない. 194
Gen 文書を署名者に送信するときに Salesforce 文書が重複して表示される. 195
差し込みフィールドの作成時にエンベロープテンプレートのエラー「Salesforce サービスへの接続に失敗しました」が発生する. 195
DocuSign と Salesforce の接続を解除して再接続した後もエンベロープテンプレートに差し込みフィールドを追加できない. 196
Gen テンプレートとエンベロープテンプレートのエラー:「ユーザーは、ロックの所有者ではありません」. 198
iOS 用の Safari や Salesforce モバイルアプリでエンベロープの送信や署名ができない. 198
Salesforce で DocuSign のボタンを選択したときにエラーメッセージ「The link you followed wasn’t valid for your session. Return to the Previous Page, Refresh It, and Try Again.」が表示される。. 199
Salesforce API の呼び出し時に「INVALID_SESSION_ID」というエラーメッセージが表示される. 200
Salesforce API の呼び出し時に「Object reference not set to an instance of an object」というエラーメッセージが表示される. 201
エンベロープテンプレートに PDF をアップロードするとエラー「このファイルのサイズが上限を超えています」が表示される. 201
DocuSign eSignature for Salesforce - 用語集. 203

DocuSign eSignature for Salesforce 管理者向けの概要

DocuSign Apps Launcher for Salesforce（DocuSign アプリケーションランチャー）パッケージに含まれている各アプリは相互に連携して動作し、契約文書の生成からレビュー、署名に至るまで、業務の効率化と正確性に貢献します。

- DocuSign Gen for Salesforce: ボタンを選択するだけで新しい文書を作成できます。
- DocuSign Negotiate for Salesforce: 内部承認または外部レビューの担当者に文書を送信できます。
- DocuSign eSignature for Salesforce: 完了した文書を電子署名の担当者に送信できます。

以降では、DocuSign eSignature for Salesforce アプリの管理方法について説明します。

- DocuSign Apps Launcher for Salesforce パッケージをインストールする
- Salesforce と DocuSign を接続する
- DocuSign アプリ用に Salesforce の IP 制限を緩和する
- [アプリケーションポリシーを管理]設定 - Salesforce ユーザーが自分で DocuSign へのアクセスを認証できるようにする
- Salesforce で DocuSign 権限セットのユーザーを追加または削除してアプリのセキュリティを管理する
- Salesforce への接続を解除して再接続する
- Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce、および CLM を日本語やほかの言語で使用する
- DocuSign アプリケーションランチャートラブルシューティングページを使用してアカウント全体の問題を解決する
- DocuSign eSignature の設定
- Salesforce ページレイアウトに DocuSign コンポーネントを追加する
- DocuSign eSignature for Salesforce でエンベロープを作成して送信する
- DocuSign エンベロープのステータス: リマインダーの送信とエンベロープの無効化
- DocuSign eSignature for Salesforce でエンベロープテンプレートを作成して電子署名プロセスを自動化する
- Gen テンプレートをエンベロープテンプレートに関連付けて、契約書の作成と署名を自動化する
- DocuSign エンベロープテンプレートを編集または削除する
- エンベロープに Salesforce 文書を追加する
- エンベロープテンプレートのオプション: [文書]ステップ
- エンベロープテンプレートのオプション: [受信者]ステップ
- エンベロープテンプレートのオプション: [差し込みフィールド]ステップ
- エンベロープテンプレートのオプション: [フィールドの配置]ステップ
- エンベロープテンプレートのオプション: [オプション]ステップ
- DocuSign アプリケーションランチャーの機能にアクセスする
- DocuSign アプリケーションランチャー（CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce）の過去のバージョンをダウンロードする
- Salesforce 組織から DocuSign アプリケーションランチャーパッケージをアンインストールする
- eSignature for Salesforce トラブルシューティングガイド
- 用語集

DocuSign アプリケーションランチャーパッケージを Salesforce 組織にインストールする

DocuSign アプリケーションランチャーパッケージ（CLM、Gen、Negotiate、eSignature）を Salesforce 組織にインストールするための管理者向けガイドです。

DocuSign アプリケーションランチャーのパッケージには、以下の DocuSign アプリが統合されています。

- DocuSign CLM for Salesforce
- DocuSign Gen for Salesforce
- DocuSign Negotiate for Salesforce
- DocuSign eSignature for Salesforce

> **注:** これらのいずれかのアプリを Salesforce AppExchange からインストールすると、4 つのアプリをすべて含んだ DocuSign アプリケーションランチャーのフルパッケージがインストールされます。

Salesforce 管理者が DocuSign アプリケーションランチャーパッケージをインストールするには、以下の手順に従います。

1. 以下の手順を実行して、Salesforce AppExchange で目的の DocuSign アプリを検索します。
   a. 管理者として Salesforce にログインします。
   b. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン（）をクリックします。
   c. [すべて表示]リンクを選択します。
   d. 右上の[AppExchange にアクセス]を選択します。AppExchange の画面が開きます。
   e. [AppExchange を検索]ボックスに、「DocuSign」と入力します。
2. インストールするアプリのタイルを選択して、[今すぐ入手]を選択します。[AppExchange にログイン]ダイアログボックスが開きます。
3. [[ログイン画面を開く]を確認]をクリックします。[アクセスの許可]ダイアログボックスが開きます。

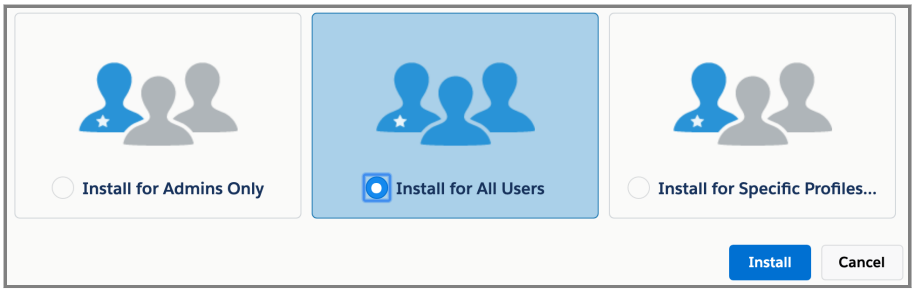
> **重要:** 必要に応じて、Salesforce の本番環境の管理者の資格情報を入力します。サンドボックスにインストールする場合でも、本番環境の管理者アカウントを使用してください。これは、Salesforce 組織ではなく AppExchange にログインするためです。

4. [許可]を選択します。
5. [この組織にインストール]の下の[ここにインストール]をクリックします。サンドボックス内でアプリをテストする場合は、[Sandbox にインストール]をクリックします。インストール情報の確認ダイアログボックスが表示されます。
6. インストール情報の確認ダイアログボックスで、以下の情報を入力します。
   a. あなたのことについて教えてください: 必須項目に情報を入力します。
   b. 私は契約条件を読み、同意します: チェックボックスをオンにします。
   c. 確認してインストール: このボタンを選択します。[インストール]ダイアログボックスが開きます。
7. [インストール]ダイアログボックスで、以下の操作を行います。

> **警告:** [管理者のみのインストール]または[特定のプロファイルのインストール]を選択した場合、すべてのユーザー用にインストールする前に、インストール済みアプリをアンインストールする必要があります。

a. [すべてのユーザのインストール]を選択します。

b. [インストール]を選択します。古いバージョンのアプリがインストールされている場合は、[アップグレード]ボタンが表示されます。[サードパーティの Web サイトへのアクセスを許可する]ダイアログボックスが開きます。



8. [サードパーティの Web サイトへのアクセスを許可する]ダイアログボックスで、以下の操作を行います。
   a. [はい、これらのサードパーティ Web サイトにアクセスを許可します]チェックボックスをオンにします。
   b. [続行]を選択します。[インストール]ダイアログボックスが開き、インストールとすべてのユーザーへのアクセス権付与の実行を示すメッセージが表示されます。
9. 「アプリケーションのインストールに時間がかかる」という内容のメッセージが表示されたら、[完了]を選択します。この場合、インストールが完了したときに通知メールが届きます。

以上の手順により、DocuSign アプリケーションランチャーパッケージがインストールされました。このパッケージには、DocuSign CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce の各アプリが含まれています。アプリを使用するには、Salesforce 組織に DocuSign アカウントを接続する必要があります。

関連情報

Salesforce 組織に DocuSign アカウントを接続する

Salesforce 組織に DocuSign アカウントを接続する

Salesforce 組織を DocuSign アカウントに接続すると、DocuSign CLM、Gen、Negotiate、および eSignature for Salesforce を設定して使用できるようになります。

DocuSign アプリケーションランチャーのパッケージには、以下の DocuSign for Salesforce アプリが統合されています。

- DocuSign CLM for Salesforce
- DocuSign Gen for Salesforce
- DocuSign Negotiate for Salesforce
- DocuSign eSignature for Salesforce

これらのアプリを使用するには、Salesforce 組織を DocuSign の実稼働、デモ、ステージ、またはテストアカウントに関連付ける必要があります。関連付けを行うには、[DocuSign セットアップ]タブで DocuSign 管理者の資格情報を入力します。この DocuSign ユーザーは、インテグレーションユーザーまたは Connect ユーザーと呼ばれます。

重要:

- インテグレーションユーザーには、Salesforce のシステム管理者のアクセス権が必要です。
- インテグレーションユーザーの Salesforce プロファイルでは、[**API** ログインの多要素認証]の値が[**False**]である必要があります。

必要な条件:

- DocuSign アプリケーションランチャーパッケージを Salesforce 組織にインストールする。
- Salesforce の「私のドメイン」を作成してデプロイする。

> **注:** Salesforce Classic を使用している場合でも、[私のドメイン]を使用する必要があります。組織に[私のドメイン]がない場合、DocuSign アカウントへの接続時に「無効な Salesforce イベントターゲット」エラーが表示されます。

DocuSign アカウントへの Salesforce 組織の関連付けをセットアップするには、以下の手順に従います。

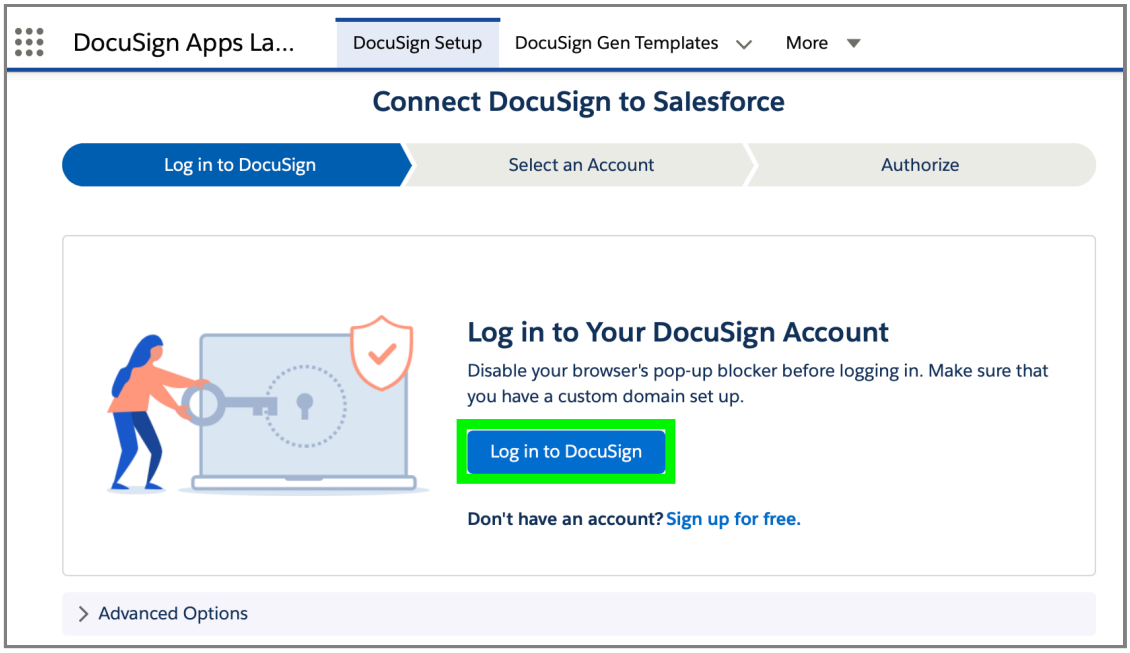
- DocuSign 実稼働
- DocuSign のデモ

Salesforce 組織に実稼働環境の DocuSign アカウントを接続する

Salesforce 組織を実稼働環境の DocuSign アカウントに接続すると、DocuSign CLM,、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce Essentials を設定して使用できるようになります。

実稼働環境の DocuSign アカウントを Salesforce 組織に接続するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として、[DocuSign セットアップ]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン()をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。[DocuSign セットアップ]ページが開きます。
2. [DocuSign にログイン]ページで、以下の操作を行います。
   a. [DocuSign にログイン]を選択します。[DocuSign ログイン]ダイアログボックスが開きます。
   b. DocuSign 管理者の資格情報を入力します。Salesforce のログインダイアログボックスが開きます。
   c. そのデバイスから以前にログインしたことがない場合は、検証コードの入力を求めるメッセージが表示されます。
   d. Salesforce 管理者の資格情報を入力します。[アカウントの選択]ページが開きます。



3. [アカウントの選択]ページで、以下の操作を行います。
   a. 接続する DocuSign アカウントのラジオボタンを選択します。
   b. [次へ]を選択します。[認証]ページが開きます。
4. [認証]ページで、以下の操作を行います。
   a. [アクセスの許可]を選択します。Salesforce のログインダイアログボックスが開きます。
   b. Salesforce 管理者の資格情報を入力します。

「DocuSign への接続と認証に成功しました」というメッセージが表示されます。

以上の手順により、Salesforce 組織と実稼働環境の DocuSign アカウントが接続され、DocuSign アプリケーションランチャーのアプリをセットアップできるようになりました。
関連情報

新しいデバイスで DocuSign にアクセスするための検証コードを入力する

Salesforce 組織にデモ環境の DocuSign アカウントを接続する

Salesforce 組織をデモ環境の DocuSign アカウントに接続すると、DocuSign CLM、Gen、Negotiate、および eSignature for Salesforce を設定して使用できるようになります。

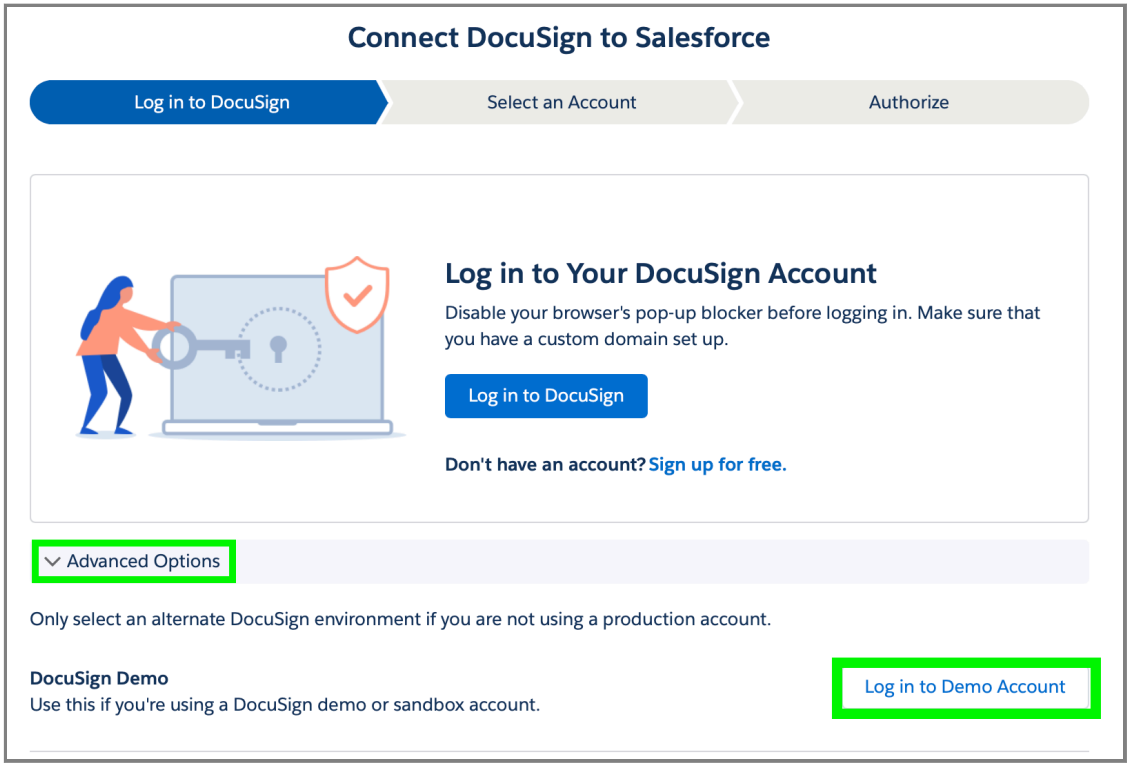
Salesforce 組織をデモ環境の DocuSign アカウントに接続すると、DocuSign CLM、Gen、Negotiate、および eSignature for Salesforce を設定して使用できるようになります。

DocuSign CLM、Gen、Negotiate、および eSignature for Salesforce を設定および使用するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として、[DocuSign セットアップ]ページを開きます。

a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。[DocuSign セットアップ]ページが開きます。

2. [DocuSign にログイン]ページで、以下の操作を行います。
   a. [詳細設定]を選択します。
   b. [デモアカウントでログイン]を選択します。[DocuSign ログイン]ダイアログボックスが開きます。
   c. デモアカウントの DocuSign 管理者の資格情報を入力します。Salesforce のログインダイアログボックスが開きます。
   d. そのデバイスから以前にログインしたことがない場合は、検証コードの入力を求めるメッセージが表示されます。
   e. Salesforce 管理者の資格情報を入力します。[アカウントの選択]ページが開きます。



3. [アカウントの選択]ページで、以下の操作を行います。
   a. 接続する DocuSign アカウントのラジオボタンを選択します。
   b. [次へ]を選択します。[認証]ページが開きます。
4. [認証]ページで、以下の操作を行います。
   a. [アクセスの許可]を選択します。Salesforce のログインダイアログボックスが開きます。
   b. Salesforce 管理者の資格情報を入力します。

「DocuSign への接続と認証に成功しました」というメッセージが表示されます。

以上の手順により、Salesforce 組織とデモ環境の DocuSign アカウントが接続され、DocuSign アプリケーションランチャーのアプリをセットアップできるようになりました。

関連情報

新しいデバイスで DocuSign にアクセスするための検証コードを入力する

DocuSign アプリケーションランチャーの機能にアクセスする

DocuSign Apps Launcher for Salesforce（DocuSign アプリケーションランチャー）パッケージは複数のアプリで構成されており、Salesforce AppExchange からインストールできます。

以下のアプリが含まれています。

- **DocuSign Gen for Salesforce**
- **DocuSign Negotiate for Salesforce**
- **DocuSign eSignature for Salesforce**
- **DocuSign CLM for Salesforce**

これらのアプリの設定や機能にアクセスするには、以下の手順に従います。

Salesforce の管理者として、[DocuSign アプリケーションランチャー]ページにアクセスします。

a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン（）をクリックします。
b. [すべて表示]リンクを選択します。
c. [DocuSign Apps Launcher]タイルを選択します。

以上の手順により、DocuSign アプリケーションランチャーパッケージのランディングページが開きます。このページから、各アプリや機能の設定を管理できます。

新しいデバイスで DocuSign にアクセスするための検証コードを入力する

DocuSign アカウントで使用する新しいデバイスをアクティブ化する方法について説明します。

新しいデバイスで DocuSign アカウントにログインしようとすると、検証コードを入力する画面が開きます。

> **注:** 検証コードの入力は、そのデバイスで別の Web ブラウザー（Chrome、Firefox など）を使用する場合にも必要です。検証コードを入力した Web ブラウザーでは、（キャッシュを空にしない限り）コードの再入力が不要になります。

新しいデバイスで DocuSign アカウントにログインするには、以下の手順に従います。

1. 画面のメッセージに従って、DocuSign 資格情報を入力します。[新しいデバイスからのログイン]ダイアログボックスが開きます。
2. [メール]を選択します。検証コードが自分のメールアドレス宛てに送信されます。
3. DocuSign からの「新しいデバイスの確認」メールを開きます。

> **注:** 受信箱でメッセージが見つからない場合は、迷惑メールのフォルダーを確認します。

4. メールに記載されている検証コードをコピーします。
5. [新しいデバイスからのログイン]ダイアログボックスに検証コードを入力します。
6. [確認]を選択します。

以上の手順により、新しいデバイスで DocuSign アカウントにアクセスできるようになりました。

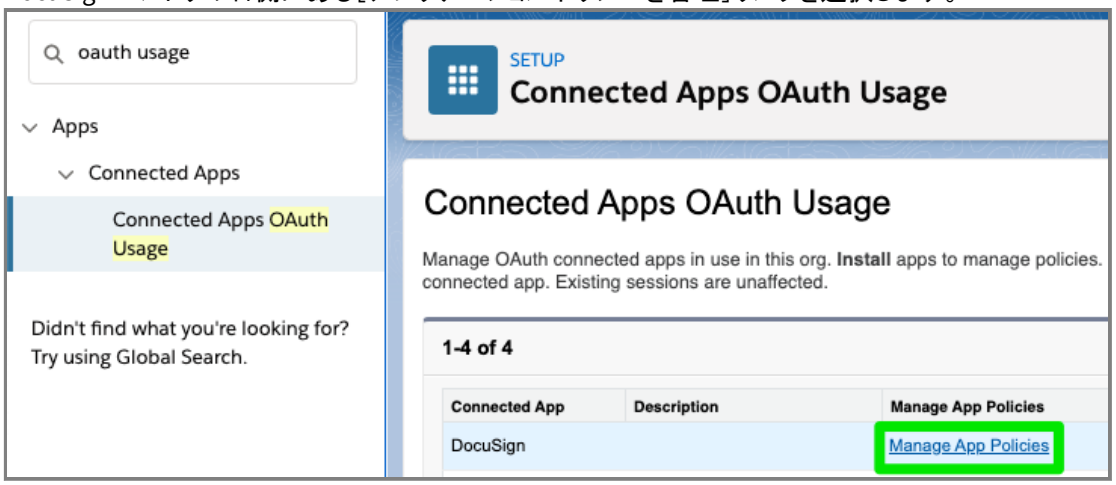
DocuSign アプリ用に Salesforce の IP 制限を緩和する

DocuSign アプリに必要なアクセスを許可するために Salesforce 組織の IP 制限を緩和する必要があります。これを行うには、[接続アプリケーションの OAuth 利用状況]ページを使用します。

DocuSign アプリケーションランチャー管理パッケージには、Salesforce の[接続アプリケーションの OAuth 利用状況]ページで設定できるポリシーが含まれています。これらのポリシーは、Salesforce AppExchange から DocuSign Apps Launcher for Salesforce 管理パッケージをインストールすると自動的に追加されます。

> 重要: **Salesforce** 組織の **IP** 制限を緩和することで、**DocuSign** アプリで必要なアクセスを簡単に許可できます。**IP** 制限を緩和できない場合は、**DocuSign** で使用されるすべての **IP** アドレス範囲を **Salesforce** 管理者が許可リストに追加する必要があります。

1. Salesforce 管理者として[接続アプリケーションの OAuth 利用状況]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]フィールドに「接続アプリケーションの」と入力します。
   d. 左側のナビゲーションバーで[接続アプリケーションの OAuth 利用状況]を選択します。
2. DocuSign エントリの右側にある[アプリケーションポリシーを管理]リンクを選択します。



[接続アプリケーション: DocuSign]ページが開きます。

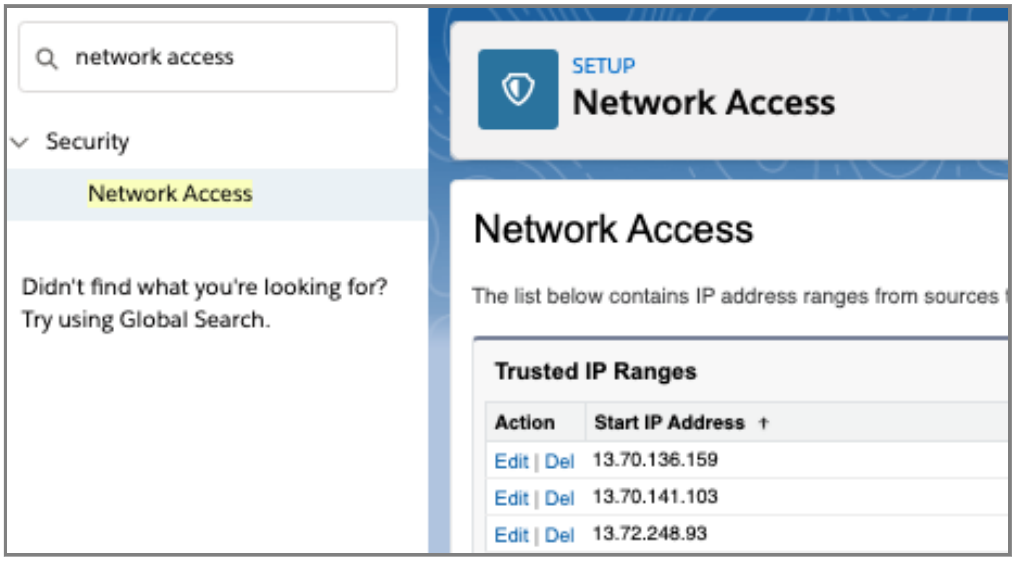
3. [ポリシーを編集]を選択します。
4. [IP 制限の緩和]ドロップダウンメニューから[IP 制限の緩和]を選択します。
5. ページ下部の[保存]を選択します。

以上の手順により、IP 制限が緩和されました。これにより、Salesforce 組織の許可リストに DocuSign の IP アドレス範囲を手作業で追加しなくても、DocuSign で使用される IP アドレスが許可されます。

DocuSign CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce の信頼済み IP 範囲を追加する

組織で DocuSign CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce の使用を許可するには、DocuSign for Salesforce 管理者による Salesforce の信頼済み IP 範囲の更新が必要な場合があります。ここでは、DocuSign で使用される IP アドレスの範囲を追加する方法について説明します。

1. Salesforce 管理者として[ネットワークアクセス]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]ボックスに「ネットワークアクセス」と入力します。
   d. 左側のナビゲーションバーで[ネットワークアクセス]を選択します。



2. [信頼済み IP 範囲]リストで、以下の IP アドレス範囲が追加されていることを確認します。
   - DocuSign エンドポイントの IP アドレス: DocuSign のエンドポイントを許可するには、以下のアドレスを追加してください。

     北米ベースのアカウントおよびデモアカウント(現行):

     - 209.112.104.1〜209.112.107.254
     - 64.207.216.1〜64.207.219.254
     - 162.248.184.1〜162.248.187.254

- 69.25.244.2（69.25.244.0/24）
- 64.79.142.1（64.79.142.0/24）

欧州ベースのアカウント（現行）:

- 185.81.100.1〜185.81.103.254
- 192.103.120.1〜192.103.123.254
- 212.118.234.2（212.118.234.0/24）
- 31.186.230.2（31.186.230.0/24）

オーストラリアベースのアカウント（現行）:

- 13.72.248.93
- 13.72.249.142
- 13.70.141.103
- 13.70.136.159

- DocuSign メールの IP アドレス: DocuSign からのメールを確実に受信できるように、以下のアドレスを追加してください。

  北米ベースのアカウントおよびデモアカウント（現行）:

  - 209.112.104.1〜209.112.104.254
  - 64.207.216.1〜64.207.219.254
  - 162.248.184.1〜162.248.187.254
  - 52.25.139.174
  - 54.244.242.160
  - 54.244.242.186
  - 54.244.242.190
  - 54.244.242.214

  欧州ベースのアカウント（現行）:

  - 192.103.120.1〜192.103.123.254
  - 185.81.100.1〜185.81.103.254
    - 54.93.78.134
    - 54.93.137.237
    - 54.93.151.48
    - 54.93.154.157
    - 54.93.162.246
- Salesforce の信頼済み IP 範囲: Salesforce ネットワークアクセスの設定画面では、信頼済み IP アドレス範囲のリストに以下の情報が表示されます。
  - **209.67.98.1〜209.67.98.63**
  - **206.25.247.129〜206.25.247.159**
  - **209.46.117.161〜209.46.117.191**
  - **162.248.184.1〜162.248.187.255**
  - **185.81.100.1〜185.81.103.254**

- **54.149.21.90**
- **54.69.114.54**
- **52.25.122.31**
- **52.25.145.215**
- **52.26.192.160**
- **52.24.91.157**
- **52.27.126.9**
- **52.11.152.229**
- **52.28.168.105**

> 警告: このリストに上記以外のアドレス範囲が追加されている場合があります。ほかのアプリケーションやインテグレーションで使用していることがあるため、これらのアドレス範囲を削除しないでください。

3. IP アドレス範囲を追加するには、[新規]を選択します。
4. 必要に応じて、[開始 IP アドレス]および[終了 IP アドレス]ボックスにアドレスを入力します。
5. [保存]を選択します。

以上の手順により、不足している IP 範囲が追加されました。これにより、DocuSign CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce のアプリやサービスが Salesforce の IP 制限によってブロックされなくなります。

関連情報

DocuSign の信頼済み IP アドレス範囲を追加する

[アプリケーションポリシーを管理]設定 - Salesforce ユーザーが自分で DocuSign へのアクセスを認証できるようにする

管理者は、Gen や Negotiate などの DocuSign アプリケーションへのアクセスをユーザー自身が認証するのを許可または禁止できます。この設定は、[許可されているユーザ]ポリシーにアクセスして行います。

Salesforce ユーザーが初めて DocuSign Gen、Negotiate、eSignature にアクセスすると、[認証]ボタンが表示されます。これは、DocuSign アプリが Salesforce のレコードの情報にアクセスするための認証です。

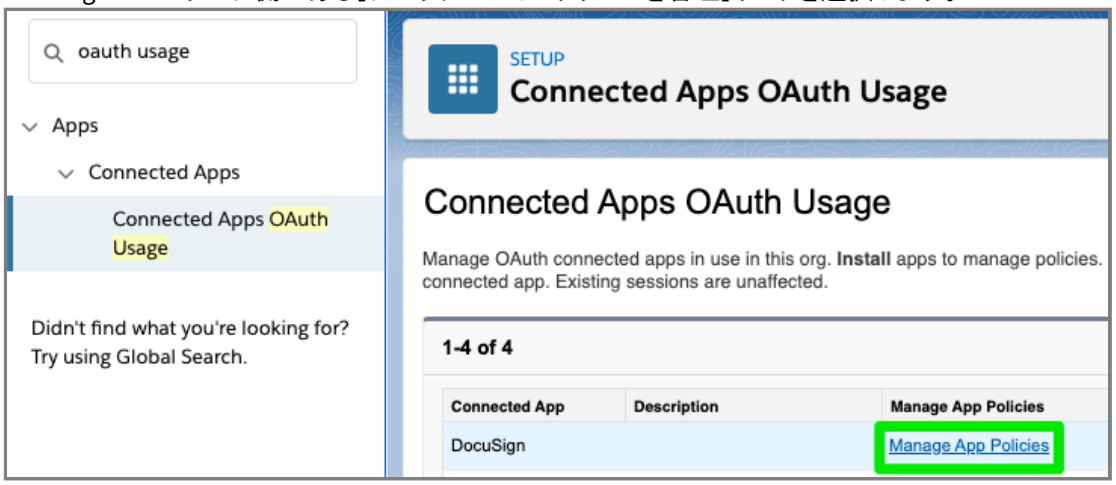
管理者は、アプリへのアクセスをユーザー自身が認証するのを許可または禁止することができます。この設定は、[許可されているユーザ]ポリシーにアクセスして行います。

[許可されているユーザ]ポリシーにアクセスするには、以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として[接続アプリケーションの OAuth 利用状況]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]フィールドに「接続アプリケーションの」と入力します。

d. 左側のナビゲーションバーで[接続アプリケーションの OAuth 利用状況]を選択します。

2. DocuSign エントリの右側にある[アプリケーションポリシーを管理]リンクを選択します。



[接続アプリケーション: DocuSign]ページが開きます。

3. [ポリシーを編集]を選択します。
4. 許可されているユーザ:ドロップダウンメニューからいずれかのオプションを選択します。
   - すべてのユーザは自己承認可能: ユーザーは[認証]を選択して DocuSign アプリケーションを使用できます。
   - 管理者が承認したユーザは事前承認済み: 管理者が DocuSign アプリケーションへのアクセスを特定のグループに割り当てます。

> **注:** [管理者が承認したユーザは事前承認済み]オプションを有効にすると、現在のすべてのユーザーはいったんアクセスできなくなります。管理者は、プロファイル(標準ユーザ、契約管理者など)を使用してユーザーのアクセスを手作業で割り当てます。

5. ページ下部の[保存]を選択します。

以上の手順により、Salesforce 組織で DocuSign アプリケーションへのユーザーの自己認証によるアクセスが許可または禁止されます。

DocuSign アカウントと Salesforce 組織の接続を解除して再接続する

ここでは、DocuSign アカウントと Salesforce 組織との接続を解除してから再接続する手順について説明します。

アカウントを Salesforce 組織に接続するには、DocuSign の管理者資格情報を入力する必要があります。これらの資格情報により、接続した DocuSign アカウントから Salesforce 側に適切な権限が付与されます。
担当者の役割が変わったり退職したりした場合は、DocuSign 管理者の資格情報を変更する必要があります。

DocuSign アカウントと Salesforce 組織との接続を解除してから再接続するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として、[DocuSign セットアップ]タブを開きます。

a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
b. [すべて表示]リンクを選択します。
c. [DocuSign Apps Launcher]タイルを選択します。
d. [DocuSign セットアップ]タブを開きます。

2. ページ右上の[接続の解除]リンクを選択します。



3. [Salesforce に DocuSign を接続]ページが開きます。
4. 「Salesforce と DocuSign を接続する」の手順に従って、新しい DocuSign 管理者の資格情報を入力します。

> 警告: アカウントの関連付けを解除すると、Salesforce ユーザーの DocuSign Gen および DocuSign Negotiate に対する権限が削除されます。再接続後、DocuSign ユーザーと権限を追加し直す必要があります。

以上の手順により、古い DocuSign 管理者の資格情報が削除され、新しい資格情報が追加されました。
関連情報

Salesforce 組織に DocuSign アカウントを接続する
DocuSign Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce のユーザー管理

Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce、および CLM を日本語やほかの言語で使用する

トランスレーションワークベンチを有効にすると、組織内のユーザーが Salesforce コンテンツの表示言語を選択できるようになります。これにより、DocuSign CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce のユーザーインターフェイスが、選択した言語で表示されるようになります。

トランスレーションワークベンチを有効にすると、組織内のユーザーが Salesforce コンテンツの表示言語を選択できるようになります。

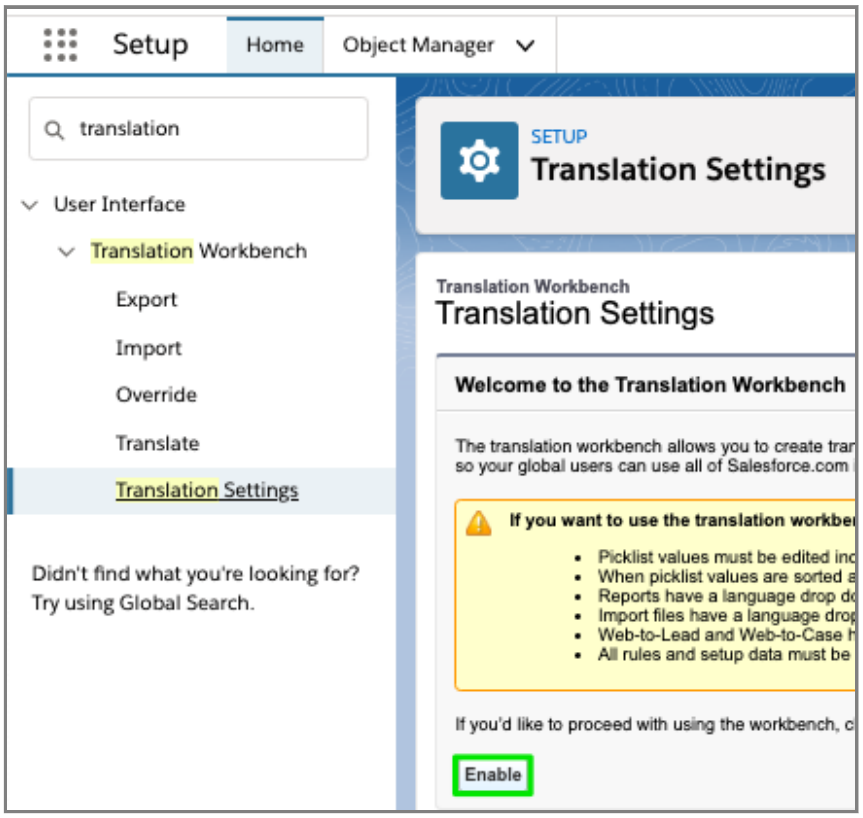
これにより、DocuSign CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce のユーザーインターフェイスが、選択した言語で表示されるようになります。

Salesforce 組織の翻訳の有効化

Salesforce 組織で翻訳言語を有効にすると、ユーザーが自分の言語設定を変更できるようになります。これにより、DocuSign CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce のユーザーインターフェイスが、選択した言語で表示されるようになります。

Salesforce 組織で翻訳言語を有効にすると、ユーザーが自分の言語設定を変更できるようになります。

1. Salesforce 管理者として[翻訳言語設定]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン( )をクリックします。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]ボックスに「翻訳」と入力します。
   d. 左側のナビゲーションバーで[翻訳言語設定]を選択します。
2. [翻訳設定]ページの[有効化]を選択します。



[トランスレーションワークベンチ]ページが開き、「お客様の組織では現在トランスレーションワークベンチをご利用いただけます」というメッセージが表示されます。

3. オプション: 必要に応じて、言語リスト上部の[追加]を選択して言語を追加します。

以上の手順により、Salesforce 組織のユーザーが DocuSign アプリケーションランチャーのユーザーインターフェイスを英語以外の言語で表示できるようになりました。

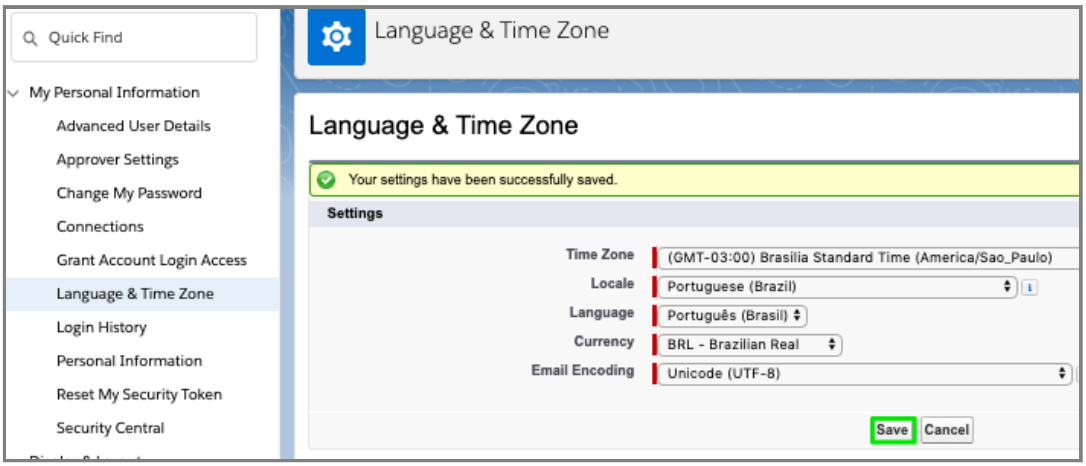
Salesforce ユーザーの翻訳の有効化

DocuSign アプリケーションランチャーの表示言語を変更するには、Salesforce の個人設定で言語設定を変更します。

DocuSign アプリケーションランチャーの表示言語を変更するには、Salesforce の個人設定で言語設定を変更します。

1. Salesforce ユーザーとして[言語とタイムゾーン]ページにアクセスします。
   a. ページ右上の Salesforce ユーザーボタン( )を選択します。
   b. [設定]リンクを選択します。
   c. ページの左側で[言語とタイムゾーン]を選択します。
2. [言語]ドロップダウンメニューから、表示言語を選択します。
3. [保存]を選択します。

注: ページ上部に「設定が正常に保存されました」というメッセージが表示されます。



4. Web ブラウザーのキャッシュをクリアして、Web ブラウザーを再起動します。

以上の手順により、指定した言語で DocuSign アプリケーションランチャーの各アプリが表示されるようになりました。

[テンプレート]、[ボタン]、[設定]タブを使用して **DocuSign eSignature for Salesforce** を設定する

DocuSign eSignature for Salesforce のテンプレート、カスタムボタン、および設定は、[DocuSign セットアップ]タブの[eSignature]>[設定]ページで管理できます。

DocuSign アプリケーションランチャーパッケージには、DocuSign eSignature for Salesforce アプリが組み込まれています。このアプリから DocuSign Gen と DocuSign Negotiate を使用してエンベロープを作成し、署名者に送信できます。

[DocuSign セットアップ]タブの[eSignature]ページでは、DocuSign アプリケーションランチャーの eSignature エクスペリエンスを管理します。

このページでは、以下の設定を行えます。

- テンプレート: DocuSign エンベロープテンプレートを作成して、Salesforce の eSignature プロセスを自動化します。
- ボタン: Salesforce のページレイアウトに[DocuSign で送信]ボタンを追加します。

- 設定:
  - 組み込みの eSignature 機能を有効にする: eSignature for Salesforce アプリを無効または有効にします。無効にすると、すべての電子署名アクションにほかのアプリ（古いバージョンの DocuSign eSignature for Salesforce など）を使用できるようになります。
  - System Sender アカウントを有効にする: このアカウントを有効にすると、DocuSign アカウントのメンバー以外のユーザーがエンベロープを送信したり文書に署名したりできるようになります。この場合、設定済みの DocuSign 管理者のアカウントが差出人として使用されます。

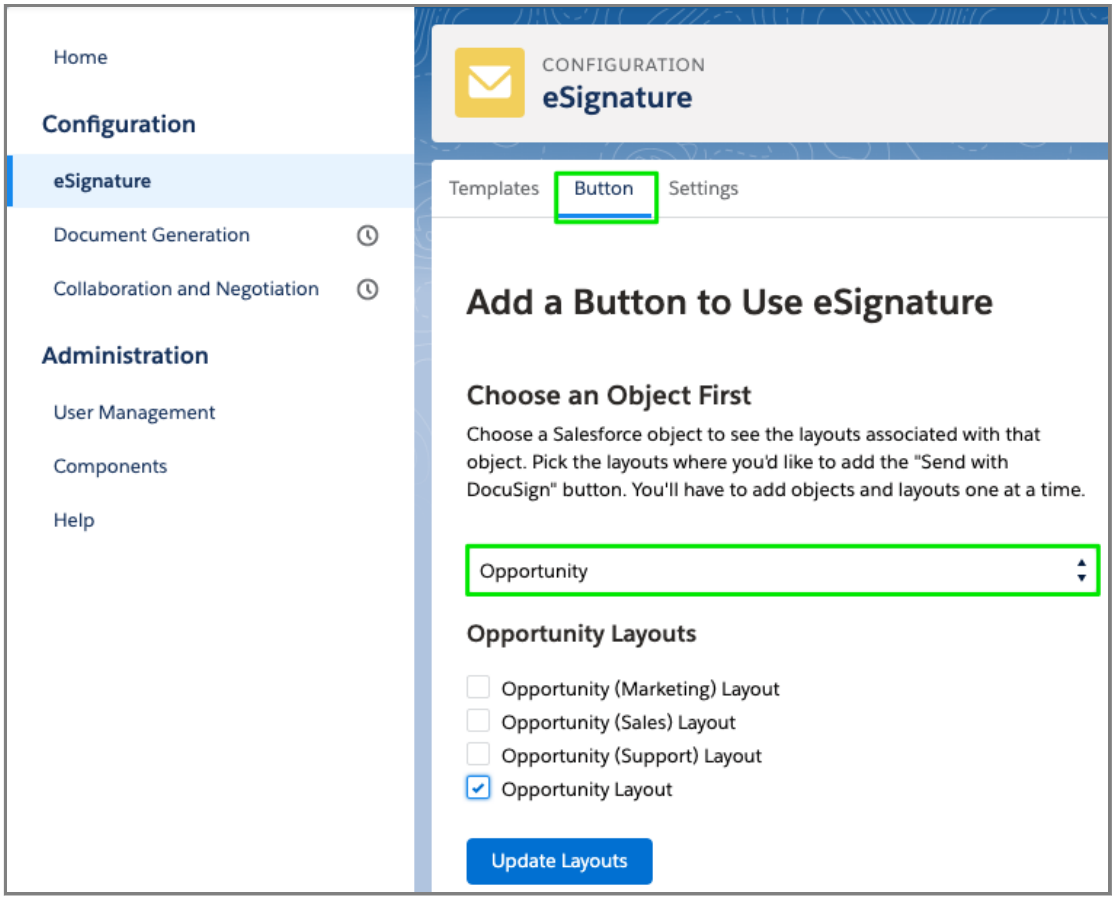
> 重要: 現在、[System Sender アカウントを有効にする]オプションは、DocuSign eSignature for Salesforce Apex Toolkit を使用する場合にのみ機能します。
>
> また、管理者は、DocuSign アカウントを持たずにエンベロープを送信する Salesforce ユーザーに[DocuSign Sender]権限セットを割り当てる必要があります。これにより、非 DocuSign ユーザーが Apex Toolkit でエンベロープを送信できるようになります。

Salesforce のページレイアウトに DocuSign eSignature for Salesforce のカスタムボタンを追加する

DocuSign アプリケーションランチャーには、電子署名アプリケーションである DocuSign eSignature for Salesforce が組み込まれています。[DocuSign セットアップ]タブでは、Salesforce のページレイアウトに基本的な eSignature ボタンを追加できます。

DocuSign アプリケーションランチャーには、電子署名アプリケーションである DocuSign eSignature for Salesforce が組み込まれています。
基本的な eSignature ボタンを Salesforce のページレイアウトに追加するには、以下の手順に従います。

1. 管理者として DocuSign アプリケーションランチャーを開きます。
2. ページ左側で[eSignature]を選択します。
3. [ボタン]タブを選択します。
4. Salesforce オブジェクトの選択: ドロップダウンメニューから、Salesforce オブジェクトを選択します。
   - 一般的に使用されるオブジェクト: Salesforce の標準的なオブジェクト（取引先、商談、ケース、取引先責任者、リード）。
   - すべてのオブジェクト: 利用可能なすべての Salesforce オブジェクト。
5. カスタムボタンを配置するレイアウトのチェックボックスをオンにします。
6. [レイアウトの更新]ボタンをクリックします。



「レイアウトが変更されました」というメッセージが表示されます。

7. 必要に応じて、上記手順を繰り返してほかのオブジェクトのレイアウト（[取引先]や[商談]など）にもボタンを追加します。

以上の手順により、選択した Salesforce のページレイアウトに DocuSign eSignature ボタンが追加されました。

[DocuSign セットアップ]タブで eSignature for Salesforce アプリの設定をカスタマイズする

[DocuSign セットアップ]タブでは、eSignature for Salesforce の動作をカスタマイズするための追加オプションを設定できます。

[DocuSign セットアップ]タブでは、eSignature for Salesforce の動作をカスタマイズするための以下の追加オプションを設定できます。

- 組み込みの eSignature 機能を有効にする: eSignature for Salesforce アプリを無効または有効にします。無効にすると、Gen および Negotiate でのすべての電子署名アクションにほかのアプリを使用できるようになります。

- System Sender アカウントを有効にする: このアカウントを有効にすると、DocuSign アカウントのメンバー以外のユーザーがエンベロープを送信したり文書に署名したりできるようになります。この場合、設定済みの DocuSign 管理者のアカウントが差出人として使用されます。

> 重要: 現在、[System Sender アカウントを有効にする]オプションは、DocuSign eSignature for Salesforce Apex Toolkit を使用する場合にのみ機能します。
> また、管理者は、DocuSign アカウントを持たずにエンベロープを送信する Salesforce ユーザーに[DocuSign Sender]権限セットを割り当てる必要があります。これにより、非 DocuSign ユーザーが Apex Toolkit でエンベロープを送信できるようになります。

Salesforce 組織で DocuSign eSignature for Salesforce を無効または有効にする

古いバージョンの DocuSign eSignature などのほかの電子署名ソリューションを使用する場合は、DocuSign アプリケーションランチャーに組み込まれている eSignature アプリを無効にします。また、ほかの電子署名アプリから、DocuSign アプリケーションランチャーの eSignature アプリに切り替えることもできます。

古いバージョンの DocuSign eSignature などのほかの電子署名ソリューションを使用する場合は、DocuSign アプリケーションランチャーに組み込まれている eSignature アプリを無効にします。また、ほかの電子署名アプリから、DocuSign アプリケーションランチャーの eSignature アプリに切り替えることもできます。

1. Salesforce 管理者として、[DocuSign セットアップ]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。[DocuSign セットアップ]ページが開きます。
2. ページ左側で[eSignature]を選択します。
3. [設定]タブを選択します。
4. いずれかのオプションを選択します。
   - 組み込みの eSignature 機能を無効にする: 右側にある[有効]スイッチを選択します。スイッチが灰色になり、[無効]のステータスが表示されます。組み込みの eSignature アプリが無効になり、ほかの電子署名アプリを使用できるようになりました。
   - 組み込みの eSignature 機能を有効にする: 右側にある[無効]スイッチを選択します。スイッチが青色になり、[有効]のステータスが表示されます。組み込みの eSignature アプリが有効になり、電子署名プロセスを管理できるようになりました。



以上の手順により、eSignature for Salesforce アプリが無効または有効になりました。DocuSign eSignature for Salesforce を有効にした場合は、DocuSign Gen および DocuSign Negotiate での電子署名アクションに DocuSign eSignature が使用されます。無効にした場合は、DocuSign Gen および DocuSign Negotiate での電子署名アクションに、Legacy eSignature for Salesforce などほかのアプリが使用されます。

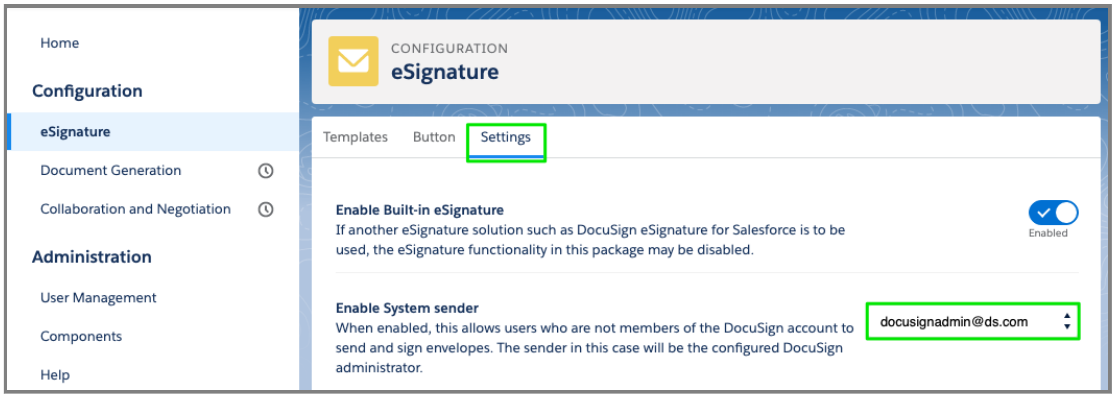
System Sender を有効にして非 DocuSign ユーザーが Apex Toolkit でエンベロープの送信と署名を行えるようにする

System Sender を有効にすると、DocuSign アカウントのメンバー以外のユーザーがエンベロープを送信したり文書に署名したりできるようになります。この場合、設定済みの DocuSign 管理者のアカウントが差出人として使用されます。現在、[System Sender アカウントを有効にする]オプションは、DocuSign eSignature for Salesforce Apex Toolkit を使用する場合にのみ機能します。

System Sender を有効にすると、DocuSign アカウントのメンバー以外のユーザーがエンベロープを送信したり文書に署名したりできるようになります。この場合、設定済みの DocuSign 管理者のアカウントが差出人として使用されます。

重要: 現在、[System Sender アカウントを有効にする]オプションは、DocuSign eSignature for Salesforce Apex Toolkit を使用する場合にのみ機能します。
また、管理者は、DocuSign アカウントを持たずにエンベロープを送信する Salesforce ユーザーに[DocuSign Sender]権限セットを割り当てる必要があります。これにより、非 DocuSign ユーザーが Apex Toolkit でエンベロープを送信できるようになります。

1. Salesforce 管理者として、[DocuSign セットアップ]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。[DocuSign セットアップ]ページが開きます。
2. ページ左側で[eSignature]を選択します。
3. [設定]タブを選択します。
4. [System Sender アカウントを有効にする]ヘッダーの右にある[なし]ドロップダウンメニューを選択します。
5. リストから DocuSign 管理者を選択します。



以上の手順により、System Sender アカウントが有効になり、DocuSign アカウントを持たないユーザーがエンベロープを送信したり署名したりできるようになりました。DocuSign アカウントを持つユーザーが送信したエンベロープでは、通常どおりそのユーザーの名前が差出人として表示されます。

Salesforce ページレイアウトに DocuSign コンポーネントを追加する

Salesforce ページレイアウトに[DocuSign ファイル]コンポーネントを追加する手順について説明します。[DocuSign ファイル]コンポーネントを追加すると、ユーザーが Salesforce レコード上で DocuSign ファイルを保存したり送信したりできるようになります。

Salesforce 組織で DocuSign Negotiate for Salesforce を使用するには、最初に[DocuSign ファイル]コンポーネントをページレイアウトに追加する必要があります。

これにより、Salesforce のページレイアウトに[DocuSign ファイル]セクションが表示されるようになります。このセクションから、DocuSign アプリケーションランチャーのすべてのコンテンツにアクセスします。

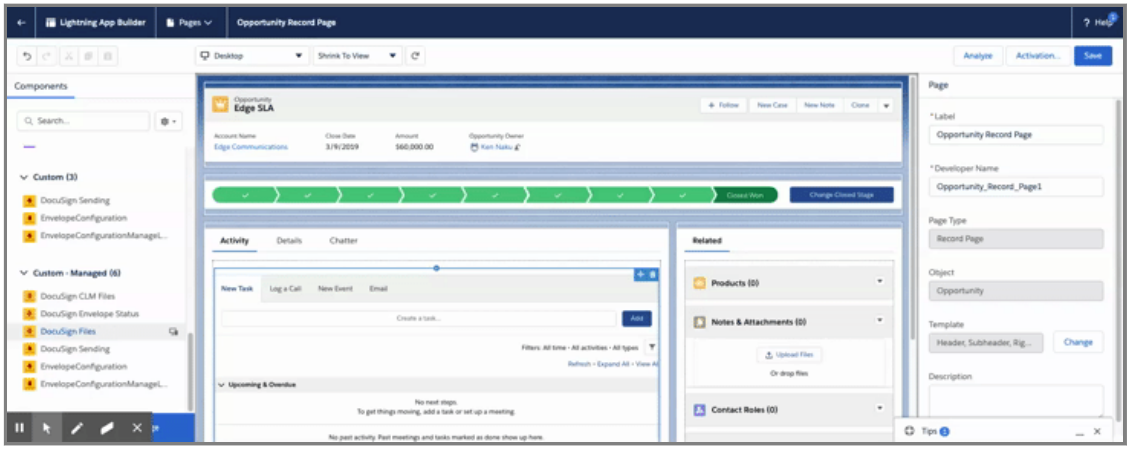
[DocuSign ファイル]セクションの文書は、[アクション]メニューを使って外部レビュー、内部承認、または eSignature 署名者に送信できます。

Salesforce ページレイアウトに[DocuSign ファイル]コンポーネントを追加する

Salesforce ページレイアウトに[DocuSign ファイル]コンポーネントを追加する手順について説明します。[DocuSign ファイル]コンポーネントを追加すると、ユーザーが Salesforce レコード上で DocuSign ファイルを保存したり送信したりできるようになります。

以下の手順に従います。また、ビデオを参照できます。以下の手順では、Salesforce の[商談]ページを編集します。

1. Salesforce ページを編集します。
   a. Salesforce レコード（[取引先]や[商談]など）を開きます。
   b. ページ右上の歯車アイコン（ ）を選択します。
   c. ドロップダウンメニューから[編集ページ]を選択します。Lightning アプリケーションビルダーの[コンポーネント]ページが開きます。
2. ページ左側のパネルをスクロールして、[DocuSign Files]コンポーネントを右側のページレイアウト上にドラッグ&ドロップします。



3. [保存]を選択します。
   [ページが保存されました]ダイアログボックスが開きます。
4. [有効化]を選択します。
   [有効化]ダイアログボックスが開きます。
5. [有効化]ダイアログボックスで、以下の操作を行います。
   a. デフォルトオプションを設定するタブを選択します。
      - 組織のデフォルト
      - アプリケーションのデフォルト
      - アプリケーション、レコードタイプ、プロファイル
   b. [割り当て]を選択し、開いたダイアログボックスでオプションを選択します。
   c. [有効化]ダイアログボックスの[閉じる]を選択します。
6. ページ左上の左矢印を使用して、Salesforce レコードに戻ります。

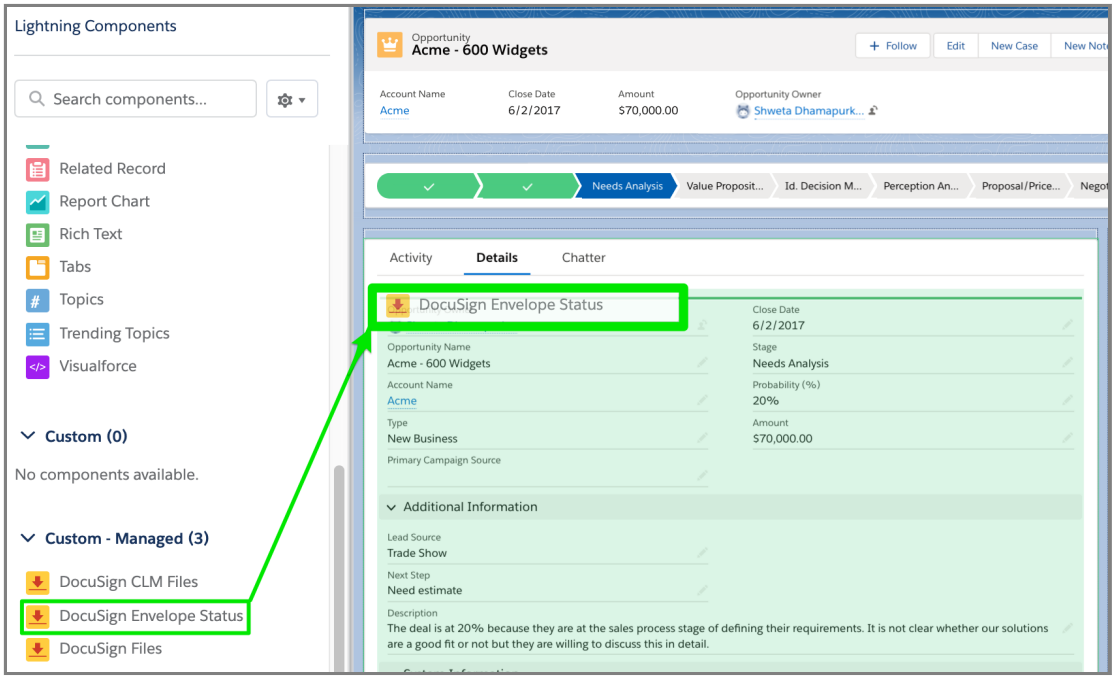
以上の手順により、[DocuSign ファイル]コンポーネントが Salesforce オブジェクトのページレイアウトに追加されました。

Salesforce ページレイアウトに[DocuSign エンベロープのステータス]コンポーネントを追加する

[DocuSign エンベロープのステータス]コンポーネントを Salesforce ページレイアウトに追加することもできます。このコンポーネントでは、自分の DocuSign エンベロープのステータスを Salesforce 内で確認できます。

[DocuSign エンベロープのステータス]コンポーネントを Salesforce ページレイアウトに追加することもできます。このコンポーネントでは、自分の DocuSign エンベロープのステータスを Salesforce 内で確認できます。
以下の手順に従います。または、ビデオを参照できます。

1. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコンを選択し、[商談]などのオブジェクトを選択します。
2. [商談]オブジェクトのレコードを選択して開きます。
3. ページ右上の歯車アイコン( )をクリックします。
4. ドロップダウンメニューから[編集ページ]を選択します。[Lightning コンポーネント]ページが開きます。
5. [DocuSign エンベロープのステータス]コンポーネントを右側のページレイアウト上にドラッグします。



6. [保存]を選択します。
[ページが保存されました]ダイアログボックスが開きます。
7. [有効化]を選択します。
[有効化]ダイアログボックスが開きます。
8. [有効化]ダイアログボックスで、以下の操作を行います。
   a. デフォルトオプションを設定するタブを選択します。
      - 組織のデフォルト
      - アプリケーションのデフォルト
      - アプリケーション、レコードタイプ、プロファイル
   b. [割り当て]を選択し、開いたダイアログボックスでオプションを選択します。
   c. [有効化]ダイアログボックスの[閉じる]を選択します。
9. ページ左上の左矢印を使用して、Salesforce レコードに戻ります。

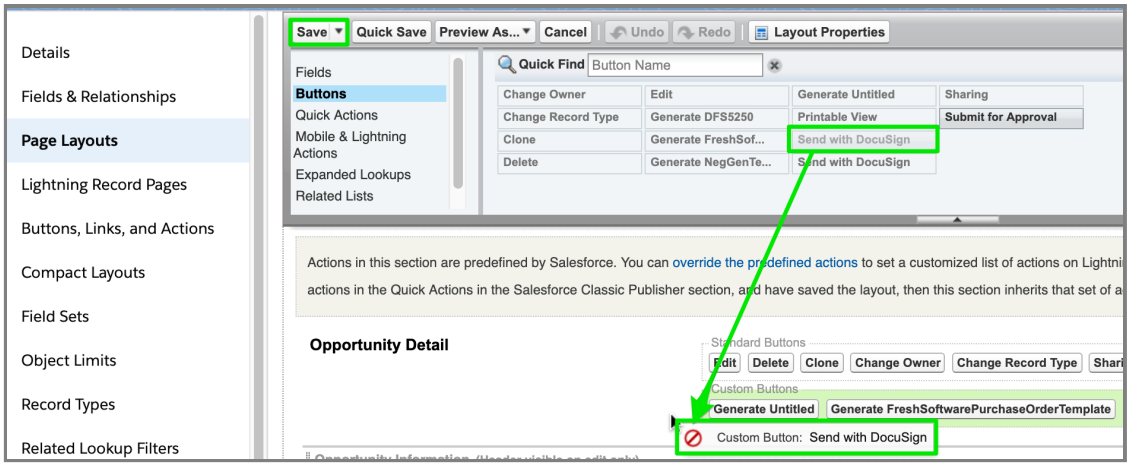
これにより、[DocuSign エンベロープのステータス]コンポーネントが Salesforce オブジェクトのページレイアウトに追加されました。

Salesforce のオブジェクトマネージャーを使用してページレイアウトに DocuSign のフィールドやボタンを追加する

カスタムボタンなどの DocuSign コンポーネントを Salesforce オブジェクトのページレイアウトに追加することもできます。

カスタムボタンなどの DocuSign コンポーネントを Salesforce オブジェクトのページレイアウトに追加することもできます。

1. Salesforce 管理者として、[ページレイアウト]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン( )をクリックします。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]ボックスに「オブジェクトマネージャ」と入力します。
   d. 左側のナビゲーションバーで[オブジェクトマネージャ]を選択します。
2. [表示ラベル]列からオブジェクトリンク([取引先]や[商談]など)を選択します。
3. [ページレイアウト]リンクをクリックします。
4. [ページレイアウト名]列でページレイアウトを選択します。
5. [Opportunity Layout]メニューから下のページレイアウトキャンバス上にフィールド(Salesforce 内では「項目」と呼ばれます)やボタンをドラッグ &ドロップします。



6. [保存]を選択します。

以上の手順により、Salesforce オブジェクトの各レコードページにフィールド、ボタン、クイックアクションなどが追加されました。

Salesforce ユーザーに DocuSign へのアクセス権を付与する

Salesforce ユーザーに DocuSign へのアクセス権を付与する方法について説明します。

以下のいずれかの方法で、Salesforce ユーザーに DocuSign へのアクセス権を付与します。

- DocuSign ユーザー管理: DocuSign アプリケーションランチャーのユーザー管理ページで、Salesforce ユーザーに DocuSign アプリへのアクセス権を追加します。
- DocuSign 権限セット: Salesforce ユーザーを DocuSign ログイン権限セットなどに追加します。
- シングルサインオン（**SSO**）**:** SSO ID プロバイダーを使用して、Salesforce ユーザーに DocuSign へのアクセス権をプロビジョニングします。

DocuSign へのアクセス権が付与された Salesforce ユーザーは、そのアクセス権をアクティブ化する必要があります。

以下のいずれかの方法で、DocuSign のアクセス権をアクティブ化します。

- メールによるアクティブ化
- SSO ID プロバイダーによるアクティブ化

ここでは、Salesforce ユーザーに DocuSign のアクセス権や権限をプロビジョニングする方法について説明します。

新規 **DocuSign** ユーザーを手作業で作成する

DocuSign アプリケーションランチャーの［ユーザー管理］ページでは、DocuSign ユーザーを新規に作成できます。

新規に作成されたユーザーは、メールのリンクまたは SSO 資格情報を使用して自分のアカウントをアクティブ化する必要があります。

以下の手順に従います。

メールのリンクを使ってアクティブ化する

1. DocuSign eSignature for Salesforce 管理者が、DocuSign アプリケーションランチャーの［ユーザー管理］ページを開きます。
2. 管理者が目的の Salesforce ユーザーを探し、CLM、Gen、Negotiate、または eSignature for Salesforce アプリの権限を割り当てます。
3. 新しいユーザーは、DocuSign から受け取ったメールに記載されているアクティブ化リンクを選択します。
4. ユーザーが DocuSign のパスワードを作成します。
5. Salesforce 組織にログインします。
6. DocuSign カスタムボタンまたはコンポーネントの［認証］を選択します。
7. DocuSign および Salesforce の資格情報を入力します。
   認証とアクティブ化のプロセスが完了しました。この認証が必要になるのは 1 回のみです。Salesforce ユーザーは、管理者が設定したアクセスレベルで、割り当てられた DocuSign アプリを使用できます。

SSO の資格情報を使ってアクティブ化する

1. DocuSign eSignature for Salesforce 管理者が、DocuSign アプリケーションランチャーの［ユーザー管理］ページを開きます。
2. 管理者が目的の Salesforce ユーザーを探し、CLM、Gen、Negotiate、または eSignature for Salesforce アプリの権限を割り当てます。
3. ユーザーが Salesforce 組織にログインします。
4. DocuSign カスタムボタンまたはコンポーネントの［認証］を選択します。

5. SSO の資格情報を入力します。
   認証とアクティブ化のプロセスが完了しました。この認証が必要になるのは 1 回のみです。Salesforce ユーザーは、管理者が設定したアクセスレベルで、割り当てられた DocuSign アプリを使用できます。

既存の **DocuSign** ユーザーに **DocuSign for Salesforce** アプリへのアクセス権を手作業で付与する

DocuSign アプリケーションランチャーの［ユーザー管理］ページでは、既存のアクティブな DocuSign ユーザーに DocuSign for Salesforce アプリへのアクセス権を付与できます。

既存のアクティブな DocuSign ユーザーは、メールのリンクまたは SSO の資格情報を使用して、Salesforce 内で DocuSign for Salesforce アプリへのアクセス権をアクティブ化する必要があります。

以下の手順に従います。

1. DocuSign eSignature for Salesforce 管理者が、DocuSign アプリケーションランチャーの［ユーザー管理］ページを開きます。
2. 管理者が目的の Salesforce ユーザーを探し、CLM、Gen、Negotiate、または eSignature for Salesforce アプリの権限を割り当てます。
3. ユーザーが Salesforce 組織にログインします。
4. DocuSign カスタムボタンまたはコンポーネントの［認証］を選択します。
5. 以下のいずれかの方法で資格情報を入力します。
   - 標準の認証: Salesforce および DocuSign の資格情報を入力します。
   - SSO 認証: SSO の資格情報を入力します。

認証のプロセスが完了しました。この認証が必要になるのは 1 回のみです。Salesforce ユーザーは、管理者が設定したアクセスレベルで、割り当てられた DocuSign アプリを使用できます。

既存のアクティブな **DocuSign** ユーザーを **DocuSign** ログイン権限セットに追加する

既存のアクティブな DocuSign ユーザーを Salesforce の DocuSign ログイン権限セットに追加すると、ユーザー自身によるアクティブ化を許可できます。

ユーザーは DocuSign と Salesforce の資格情報、または SSO の資格情報を使用して、DocuSign アプリへのアクセス権を自分でアクティブ化できます。

以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者が、［DocuSign ログイン（DocuSign Login）］権限セットに Salesforce ユーザーを追加します。
2. ユーザーが Salesforce 組織にログインします。
3. DocuSign カスタムボタンまたはコンポーネントの［認証］を選択します。
4. 以下のいずれかの方法で資格情報を入力します。
   - 標準の認証: Salesforce および DocuSign の資格情報を入力します。
   - SSO 認証: SSO の資格情報を入力します。

認証のプロセスが完了しました。この認証が必要になるのは 1 回のみです。Salesforce ユーザーは、管理者が設定したアクセスレベルで、割り当てられた DocuSign for Salesforce アプリを使用できます。

SSO のプロビジョニングと **DocuSign** ログイン権限セットを使用して新規 **DocuSign** ユーザーを作成する

新規 DocuSign ユーザーを作成するには、DocuSign SSO を有効にし、Salesforce ユーザーを DocuSign ログイン権限セットに追加します。

ユーザーは、DocuSign アプリへのアクセス権を SSO の資格情報を使用して自分でアクティブ化できます。

重要:

- SSO ID プロバイダーで DocuSign のジャストインタイムプロビジョニングを有効にする必要があります。
- ジャストインタイムプロビジョニングで Gen、Negotiate、または CLM のユーザーを新規に追加することはできません。ユーザーを作成してから、Gen、Negotiate、または CLM の権限を追加する必要があります。

以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者が、[DocuSign ログイン（DocuSign Login）]権限セットに Salesforce ユーザーを追加します。
2. ユーザーが Salesforce 組織にログインします。
3. ユーザーが DocuSign カスタムボタンまたはコンポーネントを選択します。
4. ユーザーが SSO の資格情報を入力します。

認証のプロセスが完了しました。この認証が必要になるのは 1 回のみです。Salesforce ユーザーは、管理者が設定したアクセスレベルで、割り当てられた DocuSign for Salesforce アプリを使用できます。

DocuSign Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce のユーザー管理

[ユーザー管理]ページでは、DocuSign Gen for Salesforce、DocuSign Negotiate for Salesforce、および DocuSign eSignature for Salesforce のユーザーを追加したり、権限を管理したりできます。

Salesforce ユーザーが Gen、Negotiate、eSignature のアプリを使用するには、DocuSign ユーザーの権限が必要です。

Salesforce での DocuSign ユーザーアクセスのプロビジョニングは、さまざまなシナリオで使用できます。

DocuSign Gen、Negotiate、eSignature のユーザーのプロビジョニングには、主に次の 2 つの方法を使用できます。

- **DocuSign 権限セット:** Salesforce 管理者が Salesforce ユーザーを DocuSign 権限セット（DocuSign ログイン）に追加します。
- DocuSign ユーザー管理: DocuSign eSignature 管理者がユーザーの DocuSign アプリへのアクセスを追加、編集します。

ここでは、DocuSign の[ユーザー管理]ページでユーザー権限を追加および編集する方法について説明します。

重要: Gen または Negotiate のトライアルを使用している場合は、管理者を設定するときにそのユーザー自身に「文書生成者」または「交渉者」の権限を付与する必要があります。DocuSign アプリケーションランチャーの管理者を複数設定することもできます。

以下の役割を割り当てることができます。

- DocuSign Gen:
  - 文書生成者: DocuSign Gen を使用して契約書を生成し、署名者に送信します。
  - なし: Gen にアクセスできません（デフォルトの役割）。
- DocuSign Negotiate:
  - 交渉者: DocuSign Negotiate を使用してコンテンツをレビュー担当者と署名者に送信します。
  - なし: Negotiate にアクセスできません（デフォルトの役割）。
- DocuSign eSignature:
  - 管理者: テンプレートを作成したり Salesforce 内で DocuSign ユーザーを管理したりします。
  - ユーザー: 署名者に文書を送信します（デフォルトの役割）。

DocuSign の[ユーザー管理]ページでは、以下のアクションを実行できます。

- ユーザー管理ツールを使用して Salesforce 組織に DocuSign Gen、Negotiate、または eSignature のユーザーを作成する
- DocuSign CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce ユーザーのアクティブ化ステータスを確認する
- DocuSign の[ユーザー管理]ページで DocuSign ユーザーを検索する
- Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce のユーザーの権限を編集する
- [ユーザー管理]ページで Salesforce ユーザーから Gen、Negotiate、eSignature のアクセスを削除する
- DocuSign の[ユーザー管理]ページで Gen、Negotiate、eSignature のアクセスを削除して DocuSign ユーザーをクローズする

接続された DocuSign アカウントでは、さらに以下のユーザーアクションを実行できます。

- DocuSign CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce ユーザーのアクティブ化メールを再送信する
- DocuSign CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce ユーザーのパスワードをリセットする

以下では、[ユーザー管理]ページで Gen、Negotiate、eSignature の権限を追加、編集する方法について説明します。

ユーザー管理ツールを使用して Salesforce 組織に DocuSign Gen、Negotiate、または eSignature のユーザーを作成する

ユーザー管理ツールを使用して Salesforce 組織に DocuSign Gen ユーザー、Negotiate ユーザー、または eSignature ユーザーを作成する方法について説明します。

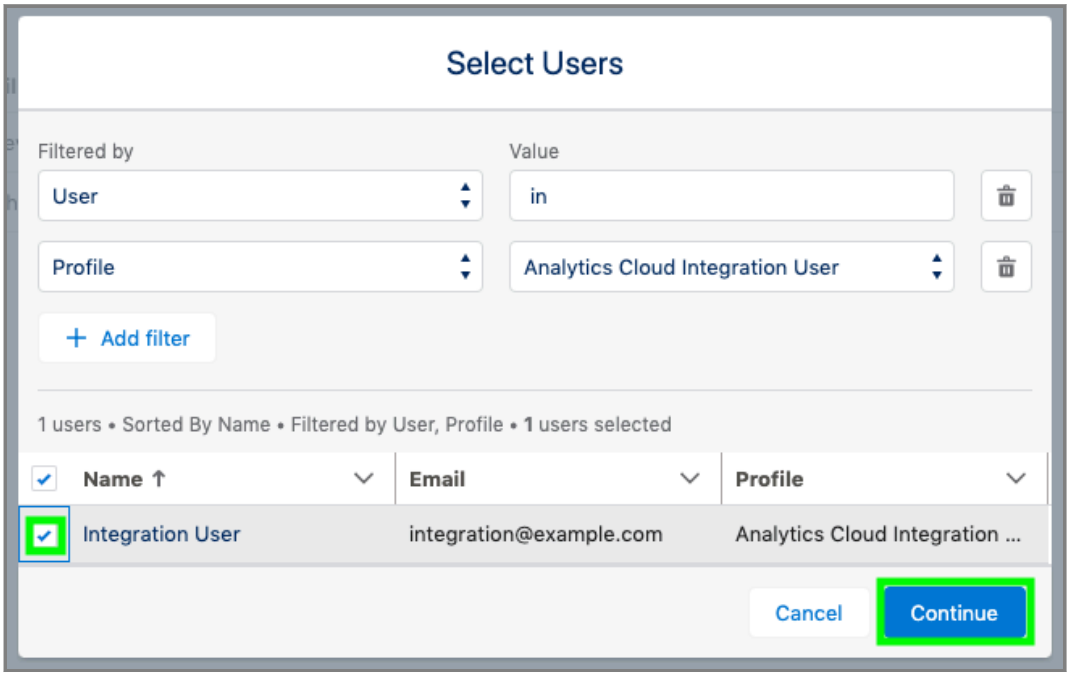
ここでは、ユーザー管理ツールを使用して Salesforce 組織に DocuSign Gen ユーザー、Negotiate ユーザー、または eSignature ユーザーを作成する方法について説明します。

1. Salesforce 管理者として、[ユーザー管理]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン()をクリックします。
   b. [すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign Apps Launcher]タイルを選択します。

d. ページ左側で[ユーザー管理]を選択します。

[ユーザー管理]ページが開きます。

2. ページ右上の[ユーザーの追加]を選択します。
[ユーザーの追加]ダイアログボックスが開きます。
3. [ユーザーの選択]ダイアログボックスで、以下の操作を行います。
   a. フィルター条件: ドロップダウンメニューからいずれかのフィルターを選択し、Salesforce ユーザーを検索します。
      - ユーザー: [値]フィールドに Salesforce ユーザーの名前またはメールアドレスを入力します。
      - プロファイル: [値]ドロップダウンメニューから Salesforce プロファイルを選択します。
      - 権限セット: [値]ドロップダウンメニューから Salesforce 権限セットを選択します。
   b. フィルターの追加: 必要に応じて、複数のフィルターを組み合わせて結果を絞り込みます。
   c. フィルターを削除するには、そのフィルターの横のごみ箱アイコン( )を選択します。
   d. 追加する各 Salesforce ユーザーの横のチェックボックスをオンにします。
   e. [続行]を選択して先に進みます。

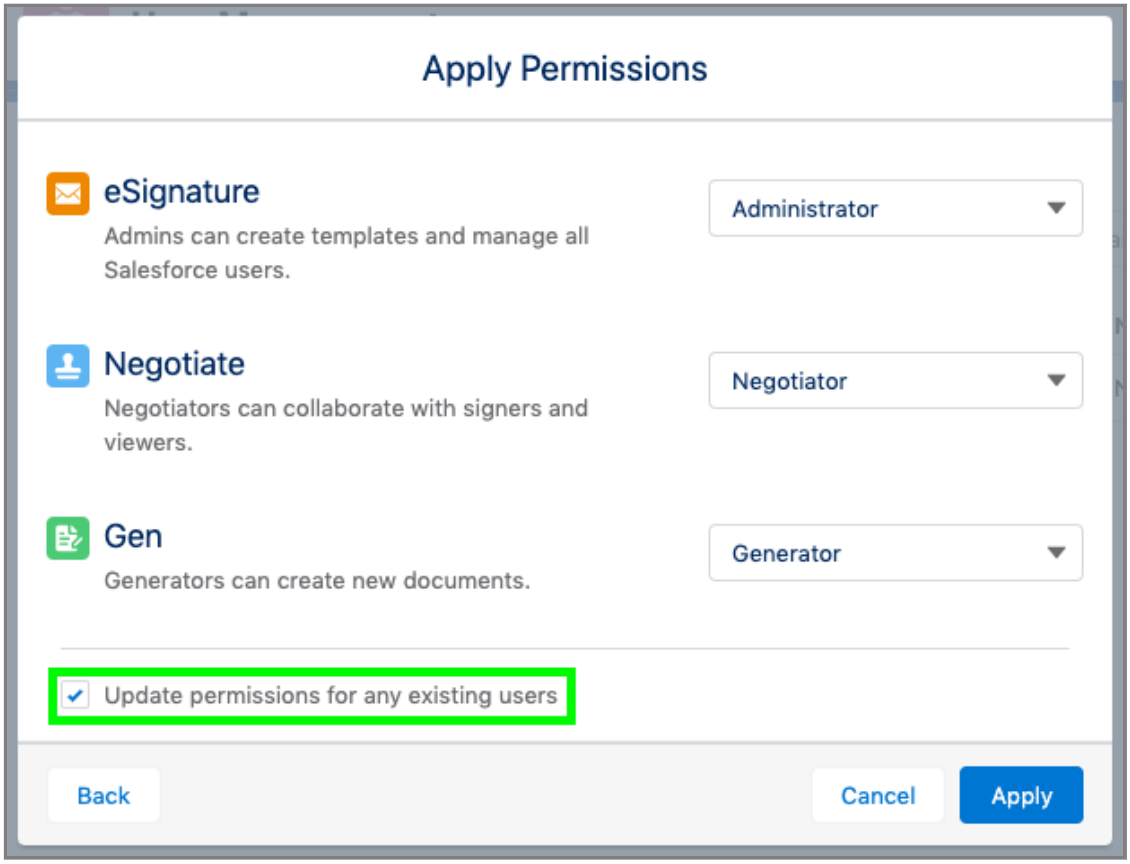


[ユーザーの追加]ダイアログボックスが閉じます。[権限の適用]ダイアログボックスが開きます。

4. [権限の適用]ダイアログボックスで、以下の操作を行います。
   a. eSignature: ドロップダウンメニューから DocuSign eSignature ユーザーの役割を選択します。
      - 管理者: 管理者は、テンプレートを作成したり Salesforce 内で DocuSign ユーザーを管理したりできます。
      - ユーザー: ユーザーは、署名者に文書を送信できます。
   b. Negotiate:
      - 交渉者: 交渉者は、署名者やビューアーとコラボレーションできます。
      - アクセスなし: Negotiate アプリにアクセスできません。
   c. Gen:
      - 文書生成者: 文書生成者は、Salesforce レコードから新しい文書を生成できます。
      - アクセスなし: Gen アプリにアクセスできません。

d. 既存のすべてのユーザーの権限を更新する: 接続された DocuSign アカウントにこれらのユーザーがすでに存在する場合は、このチェックボックスをオンにします。これにより、これらのユーザーの現在の DocuSign 権限が更新されます。

e. [適用]を選択します。



[権限の適用]ダイアログボックスが閉じます。[概要]ダイアログボックスが開き、「<ユーザー名またはユーザーの数>が追加されました」というメッセージが表示されます。

5. [完了]を選択します。

以上の手順により、選択した Salesforce ユーザーに DocuSign アプリへのアクセス権が付与されました。[既存のすべてのユーザーの権限を更新する]チェックボックスをオンにした場合は、DocuSign アカウントの既存のユーザー権限が更新されます。これらのユーザーが組織で Gen、Negotiate、または eSignature for Salesforce を使用するには、DocuSign ユーザーをアクティブ化する必要があります。

DocuSign CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce ユーザーのアクティブ化ステータスを確認する

[ユーザー管理]ページで DocuSign CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce ユーザーのアクティブ化ステータスを確認する方法について説明します。

ユーザーが DocuSign CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce にアクセスできない場合、ユーザーアカウントがアクティブ化されているかどうかを確認する必要があります。ここでは、[ユーザー管理]ページで DocuSign ユーザーのステータスを確認する方法について説明します。

1. Salesforce 管理者として、[ユーザー管理]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン()をクリックします。
   b. [すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign Apps Launcher]タイルを選択します。
   d. ページ左側で[ユーザー管理]を選択します。

   [ユーザー管理]ページが開きます。
2. [ステータス]列を確認します。
   - アクティブ: ユーザーの DocuSign アカウントはアクティブ化されています。
   - 保留中: ユーザーの DocuSign アカウントはアクティブ化されていません。

> ヒント:「保留中」のユーザーが DocuSign からのアクティブ化メールを見つけられない場合は、迷惑メールフォルダーに振り分けられていないことを確認してください。

以上の手順により、DocuSign ユーザーのアクティブ化ステータスが確認されました。「保留中」のユーザーはアカウントをアクティブ化する必要があります。

関連情報

DocuSign CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce のユーザーをアクティブ化する

DocuSign CLM、Gen、Negotiate、または eSignature for Salesforce ユーザーのパスワードをリセットする

DocuSign CLM、Gen、Negotiate、または eSignature for Salesforce ユーザーのパスワードをリセットする方法について説明します。

ここでは、DocuSign CLM、Gen、Negotiate、または eSignature for Salesforce ユーザーのパスワードをリセットする方法について説明します。

1. Salesforce 管理者として、DocuSign の[ユーザー]ページを開きます。
   a. DocuSign アカウントにログインします。
   b. ページ上部の[設定]タブを選択します。
   c. ページ左側で[ユーザー]を選択します。
2. ユーザー名の右端の[アクション]()を選択します。
3. [パスワードのリセット]を選択します。

   「パスワードリセット用のメールが<ユーザー名>に送信されました」というメッセージが表示されます。

以上の手順により、パスワードをリセットするためのリンクがユーザーのメールアドレスに送信されました。

DocuSign CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce ユーザーのアクティブ化メールを再送信する

DocuSign CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce ユーザーのアクティブ化メールを再送信する方法について説明します。

ここでは、DocuSign CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce ユーザーのアクティブ化メールを再送信する方法について説明します。

1. Salesforce 管理者として、DocuSign の[ユーザー]ページを開きます。
   a. DocuSign アカウントにログインします。
   b. ページ上部の[設定]タブを選択します。
   c. ページ左側で[ユーザー]を選択します。
2. ユーザー名の右端の[アクション]()を選択します。
3. ドロップダウンメニューから[招待の再送信]を選択します。
4. アクセスコード: アクセスコードを設定する場合は、ダイアログボックスにコードを入力します。

   > **注:** アクセスコードを入力した場合、ユーザーがアカウントをアクティブ化するときにそのコードの入力が必要になります。ユーザーにアクセスコードを通知しておいてください。

5. [OK]を選択します。
   「<ユーザー名>に招待メールが送信されました」というメッセージが表示されます。

以上の手順により、非アクティブなユーザーに新しいアクティブ化メールが送信されました。

DocuSign の[ユーザー管理]ページで DocuSign ユーザーを検索する

DocuSign の[ユーザー管理]ページで Gen、Negotiate、eSignature のユーザーを探すための検索機能の使用方法について説明します。

ここでは、DocuSign の[ユーザー管理]ページで Gen、Negotiate、eSignature のユーザーを検索する方法について説明します。

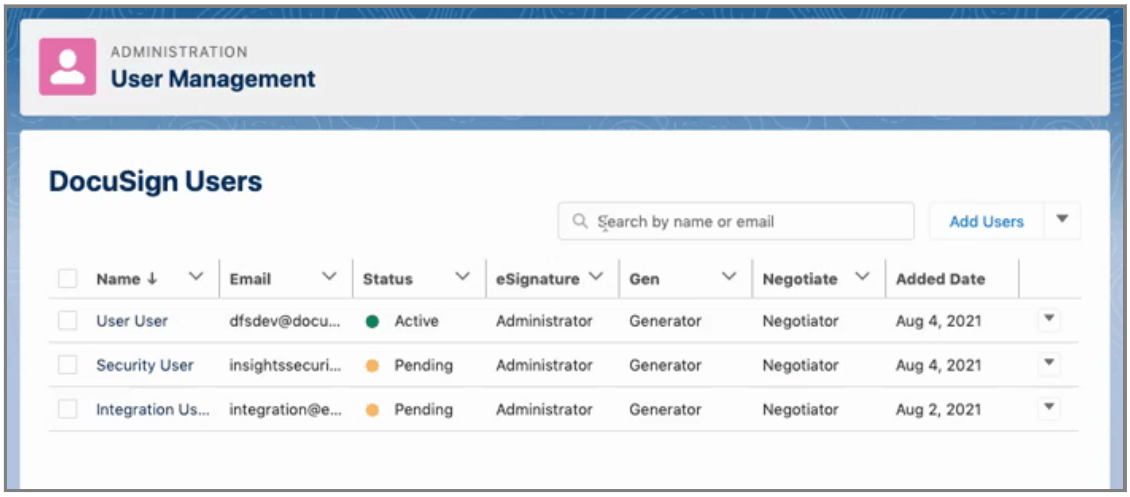
> **注:** 検索結果は、検索語の入力に合わせて自動的に更新されます。検索を実行するために Enter キーを押す必要はありません。

1. Salesforce 管理者として、[ユーザー管理]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン()をクリックします。

b. [すべて表示]リンクを選択します。
c. [DocuSign Apps Launcher]タイルを選択します。
d. ページ左側で[ユーザー管理]を選択します。

[ユーザー管理]ページが開きます。

2. 名前またはメールアドレスで検索: フィールドに名前やメールアドレスを入力します。



検索結果は、検索語の入力に合わせて自動的に更新されます。

3. 検索を消去する場合は、[X]()を選択します。

以上の手順により、DocuSign の[ユーザー管理]ページの検索フィールドでユーザーを検索できます。

Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce のユーザーの権限を編集する

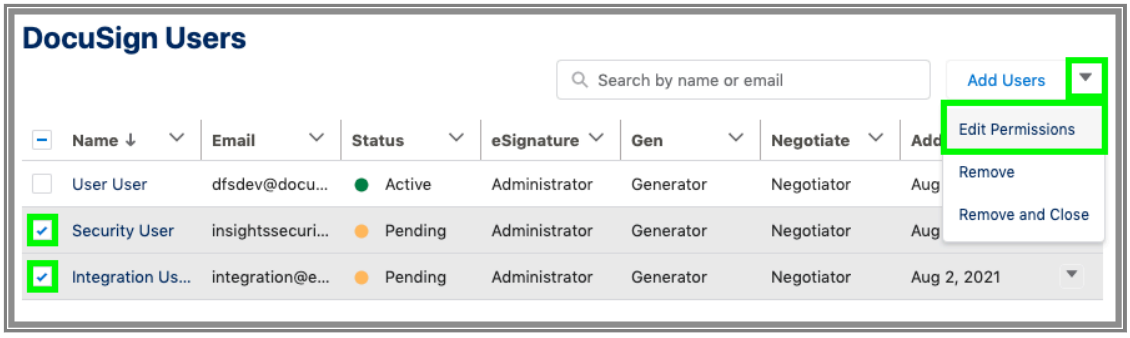
[ユーザー管理]ページで Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce のユーザーの権限を編集する方法について説明します。

ここでは、[ユーザー管理]ページで Gen、Negotiate、または eSignature for Salesforce のユーザーの権限を編集する方法について説明します。

1. Salesforce 管理者として、[ユーザー管理]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン()をクリックします。
   b. [すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign Apps Launcher]タイルを選択します。
   d. ページ左側で[ユーザー管理]を選択します。

   [ユーザー管理]ページが開きます。
2. 編集するユーザーの横のチェックボックスをオンにします。
3. [ユーザーの追加]ボタンの横の矢印()を選択します。
   ドロップダウンメニューが開きます。

4. ドロップダウンリストから[権限の編集]を選択します。



[<ユーザーまたはユーザーの数>の権限を編集]ダイアログボックスが開きます。

5. [<ユーザーまたはユーザーの数>の権限を編集]ダイアログボックスで、以下の設定を行います。
   a. eSignature: 権限をそのまま使用するか、DocuSign eSignature ユーザーの役割をドロップダウンメニューから選択します。
      - 管理者: 管理者は、テンプレートを作成したり Salesforce 内で DocuSign ユーザーを管理したりできます。
      - ユーザー: ユーザーは、署名者に文書を送信できます。
   b. Negotiate: 権限をそのまま使用するか、DocuSign Negotiate ユーザーの役割をドロップダウンメニューから選択します。
      - 交渉者: 交渉者は、署名者やビューアーとコラボレーションできます。
      - アクセスなし: Negotiate アプリにアクセスできません。
   c. Gen: 権限をそのまま使用するか、DocuSign Gen ユーザーの役割をドロップダウンメニューから選択します。
      - 文書生成者: 文書生成者は、Salesforce レコードから新しい文書を生成できます。
      - アクセスなし: Gen アプリにアクセスできません。
   d. [適用]を選択します。

   [<ユーザーまたはユーザーの数>の権限を編集]ダイアログボックスが閉じます。「「<ユーザーまたはユーザーの数>」の権限が更新されました」というメッセージが表示されます。

これにより、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce のユーザー権限が編集されました。

[ユーザー管理]ページで Salesforce ユーザーから Gen、Negotiate、eSignature のアクセスを削除する

DocuSign の[ユーザー管理]ページで Salesforce ユーザーから Gen、Negotiate、eSignature のアクセスを削除する方法について説明します。

ここでは、DocuSign の[ユーザー管理]ページで Salesforce ユーザーの Gen、Negotiate、eSignature のアクセスを削除する方法について説明します。

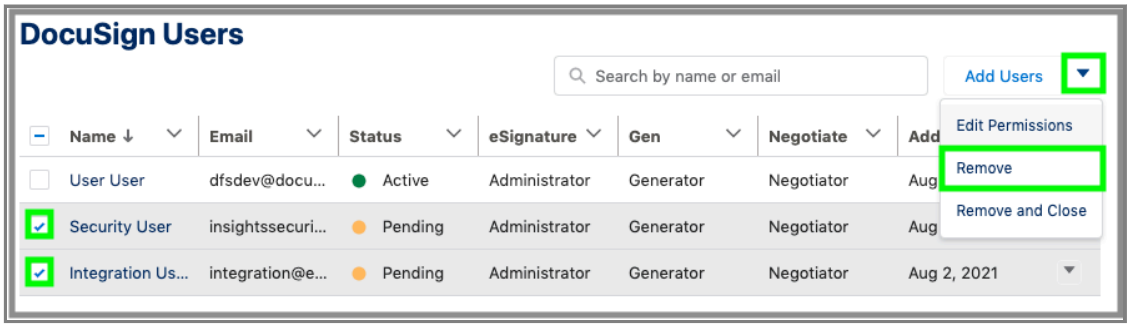
注:

- これらのユーザーが Salesforce 組織や接続されている DocuSign アカウントから削除されることはありませんが、DocuSign Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce アプリを使用できなくなります。

- ログインしているユーザーを削除することはできません。
- eSignature 管理者ユーザーが 1 人しかいない場合、そのユーザーを削除することはできません。

1. Salesforce 管理者として、[ユーザー管理]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
   b. [すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign Apps Launcher]タイルを選択します。
   d. ページ左側で[ユーザー管理]を選択します。

   [ユーザー管理]ページが開きます。
2. 削除するユーザーの横のチェックボックスをオンにします。
3. [ユーザーの追加]ボタンの横の矢印( )を選択します。
   ドロップダウンメニューが開きます。
4. [削除]を選択します。



   [DocuSign アプリケーションランチャーから<ユーザーまたはユーザーの数>を削除します]ダイアログボックスが開きます。
5. [削除]を選択します。
   [DocuSign アプリケーションランチャーから<ユーザーまたはユーザーの数>を削除します]ダイアログボックスが閉じます。

   「<ユーザーまたはユーザーの数>が削除されました」というメッセージが表示されます。

以上の手順により、Salesforce ユーザーから Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce のアプリへのアクセスが削除されました。Salesforce 組織や接続されている DocuSign アカウント内のユーザーに変更はありません。

DocuSign の[ユーザー管理]ページで Gen、Negotiate、eSignature のアクセスを削除して DocuSign ユーザーをクローズする

[ユーザー管理]ページで Gen、Negotiate、eSignature のアクセスを削除して、DocuSign ユーザーをクローズする方法について説明します。

[削除してクローズ]を実行すると、Salesforce ユーザーの DocuSign アプリへのアクセス権が取り消され、接続されている DocuSign アカウントからそのユーザーがクローズ(削除)されます。

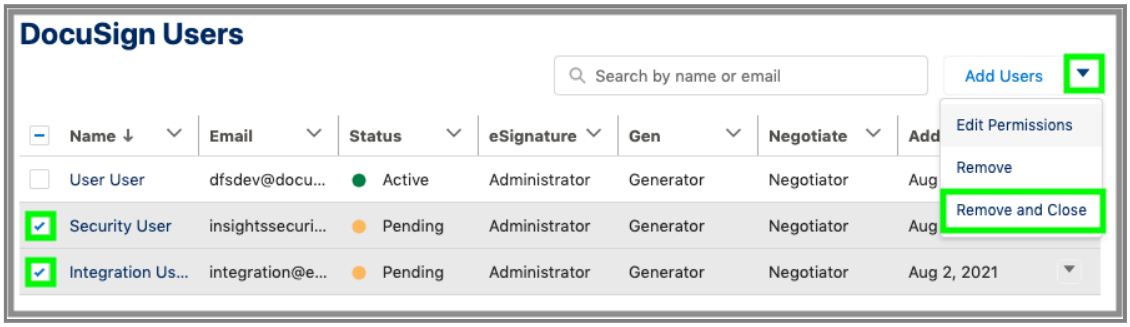
ここでは、[ユーザー管理]ページで Gen、Negotiate、eSignature のアクセスを削除して、DocuSign ユーザーをクローズする方法について説明します。

注:

- クローズしたユーザーが Salesforce 組織から削除されることはありませんが、DocuSign Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce アプリを使用できなくなります。
- ユーザーをクローズすると、接続されている DocuSign アカウントからそのユーザーが削除されます。
- ログインしているユーザーを削除してクローズすることはできません。
- eSignature 管理者ユーザーが 1 人しかいない場合、そのユーザーを削除してクローズすることはできません。

1. Salesforce 管理者として、[ユーザー管理]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
   b. [すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign Apps Launcher]タイルを選択します。
   d. ページ左側で[ユーザー管理]を選択します。

   [ユーザー管理]ページが開きます。
2. 削除してクローズするユーザーの横のチェックボックスをオンにします。
3. [ユーザーの追加]の横の下矢印( )を選択します。
   ドロップダウンメニューが開きます。
4. [削除してクローズ]を選択します。



   [<ユーザーまたはユーザーの数>を DocuSign から削除してクローズ]ダイアログボックスが開きます。
5. [削除]を選択します。
   [<ユーザーまたはユーザーの数>を DocuSign から削除してクローズ]ダイアログボックスが閉じます。

   「<ユーザーまたはユーザーの数>が削除されました」というメッセージが表示されます。

これにより、Salesforce ユーザーの DocuSign Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce のアプリへのアクセスが削除され、接続されている DocuSign アカウントからそのユーザーが削除されました。Salesforce 組織内のユーザーに変更はありません。

Salesforce で DocuSign 権限セットのユーザーを追加または削除してアプリのセキュリティを管理する

DocuSign アプリケーションランチャーの権限セットの名前と機能について説明します。

「権限セット」とは Salesforce の設定と権限をまとめたもので、ユーザーにさまざまなツールや機能へのアクセスを提供します。権限セットを使用すると、Salesforce ユーザーのプロファイルを変更しなくても、機能へのアクセスを拡張できます。

DocuSign アプリケーションランチャーパッケージをインストールすると、DocuSign の一連の権限セットが Salesforce 組織に追加されます。

以下は、権限セットとその機能の一覧です。

権限セットの名前	権限セットの機能
DocuSign 管理者（DocuSign Administrator）	DocuSign アプリケーションランチャーへの管理アクセスを提供します。
DocuSign CLM 管理者（DocuSign CLM Admin）	DocuSign アプリケーションランチャーの CLM への管理アクセスを提供します。
DocuSign CLM Experience Cloud ユーザー（DocuSign CLM Experience Cloud User）	コミュニティ（Experience Cloud）の CLM へのアクセスを提供します。
DocuSign CLM ユーザー（DocuSign CLM User）	DocuSign アプリケーションランチャーの CLM への登録者アクセスを提供します。
DocuSign CLM ビューアー（DocuSign CLM Viewer）	DocuSign アプリケーションランチャーの CLM へのゲストアクセスを提供します。
DocuSign 文書生成者（DocuSign Document Generator）	DocuSign Gen で文書を生成できます。
DocuSign 文書交渉者（DocuSign Document Negotiator）	DocuSign Negotiate で内部レビューまたは外部承認の担当者にファイルを送信できます。
DocuSign ログイン（DocuSign Login）	DocuSign アプリケーションランチャーの認証と、既存の DocuSign ユーザーの権限に対応する権限セットの自動割り当てをユーザーに許可します。
DocuSign 差出人（DocuSign Sender）	ユーザーは DocuSign アプリケーションランチャーで System Sender としてエンベロープを送信できるようになります。
DocuSign ユーザー（DocuSign User）	DocuSign アプリケーションランチャーの eSignature へのアクセスを提供します。

DocuSign アプリケーションランチャーの権限セットのユーザーを追加または削除するには、以下の手順に従います。

- DocuSign アプリケーションランチャーの権限セットにユーザーを追加する
- DocuSign アプリケーションランチャーの権限セットからユーザーを削除する

関連情報

Salesforce ユーザーに DocuSign へのアクセス権を付与する

DocuSign ログイン権限セットによる Salesforce での DocuSign ユーザーのアクセス管理について

DocuSign ログイン権限セットによる Salesforce での DocuSign ユーザーのアクセス管理について説明します。

DocuSign ログイン権限セットを使用すれば、Salesforce の標準的なページで DocuSign ユーザーを管理できます。DocuSign ログイン権限セットには、以下の考慮事項があります。

- DocuSign ログイン権限セットは、DocuSign アプリケーションランチャー v3.5 以降で使用できます。
- DocuSign ログインのメンバーシップを持つユーザーは、自分自身で DocuSign アプリへのアクセスを承認できます。
- 既存の DocuSign ユーザーを DocuSign ログイン権限セットに追加すると、そのユーザーのアプリ権限が Salesforce ユーザーにインポートされます。

DocuSign ログイン権限セットは、以下のような場合に便利です。

管理者が **Salesforce** のページでユーザーを管理したい場合

Salesforce 管理者が DocuSign のコントロールよりも Salesforce の設定の方が使いやすいと感じているような場合です。

管理者は、DocuSign ログイン権限セットを使用して Salesforce ユーザーに DocuSign アプリへのアクセスを付与します。

DocuSign アプリケーションランチャーのページに移動してユーザー管理を行う必要はありません。

Salesforce 組織と **DocuSign** との接続が解除または更新された場合

管理者が Salesforce 組織の更新を実行したり、DocuSign アカウントの接続解除と再接続を行ったりするような場合です。

いずれの場合も、すべての DocuSign ユーザーが DocuSign ユーザー管理ページから削除されます。

ただし、DocuSign ユーザーとアプリ権限はすべて DocuSign ログイン権限セットに保持されます。

管理者は DocuSign アプリのアクセス権を再設定する必要はありません。

> **注:** DocuSign アプリケーションランチャーパッケージをアンインストールして再インストールした場合、DocuSign アプリへのアクセス権は保持されません。パッケージをアンインストールすると、DocuSign ログイン権限セットも組織から削除されます。

管理者がアクティブ化メールの送信を希望しない場合

管理者がユーザーにアクティブ化メールを送信して、各自で DocuSign アカウントをアクティブ化してもらうという手順を希望しない場合です。

この場合、DocuSign ログイン権限セットに Salesforce ユーザーを追加します。

ユーザーにはアクティブ化メールが送信されません。ユーザーは DocuSign コンポーネントやカスタムボタンを選択することによって、Salesforce レコード上で直接 DocuSign アクセスをアクティブ化できます。

接続されている **DocuSign** アカウントにすでにユーザーが存在し、権限が割り当てられている場合

DocuSign 管理者によってすでに DocuSign アカウントでユーザーが作成してあり、権限が割り当てられているような場合です。

この場合、DocuSign ログイン権限セットに Salesforce ユーザーを追加します。

ユーザーにはアクティブ化メールが送信されません。ユーザーは DocuSign コンポーネントやカスタムボタンを選択することによって、Salesforce レコード上で直接 DocuSign アクセスをアクティブ化できます。

ユーザーログインにシングルサインオン（**SSO**）を使用する場合

組織ユーザーがユーザーログインにシングルサインオン（SSO）プロバイダーを使用するような場合です。

この場合、DocuSign ログイン権限セットに Salesforce ユーザーを追加します。

ユーザーにはアクティブ化メールが送信されません。

ユーザーは Salesforce レコードの DocuSign コンポーネントまたはカスタムボタンを選択します。

DocuSign アプリへのアクセスの承認には、SSO の資格情報を使用します。

注: 次のような場合には、DocuSign のユーザー管理ページで、ユーザーにアプリへのアクセス権を付与する必要があります。

- 接続された DocuSign アカウントにそのユーザーがまだ存在しない場合
- ユーザーは DocuSign アカウントに登録されているが、必要な権限（文書生成者、交渉者、eSignature ユーザーなど）が不足している場合

関連情報

DocuSign アプリケーションランチャーの権限セットにユーザーを追加する
Salesforce 組織に DocuSign アカウントを接続する

DocuSign アプリケーションランチャーの権限セットにユーザーを追加する

Salesforce 組織で DocuSign 権限セットにユーザーを追加する方法について説明します。

ここでは、Salesforce 組織での DocuSign 権限セットにユーザーを追加する方法について説明します。

1. 管理者として[権限セット]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン（）を選択します。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]ボックスに「権限セット」と入力します。

   [権限セット]ページが開きます。
2. ユーザーを追加する DocuSign 権限セットのリンクを選択します。

選択した DocuSign 権限セットのページが開きます。

3. ページ上部の[割り当ての管理]を選択します。
4. [割り当てを追加]を選択します。
[ユーザの割り当て]ページが開きます。
5. 権限セットに追加するユーザーの横のチェックボックスをオンにします。
6. [割り当て]を選択します。
「権限セット<権限セット名>が<ユーザーまたはユーザーの数>に割り当てられました」というメッセージが表示されます。
7. [完了]を選択します。
DocuSign 権限セットのページが開きます。

以上の手順により、DocuSign アプリケーションランチャーの権限セットにユーザーが追加されました。

DocuSign アプリケーションランチャーの権限セットからユーザーを削除する

DocuSign アプリケーションランチャーの権限セットからユーザーを削除する方法について説明します。

ここでは、DocuSign アプリケーションランチャーの権限セットからユーザーを削除する方法について説明します。

1. 管理者として[権限セット]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン()を選択します。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]ボックスに「権限セット」と入力します。

   [権限セット]ページが開きます。
2. 対象の DocuSign 権限セットのリンクを選択します。
選択した DocuSign 権限セットのページが開きます。
3. ページ上部の[割り当ての管理]を選択します。
4. 権限セットから削除するユーザーの横のチェックボックスをオンにします。
5. [割り当てを解除]を選択します。
[この権限セットからこれらのユーザを削除しますか?]ダイアログボックスが開きます。
6. [OK]を選択します。
ダイアログボックスが閉じます。「権限セット<権限セット名>が<ユーザーまたはユーザーの数>から削除されました」というメッセージが表示されます。
7. [完了]を選択します。

以上の手順により、DocuSign アプリケーションランチャーの権限セットからユーザーが削除されました。

DocuSign eSignature for Salesforce でエンベロープを作成して送信する

DocuSign eSignature for Salesforce では、いくつかの方法でエンベロープを作成して送信できます。標準の［DocuSign で送信］ボタンやエンベロープテンプレートのカスタムボタンを使用したり、［DocuSign ファイル］セクションのアクションメニューを使用したりできます。

DocuSign eSignature for Salesforce でエンベロープを作成して送信するには、以下のいずれかの方法を使用します。

- 標準の［DocuSign で送信］ボタン:
  - 3 ステップで送信します。
  - 差出人が文書、受信者、および eSignature フィールドを追加します。
  - 文書、受信者、および eSignature フィールドは事前設定されていません。
- デフォルトのエンベロープテンプレート:
  - 3 ステップで送信します。
  - 文書、受信者、eSignature フィールドは事前設定されています。
  - 差出人は文書、受信者、eSignature フィールドを追加したり事前設定のものを編集したりできます。
- クイック送信用のエンベロープテンプレート:
  - 1 ステップで送信します。
  - 文書、受信者、eSignature フィールドは事前設定されています。
  - 差出人は、文書や eSignature フィールドを追加したり事前設定のものを編集したりできません。
  - 署名者以外の受信者の追加、メールの件名やメッセージの編集、およびリマインダーや有効期限の変更を行うことは可能です。
- フィールドの配置のみのエンベロープテンプレート:

  差出人に許可されるのは、文書への DocuSign フィールドおよび Salesforce フィールドの追加のみです。

- 「今すぐ送信」用のエンベロープテンプレート:

  差出人がレコード上でこのタイプのテンプレートのボタンを選択すると、事前設定のエンベロープが直ちに送信されます。

- ［DocuSign ファイル］のアクションメニュー:
  - 3 ステップで送信します。
  - 文書、受信者、eSignature フィールドは事前設定されています。
  - 差出人は文書、受信者、eSignature フィールドを追加したり事前設定のものを編集したりできます。

詳しくは、以下のトピックを参照してください。

- DocuSign で送信
- デフォルトの DocuSign エンベロープテンプレート
- クイック送信用の DocuSign エンベロープテンプレート
- フィールドの配置のみのエンベロープテンプレート
- 「今すぐ送信」用のエンベロープテンプレート
- ［DocuSign ファイル］のアクションメニュー

DocuSign アプリケーションランチャーの標準の[DocuSign で送信]ボタンを使用してエンベロープを送信する

DocuSign アプリケーションランチャーパッケージに組み込まれている DocuSign for Salesforce アプリを使用すると、DocuSign eSignature の機能を使って契約書などの文書を署名者に送信できます。

DocuSign アプリケーションランチャーに標準で用意されている[DocuSign で送信]ボタンを使用すると、エンベロープを作成して署名者に送信できます。
このプロセスの最初のステップでは、エンベロープに文書、受信者、およびフィールドが追加されていません。

エンベロープの作成プロセスは、以下の 3 つのステージで構成されています。

- ステップ 1: 標準の「DocuSign で送信」エンベロープに文書またはテンプレートを追加する
- ステップ 2: エンベロープに受信者を追加する
- ステップ 3: DocuSign と Salesforce のフィールドを追加してエンベロープを送信する

標準の[DocuSign で送信]ボタンを使用して、エンベロープを作成して送信する手順は以下のとおりです。

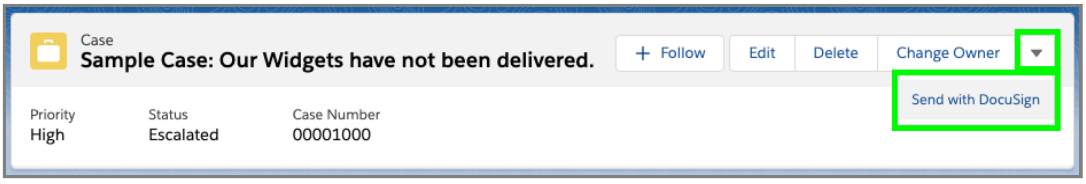
ステップ 1: 標準の「DocuSign で送信」エンベロープに文書またはテンプレートを追加する

標準の「DocuSign で送信」エンベロープに文書またはテンプレートを追加するには、以下の手順に従います。

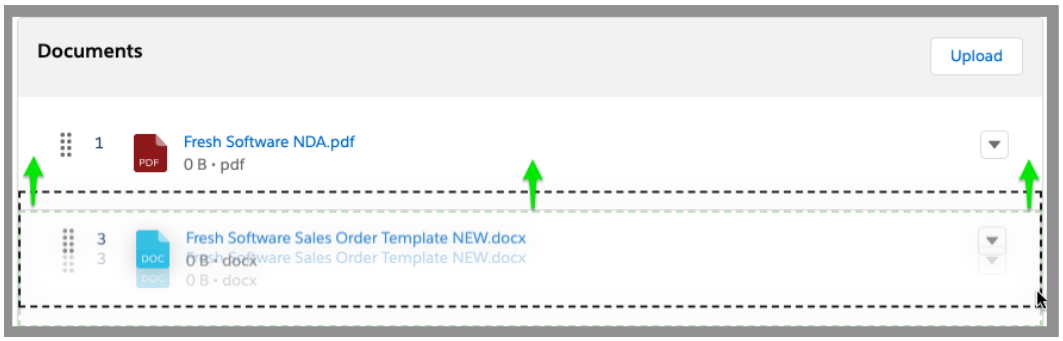
標準の「DocuSign で送信」エンベロープに文書またはテンプレートを追加するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce レコード([取引先]や[商談]など)を開きます。
2. ページ右上の[DocuSign で送信]を選択します。

   注: 画面の幅によっては、ボタンバーの下向き矢印(▼)をクリックする必要があります。

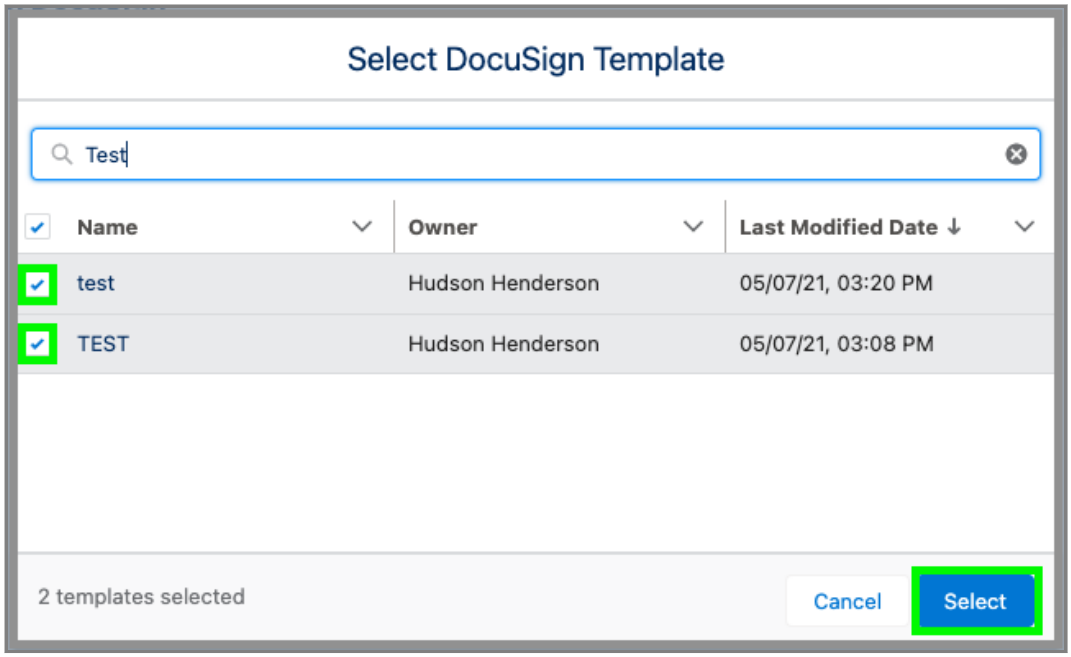
   [文書]ステップのページが開き、レコードの[メモ＆添付ファイル]セクションにあるすべての文書が表示されます。
3. エンベロープに追加する文書を選択して並べ替えます。
   - 文書: [メモ＆添付ファイル]の文書のチェックボックスをオンにします。
   - アップロード: デバイス上の文書を追加するには、このボタンを選択します。
   - Salesforce から追加: Salesforce ファイルから文書を追加するには、このボタンを選択します。
   - 文書をドラッグしてエンベロープでの表示順を変更します。



4. テンプレートの選択: 必要に応じて、既存の DocuSign テンプレートをエンベロープに適用します。
   a. [テンプレートの選択]を選択します。[DocuSign テンプレートの選択]ダイアログボックスが開きます。

> **注:** このダイアログボックスには、自分の DocuSign アカウントのテンプレートとすべてのエンベロープテンプレートが表示されます。

   b. エンベロープに適用するテンプレートのチェックボックスをオンにします。
   c. [選択]を選択します。



[DocuSign テンプレートの選択]ダイアログボックスが閉じます。テンプレートに設定されているすべての文書、受信者、および DocuSign フィールドがエンベロープに適用されます。

5. [次へ]を選択します。[受信者]ステップのページが開きます。

ステップ 1 が完了しました。「ステップ 2: エンベロープに受信者を追加する」に進みます。

関連情報

エンベロープに Salesforce 文書を追加する

ステップ 2: エンベロープに受信者を追加する

エンベロープに受信者を追加するには、以下の手順に従います。Salesforce 組織や DocuSign アカウントから追加したり、名前とメールアドレスを入力したりできます。

エンベロープに受信者を追加するには、以下の手順に従います。Salesforce 組織や DocuSign アカウントから追加したり、名前とメールアドレスを入力したりできます。

注: 前のステップで[テンプレートの選択]ボタンを選択した場合は、そのテンプレートに設定されている受信者が表示されます。受信者が重複する場合は、以下のルールが適用されます。

- 名前、メールアドレス、役割、および署名順が一致している場合は統合されます。
- 役割、および署名順が一致している空の受信者プレースホルダーは統合されます。
- 重複する受信者の以下の情報が異なっている場合は、新しく追加されたテンプレートの設定が適用されます。
  - SMS/電話
  - アクセスコード
  - プライベートメッセージ

1. [受信者の追加]を選択します。[受信者の追加]ダイアログボックスが開きます。
2. エンベロープに受信者を追加します。
   a. 左側の列から、いずれかの受信者タイプを選択します。
      - Salesforce から: Salesforce のユーザーまたは取引責任者の名前を入力します。
      - 名前とメールアドレス: 名前とメールアドレスを入力します。
      - 署名グループ: 接続されている DocuSign アカウントで設定されている受信者のグループを追加します。
   b. アクション:ドロップダウンメニューから、受信者に割り当てるアクションを選択します。
      - 署名が必要: 文書への署名が必要です。
      - 文書のコピーを受信: 文書のコピーを受け取ります。文書を確認したり署名したりする必要はありません。
      - 表示が必要: 文書の確認が必要です。署名する必要はありません。
      - 受信者の指定: 受信者のプレースホルダー(「承認者」など)に名前やメールアドレスを追加できる受信者です。
      - 編集を許可: 受信者を変更したり、エンベロープの内容を変更(修正)したりできる受信者です。
   c. 必要に応じて、以下の操作を行います。
      i. 配信: エンベロープをメールまたは SMS(テキストメッセージ)で送信します。

注: SMS 配信機能を使用するには、アカウント全体で[SMS での文書送信を許可する]オプションが有効になっている必要があります。

ii. 役割の追加: 差出人が後で名前やメールアドレスを指定できるようにするためのプレースホルダー（「承認者」など）を追加します。

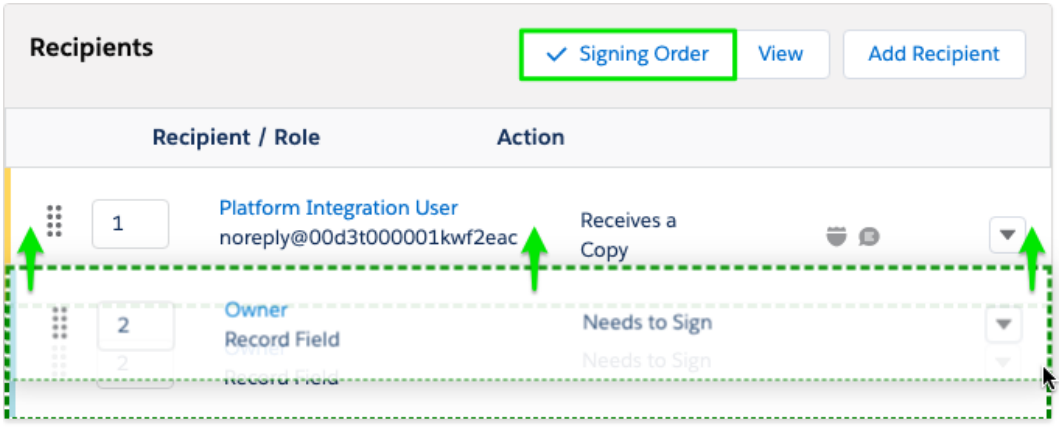
iii. アクセス認証の追加
- SMS/電話: 受信者のモバイルデバイスにアクセスコードを送信し、署名プロセスのセキュリティを強化します。
- アクセスコード: 署名プロセスを開始するときに受信者が入力しなければならないコードを作成します。

iv. プライベートメッセージの追加: 特定の受信者またはグループのみに宛てたメッセージを追加します。

d. [選択]を選択します。

[受信者の追加]ダイアログボックスが閉じます。[受信者]リストに受信者が表示されます。

3. 必要に応じて、以下の操作を行います。
- 署名順:
  - [署名順]を選択します。各受信者の署名順を示す番号が表示されます。
  - 受信者をドラッグして署名順を変更します。



- 表示: このボタンを選択すると、署名順のフロー図が表示されます。
- メールの件名: メールの件名を 100 文字以内で入力します。
- メールメッセージ: メールのメッセージを 2,000 文字以内で入力します。
- その他のオプション: 右矢印（>）を選択してオプションを選択します。
  - リマインダー: 受信者へのリマインダーの送信間隔をドロップダウンメニューから選択します。
  - 有効期限: エンベロープの有効期限を設定します。

4. ページ右上の[次へ]を選択します。DocuSign eSignature フィールドの追加画面が開きます。

ステップ 2 が完了しました。「ステップ 3: DocuSign と Salesforce のフィールドを追加してエンベロープを送信する」に進みます。

関連情報

エンベロープテンプレートのオプション: [受信者]ステップ

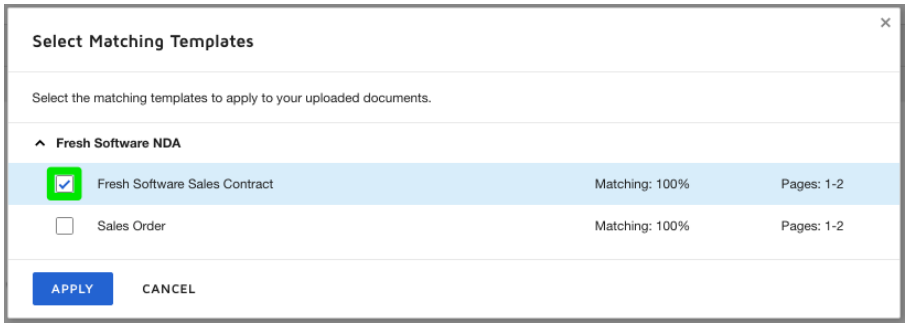
ステップ 3: DocuSign と Salesforce のフィールドを追加してエンベロープを送信する

このステップでは、DocuSign と Salesforce のフィールドを文書上に配置します。

DocuSign や Salesforce のフィールドを文書上に配置するには、以下の手順に従います。

注: Salesforce 組織に既存の DocuSign エンベロープテンプレートがある場合は、[マッチしたテンプレートの選択] ダイアログボックスが開きます。ここでは、以下のオプションを選択できます。

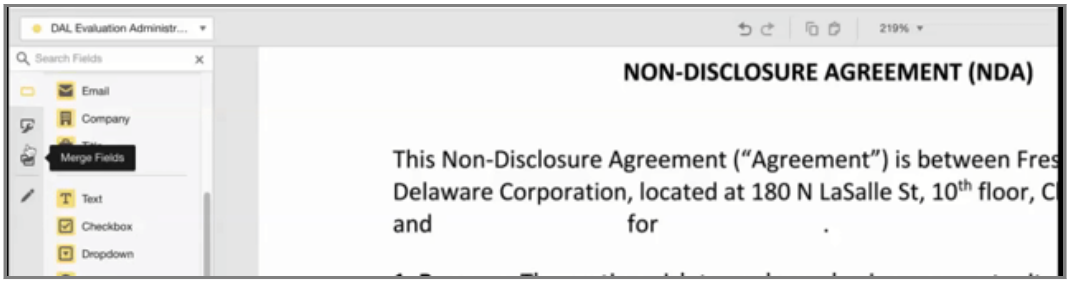
- エンベロープに追加するテンプレートのチェックボックスをオンにして、[適用]を選択します。
- エンベロープテンプレートの内容を適用しない場合は、[キャンセル]を選択します。



1. 文書に DocuSign フィールドを追加します。
   a. ページ左側で[標準フィールド]タブ( )を選択します。DocuSign の標準フィールドが表示されます。
   b. DocuSign フィールド([署名]、[イニシャル]など)を選択します。
   c. フィールドを文書上にドラッグして配置します。



2. 文書に Salesforce フィールドを追加します。
   a. ページ左側で[差し込みフィールド]タブ( )を選択します。Salesforce の差し込みフィールドが表示されます。
   b. フィールドを選択します。目的のフィールドが表示されない場合は、矢印を展開してほかのフィールドを表示したり、[検索ボックス]にフィールド名を入力したりできます。
   c. フィールドを文書上にドラッグして配置します。



3. 必要に応じて、以下の操作を行います。
   - 受信者のプレビュー: このボタンを選択すると、生成文書のプレビューを確認できます。
   - 受信者の切り替え: 別の受信者用のフィールドを追加するには、以下の操作を行います。
     - ページの左上にある受信者名の横の下矢印(▼)を選択します。
     - ドロップダウンメニューから別の受信者を選択します。
     - この受信者に割り当てる DocuSign フィールドを文書上にドラッグして配置します。

注: 各受信者のフィールドは、それぞれ別の色(黄色、青など)で表されます。



4. ページ右上の[送信]を選択します。

以上の手順により、エンベロープが作成および送信されました。
関連情報

エンベロープテンプレートのオプション: [フィールドの配置]ステップ

DocuSign エンベロープテンプレートボタンを使って文書を署名者に送信する

ここでは、エンベロープテンプレートのカスタムボタンを使用して、文書を署名者に送信する手順について説明します。

ここでは、エンベロープテンプレートのカスタムボタンを使用して、文書を署名者に送信する手順について説明します。

Salesforce 管理者が作成したエンベロープテンプレートには、すでに文書や受信者が追加されており、文書上にフィールドが配置されています。

差出人ユーザーは、以下のオプションを使用できます。

- テンプレートに追加されている文書をチェックボックスで選択または選択解除する。

- 新しい受信者を追加したり、その受信者設定を変更したりする。
- 既存のエンベロープテンプレート受信者の以下の設定を変更する。
  - 受信者の[名前]と[メールアドレス](入力済みでない場合)
  - [配信]ドロップダウンメニュー([メール]または[メールと SMS])
  - 配信方法として[メールと SMS]を選択した場合の[電話番号]
  - [アクセス認証]のすべてのボックス(入力済みでない場合)
    - SMS/電話: セキュリティ認証用の電話番号の入力
    - アクセスコード: セキュリティ認証用のアクセスコードの入力
    - X: SMS 番号やアクセスコードの削除
  - [プライベートメッセージ](入力済みでない場合)

- ステップ 1: 文書を表示または追加する
- ステップ 2: 受信者を表示または追加する
- ステップ 3: DocuSign と Salesforce のフィールドを表示または追加してエンベロープを送信する

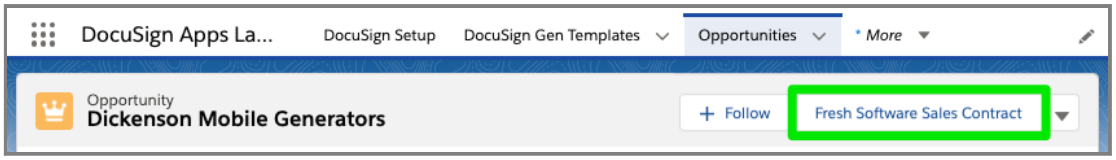
DocuSign エンベロープテンプレートのボタンを使ってエンベロープを作成して署名者に送信するには、以下の手順に従います。

ステップ 1: 文書を表示または追加する

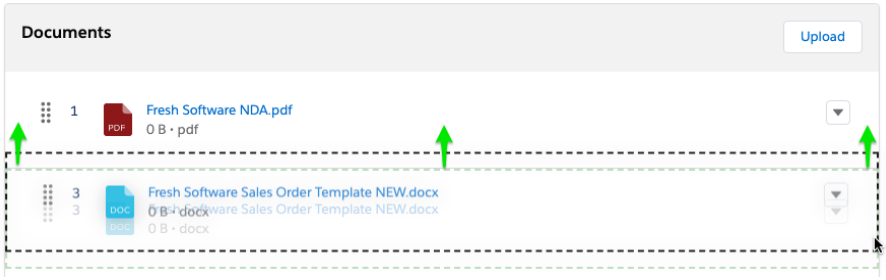
この時点ですでにエンベロープにいくつかの文書が追加されています。これらは、管理者がエンベロープテンプレートに追加したものです。ここでは、文書を表示したり、追加したりします。

> **注:** この時点ですでにエンベロープにいくつかの文書が追加されています。これらは、管理者がエンベロープテンプレートに追加したものです。ここでは、これらの文書を表示したり新しい文書を追加したりする手順について説明します。

1. Salesforce レコード([取引先]や[商談]など)を開きます。
2. ページ右上のエンベロープテンプレートのカスタムボタンを選択します。
   ボタンの名前は管理者によって設定されています。画面の幅によっては、ボタンバーの下向き矢印(▼)をクリックする必要があります。



   [文書]ページが開き、管理者が追加した文書が表示されます。
3. 必要に応じて、文書を追加または変更するオプションを選択します。
   - アップロード: デバイス上の文書を追加するには、このボタンを選択します。
   - Salesforce から追加: Salesforce ファイルから文書を追加するには、このボタンを選択します。
   - 文書をドラッグしてエンベロープでの表示順を変更します。



4. ページ右上の[次へ]を選択します。
   ステップ 1 が完了しました。「ステップ 2: 受信者を表示または追加する」に進みます。

関連情報

エンベロープに Salesforce 文書を追加する

ステップ 2: 受信者を表示または追加する

この時点ですでにエンベロープに何人かの受信者が追加されています。これらは、管理者がエンベロープテンプレートに追加したものです。ここでは、これらの受信者を表示したり新しい受信者を追加したりする手順について説明します。

注: この時点ですでにエンベロープに何人かの受信者が追加されています。これらは、管理者がエンベロープテンプレートに追加したものです。ここでは、これらの受信者を表示したり新しい受信者を追加したりする手順について説明します。

1. [受信者の追加]を選択します。
   [受信者の追加]ダイアログボックスが開きます。
2. エンベロープに受信者を追加します。
   a. 左側の列から、いずれかの受信者タイプを選択します。
      - Salesforce から: Salesforce のユーザーまたは取引責任者の名前またはメールアドレスを入力します。
      - 名前とメールアドレスの指定: 受信者の名前とメールアドレスを入力します。
      - 署名グループ: 接続されている DocuSign アカウントで設定されている受信者のグループを追加します。
   b. アクション: ドロップダウンメニューから、受信者に割り当てるアクションを選択します。
      - 署名が必要: 文書への署名が必要です。
      - 文書のコピーを受信: 文書のコピーを受け取ります。文書を確認したり署名したりする必要はありません。
      - 表示が必要: 文書の確認が必要です。署名する必要はありません。
      - 受信者の指定: 受信者のプレースホルダー(「承認者」など)に名前やメールアドレスを追加できる受信者です。
      - 編集を許可: 受信者を変更したり、エンベロープの内容を変更(修正)したりできる受信者です。
   c. 必要に応じて、以下の操作を行います。

i. 配信: エンベロープをメールまたは SMS（テキストメッセージ）で送信します。

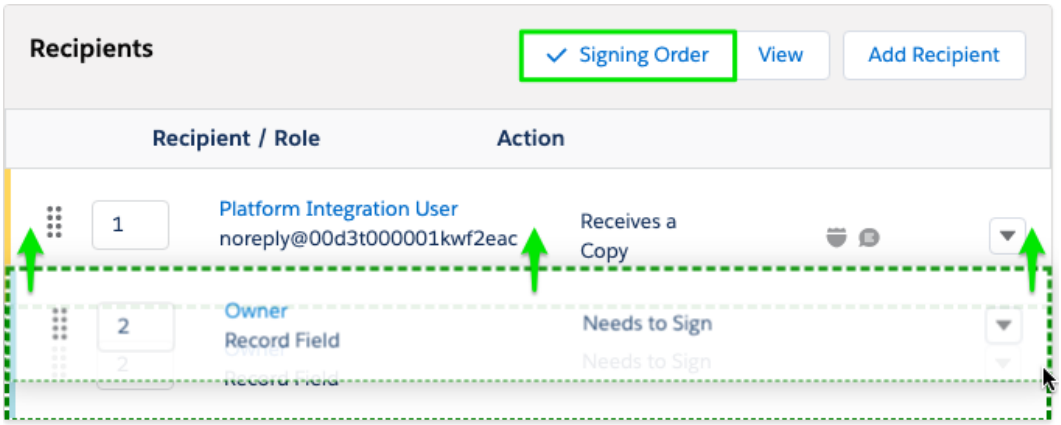
> **注:** SMS 配信機能を使用するには、アカウント全体で[SMS での文書送信を許可する]オプションが有効になっている必要があります。

ii. 役割の追加: 差出人が後で名前やメールアドレスを指定できるようにするためのプレースホルダー（「承認者」など）を追加します。

iii. アクセス認証の追加
- SMS/電話: 受信者のモバイルデバイスにアクセスコードを送信し、署名プロセスのセキュリティを強化します。
- アクセスコード: 署名プロセスを開始するときに受信者が入力しなければならないコードを作成します。

iv. プライベートメッセージの追加: 特定の受信者またはグループのみに宛てたメッセージを追加します。

3. [選択]を選択します。
[受信者の追加]ダイアログボックスが閉じます。[受信者]リストに受信者が表示されます。
4. 必要に応じて、以下の操作を行います。
- 署名順:
  - [署名順]を選択します。各受信者の署名順を示す番号が表示されます。
  - 受信者をドラッグして署名順を変更します。



- 表示: このボタンを選択すると、署名順のフロー図が表示されます。
- メールの件名: メールの件名を 100 文字以内で入力します。
- メールメッセージ: メールのメッセージを 2,000 文字以内で入力します。
- その他のオプション: 右矢印（>）を選択してオプションを選択します。
  - リマインダー: 受信者へのリマインダーの送信間隔をドロップダウンメニューから選択します。
  - 有効期限: エンベロープの有効期限を設定します。

5. ページ右上の[次へ]を選択します。
DocuSign eSignature フィールドの追加画面が開きます。

ステップ 2 が完了しました。「ステップ 3: DocuSign と Salesforce のフィールドを表示または追加してエンベロープを送信する」に進みます。

関連情報

エンベロープテンプレートのオプション: [受信者]ステップ

ステップ 3: DocuSign と Salesforce のフィールドを表示または追加してエンベロープを送信する

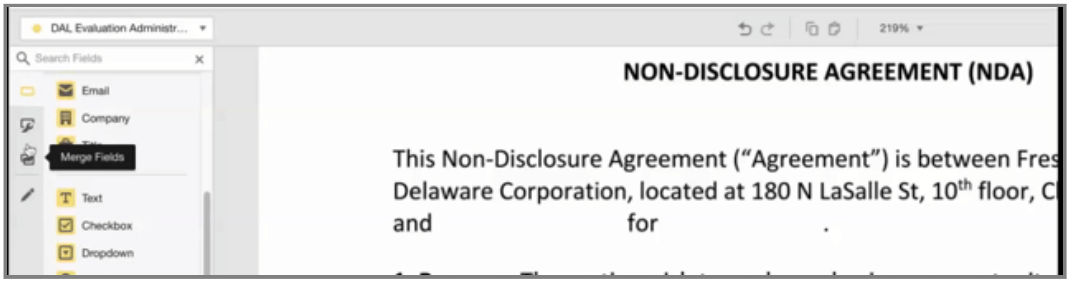
この時点ですでに文書上にいくつかのフィールドが追加されています。これらは、管理者がエンベロープテンプレートに追加したものです。ここでは、これらのフィールドを表示したり新しいフィールドを追加したりする手順について説明します。

注: この時点ですでに文書上にいくつかのフィールドが追加されています。これらは、管理者がエンベロープテンプレートに追加したものです。ここでは、これらのフィールドを表示したり新しいフィールドを追加したりする手順について説明します。

1. 文書に DocuSign フィールドを追加します。
   a. ページ左側で[標準フィールド]タブ( )を選択します。DocuSign の標準フィールドが表示されます。
   b. DocuSign フィールド([署名]、[イニシャル]など)を選択します。
   c. フィールドを文書上にドラッグして配置します。



2. 文書に Salesforce フィールドを追加します。
   a. ページ左側で[差し込みフィールド]タブ( )を選択します。Salesforce の差し込みフィールドが表示されます。
   b. フィールドを選択します。目的のフィールドが表示されない場合は、矢印を展開してほかのフィールドを表示したり、[検索ボックス]にフィールド名を入力したりできます。
   c. フィールドを文書上にドラッグして配置します。



3. 必要に応じて、以下の操作を行います。
   - 受信者のプレビュー: このボタンを選択すると、生成文書のプレビューを確認できます。
   - 受信者の切り替え: 別の受信者用のフィールドを追加するには、以下の操作を行います。

- 矢印(▼)を選択します。
- ドロップダウンメニューから別の受信者を選択します。
- この受信者に割り当てる DocuSign フィールドを文書上にドラッグして配置します。

注: 各受信者のフィールドは、それぞれ別の色(黄色、青など)で表されます。



4. ページ右上の[送信]を選択します。

以上の手順により、エンベロープが作成され、指定した受信者に送信されました。
関連情報

エンベロープテンプレートのオプション: [フィールドの配置]ステップ

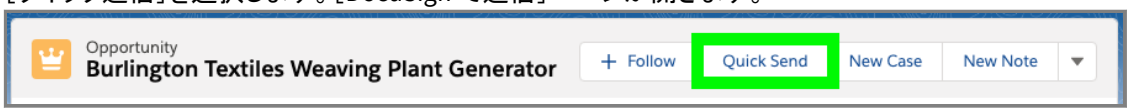
クイック送信用の DocuSign エンベロープテンプレートを使用してエンベロープを送信する

クイック送信用のエンベロープテンプレートを使用すると、文書をすばやく送信できます。クイック送信用のエンベロープテンプレートを使用するには、以下の手順に従います。

クイック送信用のエンベロープテンプレートボタンを使用すると、Salesforce から DocuSign エンベロープを作成してそのまま送信できます。
Salesforce 管理者が作成したエンベロープテンプレートには、すでに文書や受信者が追加されており、文書上にフィールドが配置されています。

クイック送信用のエンベロープテンプレートを使用してエンベロープを送信するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce レコード([取引先]や[商談]など)を開きます。
2. [クイック送信]を選択します。[DocuSign で送信]ページが開きます。



注: 管理者が異なるボタン名を設定している場合があります。また、画面の幅によっては、ボタンバーの下向き矢印(▼)をクリックする必要があります。

3. 必要に応じて、以下の操作を行います。

- 受信者を追加します。
  - [受信者の追加]を選択します。
  - [Salesforce から]、[名前とメールアドレスの指定]、または[署名グループ]オプションを使って受信者を追加します。

    注: クイック送信用のエンベロープでは、文書のコピーを受信する受信者のみを追加できます。

- 受信者の詳細を編集します。
  - 受信者の名前を選択します。[受信者の追加]ダイアログボックスが開きます。
  - 必要に応じて設定値を編集します。管理者の設定によっては、値を編集できない場合もあります。
  - [選択]ボタンを選択します。変更内容が保存されます。ダイアログボックスが閉じます。
- [表示]を選択すると、受信者の署名順の開始から完了までのフロー図が表示されます。
- 受信者へのメッセージを設定します。
  - メールの件名: メールの件名を入力します。
  - メールメッセージ: メールのメッセージを入力します。
- そのほかのオプション:
  - リマインダー: ドロップダウンメニューを使用して受信者へのリマインダーを追加します。
  - 有効期限: エンベロープの有効期限が切れる日付、または有効期限が切れるまでの日数を設定します。

4. ページ右上の[送信]を選択します。
   「署名者に送信されました」というメッセージが表示されます。レコードページの表示が更新されます。

以上の手順により、クイック送信用のエンベロープテンプレートでエンベロープが送信されました。

DocuSign Negotiate[アクション]メニューを使用して文書を署名者に送信する

ここでは、DocuSign eSignature for Salesforce を使用して DocuSign Negotiate for Salesforce の文書を署名者に送信する手順について説明します。

DocuSign Negotiate の[アクション]メニューから、DocuSign eSignature の機能を使って署名者に文書を送信できます。Negotiate ファイルは Salesforce レコードの[DocuSign ファイル]セクションにあります。

Negotiate では、以下の 3 つのステップで文書を署名者に送信します。

- ステップ 1: エンベロープに追加する文書を選択する
- ステップ 2: エンベロープに受信者を追加する
- ステップ 3: DocuSign と Salesforce のフィールドを追加してエンベロープを送信する

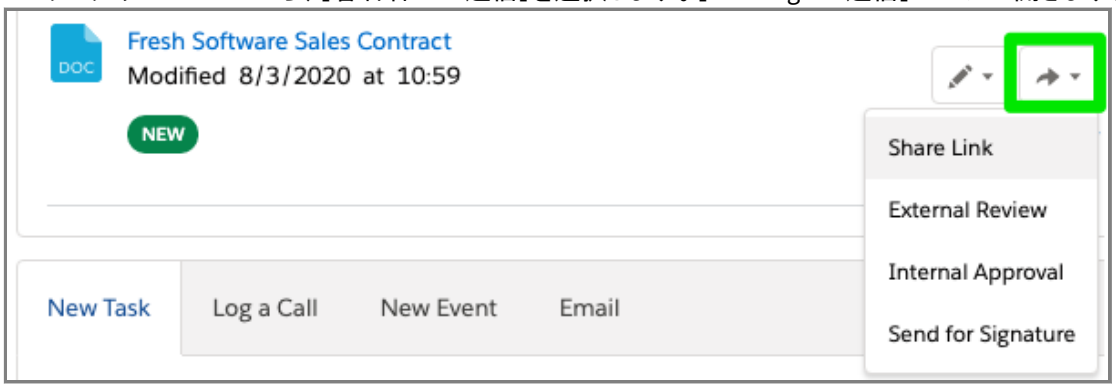
DocuSign Negotiate のアクションメニューを使用して文書を署名者に送信するには、以下の手順に従います。

ステップ 1: エンベロープに追加する文書を選択する

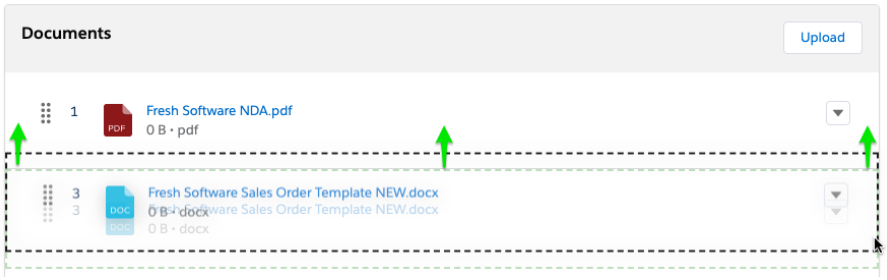
署名プロセスの最初のステップでは、DocuSign eSignature for Salesforce エンベロープに追加する文書を選択します。

Negotiate の署名エクスペリエンスの最初のステップでは、DocuSign eSignature for Salesforce エンベロープに読み込まれるコンテンツを選択します。

1. Salesforce レコード（[取引先]や[商談]など）を開きます。
2. [DocuSign ファイル]セクションで、ファイル名の右側にある[共有]（ ）を選択します。
3. ドロップダウンメニューから、[署名者への送信]を選択します。[DocuSign で送信]ページが開きます。



4. 送信する文書の左側にあるチェックボックスをオンにします。
5. 必要に応じて、文書を追加または並べ替えます。
   - アップロード: デバイス上の文書を追加するには、このボタンを選択します。
   - Salesforce から追加: Salesforce ファイルから文書を追加するには、このボタンを選択します。
   - 文書をドラッグしてエンベロープでの表示順を変更します。



6. ページ右上の[次へ]を選択します。
   以上の手順により、エンベロープに文書が追加されました。「ステップ 2: エンベロープに受信者を追加する」に進みます。

関連情報

エンベロープに Salesforce 文書を追加する

ステップ 2: エンベロープに受信者を追加する

エンベロープに受信者を追加するには、以下の手順に従います。Salesforce 組織や DocuSign アカウントから追加したり、名前とメールアドレスを入力したりできます。

エンベロープに受信者を追加するには、以下の手順に従います。Salesforce 組織や DocuSign アカウントから追加したり、名前とメールアドレスを入力したりできます。

注: 前のステップで[テンプレートの選択]ボタンを選択した場合は、そのテンプレートに設定されている受信者が表示されます。受信者が重複する場合は、以下のルールが適用されます。

- 名前、メールアドレス、役割、および署名順が一致している場合は統合されます。
- 役割、および署名順が一致している空の受信者プレースホルダーは統合されます。
- 重複する受信者の以下の情報が異なっている場合は、新しく追加されたテンプレートの設定が適用されます。
  - SMS/電話
  - アクセスコード
  - プライベートメッセージ

1. [受信者の追加]を選択します。[受信者の追加]ダイアログボックスが開きます。
2. エンベロープに受信者を追加します。
   a. 左側の列から、いずれかの受信者タイプを選択します。
      - Salesforce から: Salesforce のユーザーまたは取引責任者の名前を入力します。
      - 名前とメールアドレス: 名前とメールアドレスを入力します。
      - 署名グループ: 接続されている DocuSign アカウントで設定されている受信者のグループを追加します。
   b. アクション:ドロップダウンメニューから、受信者に割り当てるアクションを選択します。
      - 署名が必要: 文書への署名が必要です。
      - 文書のコピーを受信: 文書のコピーを受け取ります。文書を確認したり署名したりする必要はありません。
      - 表示が必要: 文書の確認が必要です。署名する必要はありません。
      - 受信者の指定: 受信者のプレースホルダー(「承認者」など)に名前やメールアドレスを追加できる受信者です。
      - 編集を許可: 受信者を変更したり、エンベロープの内容を変更(修正)したりできる受信者です。
   c. 必要に応じて、以下の操作を行います。
      i. 配信: エンベロープをメールまたは SMS(テキストメッセージ)で送信します。

注: SMS 配信機能を使用するには、アカウント全体で[SMS での文書送信を許可する]オプションが有効になっている必要があります。

ii. 役割の追加: 差出人が後で名前やメールアドレスを指定できるようにするためのプレースホルダー（「承認者」など）を追加します。

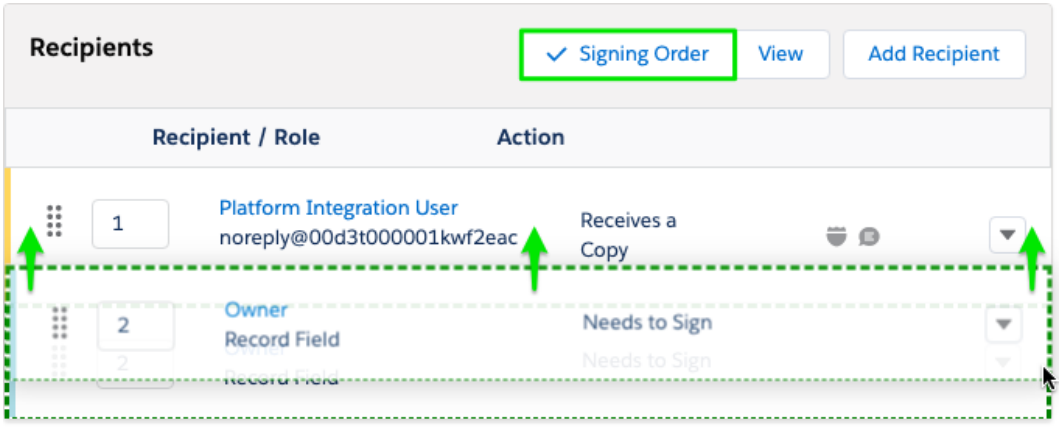
iii. アクセス認証の追加
- SMS/電話: 受信者のモバイルデバイスにアクセスコードを送信し、署名プロセスのセキュリティを強化します。
- アクセスコード: 署名プロセスを開始するときに受信者が入力しなければならないコードを作成します。

iv. プライベートメッセージの追加: 特定の受信者またはグループのみに宛てたメッセージを追加します。

d. [選択]を選択します。

[受信者の追加]ダイアログボックスが閉じます。[受信者]リストに受信者が表示されます。

3. 必要に応じて、以下の操作を行います。
- 署名順:
  - [署名順]を選択します。各受信者の署名順を示す番号が表示されます。
  - 受信者をドラッグして署名順を変更します。



- 表示: このボタンを選択すると、署名順のフロー図が表示されます。
- メールの件名: メールの件名を 100 文字以内で入力します。
- メールメッセージ: メールのメッセージを 2,000 文字以内で入力します。
- その他のオプション: 右矢印（>）を選択してオプションを選択します。
  - リマインダー: 受信者へのリマインダーの送信間隔をドロップダウンメニューから選択します。
  - 有効期限: エンベロープの有効期限を設定します。

4. ページ右上の[次へ]を選択します。DocuSign eSignature フィールドの追加画面が開きます。

ステップ 2 が完了しました。「ステップ 3: DocuSign と Salesforce のフィールドを追加してエンベロープを送信する」に進みます。

関連情報

エンベロープテンプレートのオプション: [受信者]ステップ

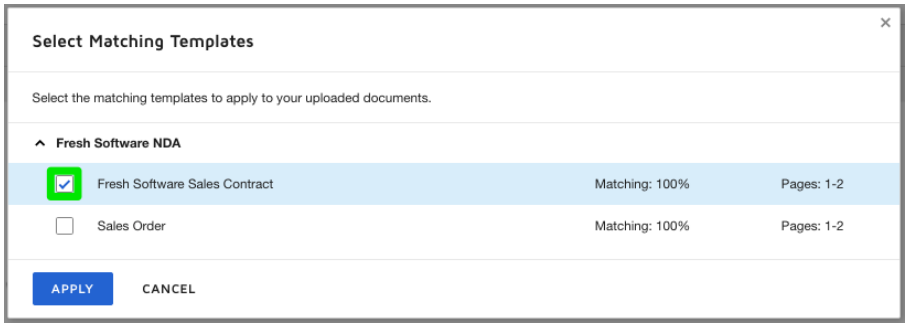
ステップ 3: DocuSign と Salesforce のフィールドを追加してエンベロープを送信する

このステップでは、DocuSign と Salesforce のフィールドを文書上に配置します。

DocuSign や Salesforce のフィールドを文書上に配置するには、以下の手順に従います。

注: Salesforce 組織に既存の DocuSign エンベロープテンプレートがある場合は、[マッチしたテンプレートの選択] ダイアログボックスが開きます。ここでは、以下のオプションを選択できます。

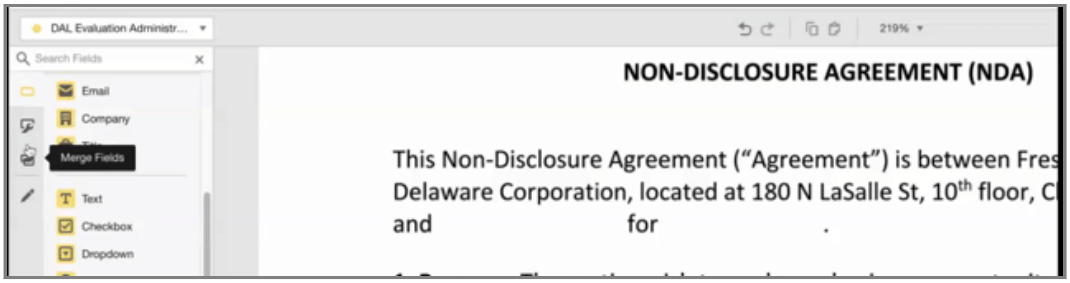
- エンベロープに追加するテンプレートのチェックボックスをオンにして、[適用]を選択します。
- エンベロープテンプレートの内容を適用しない場合は、[キャンセル]を選択します。



1. 文書に DocuSign フィールドを追加します。
   a. ページ左側で[標準フィールド]タブ( )を選択します。DocuSign の標準フィールドが表示されます。
   b. DocuSign フィールド([署名]、[イニシャル]など)を選択します。
   c. フィールドを文書上にドラッグして配置します。



2. 文書に Salesforce フィールドを追加します。
   a. ページ左側で[差し込みフィールド]タブ( )を選択します。Salesforce の差し込みフィールドが表示されます。
   b. フィールドを選択します。目的のフィールドが表示されない場合は、矢印を展開してほかのフィールドを表示したり、[検索ボックス]にフィールド名を入力したりできます。
   c. フィールドを文書上にドラッグして配置します。



3. 必要に応じて、以下の操作を行います。
   - 受信者のプレビュー: このボタンを選択すると、生成文書のプレビューを確認できます。
   - 受信者の切り替え: 別の受信者用のフィールドを追加するには、以下の操作を行います。
     - ページの左上にある受信者名の横の下矢印(▼)を選択します。
     - ドロップダウンメニューから別の受信者を選択します。
     - この受信者に割り当てる DocuSign フィールドを文書上にドラッグして配置します。

注: 各受信者のフィールドは、それぞれ別の色(黄色、青など)で表されます。



4. ページ右上の[送信]を選択します。

以上の手順により、エンベロープが作成および送信されました。
関連情報

エンベロープテンプレートのオプション: [フィールドの配置]ステップ

フィールドの配置のみのエンベロープテンプレートのボタンを使って Salesforce レコードからエンベロープを送信する

Salesforce レコードからエンベロープを送信するときに、フィールドの配置のみのエンベロープテンプレートのボタンを使用する方法について説明します。

フィールドの配置のみのエンベロープテンプレートのボタンを使用すると、Salesforce から DocuSign エンベロープを作成し、フィールドを追加するだけで送信できるようになります。
管理者がフィールドの配置のみのテンプレートを作成して、そのカスタムボタンを Salesforce レイアウト上に追加します。

このテンプレートには、すでに文書と受信者が設定されています。これにより、エンベロープの送信プロセスが簡略化されます。

エンベロープの差出人は、文書に DocuSign と Salesforce のフィールドを追加するだけでエンベロープを送信できます。

フィールドの配置のみのエンベロープテンプレートを使ってエンベロープを送信するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce レコード（[取引先]や[商談]など）を開きます。
2. [フィールドの配置]ボタンを選択します。[フィールドの配置]ページが開きます。

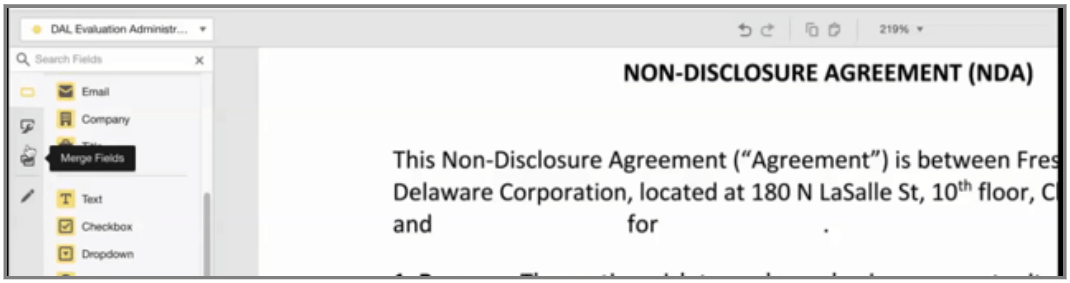


> **注:** 管理者が異なるボタン名を設定している場合があります。また、画面の幅によっては、ボタンバーの下向き矢印（▼）をクリックする必要があります。

3. DocuSign フィールドを追加します。
   a. ページ左側で[標準フィールド]タブ（▭）を選択します。DocuSign の標準フィールドが表示されます。
   b. DocuSign フィールド（[署名]、[イニシャル]など）を選択します。
   c. フィールドを文書上にドラッグして配置します。



4. Salesforce フィールドを追加します。
   a. ページ左側で[差し込みフィールド]タブ（▭）を選択します。Salesforce の差し込みフィールドが表示されます。
   b. フィールドを選択します。目的のフィールドが表示されない場合は、矢印を展開してほかのフィールドを表示したり、[検索ボックス]にフィールド名を入力したりできます。
   c. フィールドを文書上にドラッグして配置します。



5. 必要に応じて、以下の操作を行います。
   - 受信者のプレビュー: このボタンを選択すると、生成文書のプレビューを確認できます。
   - 受信者の切り替え: 別の受信者用のフィールドを追加するには、以下の操作を行います。

- ページの左上にある受信者名の横の下矢印(▼)を選択します。
- ドロップダウンメニューから別の受信者を選択します。
- この受信者に割り当てる DocuSign フィールドを文書上にドラッグして配置します。

注: 各受信者のフィールドは、それぞれ別の色(黄色、青など)で表されます。



6. ページ右上の[送信]を選択します。
「署名者に送信されました」というメッセージが表示されます。レコードページの表示が更新されます。

以上の手順により、フィールドの配置のみのエンベロープテンプレートを使ってエンベロープが送信されました。

エンベロープテンプレートのボタン[今すぐ送信]を使って Salesforce レコードからエンベロープを送信する

Salesforce レコードからエンベロープを送信するときにエンベロープテンプレートのボタン[今すぐ送信]を使用する方法について説明します。

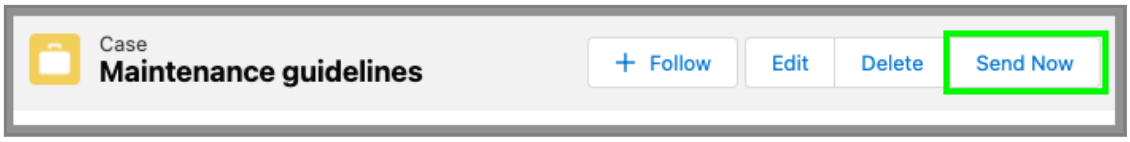
エンベロープテンプレートのボタン[今すぐ送信]を使用すると、Salesforce レコードからすばやくエンベロープを作成および送信できます。
管理者がテンプレートを作成して、[今すぐ送信]ボタンを Salesforce レイアウト上に追加します。

このテンプレートには、すでに文書、受信者、DocuSign フィールド、および Salesforce フィールドが設定されています。これにより、エンベロープの送信プロセスが簡略化されます。

ユーザーは、Salesforce レコード上で[今すぐ送信]ボタンをクリックするだけでエンベロープを送信できます。

[今すぐ送信]ボタンを使ってエンベロープを送信するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce レコード([取引先]や[商談]など)を開きます。
2. [今すぐ送信]ボタンをクリックします。



注: 管理者が異なるボタン名を設定している場合があります。また、画面の幅によっては、ボタンバーの下向き矢印(▼)をクリックする必要があります。

エンベロープが送信され、「エンベロープが送信されました」というメッセージが表示されます。

以上の手順により、[今すぐ送信]を使ってエンベロープが作成および送信されました。

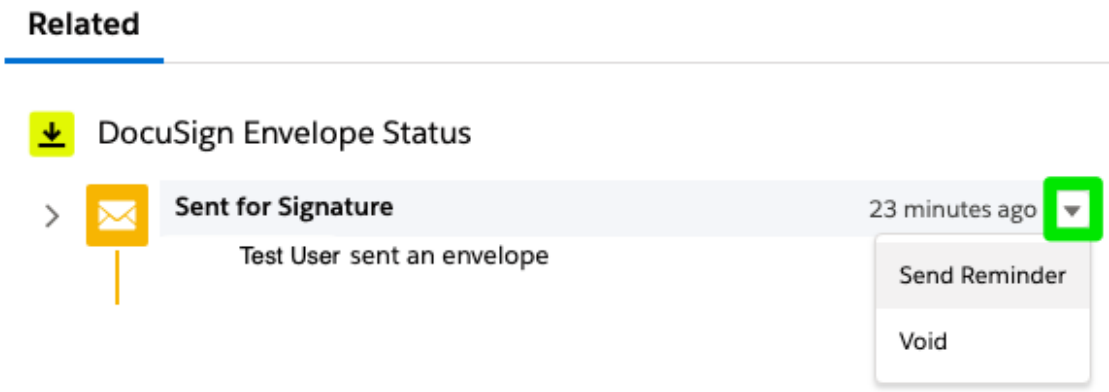
[DocuSign エンベロープのステータス]コンポーネントでリマインダーを送信したりエンベロープを無効にしたりする

Salesforce ページの[DocuSign エンベロープのステータス]セクションには、署名者に送信されたすべてのエンベロープのステータスが表示されます。また、未完了のエンベロープに対しては、エンベロープの右にあるドロップダウンメニューの矢印を選択してそのエンベロープを操作できます。

Salesforce ページの[DocuSign エンベロープのステータス]コンポーネントには、署名者に送信したすべてのエンベロープのステータスが表示されます。

[DocuSign エンベロープのステータス]では、アクティブなエンベロープに対していくつのアクションを実行することもできます。これを行うには、エンベロープの横にあるドロップダウンメニューの矢印を選択して、実行するアクションを選択します。

- リマインダーを送信する: 受信者にエンベロープへのアクションを促すメッセージを送信します。
- 無効化: エンベロープを無効にします。これにより、署名プロセスがキャンセルされます。



注: [DocuSign エンベロープのステータス]コンポーネントをレコードに表示するには、Salesforce のページレイアウトに[DocuSign エンベロープのステータス]コンポーネントを追加しておく必要があります。

アクティブな DocuSign エンベロープのリマインダーを送信する

Salesforce ページの[DocuSign エンベロープのステータス]セクションには、署名者に送信されたすべてのエンベロープのステータスが表示されます。ここでは、アクティブなエンベロープに[リマインダーを送信する]アクションを使用することもできます。

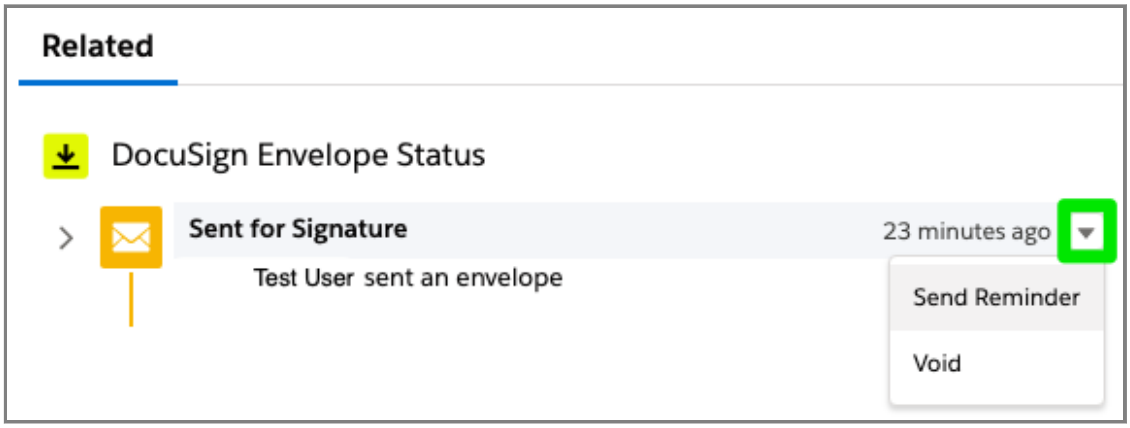
Salesforce ページの[DocuSign エンベロープのステータス]セクションには、署名者に送信されたすべてのエンベロープのステータスが表示されます。

ここでは、アクティブなエンベロープに[リマインダーを送信する]アクションを使用することもできます。

タスクを完了していない受信者には、「(差出人名)さんが、送信した文書の確認と署名を依頼しています」というメールが届きます。

[DocuSign エンベロープのステータス]セクションでエンベロープの受信者にリマインダーを送信するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce レコード([取引先]や[商談]など)を開きます。
2. ページの[DocuSign エンベロープのステータス]セクションを表示します。
3. エンベロープの右にある矢印(▼)ドロップダウンメニューを開きます。
4. ドロップダウンメニューから、[リマインダーを送信する]を選択します。



「リマインダーが送信されました」というメッセージが表示されます。

以上の手順により、タスクを完了していない受信者には、「(差出人名)さんが、送信した文書の確認と署名を依頼しています」というメールが届きます。

アクティブな DocuSign エンベロープを無効化する

[無効化]アクションを使用して、アクティブなエンベロープの署名プロセスをキャンセルする方法について説明します。

Salesforce ページの[DocuSign エンベロープのステータス]セクションには、署名者に送信されたすべてのエンベロープのステータスが表示されます。

ここでは、アクティブなエンベロープに[無効化]アクションを使用することもできます。

エンベロープを無効化すると、アクティブな署名プロセスが直ちにキャンセルされます。

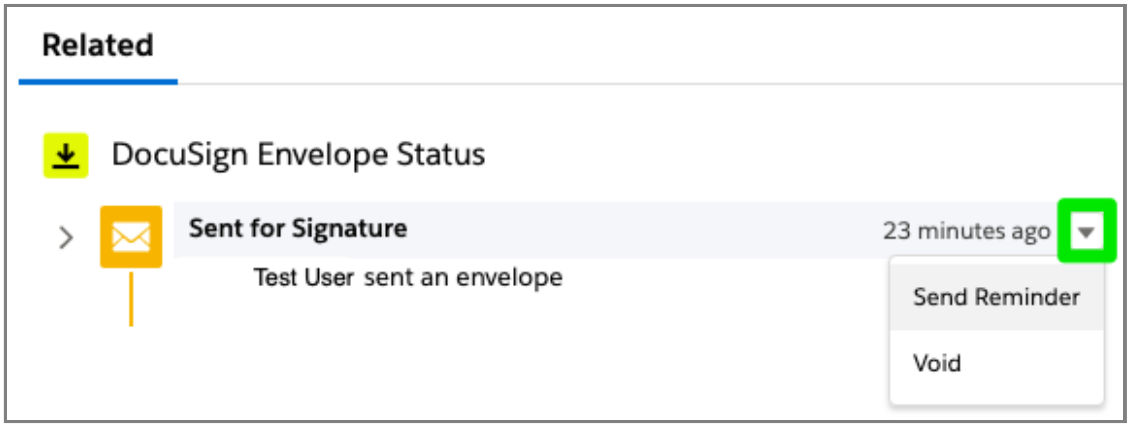
署名済みの受信者には、エンベロープの無効化理由が示された通知メールが送信されます。

未署名の受信者は、そのエンベロープの文書にアクセスできなくなります。

[DocuSign エンベロープのステータス]セクションのエンベロープを無効化するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce レコード([取引先]や[商談]など)を開きます。

2. ページの[DocuSign エンベロープのステータス]セクションを表示します。
3. エンベロープの右にある矢印(▼)ドロップダウンメニューを開きます。
4. [無効化]を選択します。

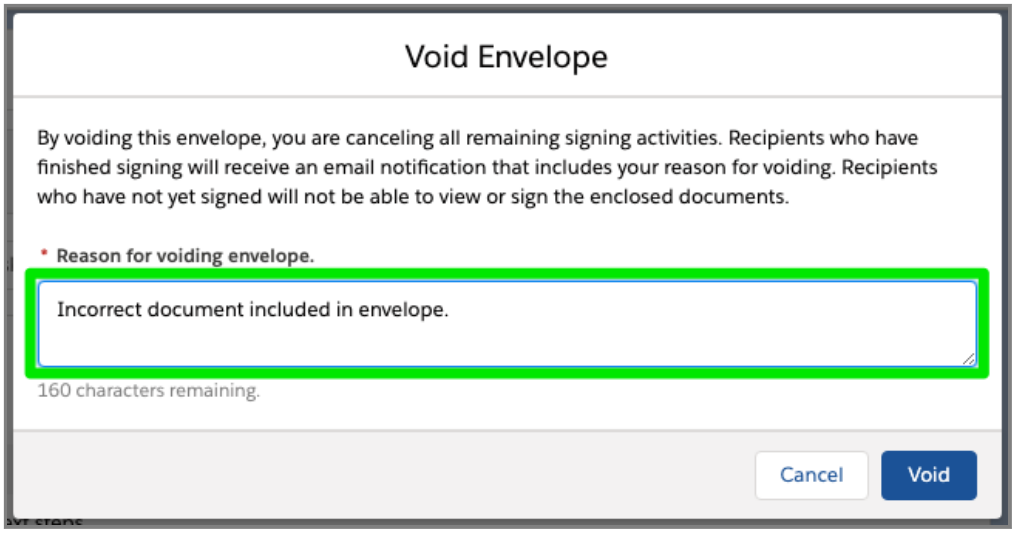


[エンベロープの無効化]ダイアログボックスが開きます。

5. [エンベロープの無効化理由]ボックスに、受信者へのメッセージを入力します。

> **注:** 無効化理由の入力は必須であり、200 文字以内である必要があります。

6. [無効化]をクリックします。



「エンベロープが無効になりました」というメッセージが表示されます。

以上の手順により、エンベロープが無効になりました。署名済みの受信者には、エンベロープの無効化理由が示された通知メールが送信されます。未署名の受信者は、そのエンベロープの文書にアクセスできなくなります。

DocuSign eSignature for Salesforce でエンベロープテンプレートを作成して電子署名プロセスを自動化する

DocuSign エンベロープテンプレートを作成して、Salesforce での電子署名プロセスを自動化できます。

DocuSign エンベロープテンプレートを作成すると、Salesforce の電子署名プロセスを自動化できます。

1. 管理者がテンプレートとカスタムボタンを作成します。
2. ユーザーが、Salesforce レコードに追加されたカスタムボタンを使って DocuSign エンベロープを作成します。
3. ユーザーが、そのエンベロープを署名者に送信します。

管理者は、以下のタイプのエンベロープテンプレートを作成できます。

- デフォルト: エンベロープを作成する差出人にほとんどのオプションの使用が許可されます。たとえば、エンベロープに文書を追加したり、受信者を選択したり、文書上にフィールドを追加したりできます。これらのテンプレートを使用する差出人ユーザーはより自由にコンテンツを追加できますが、クイック送信よりも送信手順が多くなります。
- クイック送信: エンベロープの差出人がより簡単にエンベロープを送信できるようになります。ただし、変更できるオプションが少なくなります。たとえば、差出人がエンベロープに署名者、文書、DocuSign フィールド、Salesforce フィールドを追加することはできません。
- フィールドの配置: 差出人に許可されるのは、文書への DocuSign フィールドおよび Salesforce フィールドの追加のみです。
- 今すぐ送信: 差出人がレコード上でこのタイプのテンプレートのボタンを選択すると、事前設定のエンベロープが直ちに送信されます。
- 個人取引先: Salesforce の[個人取引先]オブジェクトを使用したテンプレートです。
- Salesforce Experience Cloud: Experience Cloud ユーザーが自分自身で Salesforce レコードから文書に署名できるようになります。Experience Cloud でユーザーが DocuSign のカスタムボタンを選択すると、埋め込みの署名プロセスが開始されます。署名が完了した文書をほかの受信者に転送することもできます。

ユーザーは、エンベロープテンプレートのボタンを選択して、テンプレートの設定に基づいた DocuSign 送信画面を開きます。これにより、常に適切なコンテンツを持つエンベロープを作成できます。

たとえば、会社の営業担当者が顧客に契約書を送信する必要があります。

この担当者は、商談レコード上のエンベロープテンプレートボタンをクリックします。

エンベロープテンプレートが開き、その会社の標準の契約書、受信者、オプションが表示されます。

担当者は、これらのデフォルトの設定をそのまま使用したり、必要に応じて変更したりしてからエンベロープを送信できます。

エンベロープテンプレートにより送信プロセスが簡素化され、エラーのリスクも低減されます。

エンベロープテンプレートを作成して電子署名プロセスを自動化する

エンベロープテンプレートを作成しておくと、差出人が事前設定に基づいて簡単にエンベロープを送信できるようになります。

エンベロープテンプレートを作成しておくと、差出人が事前設定に基づいて簡単にエンベロープを送信できるようになります。

テンプレートでは、エンベロープの文書、受信者、および文書上の署名フィールドなどを設定できます。

また、エンベロープへの文書、受信者、フィールドの追加を差出人に許可するかどうかを設定できます。

> ヒント: エンベロープテンプレートを作成するビデオを参照してください。また、テンプレート作成時の各ステップの画面から、ビデオガイドを参照することもできます。

エンベロープテンプレートを作成するには、以下の手順に従います。

1. 名前とデータソースを追加する
2. 文書を追加する
3. 受信者を追加する
4. 差し込みフィールドを作成する
5. 文書にフィールドを追加する
6. オプションを設定する
7. カスタムボタンを作成する

ステップ 1: テンプレート名と Salesforce データソースを追加する

エンベロープテンプレート作成の最初のステップでは、テンプレートの名前を設定して、Salesforce データソース([取引先]や[商談]など)を選択します。

このステップでは、テンプレートの名前を設定して、Salesforce データソースを選択します。

> ヒント: このステップについてのビデオを参照してください。

1. Salesforce 管理者として、[DocuSign eSignature の設定]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
   b. [すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign Apps Launcher]タイルを選択します。
   d. ページ左側で[eSignature]を選択します。
2. ページ右側にある[テンプレートの作成]を選択します。[テンプレートの作成]ダイアログボックスが開きます。
3. 以下の情報を入力します。
   a. 名前: テンプレートを識別するための名前を入力します。
   b. データソースの選択: ドロップダウンメニューから、データソースとして使用する Salesforce オブジェクト([取引先]、[商談]など)を選択します。

c. [次へ]を選択します。

ステップ 1 が完了しました。「ステップ 2: 文書をテンプレートに追加する」に進みます。

ステップ 2: 文書をテンプレートに追加する

エンベロープテンプレート作成の 2 番目のステップでは、テンプレートのコンテンツとして使用する文書を追加します。一般的に、Word や PDF の文書を使用します。

ここでは、テンプレートのコンテンツとして使用する文書を追加します。一般的に、Word や PDF のファイルを使用します。

重要: このステップでは、デバイスから文書をアップロードする必要はありません。[Salesforce レコードの文書を添付する]チェックボックスをオンにして、Salesforce レコードに保存されている文書を追加できます。ただし、指定した Salesforce 文書がレコードにない場合、差出人にはエラーが表示されます。

ヒント:

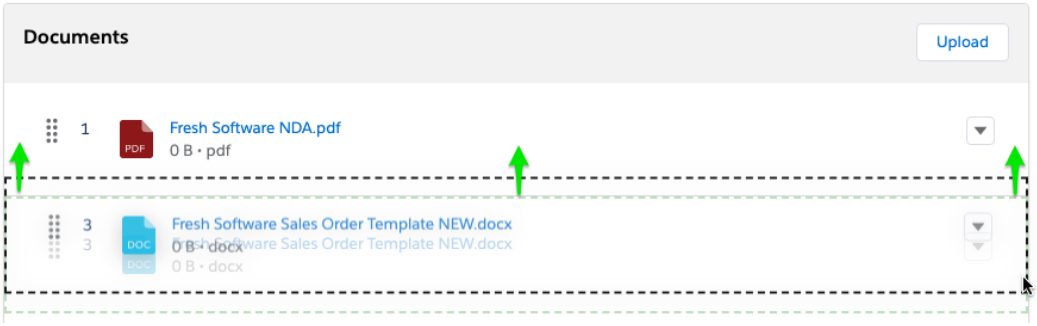
- このステップについてのビデオを参照してください。
- このステップで使用できる詳細オプションについては、このトピックを参照してください。

1. 文書の追加方法を選択します。
   - デバイスからアップロードする場合:
     - [文書のアップロード]を選択します。
     - デバイス上のコンテンツを追加します。
     - [完了]を選択します。
   - Salesforce レコードから動的に追加する場合:
     - [Salesforce レコードの文書を添付する]チェックボックスをオンにします。
     - ドロップダウンメニューから、いずれかのオプションを選択します。
       - 最新の文書: レコードから最新の文書がアップロードされます。
       - ファイル名に含まれるテキスト: 入力したファイル名に一致する文書がレコードからアップロードされます。
       - すべての文書: レコードからすべての文書がアップロードされます。

     注: このエンベロープテンプレートを DocuSign Gen テンプレートにリンクする場合は、この手順に従ってください。これにより、ユーザーが Gen で文書を生成して[署名者への送信]を選択したときに、このエンベロープテンプレートが使用されるようになります。

2. 必要に応じて、以下の操作を行います。
   - アップロード: デバイス上の別の文書をテンプレートに追加します。

- 文書をドラッグしてエンベロープでの表示順を変更します。



3. [次へ]を選択します。

ステップ 2 が完了しました。「ステップ 3: Experience Cloud のエンベロープテンプレートに受信者を追加する」に進みます。

ステップ 3: 受信者をテンプレートに追加する

このプロセスの第 3 ステップでは、エンベロープテンプレートに受信者を追加します。Salesforce 組織や DocuSign アカウントから追加したり、名前とメールアドレスを入力したりできます。

エンベロープテンプレートに受信者を追加するには、以下の手順に従います。

ヒント:

- このステップについてのビデオを参照してください。
- このステップで使用できる詳細オプションについては、このトピックを参照してください。

1. [受信者の追加]を選択します。
   [受信者の追加]ダイアログボックスが開きます。
2. 左側の列から、いずれかのオプションを選択します。
   - Salesforce から:
     - 参照項目: [所有者]や[作成者]などの Salesforce フィールドに基づいて、受信者が動的に追加されます。
     - 関連リスト: 親オブジェクト([取引先]や[商談]など)に関連付ける Salesforce フィールドを選択します。
     - ユーザー/取引先責任者: 組織で保存済みの Salesforce ユーザーや取引先責任者です。
     - 差出人: エンベロープの差出人を受信者として追加します。
   - ほかのソース:
     - 役割の指定: 差出人が後で名前やメールアドレスを指定できるようにするためのプレースホルダー(「承認者」など)を追加します。

> **注:** 差し込みフィールド構文を使用して、Salesforce オブジェクトから[役割の指定]受信者を動的に追加できます。

- 署名グループ: 接続されている DocuSign アカウントで設定済みの受信者のグループで、グループ内の任意のメンバーが署名を完了させることができます。

3. 配信: 必要に応じて、ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
   - メール: メールでエンベロープを送信します。
   - メールと SMS: メールとテキストメッセージでエンベロープを送信します。

> **注:** [配信]メニューは、[SMS での文書送信を許可する]と[モバイルデバイス上での署名を許可する]が有効になっているユーザーにのみ表示されます。これらの機能を有効にするには、DocuSign アカウントマネージャーに問い合わせる必要があります。[メールと SMS]は、エンベロープについて最大 4 人の受信者に指定できます。

4. アクション: ドロップダウンメニューから、受信者に割り当てるアクションを選択します。
   - 署名が必要: 文書への署名が必要です。
   - 文書のコピーを受信: 文書のコピーを受け取ります。文書を確認したり署名したりする必要はありません。
   - 表示が必要: 文書の確認が必要です。署名する必要はありません。
   - 受信者の指定: 受信者のプレースホルダー(「承認者」など)に名前やメールアドレスを追加できる受信者です。
   - 編集を許可: 受信者を変更したり、エンベロープの内容を変更(修正)したりできる受信者です。
   - 同席する署名者: すべての署名者がその場に同席して文書に署名します。
5. いずれかの保存オプションを選択します。
   - 追加して新規作成: 受信者を保存して、別の受信者を追加します。
   - 追加: 受信者を保存してダイアログボックスを閉じます。
6. 必要に応じて、以下の操作を行います。
   - 署名順:
     - [署名順]を選択します。各受信者の署名順を示す番号が表示されます。
     - 受信者をドラッグして署名順を変更します。



   - 表示: このボタンを選択すると、署名順のフロー図が表示されます。
   - メールの件名: メールの件名を 100 文字以内で入力します。

- メールメッセージ: メールのメッセージを 2,000 文字以内で入力します。
- その他のオプション: 右矢印（>）を選択してオプションを選択します。
  - リマインダー: 受信者へのリマインダーの送信間隔をドロップダウンメニューから選択します。
  - 有効期限: エンベロープの有効期限を設定します。

7. ページ右上の[次へ]を選択します。

ステップ 3 が完了しました。「ステップ 4: テンプレートに追加する Salesforce の差し込みフィールドを作成する」に進みます。

ステップ 4: テンプレートに追加する Salesforce の差し込みフィールドを作成する

[フィールドの配置]ステップでエンベロープテンプレートに追加する Salesforce の差し込みフィールドを作成します。

ここでは、カスタムの Salesforce 差し込みフィールドを作成します。これらのフィールドは、エンベロープテンプレート作成プロセスの[フィールドの配置]ステップで文書に追加できます。

ヒント:

- このステップについてのビデオを参照してください。
- このステップで使用できる詳細オプションについては、このトピックを参照してください。

1. ページ右側にある[フィールドの追加]を選択します。[差し込みフィールドの追加]ダイアログボックスが開きます。
2. 以下の情報を入力します。
   a. ソースオブジェクト: ドロップダウンメニューから、メインのデータソースとして使用する Salesforce オブジェクト（[取引先]、[商談]など）を選択します。
   b. フィールド: ドロップダウンメニューから、Salesforce フィールド（Salesforce 内では「項目」と呼ばれます）を選択します。

      注: 選択したフィールドによっては、さらに子オブジェクトを選択するためのドロップダウンメニューが表示されます。最大で 4 レベルの子オブジェクトと 2 レベルの関連リストを含めることができます。

   c. 名前: 入力された名前をそのまま使用するか、適切なカスタムフィールド名を入力します。
3. フィールドのプロパティ: 必要に応じて、以下のチェックボックスをオンにします。
   - Salesforce への書き戻しを許可する: 署名が完了したエンベロープにより Salesforce レコードのフィールドが更新されるようになります。
   - 差出人に編集を許可する: 差出人に Salesforce の差し込みフィールドデータの編集を許可します。
   - 必須フィールド: このチェックボックスをオンにすると、フィールドが必須になり、空白のままエンベロープを完了することができなくなります。

- 署名者に対して読み取り専用にする: 署名者がフィールド内の情報を変更できなくなります。

4. その他のオプション: 必要に応じて、そのほかのオプションを選択します。
   - ツールヒント: 差出人宛ての説明や指示などを入力します(「お客様の請求先住所が自動的に追加されます」など)。
   - アンカーテキスト: 差し込みフィールドを自動的に配置するための文書上のキーワードを入力します。
   - 検証: データの形式が検証されます。たとえば、米国社会保障番号形式(xxx-xx-xxxx)かどうかが検証されます。
5. ダイアログボックスの右下のボタンを選択します。
   - 追加してさらに作成: フィールドを保存して、別の差し込みフィールドを追加します。
   - 保存: フィールドを保存して、ダイアログボックスを閉じます。
   - キャンセル: フィールドを保存せずにダイアログボックスを閉じて、[差し込みフィールドの追加と管理]ページに戻ります。
6. ページ右上の[次へ]を選択します。

> **注:** [エンベロープテンプレート]ページが[フィールドの配置]ページに切り替わります。このページでは、アップロードした文書に **DocuSign** や **Salesforce** のフィールドを配置できます。

ステップ 4 が完了しました。「ステップ 5: テンプレート文書に DocuSign や Salesforce のフィールドを配置する」に進みます。

ステップ 5: テンプレート文書に DocuSign や Salesforce のフィールドを配置する

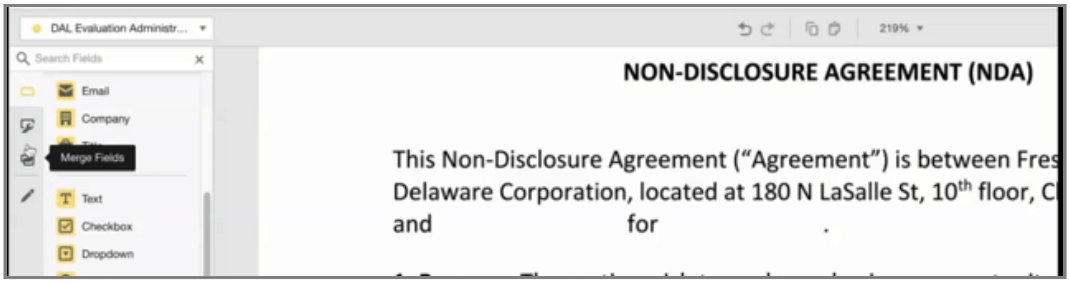
エンベロープテンプレート作成の 5 番目のステップでは、DocuSign と Salesforce のフィールドを文書上に配置します。

このステップでは、DocuSign や Salesforce のフィールドを文書上に配置します。ステップ 4 で作成した差し込みフィールドは、Salesforce の差し込みフィールドメニューで利用できます。

ヒント:

- このステップについてのビデオを参照してください。
- このステップで使用できる詳細オプションについては、このトピックを参照してください。

1. 文書に Salesforce フィールドを追加します。
   a. ページ左側で[差し込みフィールド]タブ( )を選択します。Salesforce の差し込みフィールドが表示されます。
   b. フィールドを選択します。目的のフィールドが表示されない場合は、矢印を展開してほかのフィールドを表示したり、[検索ボックス]にフィールド名を入力したりできます。
   c. フィールドを文書上にドラッグして配置します。



2. 文書に DocuSign フィールドを追加します。
   a. ページ左側で[標準フィールド]タブ( )を選択します。DocuSign の標準フィールドが表示されます。
   b. DocuSign フィールド([署名]、[イニシャル]など)を選択します。
   c. フィールドを文書上にドラッグして配置します。
3. 必要に応じて、以下の操作を行います。
   - 受信者のプレビュー: このボタンを選択すると、生成文書のプレビューを確認できます。
   - 受信者の切り替え: 別の受信者用のフィールドを追加するには、以下の操作を行います。
     - ページの左上にある受信者名の横の下矢印(▼)を選択します。
     - ドロップダウンメニューから別の受信者を選択します。
     - この受信者に割り当てる DocuSign フィールドを文書上にドラッグして配置します。

注: 各受信者のフィールドは、それぞれ別の色(黄色、青など)で表されます。



4. フィールドの追加が完了したら、[保存して閉じる]を選択します。

注: **DocuSign eSignature** フィールドのページが閉じて、[**DocuSign** エンベロープテンプレート]ページが開きます。

ステップ 5 が完了しました。「ステップ 6: クイック送信や書き戻しなどのオプションを追加する」に進みます。

ステップ 6: クイック送信や書き戻しなどのオプションを追加する

受信者へのリマインダーの設定、有効期限の設定、クイック送信エクスペリエンスの有効化、署名プロセスが完了したときに Salesforce のステータスを変更する方法などについて説明します。

エンベロープテンプレートにオプションを追加するには、以下の手順に従います。

ヒント:

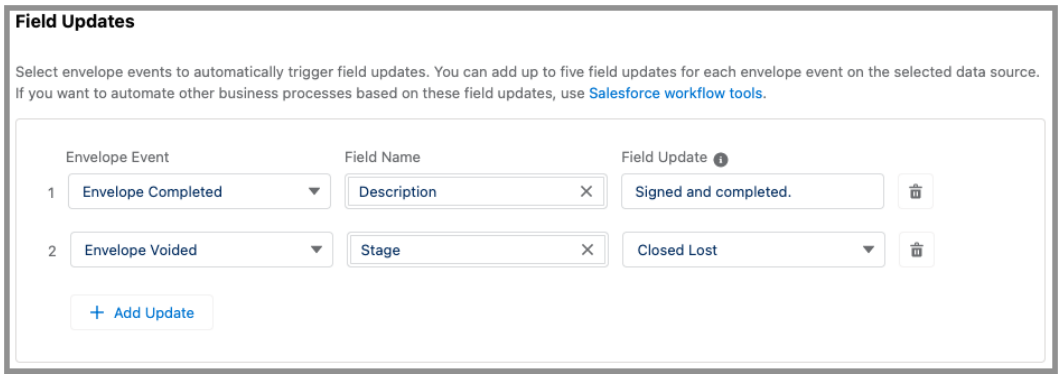
- このステップについてのビデオを参照してください。
- このステップで使用できる詳細オプションについては、このトピックを参照してください。

1. 以下の設定を行います。

- リマインダー: 受信者へのリマインダーの送信間隔をドロップダウンメニューから選択します。
- 有効期限: エンベロープの有効期限を設定します。
- 送信エクスペリエンス: 差出人の使用を許可する送信モードを選択します。
  - デフォルト: 差出人は文書の追加、受信者の選択、およびフィールドの追加を行うことができます。
  - クイック送信: 差出人は、署名者以外の受信者の追加、メールの件名やメッセージの編集、およびリマインダーや有効期限の変更のみを行うことができます。
  - フィールドの配置: 差出人に許可されるのは、文書への DocuSign フィールドおよび Salesforce フィールドの追加のみです。
  - 今すぐ送信: エンベロープが直ちに送信されます。文書、受信者、およびフィールドを追加することはできません。
- 文書の書き戻し: Salesforce 側へのデータの書き戻しオプションを選択します。
  - 完了した文書を[商談]レコードに保存する
  - 完了証明書を[商談]レコードに保存する

重要: ユーザーの Salesforce プロファイルで[API ログインの多要素認証]が有効な場合、文書、差し込みフィールド、データの書き戻しは機能しません。

- フィールドの自動更新: 特定のエンベロープイベントが発生したときに Salesforce フィールドの内容が自動的に更新されます。
  - [更新の追加]をクリックします。新しいフィールド行が表示されます。
  - エンベロープイベント: Salesforce 側の情報を更新するときのイベント(エンベロープの完了、エンベロープの無効化など)を選択します。
  - フィールド名: 更新する Salesforce フィールドの名前(金額、名前など)を選択します。
  - フィールドの自動更新: 更新する Salesforce フィールドに設定される値を入力または選択します。



注:

- エンベロープイベントについて最大 **5** つの更新イベントを追加できます。たとえば、エンベロープの完了イベントやエンベロープの送信イベントが発生したときのフィールド更新イベントとして、それぞれ最大で 5 つ定義できます。
- 5 つのエンベロープイベントについてそれぞれ最大 5 つの更新イベントを定義できるため、最大で **25** の更新イベントを指定できます。
- 複数の同じエンベロープイベントに対して同じ[フィールド名]値を設定することはできません。たとえば、2 つの[エンベロープの完了]イベントの両方の[フィールド名]値に[Stage]を設定することはできません。

2. ページ右上の[次へ]を選択します。

ステップ 6 が完了しました。「ステップ 7: Salesforce ページレイアウトにエンベロープテンプレートのカスタムボタンを作成する」に進みます。

ステップ 7: Salesforce ページレイアウトにエンベロープテンプレートのカスタムボタンを作成する

エンベロープテンプレート作成の第 7 ステップでは、ステップ 1 で選択した Salesforce オブジェクトのレイアウトにカスタムボタンを追加します。

ステップ 1 で選択した Salesforce オブジェクトのページレイアウトにカスタムボタンを追加するには、以下の手順に従います。

ヒント: このステップについてのビデオを参照してください。

1. [ボタンラベル]ボックスに、カスタムボタンを識別するための名前を入力します。この名前がボタン名として表示されます。
2. カスタムボタンを配置するページレイアウトのチェックボックスをオンにします。

3. ページ右上の[保存して終了]を選択します。
「レイアウトが変更されました」というメッセージが表示されます。

以上の手順により、新しいエンベロープテンプレートが作成され、Salesforce のレイアウトにカスタムボタンが追加されました。
関連情報

エンベロープテンプレートのオプション: [文書]ステップ
エンベロープテンプレートのオプション: [受信者]ステップ
エンベロープテンプレートのオプション: [差し込みフィールド]ステップ
エンベロープテンプレートのオプション: [フィールドの配置]ステップ
エンベロープテンプレートのオプション: [オプション]ステップ

関連情報

Microsoft Word を使用して Gen テンプレートを作成する
API ログインの多要素認証

Salesforce Experience Cloud のエンベロープテンプレートを作成する

Salesforce Experience Cloud(旧称「Salesforce Communities」)用のエンベロープテンプレートとカスタムボタンを作成できます。Salesforce Experience Cloud 用のエンベロープテンプレートを使用すると、Experience Cloud ユーザーが Salesforce レコードから文書に署名できるようになります。

Salesforce Experience Cloud(旧称「Salesforce Communities」)用のエンベロープテンプレートとカスタムボタンを作成できます。Salesforce Experience Cloud 用のエンベロープテンプレートを使用すると、Experience Cloud ユーザーが Salesforce レコードから文書に署名できるようになります。Experience Cloud でユーザーが DocuSign のカスタムボタンを選択すると、埋め込みの署名プロセスが開始されます。この場合、その Experience Cloud ユーザーが最初の受信者になり、その後に追加の署名者が追加されます。署名が完了した文書をほかの受信者に転送することもできます。

重要:

- DocuSign Business Professional 以上のアカウントが必要です。
- DocuSign アカウントの担当者がアカウント全体の Community Cloud テンプレート(埋め込み署名機能)機能を有効にする必要があります。
- [配信元]フィールドには、DocuSign 管理者ステータス([DocuSign セットアップ]>[ユーザー管理]で設定)を持つ Salesforce ユーザーを含める必要があります。このユーザーには、Salesforce システム管理者プロファイルまたは権限セットが設定されている必要もあります。このテンプレートで送信されたメッセージには、差出人としてこのユーザーが表示されます。
- Experience Cloud の差出人には、「配信元」ユーザーに対する少なくとも読み取り専用のアクセスを付与する必要があります。この設定は、共有設定、組織共有、または共有の直接設定などの Salesforce オプションを使って行います。

- [共有設定]では、[デフォルトの外部アクセス権]を[公開/参照のみ]に変更する必要があります。これにより、DocuSign エンベロープテンプレートのカスタムオブジェクトへの基本的なアクセスが Experience Cloud ユーザーに付与されます。

Salesforce Experience Cloud のエンベロープテンプレートを作成するには、以下の手順に従います。

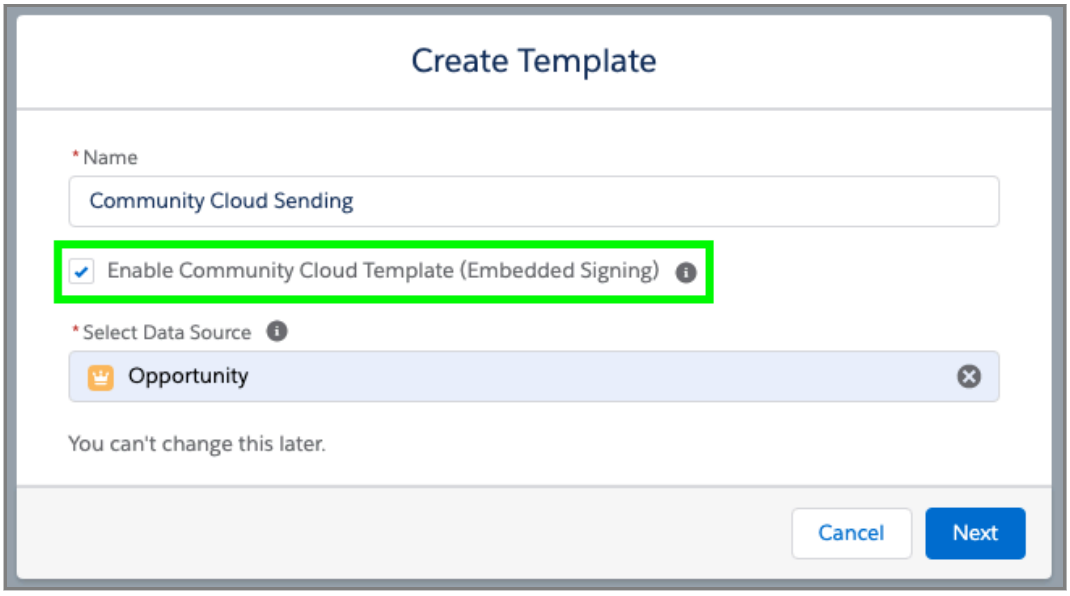
1. 名前、データソース、Experience Cloud オプションを追加する
2. テンプレートに文書を追加する
3. Experience Cloud のエンベロープテンプレートに受信者を追加する
4. テンプレートに追加する Salesforce の差し込みフィールドを作成する
5. テンプレート文書に DocuSign と Salesforce のフィールドを配置する
6. Experience Cloud のエンベロープテンプレートに配信者やリマインダーなどのオプションを追加する
7. Salesforce ページレイアウトにエンベロープテンプレートのカスタムボタンを作成する

ステップ 1: 名前、データソース、Experience Cloud オプションを追加する

このステップでは、Salesforce Experience Cloud のエンベロープテンプレートに名前とデータソースを追加して、Experience Cloud オプションを有効にします。

このステップでは、Salesforce Experience Cloud のエンベロープテンプレートに名前とデータソースを追加して、Experience Cloud オプションを有効にします。

1. Salesforce 管理者として、[DocuSign eSignature の設定]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン()をクリックします。
   b. [すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign Apps Launcher]タイルを選択します。
   d. ページ左側で[eSignature]を選択します。
2. ページ右側にある[テンプレートの作成]を選択します。[テンプレートの作成]ダイアログボックスが開きます。
3. 以下の情報を入力します。
   a. 名前: テンプレートを識別するための名前を入力します。
   b. データソースの選択: ドロップダウンメニューから、データソースとして使用する Salesforce オブジェクト([取引先]、[商談]など)を選択します。
   c. [Experience Cloud テンプレートを有効にする]チェックボックスをオンにします。
   d. [次へ]を選択します。



注: このチェックボックスは、旧バージョンの DocuSign eSignature for Salesforce アプリでは[Enable Community Cloud Template(Embedded Signing)]と表示されます。

ステップ 1 が完了しました。「ステップ 2: 文書をテンプレートに追加する」に進みます。

ステップ 2: 文書をテンプレートに追加する

エンベロープテンプレート作成の 2 番目のステップでは、テンプレートのコンテンツとして使用する文書を追加します。一般的に、Word や PDF の文書を使用します。

ここでは、テンプレートのコンテンツとして使用する文書を追加します。一般的に、Word や PDF のファイルを使用します。

重要: このステップでは、デバイスから文書をアップロードする必要はありません。[Salesforce レコードの文書を添付する]チェックボックスをオンにして、Salesforce レコードに保存されている文書を追加できます。ただし、指定した Salesforce 文書がレコードにない場合、差出人にはエラーが表示されます。

ヒント:

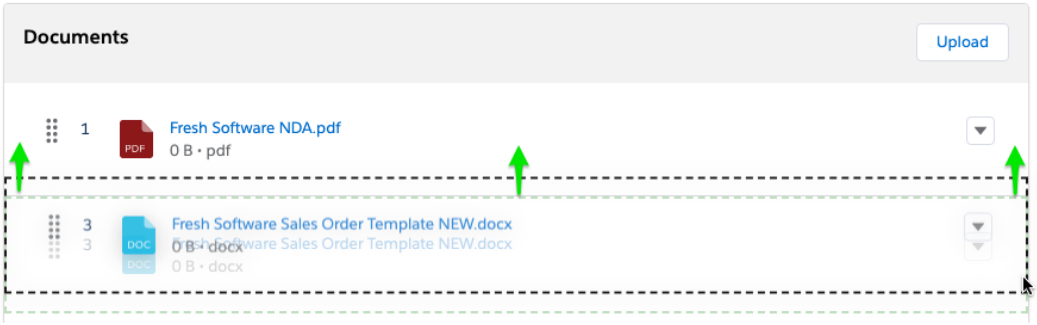
- このステップについてのビデオを参照してください。
- このステップで使用できる詳細オプションについては、このトピックを参照してください。

1. 文書の追加方法を選択します。

- デバイスからアップロードする場合:
  - [文書のアップロード]を選択します。
  - デバイス上のコンテンツを追加します。
  - [完了]を選択します。
- Salesforce レコードから動的に追加する場合:
  - [Salesforce レコードの文書を添付する]チェックボックスをオンにします。
  - ドロップダウンメニューから、いずれかのオプションを選択します。
    - 最新の文書: レコードから最新の文書がアップロードされます。
    - ファイル名に含まれるテキスト: 入力したファイル名に一致する文書がレコードからアップロードされます。
    - すべての文書: レコードからすべての文書がアップロードされます。

> **注:** このエンベロープテンプレートを DocuSign Gen テンプレートにリンクする場合は、この手順に従ってください。これにより、ユーザーが Gen で文書を生成して[署名者への送信]を選択したときに、このエンベロープテンプレートが使用されるようになります。

2. 必要に応じて、以下の操作を行います。
   - アップロード: デバイス上の別の文書をテンプレートに追加します。
   - 文書をドラッグしてエンベロープでの表示順を変更します。



3. [次へ]を選択します。

ステップ 2 が完了しました。「ステップ 3: Experience Cloud のエンベロープテンプレートに受信者を追加する」に進みます。

ステップ 3: Experience Cloud のエンベロープテンプレートに受信者を追加する

Experience Cloud のエンベロープテンプレートに受信者を追加する方法について説明します。

Experience Cloud エンベロープテンプレートに受信者を追加するには、以下の手順に従います。

> ヒント: このステップについてのビデオを参照してください。

> **注:** Experience Cloud ユーザーはデフォルトで追加され、署名順の 1 番目に固定されます。このユーザーを編集したり削除したりすることはできません。このユーザーは、旧バージョンの DocuSign eSignature for Salesforce アプリでは「Community Cloud ユーザー」と呼ばれていました。

1. [受信者の追加]を選択します。[受信者の追加]ダイアログボックスが開きます。
2. 左側の列から、いずれかのオプションを選択します。
   - Salesforce から:
     - 参照項目: [所有者]などの Salesforce フィールドで、これにより Salesforce レコードから受信者が動的に追加されます。
     - 関連リスト: 親オブジェクト([取引先]や[商談]など)に関連付ける Salesforce フィールドを選択します。
     - ユーザー/取引先責任者: Salesforce のユーザーや取引先責任者として保存されている受信者を追加します。
     - 差出人: エンベロープの差出人を受信者として追加します。この場合、カスタムボタンをクリックしたユーザーが差出人になります。
   - ほかのソース:
     - 役割の指定: 差出人が後で名前やメールアドレスを指定できるようにするためのプレースホルダー(「承認者」など)を追加します。

       > **注:** 差し込みフィールド構文を使用して、Salesforce オブジェクトから[役割の指定]受信者を動的に追加できます。

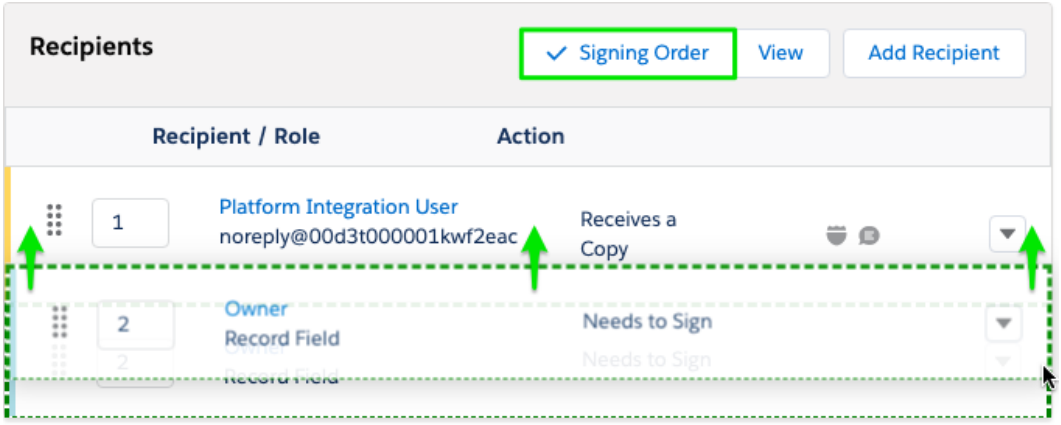
     - 署名グループ: 接続されている DocuSign アカウントで設定済みの受信者のグループで、グループ内の任意のメンバーが署名を完了させることができます。

       > **注:** [アクション]ドロップダウンメニューの下にある[役割の追加]を選択して、プレースホルダーを追加することもできます。

3. アクション: ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
   - 署名が必要: 文書への署名が必要です。
   - 文書のコピーを受信: 文書のコピーを受け取ります。文書を確認したり署名したりする必要はありません。
   - 表示が必要: 文書の確認が必要です。署名する必要はありません。
   - 受信者の指定: 受信者のプレースホルダー(「承認者」など)に名前やメールアドレスを追加できる受信者です。
   - 編集を許可: 受信者を変更したり、エンベロープの内容を変更(修正)したりできる受信者です。
4. 必要に応じて、以下の操作を行います。
   - 送信後に署名を開始する(今すぐ署名): このチェックボックスをオンにすると、エンベロープの送信直後に差出人の署名セッションが開始されます。
   - アクセス認証の追加
     - SMS/電話: 受信者のモバイルデバイスにアクセスコードを送信し、署名プロセスのセキュリティを強化します。

- アクセスコード: 署名プロセスを開始するときに受信者が入力しなければならないコードを作成します。
- プライベートメッセージの追加: 特定の受信者またはグループのみに宛てたメッセージを追加します。

5. 以下のいずれかを選択します。
   - 追加して新規作成: 受信者を保存して、別の受信者を追加します。
   - 追加: 受信者を保存してダイアログボックスを閉じます。
6. 必要に応じて、以下の操作を行います。
   - 署名順:
     - [署名順]を選択します。各受信者の署名順を示す番号が表示されます。
     - 受信者をドラッグして署名順を変更します。



   - 表示: このボタンを選択すると、署名順のフロー図が表示されます。
   - メールの件名: メールの件名を 100 文字以内で入力します。
   - メールメッセージ: メールのメッセージを 2,000 文字以内で入力します。
   - その他のオプション: 右矢印(>)を選択してオプションを選択します。
     - リマインダー: 受信者へのリマインダーの送信間隔をドロップダウンメニューから選択します。
     - 有効期限: エンベロープの有効期限を設定します。
7. ページ右上の[次へ]を選択します。

ステップ 3 が完了しました。ステップ 4 に進み、Salesforce の差し込みフィールドを追加します。

ステップ 4: テンプレートに追加する Salesforce の差し込みフィールドを作成する

[フィールドの配置]ステップでエンベロープテンプレートに追加する Salesforce の差し込みフィールドを作成します。

ここでは、カスタムの Salesforce 差し込みフィールドを作成します。これらのフィールドは、エンベロープテンプレート作成プロセスの[フィールドの配置]ステップで文書に追加できます。

ヒント:

- このステップについてのビデオを参照してください。

- このステップで使用できる詳細オプションについては、このトピックを参照してください。

1. ページ右側にある[フィールドの追加]を選択します。[差し込みフィールドの追加]ダイアログボックスが開きます。
2. 以下の情報を入力します。
   a. ソースオブジェクト: ドロップダウンメニューから、メインのデータソースとして使用する Salesforce オブジェクト([取引先]、[商談]など)を選択します。
   b. フィールド: ドロップダウンメニューから、Salesforce フィールド(Salesforce 内では「項目」と呼ばれます)を選択します。

      注: 選択したフィールドによっては、さらに子オブジェクトを選択するためのドロップダウンメニューが表示されます。最大で 4 レベルの子オブジェクトと 2 レベルの関連リストを含めることができます。

   c. 名前: 入力された名前をそのまま使用するか、適切なカスタムフィールド名を入力します。
3. フィールドのプロパティ: 必要に応じて、以下のチェックボックスをオンにします。
   - Salesforce への書き戻しを許可する: 署名が完了したエンベロープにより Salesforce レコードのフィールドが更新されるようになります。
   - 差出人に編集を許可する: 差出人に Salesforce の差し込みフィールドデータの編集を許可します。
   - 必須フィールド: このチェックボックスをオンにすると、フィールドが必須になり、空白のままエンベロープを完了することができなくなります。
   - 署名者に対して読み取り専用にする: 署名者がフィールド内の情報を変更できなくなります。
4. その他のオプション: 必要に応じて、そのほかのオプションを選択します。
   - ツールヒント: 差出人宛ての説明や指示などを入力します(「お客様の請求先住所が自動的に追加されます」など)。
   - アンカーテキスト: 差し込みフィールドを自動的に配置するための文書上のキーワードを入力します。
   - 検証: データの形式が検証されます。たとえば、米国社会保障番号形式(xxx-xx-xxxx)かどうかが検証されます。
5. ダイアログボックスの右下のボタンを選択します。
   - 追加してさらに作成: フィールドを保存して、別の差し込みフィールドを追加します。
   - 保存: フィールドを保存して、ダイアログボックスを閉じます。
   - キャンセル: フィールドを保存せずにダイアログボックスを閉じて、[差し込みフィールドの追加と管理]ページに戻ります。
6. ページ右上の[次へ]を選択します。

   注: [エンベロープテンプレート]ページが[フィールドの配置]ページに切り替わります。このページでは、アップロードした文書に **DocuSign** や **Salesforce** のフィールドを配置できます。

ステップ 4 が完了しました。「ステップ 5: テンプレート文書に DocuSign や Salesforce のフィールドを配置する」に進みます。

ステップ 5: テンプレート文書に DocuSign や Salesforce のフィールドを配置する

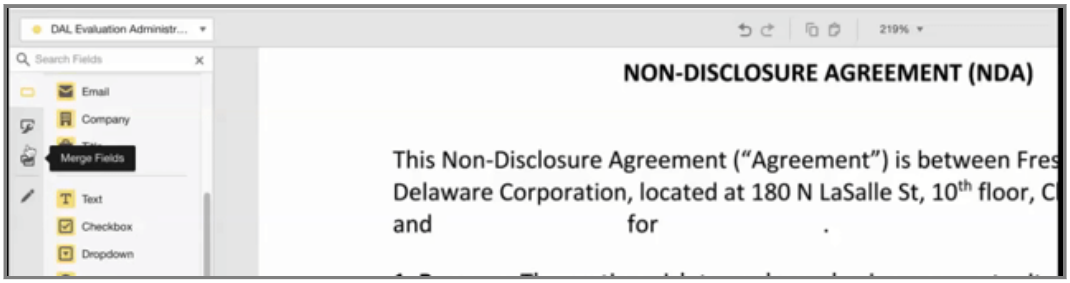
エンベロープテンプレート作成の 5 番目のステップでは、DocuSign と Salesforce のフィールドを文書上に配置します。

このステップでは、DocuSign や Salesforce のフィールドを文書上に配置します。ステップ 4 で作成した差し込みフィールドは、Salesforce の差し込みフィールドメニューで利用できます。

ヒント:

- このステップについてのビデオを参照してください。
- このステップで使用できる詳細オプションについては、このトピックを参照してください。

1. 文書に Salesforce フィールドを追加します。
   a. ページ左側で[差し込みフィールド]タブ( )を選択します。Salesforce の差し込みフィールドが表示されます。
   b. フィールドを選択します。目的のフィールドが表示されない場合は、矢印を展開してほかのフィールドを表示したり、[検索ボックス]にフィールド名を入力したりできます。
   c. フィールドを文書上にドラッグして配置します。



2. 文書に DocuSign フィールドを追加します。
   a. ページ左側で[標準フィールド]タブ( )を選択します。DocuSign の標準フィールドが表示されます。
   b. DocuSign フィールド([署名]、[イニシャル]など)を選択します。
   c. フィールドを文書上にドラッグして配置します。
3. 必要に応じて、以下の操作を行います。
   - 受信者のプレビュー: このボタンを選択すると、生成文書のプレビューを確認できます。
   - 受信者の切り替え: 別の受信者用のフィールドを追加するには、以下の操作を行います。
     - ページの左上にある受信者名の横の下矢印(▼)を選択します。
     - ドロップダウンメニューから別の受信者を選択します。
     - この受信者に割り当てる DocuSign フィールドを文書上にドラッグして配置します。

注: 各受信者のフィールドは、それぞれ別の色(黄色、青など)で表されます。



4. フィールドの追加が完了したら、[保存して閉じる]を選択します。

> 注: **DocuSign eSignature** フィールドのページが閉じて、[**DocuSign** エンベロープテンプレート]ページが開きます。

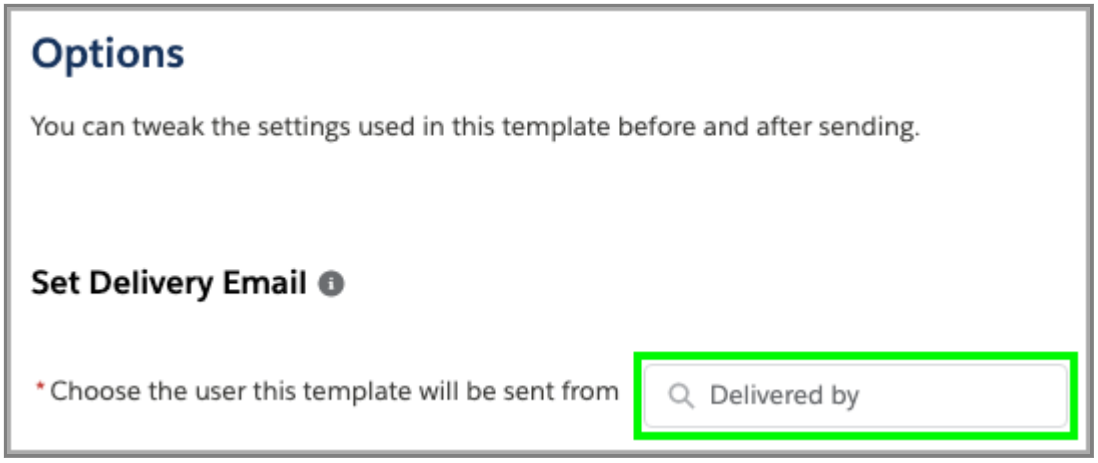
ステップ 5 が完了しました。「ステップ 6: クイック送信や書き戻しなどのオプションを追加する」に進みます。

ステップ 6: Experience Cloud のエンベロープテンプレートに配信元やリマインダーなどのオプションを追加する

受信者へのリマインダーの設定、配信元ユーザーの設定、有効期限の設定、クイック送信エクスペリエンスの有効化、署名プロセスが完了したときに Salesforce のステータスを変更する方法などについて説明します。

必須の配信元ユーザーを設定したり、エンベロープテンプレートにオプションを追加したりするには、以下の手順に従います。

1. 配信元: 接続されている DocuSign アカウントの管理者ステータスを持つ Salesforce ユーザーの名前を入力します。このユーザーには、Salesforce システム管理者プロファイルまたは権限セットが設定されている必要もあります。このテンプレートから送信されたメッセージには、選択した配信元ユーザーが差出人として表示されます。



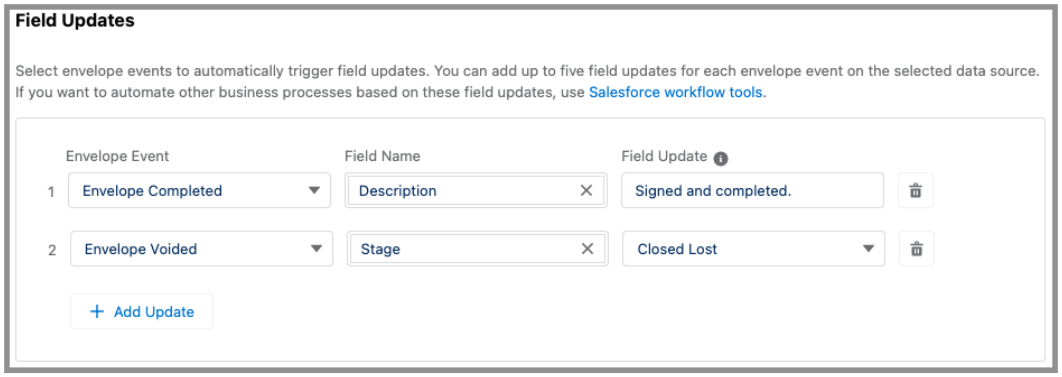
2. 必要に応じて、以下の設定を行います。

- リマインダー: 受信者へのリマインダーの送信間隔をドロップダウンメニューから選択します。

- 有効期限: エンベロープの有効期限を設定します。
- Document Writeback: Select the check box for any option:
  - 完了した文書を Salesforce の Opportunity レコードに保存する
  - 完了証明書を Salesforce の Opportunity レコードに保存する

重要: ユーザーの Salesforce プロファイルで[API ログインの多要素認証]が有効な場合、文書、差し込みフィールド、データの書き戻しは機能しません。

- フィールドの自動更新: 特定のエンベロープイベントが発生したときに Salesforce フィールドの内容が自動的に更新されます。
  - [更新の追加]をクリックします。新しいフィールド行が表示されます。
  - エンベロープイベント: Salesforce 側の情報を更新するときのイベント(エンベロープの完了、エンベロープの無効化など)を選択します。
  - フィールド名: 更新する Salesforce フィールドの名前(金額、名前など)を選択します。
  - フィールドの自動更新: 更新する Salesforce フィールドに設定される値を入力または選択します。



注:
- エンベロープイベントについて最大 **5** つの更新イベントを追加できます。たとえば、エンベロープの完了イベントやエンベロープの送信イベントが発生したときのフィールド更新イベントとして、それぞれ最大で 5 つ定義できます。
- 5 つのエンベロープイベントについてそれぞれ最大 5 つの更新イベントを定義できるため、最大で **25** の更新イベントを指定できます。
- 複数の同じエンベロープイベントに対して同じ[フィールド名]値を設定することはできません。たとえば、2 つの[エンベロープの完了]イベントの両方の[フィールド名]値に[Stage]を設定することはできません。

3. ページ右上の[次へ]を選択します。

ステップ 6 が完了しました。「ステップ 7: Salesforce ページレイアウトにエンベロープテンプレートのカスタムボタンを作成する」に進みます。

ステップ 7: Salesforce ページレイアウトにエンベロープテンプレートのカスタムボタンを作成する

エンベロープテンプレート作成の第 7 ステップでは、ステップ 1 で選択した Salesforce オブジェクトのレイアウトにカスタムボタンを追加します。

ステップ 1 で選択した Salesforce オブジェクトのページレイアウトにカスタムボタンを追加するには、以下の手順に従います。

> ヒント: このステップについてのビデオを参照してください。

1. [ボタンラベル]ボックスに、カスタムボタンを識別するための名前を入力します。この名前がボタン名として表示されます。
2. カスタムボタンを配置するページレイアウトのチェックボックスをオンにします。
3. ページ右上の[保存して終了]を選択します。
「レイアウトが変更されました」というメッセージが表示されます。

以上の手順により、新しいエンベロープテンプレートが作成され、Salesforce のレイアウトにカスタムボタンが追加されました。

関連情報

- エンベロープテンプレートのオプション: [文書]ステップ
- エンベロープテンプレートのオプション: [受信者]ステップ
- エンベロープテンプレートのオプション: [差し込みフィールド]ステップ
- エンベロープテンプレートのオプション: [フィールドの配置]ステップ
- エンベロープテンプレートのオプション: [オプション]ステップ

関連情報

- Microsoft Word を使用して Gen テンプレートを作成する
- API ログインの多要素認証

Salesforce の個人取引先オブジェクトを使用してエンベロープテンプレートを作成する

Salesforce の個人取引先オブジェクトを使用してエンベロープテンプレートを作成する方法について説明します。

個人取引先は、特定の取引先項目と取引先責任者項目を 1 つのレコードにまとめて、人に関する情報を保存する Salesforce オブジェクトです。

個人取引先オブジェクトは、以下の Salesforce エディションで使用できます。

- すべてのビジネスエディション
- Professional
- Enterprise
- Performance
- Unlimited
- Developer

注: 個人取引先を使用するには、事前に有効にする必要があります。個人取引先を有効にする方法については、Salesforce のヘルプサイトを参照してください。

Salesforce の個人取引先オブジェクトを使用して、DocuSign エンベロープテンプレートを作成できます。

個人取引先は Salesforce の取引先オブジェクトの一部です。

エンベロープテンプレートの作成開始時に Salesforce のオブジェクトを選択する画面には、個人取引先が表示されません。

個人取引先のエンベロープテンプレートを作成するには、データソースに[取引先]を選択する必要があります。

個人取引先オブジェクトを使ってエンベロープテンプレート作成するには、以下の操作が必要です。

1. エンベロープテンプレートのオブジェクトタイプとして、[取引先]を選択します。
2. [受信者]ステップで、[個人取引先]ユーザーを追加します。
3. 取引先レイアウトにカスタムボタンを追加します。
4. そのカスタムボタンを、個人取引先レイアウトに手動で追加します。
5. 取引先レイアウトからテンプレートボタンを削除します。

以下の各ステップを行って、個人取引先オブジェクトを使ってエンベロープテンプレートを作成します。

1. ステップ 1: テンプレート名を追加して[取引先]オブジェクトを選択する
2. ステップ 2: 文書をテンプレートに追加する
3. ステップ 3: 受信者をテンプレートに追加する
4. ステップ 4: テンプレートに追加する Salesforce の差し込みフィールドを作成する
5. ステップ 5: テンプレート文書に DocuSign や Salesforce のフィールドを配置する
6. ステップ 6: クイック送信や書き戻しなどのオプションを追加する
7. ステップ 7: 取引先レイアウトにエンベロープテンプレートの一時的なカスタムボタンを作成する
8. ステップ 8: 取引先レイアウトから[個人取引先]のカスタムボタンを削除する
9. ステップ 9: テンプレートボタンを Salesforce の個人取引先レイアウトに追加する

ステップ 1: テンプレート名を追加して[取引先]オブジェクトを選択する

このステップでは、テンプレートの名前を設定して、Salesforce データソースを選択します。

ヒント: ステップ 1 については、このビデオの冒頭を参照してください。

重要: [個人取引先]は、このステップで使用可能なオブジェクトのリストには表示されません。ここで[取引先]オブジェクトを選択しておき、後の手順で[個人取引先]オブジェクトを使用する必要があります。

1. Salesforce 管理者として、[DocuSign eSignature の設定]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
   b. [すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign Apps Launcher]タイルを選択します。
   d. ページ左側で[eSignature]を選択します。
2. ページ右側にある[テンプレートの作成]を選択します。[テンプレートの作成]ダイアログボックスが開きます。
3. 以下の情報を入力します。
   a. 名前: テンプレートを識別するための名前を入力します。
   b. データソースの選択: ドロップダウンメニューから[取引先]を選択します。
   c. [次へ]を選択します。

ステップ 1 が完了しました。「ステップ 2: 文書をテンプレートに追加する」に進みます。

ステップ 2: 文書をテンプレートに追加する

エンベロープテンプレート作成の 2 番目のステップでは、テンプレートのコンテンツとして使用する文書を追加します。一般的に、Word や PDF の文書を使用します。

ここでは、テンプレートのコンテンツとして使用する文書を追加します。一般的に、Word や PDF のファイルを使用します。

重要: このステップでは、デバイスから文書をアップロードする必要はありません。[Salesforce レコードの文書を添付する]チェックボックスをオンにして、Salesforce レコードに保存されている文書を追加できます。ただし、指定した Salesforce 文書がレコードにない場合、差出人にはエラーが表示されます。

ヒント:

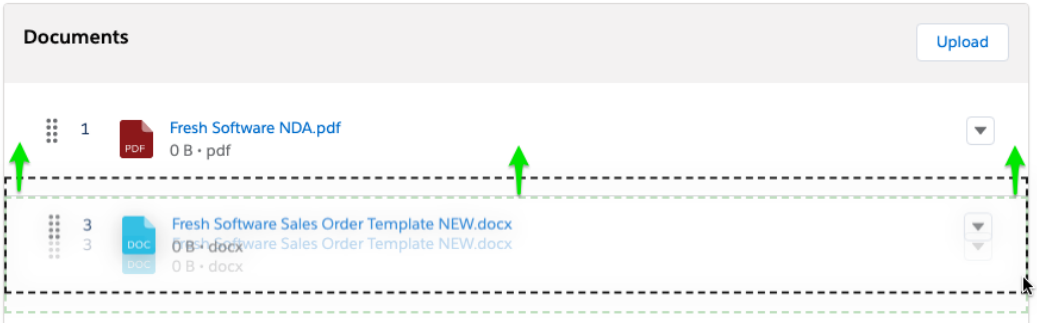
- このステップについてのビデオを参照してください。
- このステップで使用できる詳細オプションについては、このトピックを参照してください。

1. 文書の追加方法を選択します。

- デバイスからアップロードする場合:
  - [文書のアップロード]を選択します。
  - デバイス上のコンテンツを追加します。
  - [完了]を選択します。
- Salesforce レコードから動的に追加する場合:
  - [Salesforce レコードの文書を添付する]チェックボックスをオンにします。
  - ドロップダウンメニューから、いずれかのオプションを選択します。
    - 最新の文書: レコードから最新の文書がアップロードされます。
    - ファイル名に含まれるテキスト: 入力したファイル名に一致する文書がレコードからアップロードされます。
    - すべての文書: レコードからすべての文書がアップロードされます。

> **注:** このエンベロープテンプレートを DocuSign Gen テンプレートにリンクする場合は、この手順に従ってください。これにより、ユーザーが Gen で文書を生成して[署名者への送信]を選択したときに、このエンベロープテンプレートが使用されるようになります。

2. 必要に応じて、以下の操作を行います。
   - アップロード: デバイス上の別の文書をテンプレートに追加します。
   - 文書をドラッグしてエンベロープでの表示順を変更します。



3. [次へ]を選択します。

ステップ 2 が完了しました。「ステップ 3: Experience Cloud のエンベロープテンプレートに受信者を追加する」に進みます。

ステップ 3: 受信者をテンプレートに追加する

このプロセスの第 3 ステップでは、エンベロープテンプレートに受信者を追加します。Salesforce 組織や DocuSign アカウントから追加したり、名前とメールアドレスを入力したりできます。

エンベロープテンプレートに受信者を追加するには、以下の手順に従います。

ヒント:

- このステップについてのビデオを参照してください。

- このステップで使用できる詳細オプションについては、このトピックを参照してください。

1. [受信者の追加]を選択します。
   [受信者の追加]ダイアログボックスが開きます。
2. 左側の列から、いずれかのオプションを選択します。
   - Salesforce から:
     - 参照項目: [所有者]や[作成者]などの Salesforce フィールドに基づいて、受信者が動的に追加されます。
     - 関連リスト: 親オブジェクト([取引先]や[商談]など)に関連付ける Salesforce フィールドを選択します。
     - ユーザー/取引先責任者: 組織で保存済みの Salesforce ユーザーや取引先責任者です。
     - 差出人: エンベロープの差出人を受信者として追加します。
   - ほかのソース:
     - 役割の指定: 差出人が後で名前やメールアドレスを指定できるようにするためのプレースホルダー(「承認者」など)を追加します。

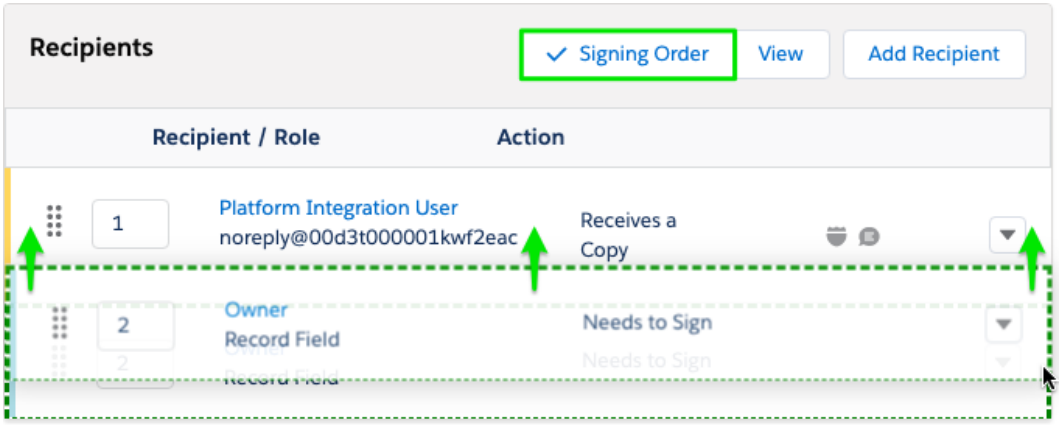
       注: 差し込みフィールド構文を使用して、Salesforce オブジェクトから[役割の指定]受信者を動的に追加できます。

     - 署名グループ: 接続されている DocuSign アカウントで設定済みの受信者のグループで、グループ内の任意のメンバーが署名を完了させることができます。
3. 配信: 必要に応じて、ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
   - メール: メールでエンベロープを送信します。
   - メールと SMS: メールとテキストメッセージでエンベロープを送信します。

   注: [配信]メニューは、[SMS での文書送信を許可する]と[モバイルデバイス上での署名を許可する]が有効になっているユーザーにのみ表示されます。これらの機能を有効にするには、DocuSign アカウントマネージャーに問い合わせる必要があります。[メールと SMS]は、エンベロープについて最大 4 人の受信者に指定できます。

4. アクション: ドロップダウンメニューから、受信者に割り当てるアクションを選択します。
   - 署名が必要: 文書への署名が必要です。
   - 文書のコピーを受信: 文書のコピーを受け取ります。文書を確認したり署名したりする必要はありません。
   - 表示が必要: 文書の確認が必要です。署名する必要はありません。
   - 受信者の指定: 受信者のプレースホルダー(「承認者」など)に名前やメールアドレスを追加できる受信者です。
   - 編集を許可: 受信者を変更したり、エンベロープの内容を変更(修正)したりできる受信者です。
   - 同席する署名者: すべての署名者がその場に同席して文書に署名します。
5. いずれかの保存オプションを選択します。
   - 追加して新規作成: 受信者を保存して、別の受信者を追加します。
   - 追加: 受信者を保存してダイアログボックスを閉じます。

6. 必要に応じて、以下の操作を行います。
   - 署名順:
     - [署名順]を選択します。各受信者の署名順を示す番号が表示されます。
     - 受信者をドラッグして署名順を変更します。



   - 表示: このボタンを選択すると、署名順のフロー図が表示されます。
   - メールの件名: メールの件名を 100 文字以内で入力します。
   - メールメッセージ: メールのメッセージを 2,000 文字以内で入力します。
   - その他のオプション: 右矢印(>)を選択してオプションを選択します。
     - リマインダー: 受信者へのリマインダーの送信間隔をドロップダウンメニューから選択します。
     - 有効期限: エンベロープの有効期限を設定します。
7. ページ右上の[次へ]を選択します。

ステップ 3 が完了しました。「ステップ 4: テンプレートに追加する Salesforce の差し込みフィールドを作成する」に進みます。

ステップ 4: テンプレートに追加する Salesforce の差し込みフィールドを作成する

[フィールドの配置]ステップでエンベロープテンプレートに追加する Salesforce の差し込みフィールドを作成します。

ここでは、カスタムの Salesforce 差し込みフィールドを作成します。これらのフィールドは、エンベロープテンプレート作成プロセスの[フィールドの配置]ステップで文書に追加できます。

ヒント:

- このステップについてのビデオを参照してください。
- このステップで使用できる詳細オプションについては、このトピックを参照してください。

1. ページ右側にある[フィールドの追加]を選択します。[差し込みフィールドの追加]ダイアログボックスが開きます。
2. 以下の情報を入力します。
   a. ソースオブジェクト: ドロップダウンメニューから、メインのデータソースとして使用する Salesforce オブジェクト([取引先]、[商談]など)を選択します。
   b. フィールド: ドロップダウンメニューから、Salesforce フィールド(Salesforce 内では「項目」と呼ばれます)を選択します。

      注: 選択したフィールドによっては、さらに子オブジェクトを選択するためのドロップダウンメニューが表示されます。最大で 4 レベルの子オブジェクトと 2 レベルの関連リストを含めることができます。

   c. 名前: 入力された名前をそのまま使用するか、適切なカスタムフィールド名を入力します。
3. フィールドのプロパティ: 必要に応じて、以下のチェックボックスをオンにします。
   - Salesforce への書き戻しを許可する: 署名が完了したエンベロープにより Salesforce レコードのフィールドが更新されるようになります。
   - 差出人に編集を許可する: 差出人に Salesforce の差し込みフィールドデータの編集を許可します。
   - 必須フィールド: このチェックボックスをオンにすると、フィールドが必須になり、空白のままエンベロープを完了することができなくなります。
   - 署名者に対して読み取り専用にする: 署名者がフィールド内の情報を変更できなくなります。
4. その他のオプション: 必要に応じて、そのほかのオプションを選択します。
   - ツールヒント: 差出人宛ての説明や指示などを入力します(「お客様の請求先住所が自動的に追加されます」など)。
   - アンカーテキスト: 差し込みフィールドを自動的に配置するための文書上のキーワードを入力します。
   - 検証: データの形式が検証されます。たとえば、米国社会保障番号形式(xxx-xx-xxxx)かどうかが検証されます。
5. ダイアログボックスの右下のボタンを選択します。
   - 追加してさらに作成: フィールドを保存して、別の差し込みフィールドを追加します。
   - 保存: フィールドを保存して、ダイアログボックスを閉じます。
   - キャンセル: フィールドを保存せずにダイアログボックスを閉じて、[差し込みフィールドの追加と管理]ページに戻ります。
6. ページ右上の[次へ]を選択します。

   注: [エンベロープテンプレート]ページが[フィールドの配置]ページに切り替わります。このページでは、アップロードした文書に **DocuSign** や **Salesforce** のフィールドを配置できます。

ステップ 4 が完了しました。「ステップ 5: テンプレート文書に DocuSign や Salesforce のフィールドを配置する」に進みます。

ステップ 5: テンプレート文書に DocuSign や Salesforce のフィールドを配置する

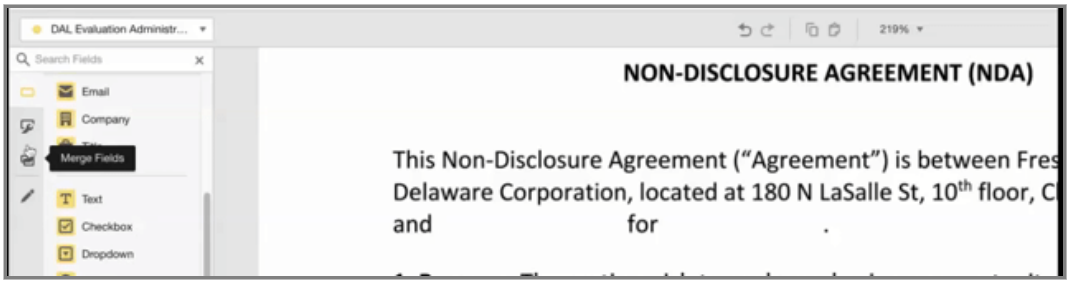
エンベロープテンプレート作成の 5 番目のステップでは、DocuSign と Salesforce のフィールドを文書上に配置します。

このステップでは、DocuSign や Salesforce のフィールドを文書上に配置します。ステップ 4 で作成した差し込みフィールドは、Salesforce の差し込みフィールドメニューで利用できます。

ヒント:

- このステップについてのビデオを参照してください。
- このステップで使用できる詳細オプションについては、このトピックを参照してください。

1. 文書に Salesforce フィールドを追加します。
   a. ページ左側で[差し込みフィールド]タブ( )を選択します。Salesforce の差し込みフィールドが表示されます。
   b. フィールドを選択します。目的のフィールドが表示されない場合は、矢印を展開してほかのフィールドを表示したり、[検索ボックス]にフィールド名を入力したりできます。
   c. フィールドを文書上にドラッグして配置します。



2. 文書に DocuSign フィールドを追加します。
   a. ページ左側で[標準フィールド]タブ( )を選択します。DocuSign の標準フィールドが表示されます。
   b. DocuSign フィールド([署名]、[イニシャル]など)を選択します。
   c. フィールドを文書上にドラッグして配置します。
3. 必要に応じて、以下の操作を行います。
   - 受信者のプレビュー: このボタンを選択すると、生成文書のプレビューを確認できます。
   - 受信者の切り替え: 別の受信者用のフィールドを追加するには、以下の操作を行います。
     - ページの左上にある受信者名の横の下矢印(▼)を選択します。
     - ドロップダウンメニューから別の受信者を選択します。
     - この受信者に割り当てる DocuSign フィールドを文書上にドラッグして配置します。

注: 各受信者のフィールドは、それぞれ別の色(黄色、青など)で表されます。



4. フィールドの追加が完了したら、[保存して閉じる]を選択します。

> 注: **DocuSign eSignature** フィールドのページが閉じて、[**DocuSign** エンベロープテンプレート]ページが開きます。

ステップ 5 が完了しました。「ステップ 6: クイック送信や書き戻しなどのオプションを追加する」に進みます。

ステップ 6: クイック送信や書き戻しなどのオプションを追加する

受信者へのリマインダーの設定、有効期限の設定、クイック送信エクスペリエンスの有効化、署名プロセスが完了したときに Salesforce のステータスを変更する方法などについて説明します。

エンベロープテンプレートにオプションを追加するには、以下の手順に従います。

ヒント:

- このステップについてのビデオを参照してください。
- このステップで使用できる詳細オプションについては、このトピックを参照してください。

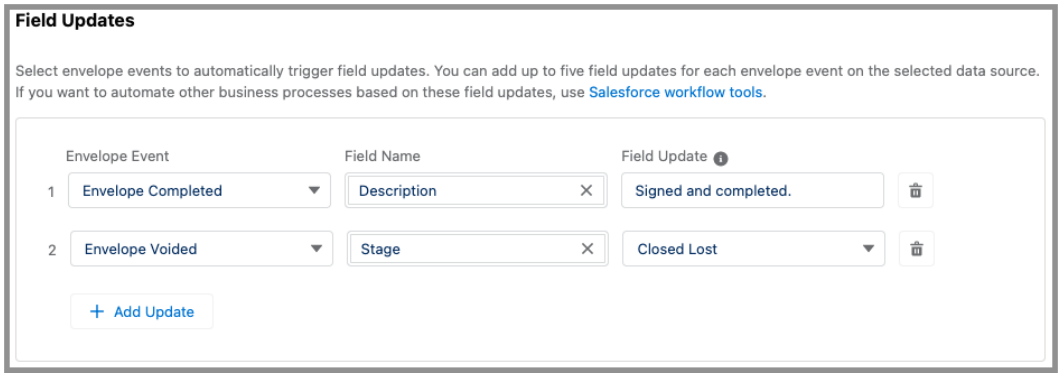
1. 以下の設定を行います。

- リマインダー: 受信者へのリマインダーの送信間隔をドロップダウンメニューから選択します。
- 有効期限: エンベロープの有効期限を設定します。
- 送信エクスペリエンス: 差出人の使用を許可する送信モードを選択します。
  - デフォルト: 差出人は文書の追加、受信者の選択、およびフィールドの追加を行うことができます。
  - クイック送信: 差出人は、署名者以外の受信者の追加、メールの件名やメッセージの編集、およびリマインダーや有効期限の変更のみを行うことができます。
  - フィールドの配置: 差出人に許可されるのは、文書への DocuSign フィールドおよび Salesforce フィールドの追加のみです。

    - 今すぐ送信: エンベロープが直ちに送信されます。文書、受信者、およびフィールドを追加することはできません。
- 文書の書き戻し: Salesforce 側へのデータの書き戻しオプションを選択します。
    - 完了した文書を[商談]レコードに保存する
    - 完了証明書を[商談]レコードに保存する

> 重要: ユーザーの Salesforce プロファイルで[API ログインの多要素認証]が有効な場合、文書、差し込みフィールド、データの書き戻しは機能しません。

- フィールドの自動更新: 特定のエンベロープイベントが発生したときに Salesforce フィールドの内容が自動的に更新されます。
    - [更新の追加]をクリックします。新しいフィールド行が表示されます。
    - エンベロープイベント: Salesforce 側の情報を更新するときのイベント(エンベロープの完了、エンベロープの無効化など)を選択します。
    - フィールド名: 更新する Salesforce フィールドの名前(金額、名前など)を選択します。
    - フィールドの自動更新: 更新する Salesforce フィールドに設定される値を入力または選択します。



> 注:
>
> - エンベロープイベントについて最大 **5** つの更新イベントを追加できます。たとえば、エンベロープの完了イベントやエンベロープの送信イベントが発生したときのフィールド更新イベントとして、それぞれ最大で 5 つ定義できます。
> - 5 つのエンベロープイベントについてそれぞれ最大 5 つの更新イベントを定義できるため、最大で **25** の更新イベントを指定できます。
> - 複数の同じエンベロープイベントに対して同じ[フィールド名]値を設定することはできません。たとえば、2 つの[エンベロープの完了]イベントの両方の[フィールド名]値に[Stage]を設定することはできません。

2. ページ右上の[次へ]を選択します。

ステップ 6 が完了しました。「ステップ 7: Salesforce ページレイアウトにエンベロープテンプレートのカスタムボタンを作成する」に進みます。

ステップ 7: 取引先レイアウトにエンベロープテンプレートの一時的なカスタムボタンを作成する

Salesforce の取引先レイアウトにカスタムボタンを一時的に追加する方法について説明します。

ヒント: このステップについてのビデオを参照してください。

注:

- このステップでは、個人取引先レイアウトにカスタムボタンを追加することはできません。
- テンプレートを保存して終了するには、少なくとも 1 つの取引先レイアウトにカスタムボタンを追加する必要があります。
- ボタンは取引先レイアウトから手動で削除する必要があります。
- その後で、個人取引先レイアウトにそのボタンを追加します。

1. [ボタンラベル]ボックスに、カスタムボタンを識別するための名前を入力します。この名前がボタン名として表示されます。
2. いずれかの取引先レイアウトのチェックボックスをオンにします。

   注: ここで複数の取引先レイアウトを選択すると、後でそれらすべてのレイアウトからボタンを削除しなければならなくなります。

3. ページ右上の[保存して終了]を選択します。
   「レイアウトが変更されました」というメッセージが表示されます。

ステップ 7 が完了しました。「ステップ 8: 取引先レイアウトから[個人取引先]のカスタムボタンを削除する」に進みます。

ステップ 8: 取引先レイアウトから[個人取引先]のカスタムボタンを削除する

ここでは、Salesforce の取引先レイアウトからカスタムボタンを削除する方法について説明します。

1. Salesforce 管理者として[ボタン、リンク、およびアクション]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
   b. [設定]を選択します。

c. [クイック検索]ボックスに「オブジェクトマネージャ」と入力します。
d. 左側の列で、Salesforce オブジェクトリンク([取引先]や[商談]など)を選択します。
e. ページ左側で[ボタン、リンク、およびアクション]を選択します。

[ボタン、リンク、およびアクション]ページが開きます。

2. 作成した[個人取引先]のカスタムボタンの右端にある矢印(▼)を選択します。
3. ドロップダウンメニューから[削除]を選択します。
[よろしいですか?]ダイアログボックスが開きます。
4. ドロップダウンメニューから[削除]を選択します。
[よろしいですか?]ダイアログボックスが閉じます。ページの表示が更新されます。

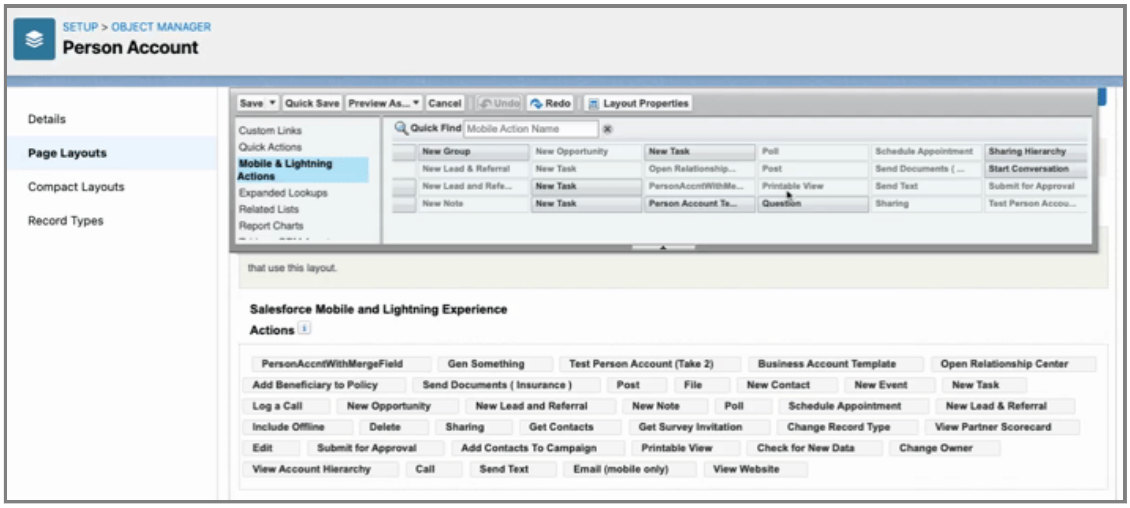
ステップ 8 が完了しました。ステップ 9 に進み、個人取引先レイアウトからカスタムボタンを追加します。

ステップ 9: テンプレートボタンを Salesforce の個人取引先レイアウトに追加する

1. Salesforce の管理者として[個人取引先レイアウト]ページを開きます。
a. ページ右上の歯車アイコン(⚙)を選択します。
b. [設定]を選択します。
c. [クイック検索]ボックスに「オブジェクトマネージャ」と入力します。
d. ページ左側で[個人取引先]を選択します。
e. ページ左側で[ページレイアウト]を選択します。
f. [個人取引先レイアウト]を選択します。

[個人取引先レイアウト]ページが開きます。

2. [個人取引先レイアウト]メニューの左側で[モバイルおよび Lightning のアクション]を選択します。
3. 個人取引先テンプレートボタンを[Salesforce モバイルおよび Lightning Experience のアクション]セクションにドラッグします。
4. ページ左上の[保存]を選択します。



「レイアウトの保存中」のメッセージが表示され、ページの表示が更新されます。

以上の手順により、個人取引先オブジェクトのテンプレートのボタンが個人取引先ページレイアウトに追加されました。

DocuSign CLM と DocuSign eSignature for Salesforce の互換性

DocuSign アプリケーションランチャーパッケージには、DocuSign CLM、DocuSign Gen、DocuSign Negotiate、DocuSign eSignature for Salesforce が含まれています。

従来、DocuSign CLM ユーザーが CLM インターフェイスから DocuSign Gen や eSignature for Salesforce のアプリを使用することはできませんでしたが、この問題は解決されています。

CLM で eSignature for Salesforce が使用できるようになった理由

これまでも、標準の DocuSign eSignature プラットフォームを使用すれば、CLM ユーザーも電子署名のためのエンベロープを送信できました。eSignature for Salesforce アプリを使用すると、DocuSign の標準ユーザーでは使用できない Salesforce 固有の署名機能を使用できます。

eSignature for Salesforce を使用するケース

- DocuSign エンベロープテンプレートで設定済みの eSignature による署名エクスペリエンスを提供する場合。
- Salesforce Experience Cloud ユーザーに eSignature の機能を追加する場合。
- Salesforce レイアウトに eSignature のカスタムボタンを追加する場合。
- 生成された文書を CLM フォルダーに保存しない場合。

標準の **DocuSign eSignature** を使用するケース

- 標準（Salesforce 以外）の CLM アカウントで電子署名用のエンベロープを送信する場合。
- Salesforce レコードの CLM ファイルセクションから電子署名用のファイルを送信する場合。

DocuSign CLM ユーザーが eSignature for Salesforce で実行できる機能

- [DocuSign セットアップ]タブの eSignature の設定ページを使用する。
- eSignature for Salesforce エンベロープテンプレートを作成、追加、編集、および削除する。
- DocuSign アカウントのメンバーでなくてもエンベロープの送信と署名が実行できるように、System Sender を有効にする。

関連情報

https://support.docusign.com/jp/guides/docusign-apps-launcher-esignature-admin-guide

Gen テンプレートをエンベロープテンプレートに関連付けて、契約書の作成と署名を自動化する

DocuSign Gen テンプレートを DocuSign エンベロープテンプレートに関連付けて、契約書の作成を簡略化する手順について説明します。

DocuSign Gen テンプレートを DocuSign エンベロープテンプレートに関連付けることができます。

ユーザーが Gen で文書を生成して[署名者への送信]を選択すると、エンベロープテンプレートの送信画面が開きます。

これにより、契約書の作成が自動化され、管理者が設定した電子署名エクスペリエンスに沿って差出人が操作することになるため、契約締結プロセスが簡素化されます。

重要:

- Gen テンプレートに関連付ける前に、少なくとも 1 つのエンベロープテンプレートを作成しておく必要があります。
- Gen テンプレートとエンベロープテンプレートは、メインデータソースとして同じ Salesforce オブジェクトを使用する必要があります。
  - 正: Gen テンプレートとエンベロープテンプレートは、メインデータソースとして商談を使用します。
  - 誤: Gen テンプレートでは商談を、エンベロープテンプレートでは取引先を使用します。

Gen テンプレートをエンベロープテンプレートに関連付けるには、以下の手順に従います。

1. DocuSign エンベロープテンプレートを作成します。
2. Salesforce 管理者として、Gen テンプレートを編集します。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン()をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
   d. [DocuSign Gen テンプレート]タブを選択します。
   e. 編集する Gen テンプレートの右端にある下向き矢印()を選択します。
   f. [編集]を選択します。Gen テンプレートの作成ページが開きます。
3. [ボタンの作成]矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。

4. [エンベロープテンプレート]フィールドに、この Gen テンプレートと同じデータソースを使用するエンベロープテンプレートの名前を入力します。
5. ページ右上の[保存して終了]を選択します。
[ボタンの作成]ページが閉じ、[DocuSign Gen テンプレート]ページが開きます。

以上の手順により、Gen テンプレートが、同じ Salesforce データソースを共有するエンベロープテンプレートに関連付けられました。

注: [**Salesforce** レコードの文書を添付する]オプションを使ってエンベロープテンプレートに文書を送信するときに、[文書]ステップで重複する文書が表示されるという問題が確認されています。この問題の回避策については、こちらを参照してください。

関連情報

Microsoft Word を使用して Gen テンプレートを作成する

DocuSign エンベロープテンプレートを編集または削除する

ここでは、既存のエンベロープテンプレートの名前の変更、編集、削除、所有者の変更を行う方法について説明します。

ここでは、既存のエンベロープテンプレートの名前の変更、編集、削除、所有者の変更を行う方法について説明します。

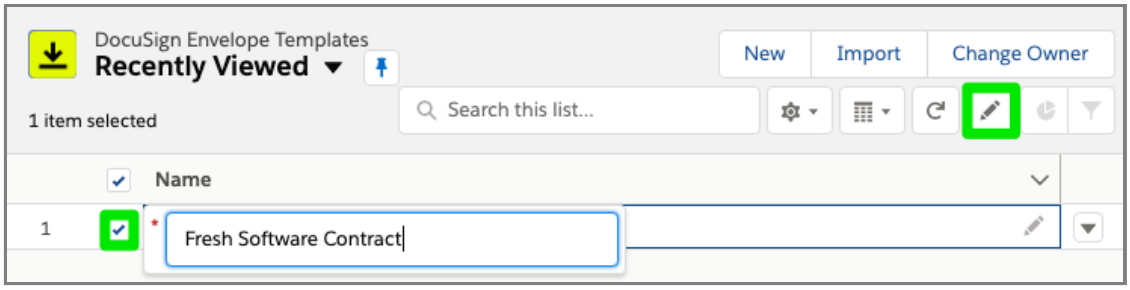
- テンプレートの名前を変更する
- テンプレートの詳細を編集する
- テンプレートを削除する
- テンプレートの所有者を変更する

エンベロープテンプレートの名前を変更する

エンベロープテンプレートの名前は、必要に応じて変更できます。以下の手順に従います。

エンベロープテンプレートの名前は、必要に応じて変更できます。以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として、[DocuSign セットアップ]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン()をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。[DocuSign セットアップ]ページが開きます。
2. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
3. テンプレート名の左にあるチェックボックスをオンにします。
4. ページ右上の[編集]を選択します。



テンプレートの[名前]がテキストボックスに表示されます。

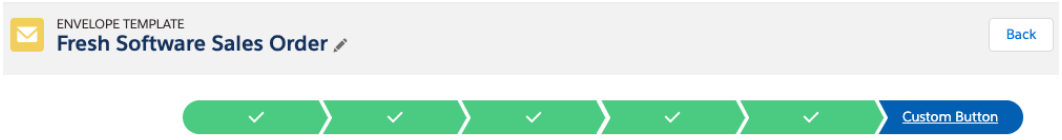
5. 新しいテンプレート名を入力します。
6. ページ下部の[保存]を選択します。
「変更内容が保存されました」というメッセージが表示されます。
以上の手順により、テンプレートの名前が変更されました。

エンベロープテンプレートを編集する

エンベロープテンプレートは、必要に応じて編集できます。以下の手順に従います。

エンベロープテンプレートは、必要に応じて編集できます。以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートを編集します。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
   d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
   e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印( )を選択します。
   f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
2. 編集するステップのタブを選択します。
   - 文書
   - 受信者
   - 文書へのフィールドの追加
   - オプションを設定する
   - カスタムボタン



3. 変更が完了したら、[保存して閉じる]ボタンを選択します。
以上の手順により、テンプレートが編集されました。

エンベロープテンプレートを削除する

エンベロープテンプレートは、必要に応じて削除できます。以下の手順に従います。

エンベロープテンプレートは、必要に応じて削除できます。以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートにアクセスします。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
   b. [すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign Apps Launcher]タイルを選択します。
   d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
   e. 編集する Gen テンプレートの右端にある下向き矢印( )を選択します。
   f. [削除]を選択します。

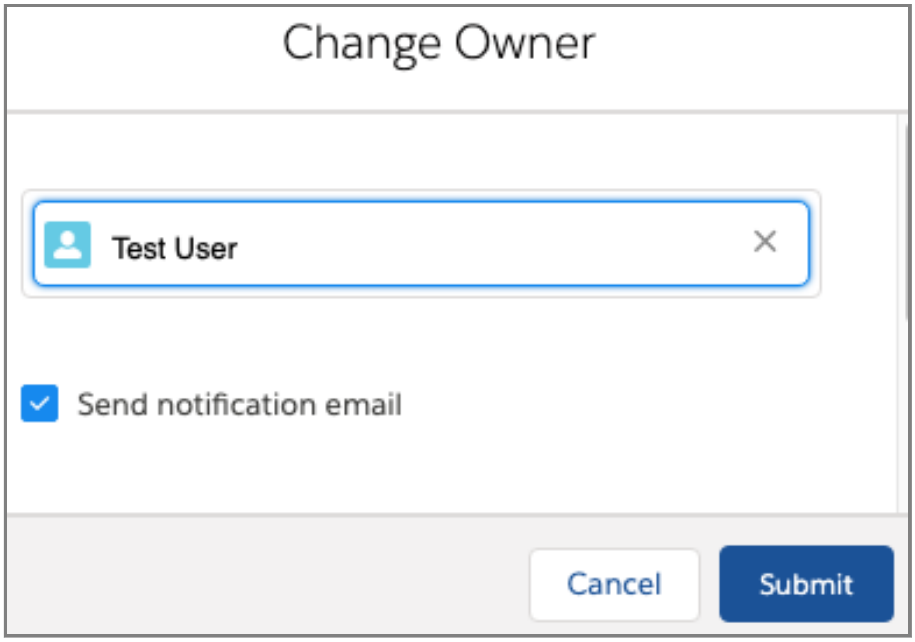
   ダイアログボックスが開き、「このエンベロープテンプレートを削除してもよろしいですか?」というメッセージが表示されます。
2. [削除]を選択します。
   「エンベロープテンプレートが削除されました」というメッセージが表示されます。
   以上の手順により、テンプレートが削除されました。

エンベロープテンプレートの所有者を変更する

エンベロープテンプレートの所有者は、必要に応じて変更できます。以下の手順に従います。

エンベロープテンプレートの所有者は、必要に応じて変更できます。以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートを編集します。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
   b. [すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign Apps Launcher]タイルを選択します。
   d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
   e. 編集する Gen テンプレートの右端にある下向き矢印( )を選択します。
   f. オプションから[所有者の変更]を選択します。[所有者の変更]ダイアログボックスが開きます。
2. 以下の情報を入力します。
   - ユーザーの検索: 別の Salesforce ユーザーの名前を入力します。
   - (オプション)メールで通知する: このチェックボックスをオンにすると、新しいテンプレートの所有者に通知メールが送信されます。
3. [送信]をクリックします。



所有者の変更についてのメッセージが表示されます。
以上の手順により、テンプレートの所有者が変更されました。

エンベロープに Salesforce 文書を追加する

標準の[DocuSign で送信]ボタンによる送信や、DocuSign Negotiate での送信で、エンベロープに Salesforce 内の文書を追加できます。

標準の[DocuSign で送信]ボタンによる送信や、DocuSign Negotiate での送信で、エンベロープに Salesforce 内の文書を追加できます。

次の表は、追加できる Salesforce ファイルのタイプを示しています。

プ

前	ファイルタイプ
書のアップロード	デバイスからファイルを追加します。
分が所有する	自分が所有者として登録されている Salesforce ファイルを追加します。
分に共有されている	ほかのユーザーが共有した Salesforce ファイルを追加します。
近の履歴	最近表示したファイルをレコードから追加します。
ォロー中	レコードでフォローしているファイルをすべて追加します。
イブラリ	Salesforce ライブラリにグループ化されているすべてのファイルを追加します。

Salesforce ファイルをエンベロープに追加するには、以下の手順に従います。

- 標準の[DocuSign で送信]ボタン
- DocuSign Negotiate での送信

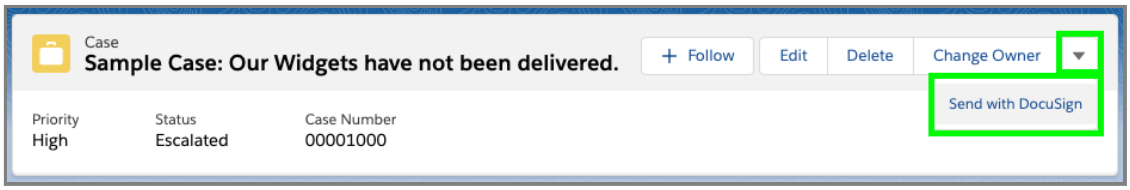
標準の[DocuSign で送信]エンベロープに Salesforce ファイルを追加する

標準の[DocuSign で送信]ボタンによる送信手順の[Salesforce から追加]ボタンにアクセスする方法について説明します。

標準の[DocuSign で送信]ボタンによる送信手順の[Salesforce から追加]ボタンにアクセスするには、以下の手順に従います。

1. Salesforce レコード([取引先]や[商談]など)を開きます。
2. ページ右上の[DocuSign で送信]を選択します。

   > **注:** 画面の幅によっては、ボタンバーの下向き矢印(▼)をクリックする必要があります。

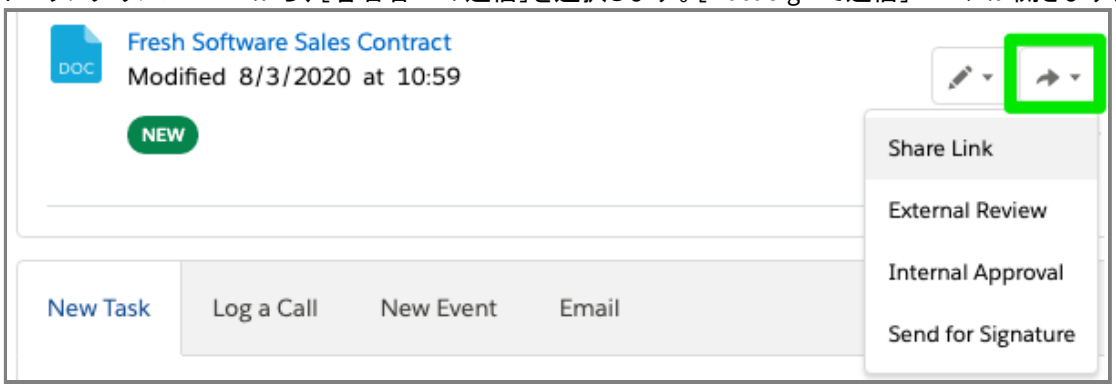
   [文書]ステップのページが開きます。
3. ページ右上の[Salesforce から追加]を選択します。
4. 以下のいずれかの方法を使用してファイルを追加します。
   - 文書のアップロード: デバイス上の文書を追加するには、このボタンを選択します。
   - 自分が所有する: 自分が所有者として登録されているファイルが表示されます。追加する文書のチェックボックスをオンにします。
   - 自分に共有されている: ほかのユーザーが共有している Salesforce ファイルが表示されます。追加する文書のチェックボックスをオンにします。
   - 最近の履歴: 最近表示したファイルが表示されます。追加する文書のチェックボックスをオンにします。
   - フォロー中: フォロー中のファイルが表示されます。追加する文書のチェックボックスをオンにします。
   - ライブラリ: Salesforce アセットライブラリが開きます。追加する文書のチェックボックスをオンにします。
5. [追加]を選択します。
   以上の手順により、標準の[DocuSign で送信]エンベロープに Salesforce ファイルが追加されました。

DocuSign Negotiate エンベロープに Salesforce ファイルを追加する

DocuSign Negotiate エンベロープに Salesforce ファイルを追加するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce レコード([取引先]や[商談]など)を開きます。

2. [DocuSign ファイル]セクションで、ファイル名の横にある[共有]( )を選択します。
3. ドロップダウンメニューから、[署名者への送信]を選択します。[DocuSign で送信]ページが開きます。



4. ページ右上の[Salesforce から追加]を選択します。
5. 以下のいずれかの方法を使用してファイルを追加します。
   - 文書のアップロード: デバイス上の文書を追加するには、このボタンを選択します。
   - 自分が所有する: 自分が所有者として登録されているファイルが表示されます。追加する文書のチェックボックスをオンにします。
   - 自分に共有されている: ほかのユーザーが共有している Salesforce ファイルが表示されます。追加する文書のチェックボックスをオンにします。
   - 最近の履歴: 最近表示したファイルが表示されます。追加する文書のチェックボックスをオンにします。
   - フォロー中: フォロー中のファイルが表示されます。追加する文書のチェックボックスをオンにします。
   - ライブラリ: Salesforce アセットライブラリが開きます。追加する文書のチェックボックスをオンにします。
6. [追加]を選択します。
   以上の手順により、DocuSign Negotiate エクスペリエンスのエンベロープに Salesforce 文書が追加されました。

エンベロープテンプレートのオプション: [文書]ステップ

ここでは、エンベロープテンプレート作成プロセスの[文書]ステップで使用できるオプションについて説明します。アップロードした文書をプレビューしたり、名前を変更したり、削除したりするためのオプションがあります。

ここでは、エンベロープテンプレート作成プロセスの[文書]ステップで使用できるオプションについて説明します。以下の内容が含まれています。

- アップロードした文書をプレビューする
- アップロードした文書の名前を変更する
- アップロードした文書を削除する

エンベロープテンプレートの[文書]ステップにアクセスするには

既存のエンベロープテンプレートの[文書]ステップにアクセスする手順について説明します。このステップでは、新しい文書のアップロードや、既存の文書のプレビュー、編集、削除を行うことができます。

[文書]ステップでは、既存のエンベロープテンプレートを編集できます。このステップでは、新しい文書のアップロードや、既存の文書のプレビュー、編集、削除を行うことができます。エンベロープテンプレートの[文書]ステップにアクセスするには、以下の手順に従います。

Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[文書]ページを開きます。

a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印( )を選択します。
f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
g. [文書]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。

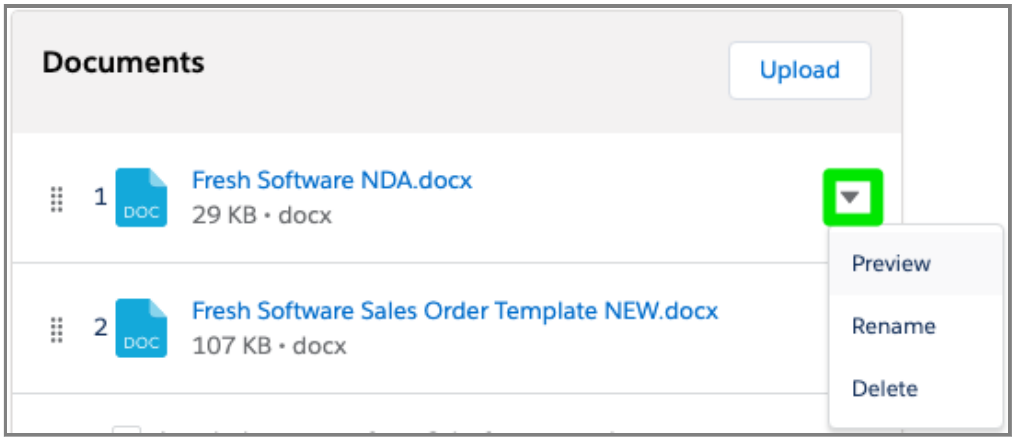
以上の手順により、既存のエンベロープテンプレートの[文書]ステップが表示されました。

エンベロープテンプレートにアップロードした文書をプレビューする

エンベロープテンプレートにアップロードした文書をプレビューする方法について説明します。

エンベロープテンプレートにアップロードした文書をプレビューする方法について説明します。

1. Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[文書]ページを開きます。
    a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
    b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
    c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
    d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
    e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印( )を選択します。
    f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
    g. [文書]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。
2. 文書の右にある矢印( )ドロップダウンメニューを開きます。
3. [文書のプレビュー]を選択します。



Web ブラウザーの新しいタブが開き、文書のプレビューが表示されます。

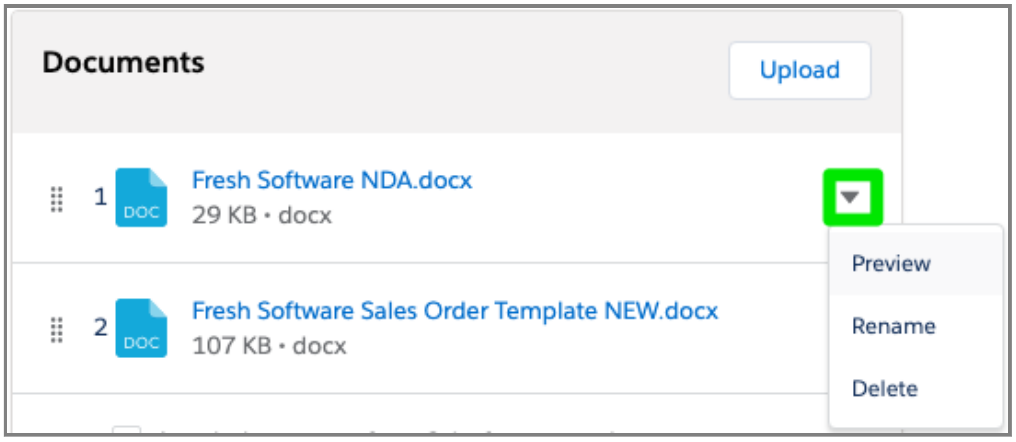
4. プレビュー上をクリックすると、プレビューが全画面表示になります。
5. プレビュー画面を閉じるには、右上の[X]を選択します。
   以上の手順により、アップロードされた文書のプレビューが表示されました。

エンベロープテンプレートにアップロードした文書の名前を変更する

エンベロープテンプレートにアップロードした文書の名前を変更する方法について説明します。

エンベロープテンプレートにアップロードした文書の名前を変更するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[文書]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
   d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
   e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印( )を選択します。
   f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
   g. [文書]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。
2. 文書の右にある矢印( )ドロップダウンメニューを開きます。
3. [名前の変更]を選択します。



[文書名の変更]ダイアログボックスが開きます。

4. 文書の新しい名前を入力します。
5. [名前の変更]をクリックします。
6. ページ右上にある[保存して閉じる]を選択します。
   以上の手順により、アップロードした文書の名前が変更されました。

エンベロープテンプレートにアップロードされた文書を削除する

エンベロープテンプレートに追加済みの文書は、必要に応じて削除できます。

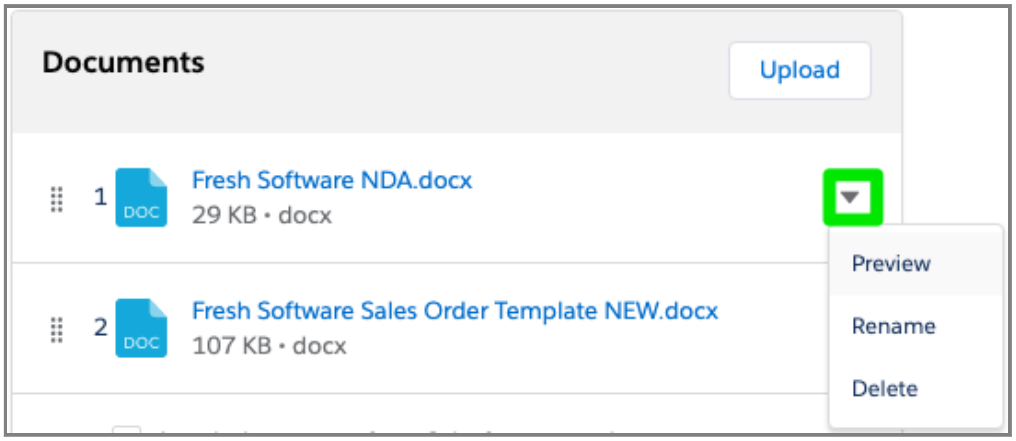
エンベロープテンプレートに追加済みの文書は、必要に応じて削除できます。

警告: 受信者に割り当て済みの署名フィールドを持つ文書をテンプレートから削除する場合は、それらのフィールドをテンプレート内の別の文書に追加し直す必要があります。
例: 署名者 **1** の署名フィールドが配置されている文書をテンプレートから削除する場合、エンベロープテンプレートの受信者リストから署名者 **1** を削除するか、署名者 **1** のフィールドをテンプレート内の別の文書に追加する必要があります。

エンベロープテンプレートから文書を削除するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[文書]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
   d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
   e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印( )を選択します。
   f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
   g. [文書]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。

2. 文書の右にある矢印(▼)ドロップダウンメニューを開きます。
3. [削除]を選択します。



文書が削除されます。

4. ページ右上にある[保存して閉じる]を選択します。
以上の手順により、アップロード済みの文書が削除されました。

エンベロープテンプレートのオプション: [受信者]ステップ

ここでは、エンベロープテンプレート作成プロセスの[受信者]ステップで使用できる

ここでは、エンベロープテンプレート作成プロセスの[受信者]ステップで使用できる以下のオプションについて説明します。

- エンベロープテンプレートの[受信者]ステップにアクセスするには
- エンベロープテンプレートの受信者タイプ
- エンベロープテンプレートの受信者アクションを変更する
- 受信者の送信オプション: アクセスコード、同席での署名、今すぐ署名、SMS など
- エンベロープテンプレートで受信者の詳細を編集する
- 関連リストの受信者にフィルターを適用する
- 受信者の署名順を変更する
- 受信者の署名順のフロー図を表示する
- 受信者に表示されるメールの件名とメッセージをカスタマイズする
- エンベロープテンプレートから受信者を削除する
- [配信]オプションを使用してメールやテキストメッセージ(SMS)で eSignature for Salesforce エンベロープを送信する
- 差し込みフィールドを使って受信者のメールアドレスと名前をオブジェクトから追加する
- 差出人オプションを使用して差出人を受信者として追加する
- エンベロープテンプレートに同席で署名する受信者を追加する
- [今すぐ署名]オプションによるエンベロープ送信直後の差出人による署名

エンベロープテンプレートの[受信者]ステップにアクセスするには

既存のエンベロープテンプレートの[受信者]ステップにアクセスする手順について説明します。このステップでは、受信者を追加、編集、および削除できます。さらに、メールの件名やメッセージを変更したり、署名順のフロー図を表示したりできます。

[受信者]ステップでは、既存のエンベロープテンプレートを編集できます。このステップでは、受信者を追加、編集、および削除できます。さらに、メールの件名やメッセージを変更したり、署名順のフロー図を表示したりできます。エンベロープテンプレートの[受信者]ステップにアクセスするには、以下の手順に従います。

Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[受信者]ページを開きます。

a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン()をクリックします。
b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印()を選択します。
f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
g. [受信者]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。

以上の手順により、既存のエンベロープテンプレートの[受信者]ステップが表示されました。

エンベロープテンプレートの受信者タイプ

エンベロープテンプレートには、さまざまなタイプの受信者を追加できます。受信者の追加は、Salesforce または DocuSign からインポートしたり、手入力したりして行います。

エンベロープやエンベロープテンプレートには、さまざまなタイプの受信者を追加できます。受信者の追加は、Salesforce または DocuSign からインポートしたり、手入力したりして行います。

追加できる受信者のタイプは以下のとおりです。

表 1. 受信者のタイプ

受信者のタイプ	説明
参照項目	Salesforce レコードから受信者を動的に追加できます。 例: [所有者]を選択すると、レコードの所有者の名前とメールアドレスが動的に追加されます。 テンプレートの Salesforce データソース([取引先]や[商談]など)に関連するフィールドのみが表示されます。

受信者のタイプ	説明
関連リスト	Salesforce のオブジェクトに関連するフィールドを選択できます。 例: 取引先の取引責任者関連リストや商談の **OpportunityContactRole** など。 この受信者タイプでは、受信者が関連リストからエンベロープに動的に追加されます。 テンプレートの Salesforce データソース（[取引先]や[商談]など）にすでに関連付けられているフィールドのみが表示されます。
ユーザー/取引先責任者	Salesforce のユーザーや取引先責任者から特定のユーザーを追加できます。 このユーザーは動的に追加されることはありません。
差出人	エンベロープの差出人を受信者として追加します。 この差出人は、レコードでエンベロープテンプレートのカスタムボタンを選択したユーザーです。
ロール	追加する受信者の名前やタイプが未定の場合は、汎用的な受信者（例:「承認者」など）をプレースホルダーとして追加します。 差出人は、エンベロープを送信するときに実際の受信者の名前やタイプを指定します。 ここで特定の受信者の名前やメールアドレスを追加することもできます。
署名グループ	組織の DocuSign アカウントから署名グループを追加します。 グループ内のいずれかの受信者が、署名者としてそのエンベロープの署名プロセスを完了させることができます。

関連情報

エンベロープテンプレートの[受信者]ステップにアクセスするには

エンベロープテンプレートの受信者アクション

DocuSign のエンベロープテンプレートから作成したエンベロープの受信者に設定できるアクションについて説明します。

エンベロープやエンベロープテンプレートでは、受信者にさまざまなアクションを割り当てることができます。

以下のタイプのアクションがあります。

表 1. 受信者アクション

アクションタイプ	説明
署名が必要	受信者はエンベロープに署名をする必要があります。
埋め込み署名者	開発者は Web ページに DocuSign の署名フィールドを埋め込むことができます。
文書のコピーを受信	受信者はエンベロープのコピーを受け取ります。署名などのアクションは必要ありません。
表示が必要	受信者は文書を開く必要があります。署名する必要はありません。
受信者の指定	受信者は別の受信者の名前とメールアドレスを指定してエンベロープを転送できます。自分と同じまたはそれ以降の署名順の受信者を指定できます。
編集を許可	差出人と同じレベルの完全な編集権限を持つ役割をほかのユーザーに付与します。 この受信者は、エンベロープの修正機能を使用する場合と同様に、エンベロープのすべての設定を編集できます。 この受信者にはフィールドは割り当てられません。

アクションタイプ	説明
同席する署名者	受信者がホストと同席して文書に署名します。 署名セッションの進行役（ホスト）が署名した後で、各署名者がホストのデバイスで署名を行います。 すべての署名者がその場に同席する必要があります。

関連情報

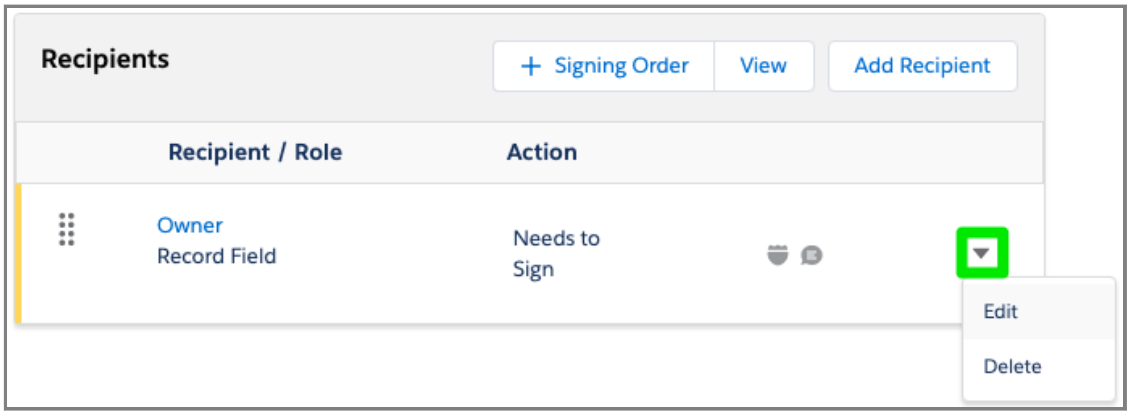
エンベロープテンプレートの[受信者]ステップにアクセスするには

エンベロープテンプレートの受信者アクションを変更する

エンベロープテンプレートでは、受信者にさまざまなアクションを割り当てることができます。

エンベロープテンプレートの受信者アクションを変更するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[受信者]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
   d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
   e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印( )を選択します。
   f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
   g. [受信者]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。
2. 受信者名の右端にある矢印( )ドロップダウンメニューを開きます。
3. [編集]をクリックします。



4. [アクション]ドロップダウンメニューを選択します。
5. リストからアクションを選択します。
6. [追加]をクリックしてアクションを保存します。[受信者の追加]ダイアログボックスが閉じます。
7. ページ右上にある[保存して閉じる]を選択します。
   以上の手順により、受信者アクションが追加または変更されました。

関連情報

エンベロープテンプレートの[受信者]ステップにアクセスするには

受信者の送信オプション: アクセスコード、同席での署名、今すぐ署名、SMS など

エンベロープに受信者を設定するときに、役割、アクセスコード、フィルター、プライベートメッセージ、同席での署名、SMS、今すぐ署名などのオプションを追加する方法について説明します。

エンベロープやエンベロープテンプレートに受信者を追加するときに、さまざまなオプションを設定できます。

次の表は、受信者に設定できるオプションのタイプとアクションを示しています。

表 1. 受信者オプション

オプションのタイプ	説明
役割の追加	差出人が後で名前やメールアドレスを指定できるようにするためのプレースホルダー(「承認者」など)を追加します。
フィルターの追加	特定の条件フィルターに基づいて受信者を追加します。 このオプションは、[関連リスト]の受信者タイプを選択した場合にのみ表示されます。
差出人をホストにする	エンベロープの差出人が、同席での署名セッションのホストになります。 署名セッションの進行役(ホスト)が署名した後で、各署名者がホストのデバイスで署名を行います。 このオプションは、受信者に[同席する署名者]アクションを選択した場合にのみ表示されます。
ホストの名前	同席での署名セッションをホストする DocuSign ユーザーの名前を入力します。 このフィールドは、[差出人をホストにする]チェックボックスをオフにした場合にのみ表示されます。
ホストのメールアドレス	同席での署名セッションの進行役になる DocuSign ユーザーのメールアドレスを入力します。 このフィールドは、[差出人をホストにする]チェックボックスをオフにした場合にのみ表示されます。
送信後に署名を開始する(今すぐ署名)	エンベロープを送信した直後に差出人の署名プロセスが開始されます。 このオプションは、以下の場合にのみ表示されます。 • 受信者タイプに[差出人]を選択し、アクションに[署名が必要]を選択した場合 • そのほかの受信者タイプ([ユーザー/取引先責任者]、[役割の指定]など)を選択し、アクションに[同席する署名者]を選択した場合
配信	このドロップダウンメニューには、[メール]と[メールと SMS]のオプションが表示されます。 [配信]メニューは、[SMS での文書送信を許可する]と[モバイルデバイス上での署名を許可する]が有効になっているユーザーにのみ表示されます。 これらの機能を有効にするには、DocuSign アカウントマネージャーに問い合わせる必要があります。
Email	受信者にメールでエンベロープを送信します。

オプションのタイプ	説明
メールと SMS	最大 4 人の受信者にメールとテキストメッセージでエンベロープを送信します。
アクセス認証の追加	このリンクを選択すると、[SMS/電話]と[アクセスコード]のオプションが表示されます。
SMS/電話	受信者のモバイルデバイスにアクセスコードを送信し、署名プロセスのセキュリティを強化します。
アクセスコード	署名プロセスを開始するときに受信者が入力しなければならないコードを作成します。 受信者には、メールやほかのメッセージングプラットフォームを使用してコードを別途通知する必要があります。
プライベートメッセージの追加	特定の受信者またはグループのみに宛てたメッセージを追加します。
名前とメールアドレスの追加	受信者の名前とメールアドレスを入力します。 このオプションは、[役割の指定]の受信者タイプを選択した場合にのみ表示されます。

関連情報

エンベロープテンプレートの[受信者]ステップにアクセスするには

エンベロープテンプレートの受信者に送信オプションを追加する

エンベロープテンプレートに受信者を設定するときに、役割、アクセスコード、フィルター、プライベートメッセージ、同席での署名、SMS、今すぐ署名などのオプションを追加する方法について説明します。

[受信者の追加]ダイアログボックスでは、受信者にカスタムオプションを追加できます。

エンベロープテンプレートに受信者オプションを追加するには、以下の手順に従います。

> **注:** エンベロープを送信するときの[受信者]ステップでこの手順を実行することもできます。

1. Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[受信者]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン()をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
   d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
   e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印()を選択します。
   f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
   g. [受信者]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。
2. 更新する受信者の名前を選択します。
   [受信者の追加]ダイアログボックスが開きます。
3. 以下の手順を実行して、受信者のオプションを追加します。

- 役割の追加: 差出人が後で名前やメールアドレスを指定できるようにするためのプレースホルダー(「承認者」など)を追加します。
- 配信
  - メール: 受信者にメールでエンベロープを送信します。
  - メールと SMS: 最大 4 人の受信者にメールとテキストメッセージでエンベロープを送信します。

  > 注: このオプションは、[SMS での文書送信を許可する]と[モバイルデバイス上での署名を許可する]が有効になっている場合にのみ表示されます。

- フィルターの追加: 特定の条件フィルターに基づいて受信者を追加します。
- 差出人をホストにする: エンベロープの差出人が、同席での署名セッションのホスト(進行役)になります。
- 送信後に署名を開始する(今すぐ署名): エンベロープを送信した直後に差出人の署名プロセスが開始されます。
- 名前とメールアドレスの追加: 受信者の名前とメールアドレスを指定します。
- アクセス認証の追加
  - SMS/電話: 受信者のモバイルデバイスにアクセスコードを送信し、署名プロセスのセキュリティを強化します。
  - アクセスコード: 署名プロセスを開始するときに受信者が入力しなければならないコードを作成します。
- プライベートメッセージの追加: 特定の受信者またはグループのみに宛てたメッセージを追加します。

4. [追加]を選択します。
   [受信者の追加]ダイアログボックスが閉じます。
5. [保存して閉じる]を選択します。

以上の手順により、エンベロープテンプレートの受信者アクションが追加または編集されました。

関連情報

エンベロープテンプレートの[受信者]ステップにアクセスするには

エンベロープテンプレートで受信者の詳細を編集する

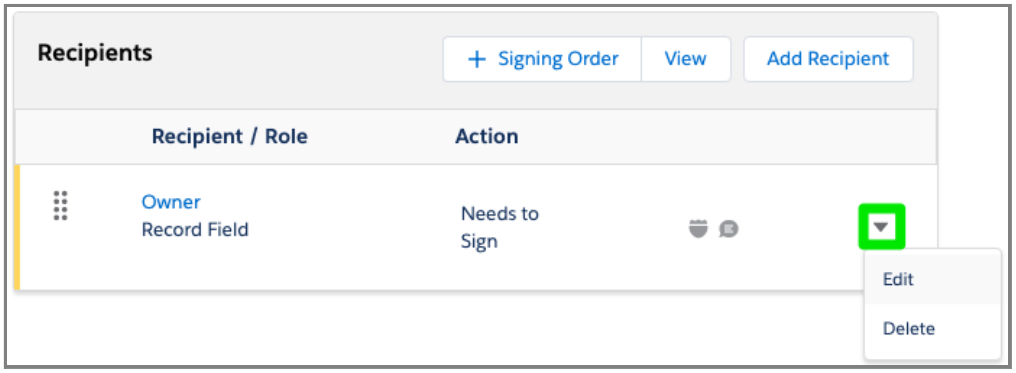
必要に応じて、既存のエンベロープテンプレートの受信者の詳細を編集できます。

既存のエンベロープテンプレートで受信者の詳細を編集するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[受信者]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
   d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
   e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印( )を選択します。
   f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。

g. [受信者]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。

2. 受信者名の右端にある矢印(▼)ドロップダウンメニューを開きます。
3. [編集]を選択します。



[受信者の追加]ダイアログボックスが開きます。

> 注: また、受信者名(「所有者」など)を選択してその詳細を編集することもできます。

4. 受信者の詳細や割り当てたアクションを編集します。
5. [追加]を選択します。[受信者の追加]ダイアログボックスが閉じます。
6. ページ右上にある[保存して閉じる]を選択します。
以上の手順により、受信者の詳細が編集されました。

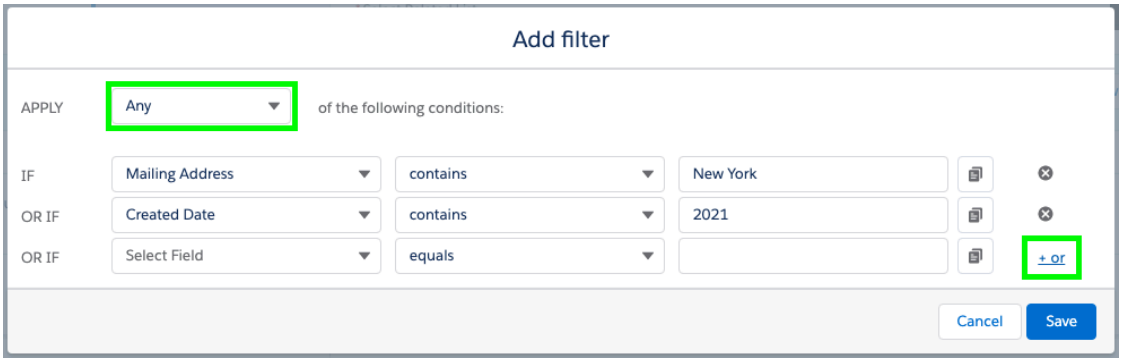
エンベロープテンプレートで関連リストの受信者にフィルターを適用する

DocuSign エンベロープテンプレートの[受信者の追加]ダイアログボックスでは、関連リスト受信者に適用されるフィルターを設定できます。これにより、特定の条件を満たした場合にのみ、関連リストの受信者をエンベロープに追加できるようになります。

DocuSign エンベロープテンプレートの[受信者の追加]ダイアログボックスでは、関連リスト受信者に適用されるフィルターを設定できます。これにより、Salesforce レコードで特定の条件を満たした場合にのみ、関連リストの受信者をエンベロープに追加できるようになります。

以下の 2 種類のフィルターを設定できます。

- いずれか:「OR」ステートメント。条件のいずれか 1 つが満たされた場合にフィルターが適用されます。



- すべて:「AND」ステートメント。すべての条件が満たされた場合にのみフィルターが適用されます。

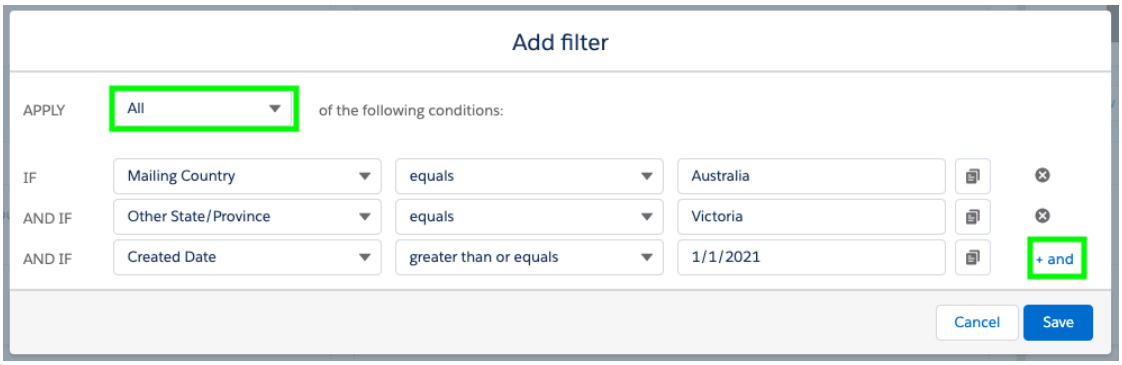


表 1. [フィルターの追加]ダイアログボックスのアイコン

アイコン	名前	アクション
	行のコピー	その条件のコピーが追加されます。
	行の削除	その条件が削除されます。
+ or	+ または	新しい空白の「OR」条件が追加されます。
+ and	+ および	新しい空白の「AND」条件が追加されます。

表 2. [フィルターの追加]ダイアログボックスのオプション

名前	アクション
すべて	設定したすべての条件が満たされた場合に関連リストの受信者を追加するためのフィルター
いずれか	設定した条件のいずれかが満たされた場合に関連リストの受信者を追加するためのフィルター
次と等しい	Salesforce フィールドの値が、指定した値よりも小さい場合に真(数値、日付、通貨)
次を含んでいる	Salesforce フィールドの値に、指定した値が含まれている場合に真
次で始まる	Salesforce フィールドの値の冒頭が、指定した値と一致する場合に真
次で終わる	Salesforce フィールドの値の末尾が、指定した値と一致する場合に真
次と等しくない	Salesforce フィールドの値が、指定した値と異なる場合に真

名前	アクション
次より大きい	Salesforce フィールドの値が、指定した値より大きい場合に真（数値、日付、通貨）
次より小さい	Salesforce フィールドの値が、指定した値より小さい場合に真（数値、日付、通貨）
次の値以下	Salesforce フィールドの値が、指定した値と同じまたはそれ以下の場合に真（数値、日付、通貨）
次の値以上	Salesforce フィールドの値が、指定した値と同じまたはそれ以上の場合に真（数値、日付、通貨）
適用	[いずれか]/[すべて]ドロップダウンメニューのヘッダー
条件	最初の条件
または	追加の「OR」条件
かつ	追加の「IF」条件

関連情報

エンベロープテンプレートの[受信者]ステップにアクセスするには

エンベロープテンプレートの受信者の署名順を変更する

エンベロープテンプレートの受信者の署名順を変更できます。これにより、署名プロセスを完了させるためのエンベロープの送信順序（ルーティング順序）を変更できます。

エンベロープテンプレートの受信者の署名順を変更できます。

これにより、署名プロセスを完了させるためのエンベロープの送信順序（ルーティング順序）を変更できます。

受信者をドラッグしたり順番（1、2、3 など）を変更したりして署名順を変更できます。

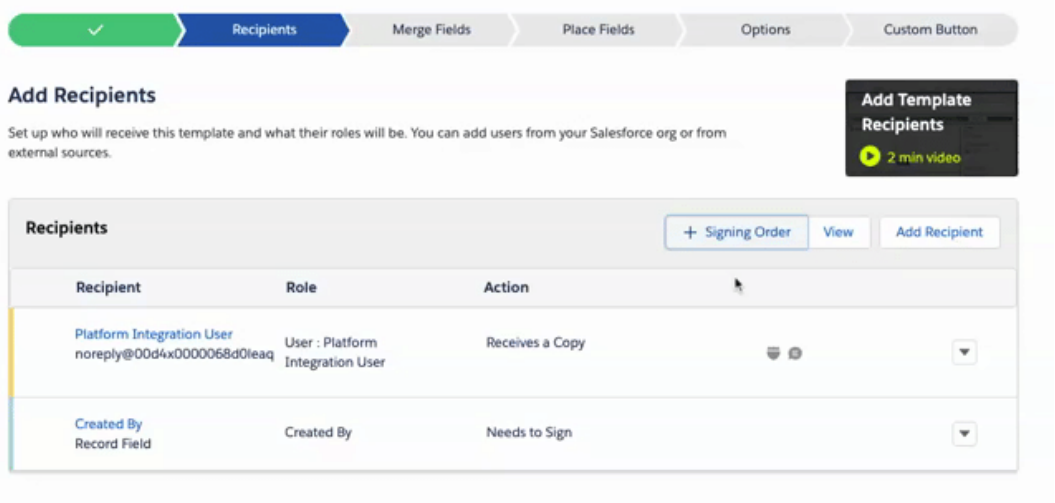
エンベロープテンプレートでは、複数の受信者に同じ署名順を設定したり、特定の署名順を設定せずにエンベロープを送信したりできます。

既存のエンベロープテンプレートの受信者の署名順を変更するには、以下の手順に従います。

> **注:** エンベロープを送信するときの[受信者]ステップでこの手順を実行することもできます。

1. Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[受信者]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン（）をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
   d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
   e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印（）を選択します。
   f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
   g. [受信者]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。
2. [署名順]を選択します。

3. 以下のいずれかの操作を行います。
   - 受信者をドラッグする: 受信者を選択してリスト内で上下にドラッグします。
   - 受信者の順番を変更する: 受信者の左側のボックスに新しい順番を入力します。



4. ページ右上にある[保存して閉じる]を選択します。
   以上の手順により、受信者の署名順が変更されました。

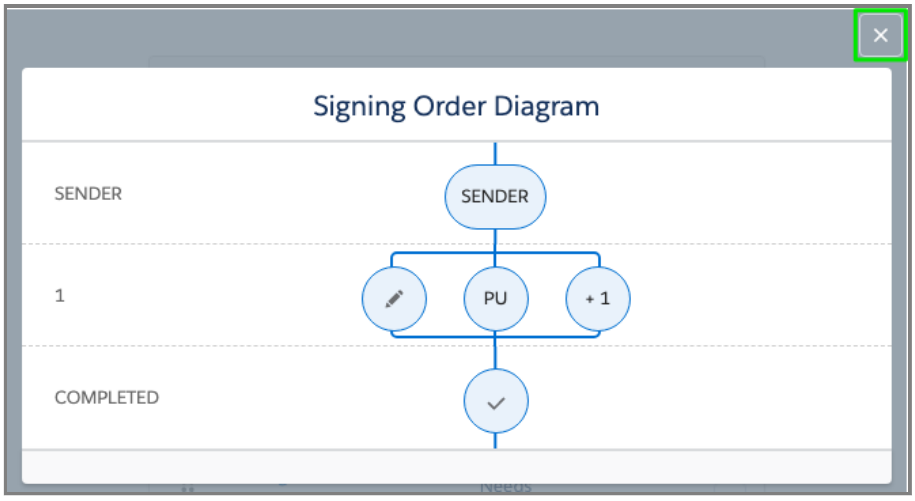
受信者の署名順のフロー図を表示する

[表示]を選択すると、受信者の署名順の開始から完了までのフロー図が表示されます。これにより、管理者は署名プロセスの大まかな流れを確認できます。

[表示]を選択すると、受信者の署名順の開始から完了までのフロー図が表示されます。これにより、管理者は署名プロセスの大まかな流れを確認できます。

ここでは、既存のエンベロープテンプレートの署名順のフロー図を表示する手順について説明します。

1. Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[受信者]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
   d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
   e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印( )を選択します。
   f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
   g. [受信者]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。
2. [表示]を選択します。
   [署名順のフロー図]ダイアログボックスが開きます。
3. ダイアログボックスの右上にある[X]を選択してダイアログボックスを閉じます。



4. [保存して閉じる]を選択して、テンプレートを閉じます。
以上の手順により、署名順のワークフロー図が表示されました。

受信者に送信されるメールの件名とメッセージをカスタマイズする

エンベロープテンプレートの[受信者]ステップで、受信者に送信されるメールの件名やメッセージを編集できます。

エンベロープテンプレートを作成するときに、すべての受信者宛てのメール件名およびメッセージとしてデフォルトのものが設定されます。エンベロープテンプレートの[受信者]ステップで、受信者に送信されるメールの件名やメッセージを編集できます。
既存のエンベロープテンプレートでメールの件名やメッセージを編集するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[受信者]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
   d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
   e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印( )を選択します。
   f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
   g. [受信者]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。
2. 必要に応じてカスタマイズします。
   - メールの件名: メールの件名を 100 文字以内で入力します。
   - メールメッセージ: メールのメッセージを 2,000 文字以内で入力します。
3. ページ右上にある[保存して閉じる]を選択します。
以上の手順により、受信者用のメッセージがカスタマイズされました。

エンベロープテンプレートから受信者を削除する

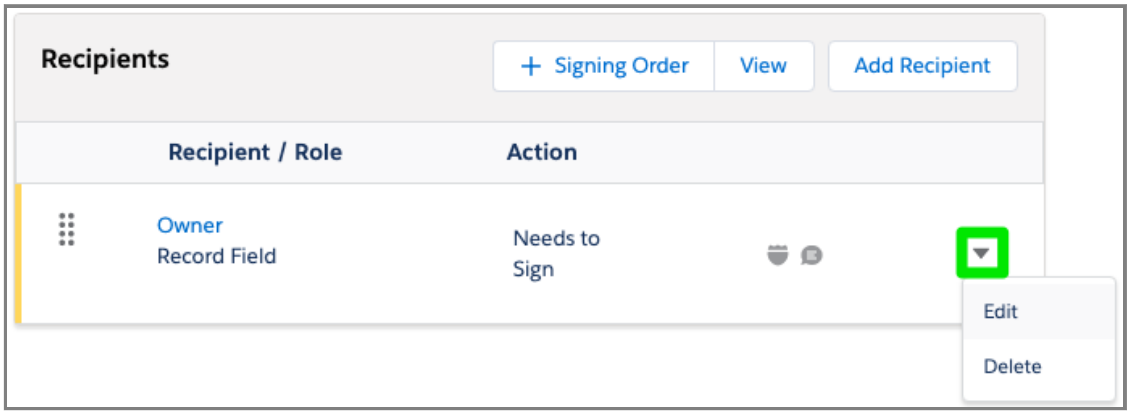
管理者は、必要に応じて、既存のエンベロープテンプレートから受信者を削除できます。

管理者は、必要に応じて、既存のエンベロープテンプレートから受信者を削除できます。

警告: 文書上のフィールドが割り当てられている受信者を削除する場合、それらのフィールドを文書から削除するか、別の受信者に再割り当てする必要があります。
例: エンベロープテンプレートから署名者 **1** を削除します。テンプレートの文書 **1** には、署名者 1 に割り当てられた[署名]フィールドが追加されています。この署名者 **1** のフィールドを文書 **1** から削除するか、別の受信者に再割り当てしないと、署名プロセスが正しく完了しなくなります。

既存のエンベロープテンプレートから受信者を削除するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[受信者]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
   d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
   e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印( )を選択します。
   f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
   g. [受信者]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。
2. 受信者名の右端にある矢印( )ドロップダウンメニューを開きます。
3. [削除]を選択します。



受信者がページに表示されなくなります。

4. ページ右上にある[保存して閉じる]を選択します。
以上の手順により、テンプレートから受信者が削除されました。

[配信]オプションを使用してメールやテキストメッセージ（SMS）で eSignature for Salesforce エンベロープを送信する

[メールと SMS]機能を有効にする方法、およびその機能を使用してテキストメッセージでエンベロープを送信する方法について説明します。

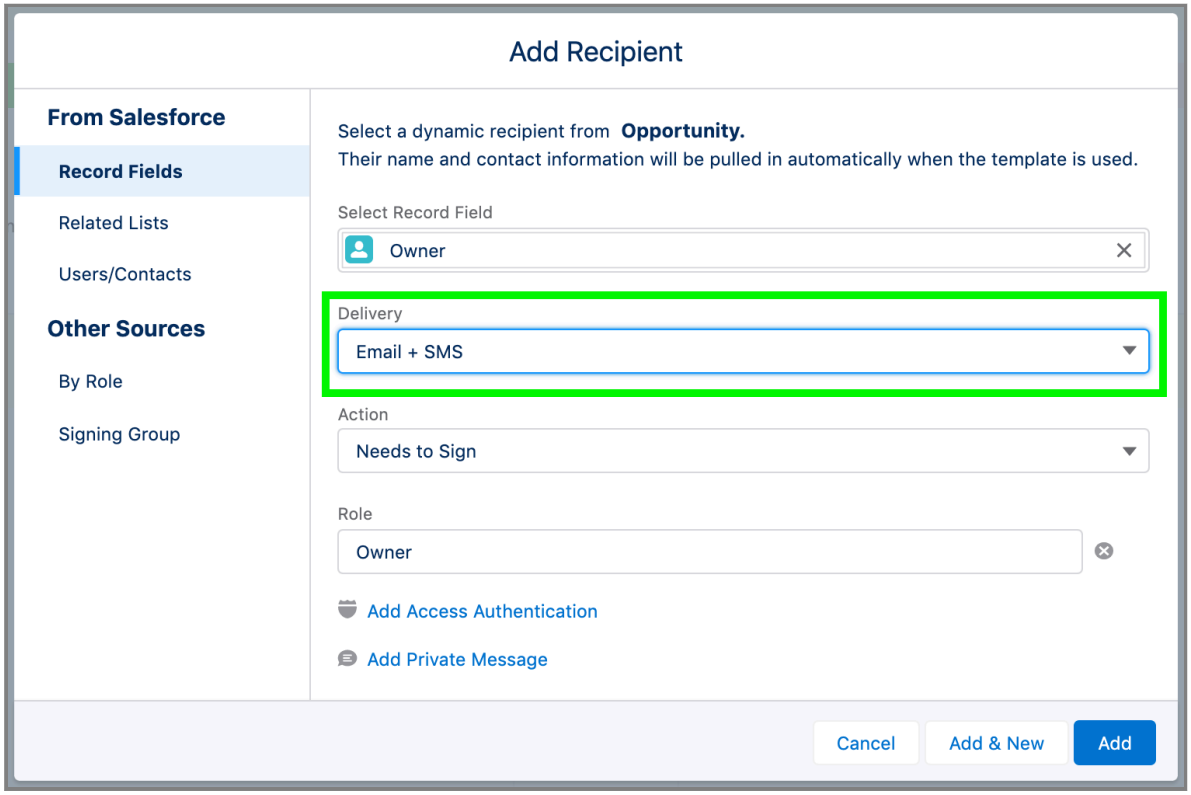
[メールと SMS]オプションを使用すると、テキストメッセージで受信者にエンベロープを送信できます。

SMS による配信は有料の機能であり、DocuSign アカウントマネージャーが次のオプションを有効にすることによって使用可能になります。

- SMS での文書送信を許可する
- モバイルデバイス上での署名を許可する

これらの設定を有効にできるのは、DocuSign アカウントマネージャーのみです。

これにより、エンベロープまたはエンベロープテンプレートの[受信者の追加]ステップに[配信]ドロップダウンメニューが表示されます。



SMS に関するガイドライン:

- [メールと SMS]は、エンベロープについて最大 4 人の受信者に指定できます。5 人以上の SMS 受信者を追加しようとすると、「**SMS** の受信者は **4** 人までに制限されています」というエラーメッセージが表示されます。
- 電話番号が保存済みの動的な受信者（連絡先など）に対しては、電話番号を入力する必要はありません。

- メールを送信せずに SMS メッセージのみを送信することはできません。
- [メールと SMS]は、以下のアクションを割り当てた受信者に対してのみ使用できます。
  - 署名が必要
  - 表示が必要
  - 文書のコピーを受信
- メールと SMS による配信を選択した場合、[アクセス認証の追加]フィールドに選択できるのは[アクセスコード]のみです。
- DocuSign 署名グループに対してメールと SMS による配信を選択することはできません。

SMS 番号の形式:

以下の形式の電話番号を使用できます。

- 9251111111(国コードとしてデフォルトの 1 が適用される)
- +1 9251111111
- +1 925-111-1111
- +1 (925)-111-1111

注: これ以外の形式の番号を入力すると、エラーメッセージが表示されます。受信者をエンベロープやテンプレートに保存するときに、番号の形式を修正してください。

SMS の国コードの形式:

- 国コードと電話番号の間にはスペースを入力する必要があります。
- Salesforce では、顧客の電話番号が以下の 2 つの形式で保存されています。
  - 米国およびカナダ:「+1 電話番号」形式
  - そのほかの地域:「+国番号 電話番号」形式
- 国コードの形式に誤りのある電話番号を入力すると、国コードとして自動的に 1 が追加されます。
- [メールと SMS]を[役割の指定]受信者([ユーザー/取引先責任者]以外)に追加する場合は、「+1 電話番号」形式である必要があります。

エンベロープ受信者に[メールと SMS]オプションを追加するには、以下の手順に従います。

エンベロープテンプレートの受信者に SMS(テキストメッセージ)配信オプションを追加する

エンベロープテンプレートの受信者に[メールと SMS]オプションを追加する方法について説明します。

ここでは、エンベロープテンプレートの受信者に[メールと SMS]オプションを追加する方法について説明します。

> **注:** エンベロープを送信するときの[受信者]ステップでこの手順を実行することもできます。

1. Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[受信者]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン()をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
   d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
   e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印()を選択します。
   f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
   g. [受信者]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。
2. 受信者タイプに応じて、[メールと SMS]オプションを設定します。
   - 参照項目: [配信]ドロップダウンメニューから[メールと SMS]を選択します。
   - 関連リスト: [配信]ドロップダウンメニューから[メールと SMS]を選択します。
   - ユーザー/取引先責任者:
     - 配信:ドロップダウンメニューから[メールと SMS]を選択します。
     - 電話番号: 受信者の電話番号を入力します。
   - 役割の指定:
     - 配信:ドロップダウンメニューから[メールと SMS]を選択します。
     - 名前: 必要に応じて、受信者の名前を入力します。
     - メール: 必要に応じて、受信者のメールアドレスを入力します。
     - 電話番号: 必要に応じて、受信者の電話番号を入力します。

   > **注:** [メールと SMS]は、エンベロープについて最大 4 人の受信者に指定できます。

3. いずれかの保存オプションを選択します。
   - 追加して新規作成: 受信者を保存して、別の受信者を追加します。
   - 追加: 受信者を保存してダイアログボックスを閉じます。

以上の手順により、エンベロープテンプレートの受信者に[メールと SMS]オプションが追加されました。ユーザーがこのテンプレートからエンベロープを送信すると、受信者はテキストメッセージとメールを受け取ります。受信者は、いずれかの方法を使用してエンベロープを開きます。

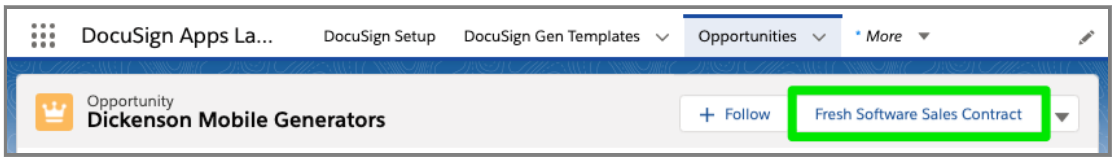
エンベロープの受信者に SMS 配信オプションを追加する

エンベロープの受信者に[メールと SMS]オプションを追加する方法について説明します。

ここでは、エンベロープの受信者に[メールと SMS]オプションを追加する方法について説明します。

1. Salesforce レコード([取引先]や[商談]など)を開きます。

2. ページ右上のエンベロープテンプレートのカスタムボタンを選択します。
   ボタンの名前は管理者によって設定されています。画面の幅によっては、ボタンバーの下向き矢印(▼)をクリックする必要があります。



   [文書]ページが開き、管理者が追加した文書が表示されます。
3. ページ右上の[次へ]を選択します。
   [受信者]ステップのページが開きます。
4. 受信者の名前を選択します。
   [受信者の追加]ダイアログボックスが開きます。
5. 配信:ドロップダウンメニューから[メールと SMS]を選択します。

> **注:** [配信]メニューは、アカウントで[SMS での文書送信を許可する]が有効になっている DocuSign ユーザーにのみ表示されます。

6. 電話番号: 必要に応じて、受信者の電話番号を入力します。
7. [追加]を選択します。
   [受信者の追加]ダイアログボックスが閉じます。

以上の手順により、エンベロープの受信者に[メールと SMS]オプションが追加されました。ユーザーがこのテンプレートからエンベロープを送信すると、受信者はテキストメッセージとメールを受け取ります。受信者は、いずれかの方法を使用してエンベロープを開きます。DocuSign と Salesforce のフィールドを追加してエンベロープを送信し、送信プロセスを完了します。

差し込みフィールドを使って受信者のメールアドレスと名前をオブジェクトから追加する

差し込みフィールド(Salesforce では「差し込み項目」と呼ばれます)構文を使用して、DocuSign エンベロープテンプレートに[役割の指定]受信者を追加できます。

差し込みフィールド(Salesforce では「差し込み項目」と呼ばれます)構文を使用して、DocuSign エンベロープテンプレートに[役割の指定]受信者を追加できます。

差し込みフィールド構文では、Salesforce の標準オブジェクトやカスタムオブジェクトから受信者の名前やメールアドレスを動的に追加できます。

参照関係で差し込みフィールド構文を使用して、関連オブジェクトから受信者を追加することもできます。

一般に、差し込みフィールド構文を使用して以下の受信者を追加します。

- ユーザー
- 取引先責任者
- リード
- 商談オブジェクトの取引先所有者

これらのオブジェクトでエンベロープテンプレートボタンを選択すると、レコードから受信者の名前とメールアドレスが取得されます。

注: [参照項目]オプションを使用すると、差し込みフィールド構文を使用せずに、ユーザー、取引先責任者、およびリードから受信者を追加することができます。差し込みフィールド構文は、カスタムボタンと同じオブジェクトから受信者名とメールアドレスを取得する場合に使用します。例: 取引先責任者レイアウト上のエンベロープテンプレートボタンにより、取引先責任者オブジェクトから名前とメールアドレスを取得します。

以下のフィールド構文を使用できます。

表 1. ユーザー、取引先責任者、リードの構文

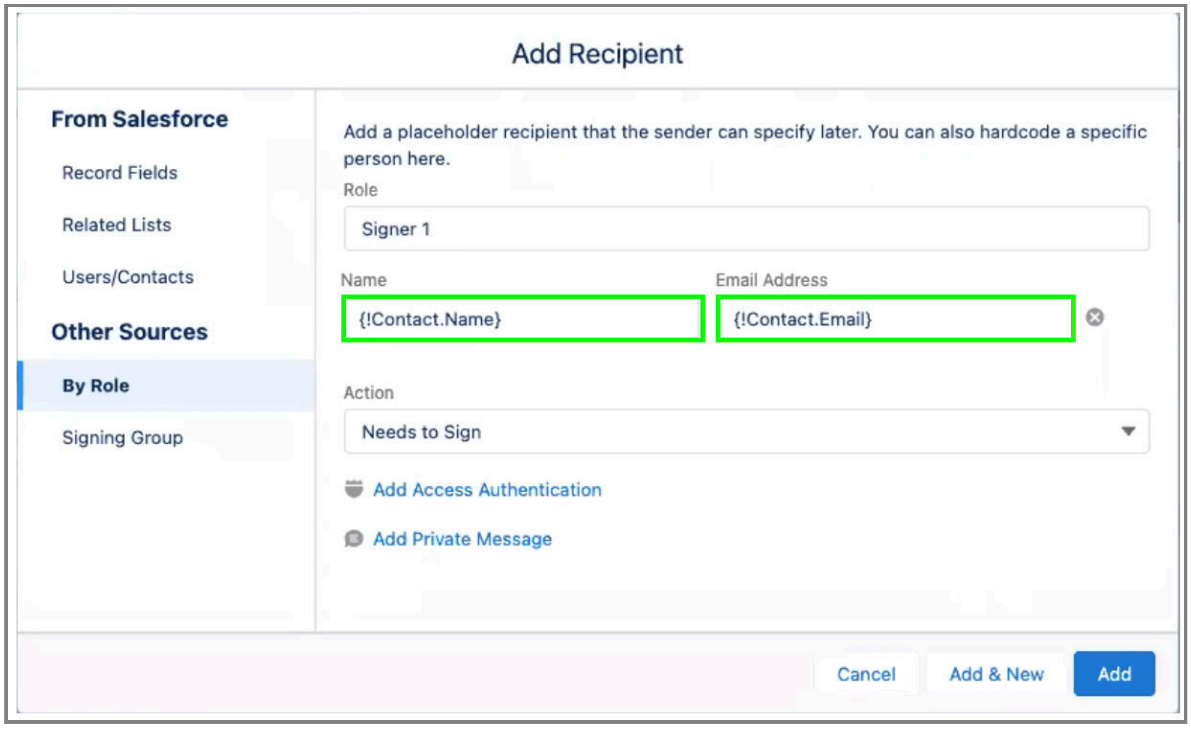
差し込みフィールド構文	**Action**
{!User.Name}	Salesforce ユーザー名を指定します。
{!User.Email}	Salesforce ユーザーのメールアドレスを指定します。
{!Contact.Name}	Salesforce 取引先責任者名を指定します。
{!Contact.Email}	Salesforce 取引先責任者のメールアドレスを指定します。
{!Lead.Name}	Salesforce リード名を指定します。
{!Lead.Email}	Salesforce リードのメールアドレスを指定します。

表 2. 参照関係の構文

差し込みフィールド構文	**Action**
{!Account.Owner.Name}	Salesforce 取引先所有者名を指定します。
{!Account.Owner.Email}	Salesforce 取引先所有者のメールアドレスを指定します。
{!Opportunity.Owner.Name}	Salesforce 商談所有者名を指定します。
{!Opportunity.Owner.Email}	Salesforce 商談所有者のメールアドレスを指定します。
{!Opportunity.LastModifiedBy.Name}	レコードを最後に修正した Salesforce ユーザーの名前を指定します。
{!Opportunity.LastModifiedBy.Email}	レコードを最後に修正した Salesforce ユーザーのメールアドレスを指定します。
{!Opportunity.Account.Owner.Name}	商談取引先所有者の名前を指定します。
{!Opportunity.Account.Owner.Email}	商談取引先所有者のメールアドレスを指定します。

注: 差し込みフィールド構文を使用すると、親オブジェクトや参照オブジェクトのカスタムフィールドから受信者を追加することもできます。

下図は、構文を使用して Salesforce 取引先責任者を追加する[役割の指定]受信者の例です。



Salesforce 差し込みフィールド構文の使用について詳しくは、こちらを参照してください。

以下の手順を実行すると、エンベロープテンプレート受信者に差し込みフィールド構文を追加するには、以下の手順に従います。

差し込みフィールド構文を使用してエンベロープに[役割の指定]受信者を追加する

エンベロープテンプレートの[役割の指定]受信者に差し込みフィールド構文を追加する方法について説明します。

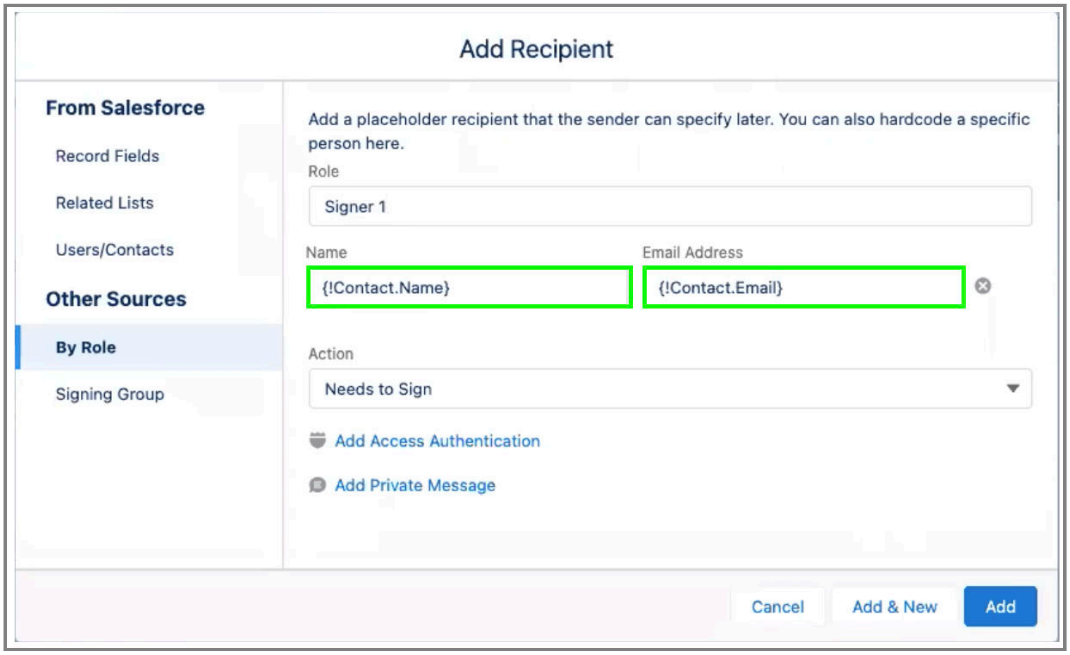
ここでは、エンベロープテンプレートの[役割の指定]受信者に差し込みフィールド構文を追加する方法について説明します。

1. Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[受信者]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
   d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
   e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印( )を選択します。
   f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
   g. [受信者]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。
2. 受信者名の横の矢印( )ドロップダウンメニューを開きます。
3. [編集]を選択します。

> **注:** また、受信者名(「所有者」など)を選択してその詳細を編集することもできます。

[受信者の追加]ダイアログボックスが開きます。

4. [受信者の追加]ダイアログボックスで、以下の操作を行います。
   a. 左側の列にある[役割の指定]を選択します。
   b. 役割: 受信者の役割を入力します(例:「Signer 1」)。
   c. 名前とメールアドレスの追加: 差し込みフィールド構文を追加するためのリンクを選択します。
   d. 名前: オブジェクトの名前の差し込みフィールド構文を追加します(例: Salesforce の取引責任者の場合は{!Contact.Name})。
   e. メールアドレス: オブジェクトのメールアドレスの差し込みフィールド構文を追加します(例: Salesforce の取引責任者の場合は{!Contact.Email})。
   f. [追加]を選択して受信者を保存し、ダイアログボックスを閉じます。



以上の手順により、Salesforce ユーザー、取引責任者、リードのエンベロープテンプレートに[役割の指定]受信者が追加されます。ユーザーがレコードでこのエンベロープテンプレートを選択すると、受信者の名前とメールアドレスが動的に追加されます。

差出人オプションを使用して差出人を受信者として追加する

差出人オプションを使用して、エンベロープの差出人を受信者として動的に追加する方法について説明します。

エンベロープやエンベロープテンプレートには、受信者タイプとして[差出人]を指定できます。これにより、エンベロープの差出人が受信者リストに動的に追加されます。この差出人は、Salesforce レコードでエンベロープテンプレートのカスタムボタンを選択したユーザーです。

受信者タイプとして[差出人]を指定する場合は、以下の点を考慮してください。

- 署名順のいずれの位置にも設定できます。
- [差出人]を選択すると、[同席する署名者]アクションは無効になります。
- [差出人]を選択すると、[配信]オプション([SMS]または[メールと SMS])は無効になります。
- 署名順の最初に設定した場合、[今すぐ署名]オプションが設定可能になります。
- [今すぐ署名]が有効な差出人受信者は、送信後に署名セッションを開始できます。

ここでは、エンベロープの差出人をエンベロープテンプレートに受信者として動的に追加する方法について説明します。

1. Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[受信者]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン()をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
   d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
   e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印()を選択します。
   f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
   g. [受信者]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。
2. 更新する受信者の名前を選択します。
   [受信者の追加]ダイアログボックスが開きます。
3. [受信者の追加]ダイアログボックスで、以下の操作を行います。
   a. 左側の列にある[差出人]を選択します。
   b. アクション:ドロップダウンリストから、受信者に割り当てるアクション([署名が必要]など)を選択します。
   c. (オプション)送信後に署名を開始する(今すぐ署名):このチェックボックスをオンにすると、エンベロープを送信した直後に差出人の署名プロセスが開始されます。

      > **注:** このオプションは、アクションとして[署名が必要]を選択した場合にのみ表示されます。

   d. [追加]を選択します。

   [受信者の追加]ダイアログボックスが閉じます。
4. [保存して閉じる]を選択します。

以上の手順により、エンベロープテンプレート受信者に[差出人]オプションが追加されました。差出人がこのテンプレートを使用してエンベロープを作成すると、その差出人が受信者として動的に追加されます。[今すぐ署名]が選択されている場合は、エンベロープを送信した直後に差出人の署名プロセスが開始されます。

エンベロープテンプレートに同席で署名する受信者を追加する

同席での署名機能を使用して、複数の受信者による署名セッションを作成する方法について説明します。この署名セッションでは、すべての署名者が同席する必要があります。

エンベロープテンプレートの受信者に[同席での署名]アクションを割り当てるには、以下の手順に従います。

同席で署名する複数の署名者を追加する場合、すべての署名者がその場に同席する必要があります。

署名セッションの進行役(ホスト)がエンベロープを開き、各署名者がホストのデバイスで署名を行います。

[同席する署名者]アクションを割り当てる場合は、以下の点を考慮してください。

- 署名セッションのホストは、DocuSign eSignature for Salesforce ユーザーである必要があります。
- 署名順のいずれの位置にも設定できます。
- 同席する署名者が DocuSign ユーザーである必要はありません。
- 同じエンベロープに通常の署名者や受信者([署名が必要]、[文書のコピーを受信]アクションなど)を追加できます。
- 署名者名は、[参照項目]、[関連リスト]、[ユーザー/取引先責任者]、および[役割の指定]で指定できます。
- 受信者に[同席する署名者]アクションを割り当てると、[差出人]、または[ホストの名前]と[ホストのメールアドレス]ボックスが表示されます。
- [SMS]配信を設定することはできません。
- [同席する署名者]受信者を署名順の最初に設定した場合、[今すぐ署名]オプションが設定可能になります。
- 署名順の 2 番目以降の署名者に[今すぐ署名]オプションを設定することはできません。
- [ホストの名前]と[ホストのメールアドレス]ボックスでは、差し込みフィールドを使用できます。

例:

顧客の社長と財務部長に来社してもらい、契約書に署名してもらいます。

自分は DocuSign ユーザーであり、「同席する署名者」用のエンベロープテンプレートを作成しました。

自分が署名セッションをホストして、顧客に手順を説明しながら署名プロセスを進めます。

文書への署名時に顧客から質問があれば回答します。

各署名者には自分のタブレットを渡して署名を依頼します。

複雑な契約書を 1 回の短いセッションで説明し、署名を完了します。

エンベロープテンプレートの受信者に[同席する署名者]アクションを割り当てるには、以下の手順に従います。

> **注:** エンベロープを送信するときの[受信者]ステップでこの手順を実行することもできます。

1. Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[受信者]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。

c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印(▼)を選択します。
f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
g. [受信者]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。

2. 更新する受信者の名前を選択します。
[受信者の追加]ダイアログボックスが開きます。
3. [受信者の追加]ダイアログボックスで、以下の操作を行います。
a. アクション:ドロップダウンメニューから[同席する署名者]を選択します。
b. 必要に応じて、以下の操作を行ってセッションのホストを指定します。
i. [差出人をホストにする]チェックボックスをオフにします。
ii. ホストの名前: 同席での署名セッションの進行役になる DocuSign ユーザーの名前を入力します。
iii. ホストのメールアドレス: 同席での署名セッションの進行役になる DocuSign ユーザーのメールアドレスを入力します。

> **注:** Salesforce の差し込みフィールド(Salesforce では「差し込み項目」と呼ばれます)を使用して、Salesforce の標準オブジェクトやカスタムオブジェクトからホストの名前やメールアドレスを動的に追加することもできます。

c. エンベロープの送信直後に同席での署名セッションを開始する場合は、[送信後に署名を開始する(今すぐ署名)]チェックボックスをオンにします。
d. [追加]を選択します。
[受信者の追加]ダイアログボックスが閉じます。
4. 必要に応じて、[受信者の追加]を選択して同席する署名者を追加します。
5. 必要に応じて、[署名順]で各署名者に署名する順番を指定します。
6. [保存して閉じる]を選択します。

以上の手順により、エンベロープテンプレートの受信者に[同席する署名者]オプションが追加されました。DocuSign ユーザーは、署名セッションのホストとして署名者の署名作業を支援します。
関連情報

同席での署名

[今すぐ署名]オプションによるエンベロープ送信直後の差出人による署名

[今すぐ署名]オプションを使用して、エンベロープの送信直後に差出人による署名セッションを開始する方法について説明します。

[送信後に署名を開始する(今すぐ署名)]オプションを使用すると、エンベロープの送信直後に差出人による署名セッションが自動的に開始されます。差出人がエンベロープの受信者でもある場合は、これにより差出人の署名プロセスが簡略化されます。

[送信後に署名を開始する(今すぐ署名)]オプションを使用する場合は、以下の点を考慮してください。

- このオプションは、受信者に[同席する署名者]アクションを割り当てた場合にのみ表示されます。
- [署名順]を有効にした場合、このオプションは直前の受信者の[今すぐ署名]が有効になっているときにのみ表示されます。
- 署名順の最初の受信者の[今すぐ署名]を無効にした場合、後続の受信者に対して[今すぐ署名]オプションを使用することはできません。
- [署名順]を無効にした場合は、任意の[同席する署名者]受信者に[今すぐ署名]オプションを追加できます。

エンベロープテンプレート受信者に[送信後に署名を開始する(今すぐ署名)]オプションを追加するには、以下の手順に従います。

> **注:** エンベロープを送信するときの[受信者]ステップでこの手順を実行することもできます。

1. Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[受信者]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
   d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
   e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印( )を選択します。
   f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
   g. [受信者]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。
2. 更新する受信者の名前を選択します。
   [受信者の追加]ダイアログボックスが開きます。
3. [アクション]ドロップダウンメニューから[同席する署名者]を選択します。
4. [送信後に署名を開始する(今すぐ署名)]チェックボックスをオンにします。
5. [追加]を選択します。
6. [保存して閉じる]を選択します。

以上の手順により、エンベロープテンプレート受信者に[送信後に署名を開始する(今すぐ署名)]オプションが追加されました。[今すぐ署名]が選択されている場合は、エンベロープを送信した直後に差出人の署名プロセスが開始されます。

エンベロープテンプレートのオプション: [差し込みフィールド]ステップ

エンベロープテンプレート作成プロセスの[差し込みフィールド]ステップでは、多くのオプションを設定できます。

ここでは、エンベロープテンプレート作成プロセスの[差し込みフィールド]ステップで使用できるフィールドタイプと設定可能なオプションについて説明します。以下の内容が含まれています。

- エンベロープテンプレートの[フィールドの配置]ステップにアクセスするには
- エンベロープテンプレートで差し込みフィールドのリレーションを使用する
- DocuSign エンベロープテンプレートの差し込みフィールドのタイプ
- 差し込みフィールドを編集する
- 差し込みフィールドを削除する

エンベロープテンプレートの[フィールドの配置]ステップにアクセスするには

エンベロープテンプレートの差し込みフィールドを追加、編集、または削除できます。ここでは、既存のエンベロープテンプレートでこれらの操作を行う方法について説明します。

エンベロープテンプレートに差し込みフィールドを追加したり、既存のものを編集または削除したりするには、以下の手順に従います。

Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[差し込みフィールド]ページを開きます。

a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印( )を選択します。
f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
g. [差し込みフィールド]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。

以上の手順により、既存のエンベロープテンプレートの[差し込みフィールド]ステップが表示されました。

エンベロープテンプレートで差し込みフィールドのリレーションを使用する

差し込みフィールドでは、ソースオブジェクトに対して最大 4 レベルのリレーションにアクセスできます。ソースオブジェクト→フィールド、ソースオブジェクト→参照→フィールド、ソースオブジェクト→子→フィールド、ソースオブジェクト→参照→参照→フィールド、およびソースオブジェクト→子→参照→フィールドのリレーションが可能です。

リレーション: エンベロープテンプレートでは、ソースオブジェクト([取引先]や[商談]など)に関連付けられている差し込みフィールドを作成できます。

[商談]をソースオブジェクトとして使用しているエンベロープテンプレートには、[取引先]と[商談]のフィールド(項目)は表示されますが、[ケース]のフィールドは表示されません。

差し込みフィールドでは、ソースオブジェクトに対して最大 4 レベルのリレーションにアクセスできます。以下のリレーションが可能です。

- ソースオブジェクト→フィールド
- ソースオブジェクト→参照→フィールド
- ソースオブジェクト→子→フィールド
- ソースオブジェクト→参照→参照→フィールド
- ソースオブジェクト→子→参照→フィールド

重要: 日付入力タイプを使用しないでください。このタイプのフィールドは、[差し込みフィールドの追加]ダイアログボックスの[その他のオプション]>[検証]メニューに表示されます。国や地域によって異なる日付形式を正しく表示できないという問題があります。この問題は、次回以降のリリースで解決される予定です。

関連情報

エンベロープテンプレートの[フィールドの配置]ステップにアクセスするには

DocuSign エンベロープテンプレートの差し込みフィールドのタイプ

ここでは、[差し込みフィールド]ダイアログボックスで使用できるオプションについて説明します。

ここでは、[差し込みフィールド]ダイアログボックスで使用できるオプションについて説明します。

表 1. フィールドのプロパティ

フィールドのプロパティオプション	説明
Salesforce への書き戻しを許可する	署名者が差し込みフィールドのデータを変更すると、その変更内容が Salesforce レコードに書き戻されます。この書き戻しは、特定のエンベロープイベント(エンベロープの完了やエンベロープの送信など)が発生したときに実行されます。1 フィールドあたり、最大で 255 文字の値を書き戻しできます。
差出人に編集を許可する	差出人に Salesforce の差し込みフィールドデータの編集を許可します。
必須フィールド	このチェックボックスをオンにすると、そのフィールドへの署名者による入力が必須になります。これにより、エンベロープへの署名が完了したときに、対応する Salesforce レコードのフィールドが常に更新されるようになります。
署名者に対して読み取り専用にする	署名者がフィールドを編集できなくなります。

表 2. その他のオプション(フィールド)

オプションのタイプ	説明
ツールヒント	差出人宛ての説明や指示などを入力します(「お客様の請求先住所が自動的に追加されます」など)。
アンカーテキスト	差し込みフィールドを自動的に配置するための文書上のキーワードを入力します。
[検証]ドロップダウンメニュー	署名者がそのフィールドに入力するデータのタイプが検証されます。

オプションのタイプ	説明
• 検証なし	フィールドには任意のテキストを入力できるようになります。
• メール	入力したテキストがメールアドレス形式かどうかが検証されます。
• 数字	数字のみが入力可能になります。
• 日付	入力したテキストが日付形式かどうかが検証されます。
• SSN	入力したテキストが、米国社会保障番号形式（xxx-xx-xxxx）かどうかが検証されます。
エラーメッセージ	検証機能を有効にした場合のみ表示され、不正な入力が検証されたときに表示するカスタムエラーメッセージを入力します。

表 3. その他のオプション（条件付きフィールド）

選択した差し込みフィールドのタイプ	設定可能なオプション
選択リスト（picklist）	アンカーテキスト
ブール値（boolean）	ツールヒント、アンカーテキスト
文字列（string）	ツールヒント、アンカーテキスト、検証 Salesforce への書き戻しを許可する（最大 100 文字）
テキスト領域 （textarea）	ツールヒント、アンカーテキスト、検証 Salesforce への書き戻しを許可する（最大 255 文字）

関連情報

エンベロープテンプレートの［フィールドの配置］ステップにアクセスするには
エンベロープイベントによる Salesforce フィールドの自動更新

エンベロープテンプレートの差し込みフィールドを編集する

エンベロープテンプレートの差し込みフィールドの詳細は、必要に応じて編集できます。

エンベロープテンプレートの差し込みフィールドの詳細は、必要に応じて編集できます。
エンベロープテンプレートの差し込みフィールドを編集するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの［差し込みフィールド］ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある［アプリケーションランチャー］アイコン（）をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから［すべて表示］リンクを選択します。
   c. ［DocuSign アプリケーションランチャー］タイルを選択します。

d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印(▼)を選択します。
f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
g. [差し込みフィールド]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。

2. [名前]列で差し込みフィールドの名前を選択します。[差し込みフィールドの編集]ダイアログボックスが開きます。
3. 差し込みフィールドのオプションを編集します。
4. [保存]を選択します。[差し込みフィールドの編集]ダイアログボックスが閉じます。「差し込みフィールドが更新されました」というメッセージが表示されます。
5. ページ右上にある[保存して閉じる]を選択します。
以上の手順により、差し込みフィールドが編集されました。

エンベロープテンプレートの差し込みフィールドを削除する

既存のエンベロープテンプレートの差し込みフィールドは、必要に応じて削除できます。

エンベロープテンプレートの差し込みフィールドは、必要に応じて削除できます。
エンベロープテンプレートの差し込みフィールドを削除するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[差し込みフィールド]ページを開きます。
a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン(▦)をクリックします。
b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印(▼)を選択します。
f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
g. [差し込みフィールド]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。
2. 差し込みフィールド名の右端にある矢印(▼)ドロップダウンメニューを開きます。
3. [削除]を選択します。
[この差し込みフィールドを削除してよろしいですか?]ダイアログボックスが開きます。
4. [削除]を選択します。
「差し込みフィールドが削除されました」というメッセージが表示されます。ダイアログボックスが閉じます。
以上の手順により、差し込みフィールドが削除されました。

エンベロープテンプレートのオプション: [フィールドの配置] ステップ

エンベロープテンプレート作成プロセスの[フィールドの配置]のステップでは、多くのオプションを設定できます。フィールドの配置アクション(コピー、貼り付け、元に戻す、やり直す、拡大)、eSignature フィールドオプションのカスタマイズ、新規カスタムフィールドの作成、[アクション]ボタンの使用、受信者プレビューアクションの使用などがあります。

ここでは、エンベロープテンプレート作成プロセスの[フィールドの配置]ステップで使用できるフィールドタイプと設定可能なオプションについて説明します。以下の内容が含まれています。

- エンベロープテンプレートの[フィールドの配置]ステップにアクセスするには
- エンベロープテンプレートに追加するフィールドのカテゴリと機能
- sqm1596607417112.html
- qpi1597294213248.html
- フィールド配置アクション: コピー、貼り付け、元に戻す、やり直す、拡大
- カスタムフィールド機能を使用してエンベロープテンプレートに新しいフィールドを作成する
- [フィールドの配置]のオプション: [アクション]ボタン
- 受信者のプレビューアクション: 表示形式とデバイスに応じた表示
- [フィールドの配置]アクション: [サムネイル]メニュー
- 自動配置テキストを使用して受信者のフィールドを自動配置するには
- eSignature for Salesforce エンベロープの文書に自動配置テキストを追加する

エンベロープテンプレートの[フィールドの配置]ステップにアクセスするには

既存のエンベロープテンプレートの[フィールドの配置]ステップにアクセスする手順について説明します。フィールドの配置アクション(コピー、貼り付け、元に戻す、やり直す、拡大)、eSignature フィールドオプションのカスタマイズ、新規カスタムフィールドの作成、[アクション]ボタンの使用、受信者プレビューアクションの使用などがあります。

[フィールドの配置]ステップでは、既存のエンベロープテンプレートを編集できます。フィールドの配置アクション(コピー、貼り付け、元に戻す、やり直す、拡大)、eSignature フィールドオプションのカスタマイズ、新規カスタムフィールドの作成などが可能です。
エンベロープテンプレートの[フィールドの配置]ステップにアクセスするには、以下の手順に従います。

Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[フィールドの配置]ページを開きます。

a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印( )を選択します。
f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
g. [フィールドの配置]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。

以上の手順により、既存のエンベロープテンプレートの[フィールドの配置]ステップが表示されました。

エンベロープテンプレートに追加するフィールドのカテゴリと機能

エンベロープテンプレート作成プロセスの[フィールドの配置]ページでは、標準の eSignature フィールドだけでなく、さまざまなカテゴリのフィールドを文書上に追加できます。たとえば、Salesforce 項目の差し込みフィールドや公証人フィールドを追加したり、カスタムフィールドを作成したりできます。

エンベロープテンプレートプロセスの[フィールドの配置]ページでは、標準の eSignature フィールドだけでなく、さまざまなカテゴリのフィールドを文書上に追加できます。たとえば、Salesforce 項目の差し込みフィールドや公証人フィールドを追加したり、カスタムフィールドを作成したりできます。

次の表は、文書に追加できるフィールドのカテゴリを示しています。

ゴリと機能

ボタン	フィールドのタイプ	機能
	標準フィールド	署名、イニシャル、署名日などの標準の DocuSign フィールドです。
	カスタムフィールド	ラジオボタン、チェックボックス、数式などのフィールドのプロパティをカスタマイズして、名前を付けて保存できます。
	差し込みフィールド	Salesforce 内のデータにリンクされたフィールドです。
	公証人フィールド	公証人が署名者と同席して署名するためのフィールドです。
	e シールフィールド	文書の出所と整合性を保証する法人向けの e シールを追加します。
	スマートセクション	スマートフォンなどの小さい画面用に折りたたんだり展開したりできるテキストブロックを設定します。

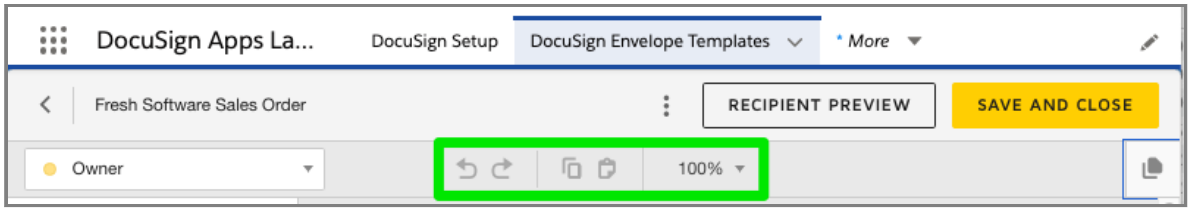
関連情報

エンベロープテンプレートのオプション: [フィールドの配置]ステップ

フィールド配置アクション: コピー、貼り付け、元に戻す、やり直す、拡大

[フィールドの配置]ページのアクションメニューを使用して、文書上に配置した署名フィールドを操作できます。

[フィールドの配置]ページのアクションメニューを使用して、文書上に配置した署名フィールドを操作できます。



以下のオプションを使用できます。

表 1. フィールドの配置アクション

ボタン	ボタン名	アクション
	元に戻す	フィールドに対して最後に実行したアクションを元に戻します。
	やり直す	フィールドに対して最後に実行したアクションをやり直します。
	コピー	選択したフィールドをコピーします。
	貼り付け	コピーしたフィールドを貼り付けます。
100%	拡大	文書の表示を拡大/縮小します。

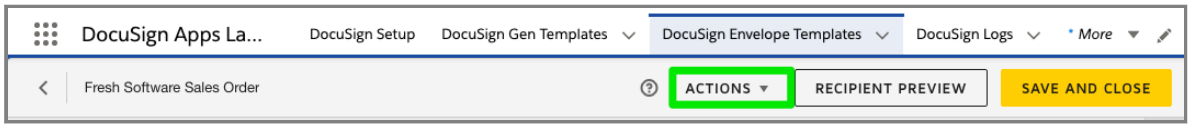
関連情報

エンベロープテンプレートのオプション: [フィールドの配置]ステップ

[フィールドの配置]のオプション: [アクション]ボタン

文書上にフィールドを追加する画面では、[アクション]ドロップダウンメニューから DocuSign と Salesforce のオプションを選択できます。

文書上にフィールドを追加する画面では、[アクション]ドロップダウンメニューから DocuSign と Salesforce のオプションを選択できます。



以下のオプションを使用できます。

表 1. [アクション]ドロップダウンメニューのオプション

メニュー項目	アクション
変更の破棄	フィールドの追加画面で実行したすべての変更を破棄します。
削除	エンベロープテンプレートとすべての添付文書を削除します。
メッセージの編集	受信者に表示されるメールの件名とメールメッセージを変更します。

メニュー項目	アクション
受信者の編集	既存の受信者の詳細や割り当てるアクションを編集したり、新しい受信者を追加したりできます。
文書の編集	アップロード済みの文書の表示、置き換え、ダウンロード、名前の変更、または削除、新しい文書のアップロード、または通常の文書（署名用の文書）から補足文書（付属的な資料）への切り替えを行います。

関連情報

エンベロープテンプレートのオプション: [フィールドの配置]ステップ

受信者のプレビューアクション: 表示形式とデバイスに応じた表示

文書上にフィールドを追加する画面では、[アクション]ドロップダウンメニューから DocuSign と Salesforce のオプションを選択できます。

文書上にフィールドを追加する画面では、[アクション]ドロップダウンメニューから DocuSign と Salesforce のオプションを選択できます。

以下のオプションを使用できます。

クション

ボタン	名前	アクション
Owner	表示形式	ドロップダウンメニューを使って、所有者または受信者としてプレビューします。
	デスクトップ表示	コンピューターで表示したときの文書をプレビューします。
	タブレット表示	タブレットで表示したときの文書をプレビューします。
	モバイル表示	モバイルデバイスで表示したときの文書をプレビューします。
	コメントの表示	文書の下部までスクロールしてコメントを表示します。
	閉じる	プレビュー画面を閉じてフィールドの追加画面に戻ります。

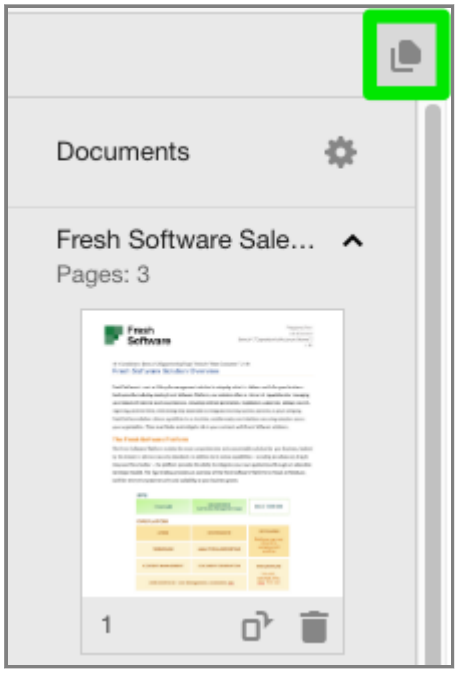
関連情報

エンベロープテンプレートのオプション: [フィールドの配置]ステップ

[フィールドの配置]アクション: [サムネイル]メニュー

[フィールドの配置]ページの[サムネイル]ボタンを使用すると、テンプレート文書の各ページのサムネイルプレビューを表示できます。また、[フィールドの配置]ステップで実行できるアクションのメニューにアクセスすることもできます。

[フィールドの配置]ページの[サムネイル]ボタン( )を使用すると、テンプレート文書の各ページのプレビューを表示できます。また、[フィールドの配置]ステップで実行できるアクションのメニューにアクセスすることもできます。

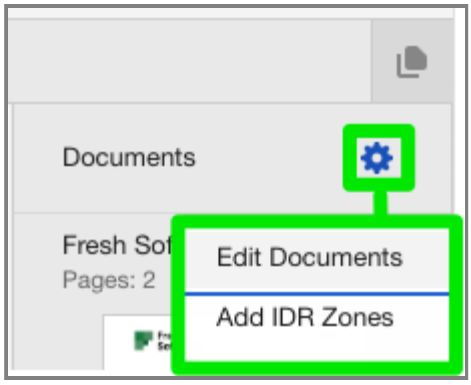


[サムネイル]メニューでは、以下のボタンを使用できます。

[サムネイル]メニューのオプション

ボタン	ボタン名	アクション
	サムネイル	サムネイルメニューペインを表示/非表示にします。
	文書の設定	[文書の編集]および[IDR ゾーンの追加]のオプションを選択できます。
	回転	ページを回転します。
	削除	ページを削除します。

[文書の設定]( )メニューでは、以下のオプションを選択できます。



[文書の設定]メニューでは、以下のオプションを選択できます。

表 2. [文書のアップロード]ページのオプション

メニュー項目	アクション
IDR ゾーンの追加	テンプレートマッチング時に照合されるテキスト領域を IDR ゾーンとして指定します。
文書の編集	[アップロード]、[クラウドから取得]、[そのほかのオプション]のオプションが表示されます。

[文書の編集]を選択すると[文書のアップロード]ページが開き、現在の文書に対してアクションを実行したり、新しい文書をアップロードしたりするオプションが表示されます。

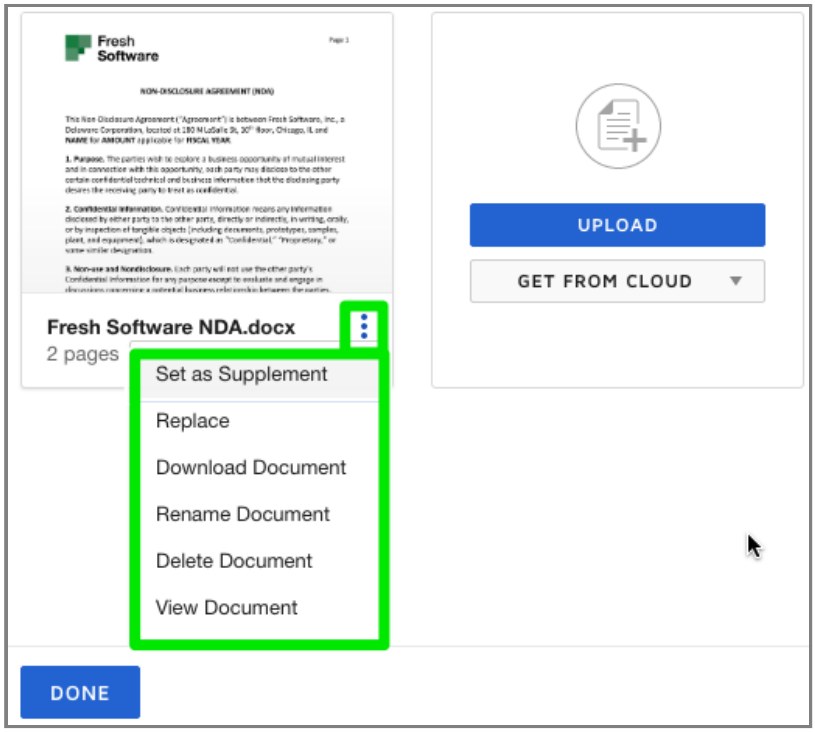


表 3. [文書のアップロード]ページのオプション

メニュー項目	アクション
クラウドから取得	クラウドストレージ（Google ドライブ、Box、Dropbox、OneDrive など）から文書を追加します。
アップロード	デバイスから文書を追加します。

メニュー項目	アクション
そのほかのオプション	[補足文書として設定]、[置き換え]、[文書のダウンロード]、[文書名の変更]、[文書の削除]、[文書の表示]のオプションが表示されます。
補足文書として設定	通常の文書(署名対象の文書)から補足文書(付属的な資料)への切り替えを行います。
置き換え	文書を削除して、デバイスから別の文書をアップロードして文書を置き換えます。
文書のダウンロード	デバイスに文書をダウンロードします。
文書名の変更	文書名を変更します。
文書の削除	テンプレートから文書を削除します。
文書の表示	文書のプレビューを開きます。

関連情報

エンベロープテンプレートのオプション: [フィールドの配置]ステップ

自動配置テキストを使用して受信者のフィールドを自動配置するには

自動配置テキストを使用してテンプレート文書に署名者用のフィールドを配置する方法について説明します。

自動配置テキストを使用すると，テンプレート文書上に署名者用のフィールドを自動的に配置できます。

自動配置テキストは、文書上に DocuSign フィールドや Salesforce ロールのプレースホルダーとして機能します。

自動配置テキストでは、文書上のフィールドを異なる受信者に割り当てることもできます。

文書上の適切な場所に、特定の受信者用の自動配置テキストを配置します。

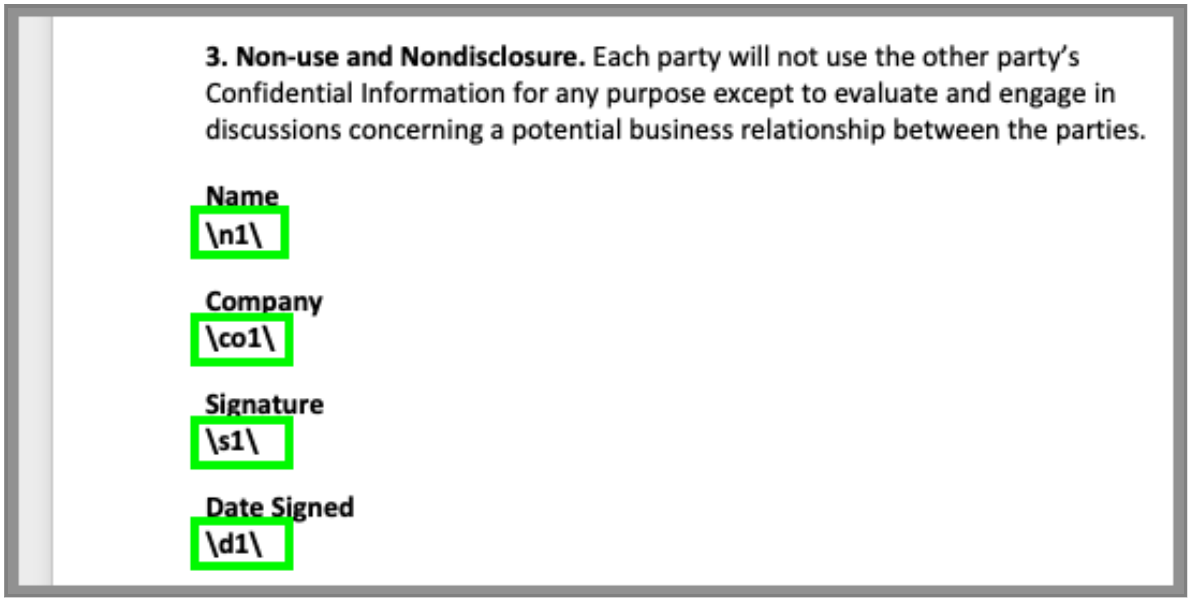
このテンプレートを使ってエンベロープを送信すると、文書上の自動配置テキストが各受信者用のフィールドに変換されます。

各受信者には、自分に割り当てられているフィールド(署名、名前、会社名など)のみが使用可能になります。

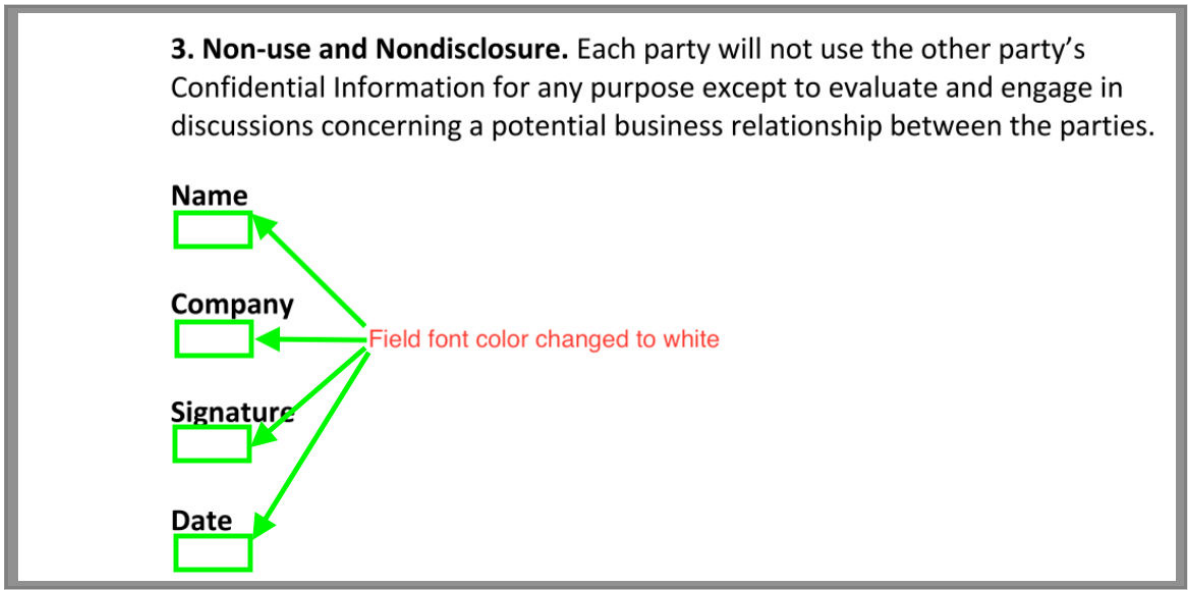
- 標準的な自動配置テキストでは、最大で 4 人の受信者(Signer 1、Signer 2 など)について使用できます。
- Salesforce フィールドを文書上に配置したり 5 人以上の受信者にフィールドを割り当てたりするには、カスタムの自動配置テキストを作成する必要があります。

例:

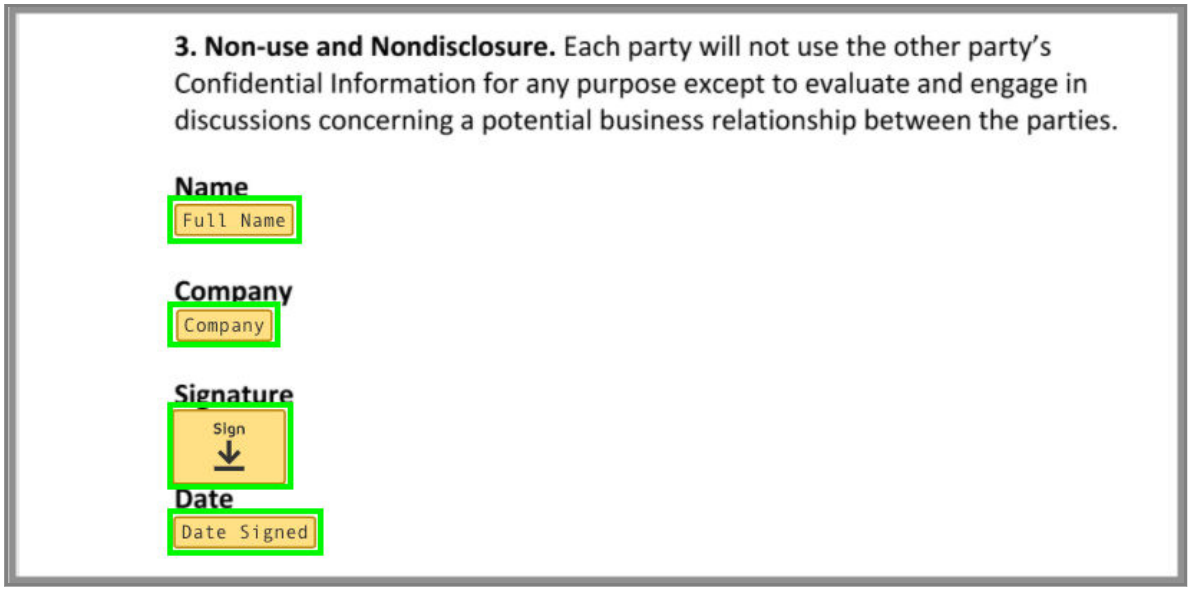
ロール名「Signer 1」の受信者に割り当てる自動配置テキストをテンプレート文書に追加します。



自動配置テキストを白などの文書の地の色に変更して、これらのテキストが受信者に表示されないようにします。次の図の例では、自動配置テキストの色を白に変更しています。



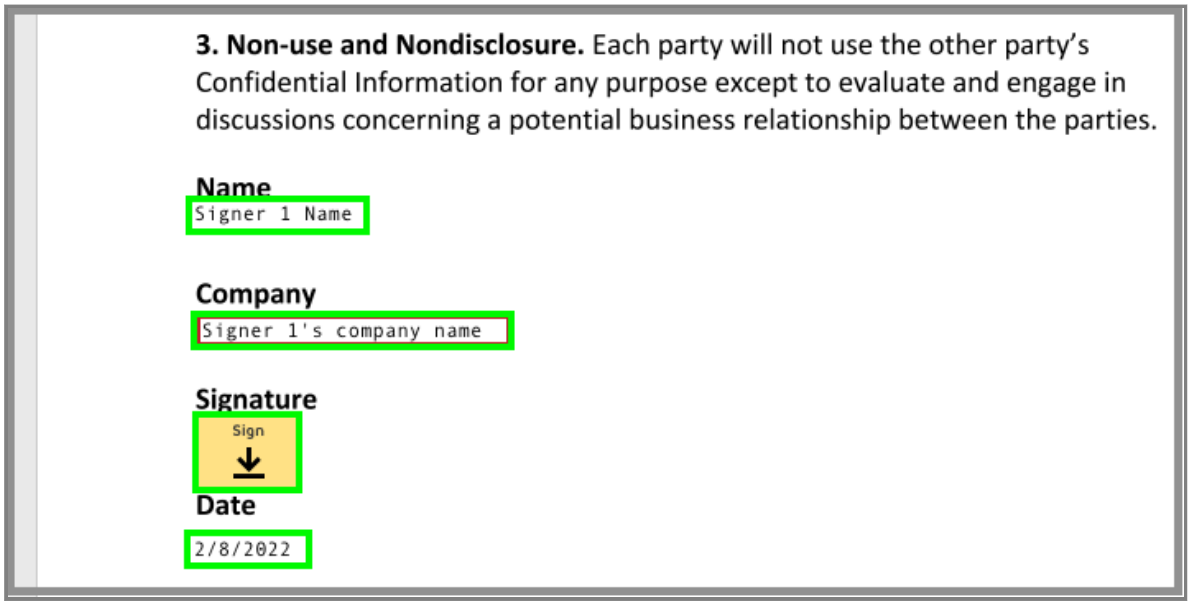
この文書をエンベロープやエンベロープテンプレートに追加します。自動配置テキストが「Signer 1」受信者用のフィールドに変換されます。白い自動配置テキストは文書上に表示されませんが、各フィールドは受信者に表示されることに注意してください。



「Signer 1」受信者がこのエンベロープを開くと、割り当てられているフィールドが表示されます。

この例では、「Signer 1」受信者に割り当てられた[名前]、[会社名]、および[署名日]フィールドに受信者データの値が自動的に入力されます。

「Signer 1」受信者は、[署名]フィールドに署名を行うだけでエンベロープを完了できます。



次の表は、Salesforce ロールに割り当て可能な自動配置テキストの一覧です。

> **注:** デフォルトのロール名（Signer 1、Signer 2 など）は、必要に応じて変更できます。

Salesforce ロール名と自動配置テキスト				
フィールドのタイプ	**Signer 1**	**Signer 2**	**Signer 3**	**Signer 4**
署名	\s1\	\s2\	\s3\	\s4\

Salesforce ロール名と自動配置テキスト				
フィールドのタイプ	**Signer 1**	**Signer 2**	**Signer 3**	**Signer 4**
イニシャル	\i1\	\i2\	\i3\	\i4\
オプションのイニシャル	\oi1\	\oi2\	\oi3\	\oi4\
名前	\n1\	\n2\	\n3\	\n4\
会社名	\co1\	\co2\	\co3\	\co4\
役職	\t1\	\t2\	\t3\	\t4\
署名日	\d1\	\d2\	\d3\	\d4\

たとえば、以下のように使用します。

- Salesforce ロール「**Signer 2**」受信者の[署名]フィールドを自動配置するには、文書内に「**\s2**」と入力します。
- Salesforce ロール「**Signer 3**」受信者の[会社名]フィールドを自動配置するには、文書内に「**\co3**」と入力します。
- Salesforce ロール「**Signer 1**」受信者の[署名日]フィールドを自動配置するには、文書内に「**\d1**」と入力します。

関連情報

エンベロープテンプレートのオプション: [フィールドの配置]ステップ

eSignature for Salesforce エンベロープの文書に自動配置テキストを追加する

エンベロープテンプレートの文書に自動配置テキストを追加する方法について説明します。

エンベロープテンプレートの文書に自動配置テキストを追加して、文書上にフィールドを自動的に配置して特定の受信者に割り当てることができます。

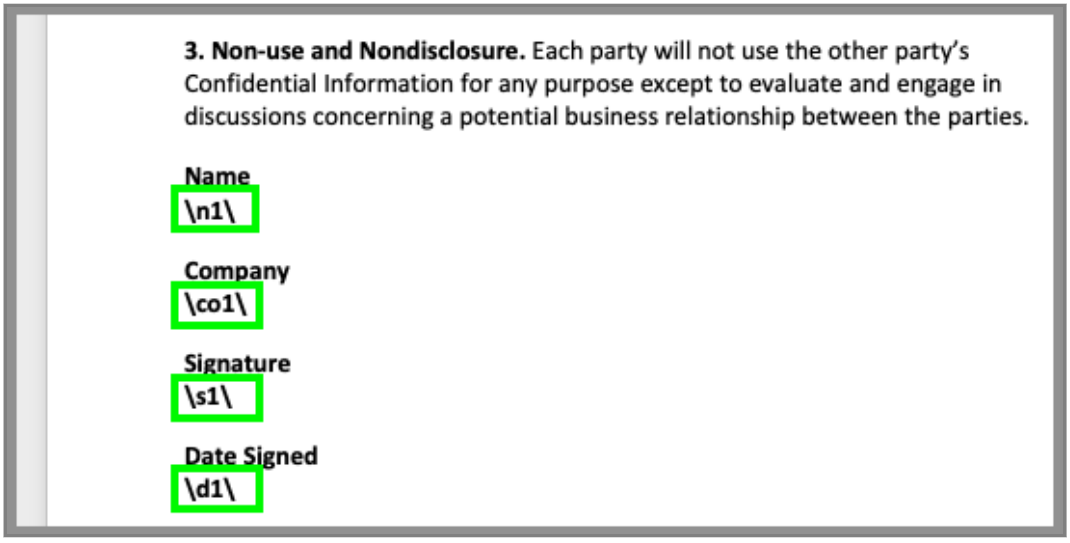
この機能では、DocuSign と Salesforce のフィールドをエンベロープの文書に自動的に配置できます。

エンベロープテンプレートの文書に自動配置テキストを追加するには、以下の手順に従います。

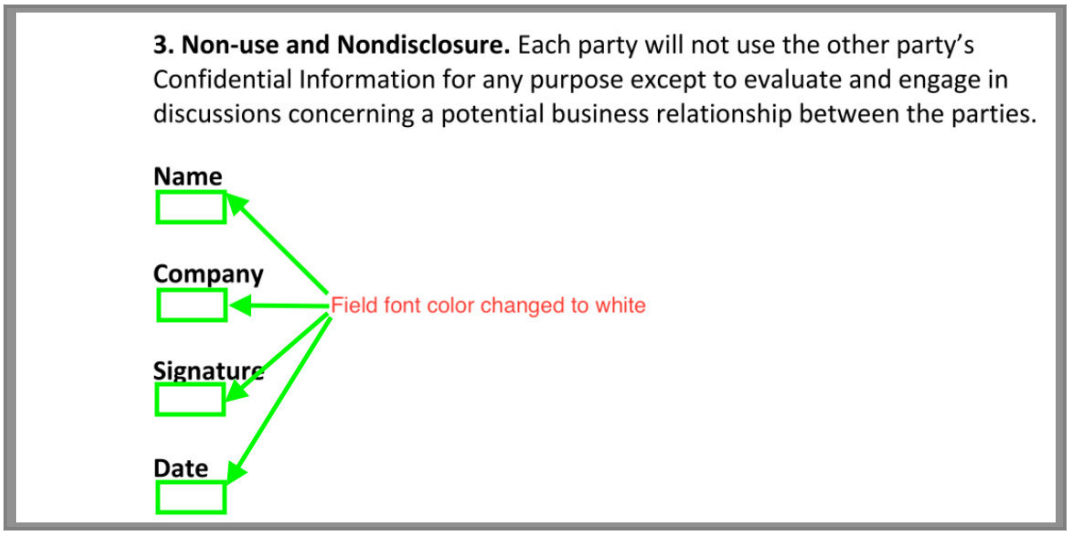
1. Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[文書]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン()をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
   d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
   e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印()を選択します。
   f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
   g. [文書]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。
2. 編集する文書の名前を選択します。
   文書のプレビューが開きます。
3. ページ右上の[ダウンロード]を選択します。

文書ファイルがダウンロードされます。

4. 以下の操作を行って、エンベロープテンプレートの文書に自動配置テキストを追加します。
   a. 文書を開き、自動配置テキストを配置する場所にカーソルを置きます。
   b. 自動配置テキスト(「Signer 1」受信者用の[署名]フィールドは「¥s1¥」、「Signer 1」受信者用の[名前]フィールドは「¥n1¥」など)を入力します。

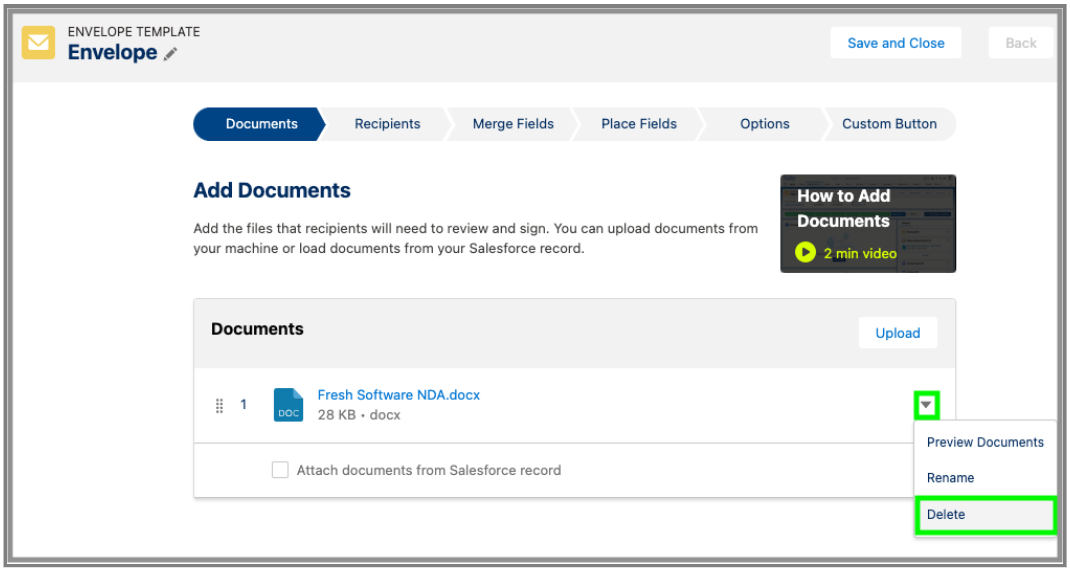


   c. 自動配置テキストの色を、文書の地の色に変更します。つまり、文書の地の色が白の場合は自動配置テキストの色を白に変更します。



> **注:** これにより、自動配置テキストが受信者に表示されなくなります。受信者には、実際のフィールド([署名]フィールドなど)が表示されます。

   d. 文書を保存します。
5. この文書で、テンプレートの既存の文書を置き換えます。
   a. エンベロープテンプレートの[文書]ページを開きます。
   b. 文書名の右端にある矢印ドロップダウンメニューを開きます。
   c. [削除]を選択します。文書が削除されます。



d. [アップロード]を選択します。
e. 自動配置テキストを追加した文書のファイルを選択します。
f. [開く]を選択します。アップロードするファイルを指定するダイアログボックスが開きます。
g. [完了]を選択します。

ダイアログボックスが閉じます。更新された文書の名前が表示されます。

6. ページ右上の[保存して閉じる]を選択します。
エンベロープテンプレートのページが開きます。

以上の手順により、エンベロープテンプレートの文書に自動配置テキストが追加されました。このテンプレートを使ってエンベロープを送信すると、自動配置テキストにより DocuSign フィールドまたは Salesforce フィールドが自動的に追加されます。受信者には自動配置テキストが表示されず、自分に割り当てられたフィールドのみが表示されます。

エンベロープテンプレートのオプション: [オプション]ステップ

ここでは、エンベロープテンプレート作成プロセスの[オプション]ステップで使用できるオプションについて説明します。送信エクスペリエンスの変更、フィールド値の更新、文書の書き戻し機能の使用についてのオプションを設定できます。

ここでは、エンベロープテンプレート作成プロセスの[オプション]ステップで使用できるオプションについて説明します。以下の内容が含まれています。

送信エクスペリエンスを変更する

フィールドの自動更新

文書の書き戻し

エンベロープテンプレートの[オプション]ステップにアクセスするには

既存のエンベロープテンプレートの[オプション]ステップにアクセスする手順について説明します。送信エクスペリエンスの変更、フィールド値の更新、文書の書き戻し機能の使用についてのオプションを設定できます。

ここでは、既存のエンベロープテンプレートの[オプション]ページにアクセスする手順について説明します。送信エクスペリエンスの変更、フィールド値の更新、文書の書き戻し機能の使用についてのオプションを設定できます。

Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[オプション]ページを開きます。

a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン()をクリックします。
b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印()を選択します。
f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
g. [オプション]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。

以上の手順により、既存のエンベロープテンプレートの[オプション]ページが開きます。

エンベロープテンプレートのタイプの比較 - デフォルト、クイック送信、フィールドの配置、および今すぐ送信

エンベロープテンプレートのタイプの比較です。

送信エクスペリエンスは、エンベロープテンプレートの[オプション]ページにある機能です。この機能を使用すると、エンベロープ作成時に差出人に表示されるオプションを切り替えることができます。

以下の送信エクスペリエンスにより、テンプレートのタイプが決定されます。

- デフォルト: 差出人は、エンベロープに文書や受信者を追加したり、文書上にフィールドを配置したりできます。
- クイック送信: 差出人は、署名者以外の受信者の追加のみ行なえます。
- フィールドの配置: 差出人に許可されるのは、文書への DocuSign フィールドおよび Salesforce フィールドの追加のみです。
- 今すぐ送信: エンベロープが直ちに送信されます。文書、受信者、およびフィールドを追加することはできません。

動的な文書を送信する場合、クイック送信の使用は推奨されません。これは、文書の追加や削除ができないためです。

次の表は、各テンプレートタイプで使用できる差出人オプションを示しています。

エンベロープテンプレートの差出人オプション	デフォルト	クイック送信	文書へのフィールドの追加	今すぐ送信
文書を追加する	○			
DocuSign フィールドを追加する	○		○	
Salesforce フィールドを追加する	○		○	
標準的な受信者を追加する	○			
署名者以外の受信者を追加する	○	○		
受信者を編集する	○	○		
メールの件名を編集する	○	○		
メールのメッセージを編集する	○	○		
署名者へのリマインダーを設定する	○	○		
エンベロープの有効期限を設定する	○	○		
署名者に送信する	○	○	○	○

関連情報

エンベロープテンプレートの[オプション]ステップにアクセスするには

エンベロープテンプレートの送信エクスペリエンスを変更する

エンベロープテンプレートでは、デフォルトの送信エクスペリエンス(差出人が設定できるオプションが多い分、送信に手間がかかる)とクイック送信エクスペリエンス(差出人が設定できるオプションが少ない分、送信手順がシンプル)を切り替えることができます。

既存のエンベロープテンプレートの送信エクスペリエンスを変更するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[オプション]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
   d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
   e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印( )を選択します。
   f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
   g. [オプション]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。
2. 送信エクスペリエンス: いずれかのオプションを選択します。

- デフォルト: 差出人は、エンベロープに文書や受信者を追加したり、文書上にフィールドを配置したりできます。
- クイック送信: 差出人は、受信者の追加のみ行なえます。

- フィールドの配置: 差出人に許可されるのは、文書への DocuSign フィールドおよび Salesforce フィールドの追加のみです。
- 今すぐ送信: エンベロープが直ちに送信されます。文書、受信者、およびフィールドを追加することはできません。

3. 右上の[次へ]を選択します。

> **重要:** ここで[保存して閉じる]を選択すると、エンベロープテンプレートのタイプが変更されません。[次へ]を選択して、[カスタムボタン]ページの[保存して終了]を選択する必要があります。これにより、エンベロープテンプレートのタイプが変更されます。

4. [カスタムボタン]ページの[保存して終了]を選択します。

以上の手順により、エンベロープテンプレートの送信エクスペリエンスが設定されました。差出人が DocuSign カスタムボタンをクリックすると、デフォルトまたはクイック送信のいずれかの画面が開きます。
関連情報

DocuSign eSignature for Salesforce でエンベロープテンプレートを作成して電子署名プロセスを自動化する

エンベロープイベントによる Salesforce フィールドの自動更新

特定のエンベロープイベントが発生したときに Salesforce フィールドの値が自動的に更新されるようにテンプレートをセットアップできます。これにより、署名者が文書に署名したときに Salesforce レコードを自動的に更新できます。

自動更新をトリガーするエンベロープイベントは、以下の 5 つです。

表 1. エンベロープイベント

エンベロープイベント	アクション
エンベロープの送信	エンベロープを送信すると直ちに Salesforce フィールドの値が更新されます。
エンベロープの開封	受信者がエンベロープを開封すると直ちに Salesforce フィールドの値が更新されます。
エンベロープの完了	すべての署名者が署名を完了すると Salesforce フィールドの値が更新されます。
エンベロープの署名辞退	いずれかの受信者が署名を辞退すると Salesforce フィールドの値が更新されます。
エンベロープの無効化	エンベロープが無効になると Salesforce フィールドの値が更新されます。

注:

- エンベロープイベントについて最大 **5** つの更新イベントを追加できます。たとえば、エンベロープの送信イベントやエンベロープの開封イベントが発生したときのフィールド更新イベントとして、それぞれ最大で 5 つ定義できます。

- このため、最大で **25** の更新イベントを指定できます。
- 複数の同じエンベロープイベントに対して同じ[フィールド名]値を設定することはできません。

  たとえば、2 つの[エンベロープの完了]イベントの両方の[フィールド名]値に[Description]を設定することはできません。

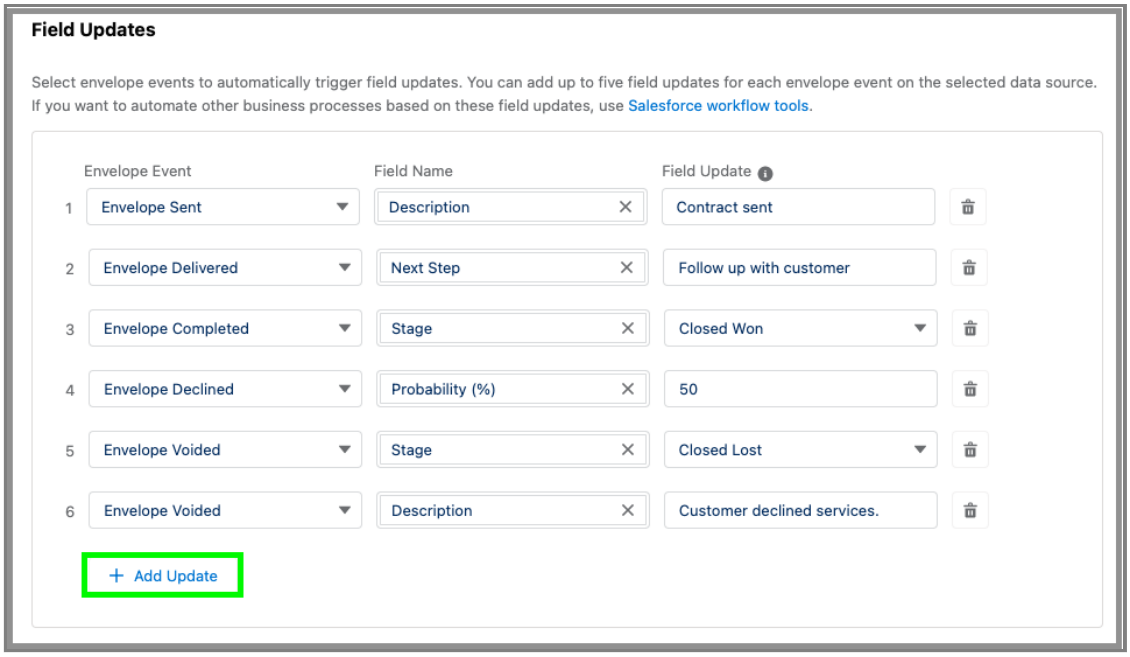
重要: Salesforce の入力規則は DocuSign 側ではチェックされません。[フィールドの自動更新]ボックスに入力したデータが既存の入力規則に違反する場合、Salesforce フィールドでの値の更新に失敗します。テンプレート上の各フィールドの入力規則をテストして、正しく動作することを確認してください。

エンベロープイベントに応じて Salesforce 側のフィールドを自動更新する

特定のエンベロープイベントが発生したときに最大 25 の Salesforce フィールドの値が自動的に更新されるようにテンプレートをセットアップできます。

エンベロープテンプレートにエンベロープイベントを追加するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[オプション]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン( )をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
   d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
   e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印( )を選択します。
   f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
   g. [オプション]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。
2. [フィールド値の更新]セクションの[更新の追加]を選択します。



3. テンプレートに新しいエンベロープイベントを追加します。
   a. エンベロープイベント: ドロップダウンメニューからエンベロープイベントを選択します。このイベントが発生すると、Salesforce フィールドの値が更新されます。
   b. フィールド名: ドロップダウンメニューから、Salesforce フィールド（Salesforce 内では「項目」と呼ばれます）を選択します。イベントが発生すると、このフィールドの値が更新されます。
   c. フィールドの値: 値を入力するか、ドロップダウンメニューからオプションを選択します。イベントが発生すると、フィールドがこの値で更新されます。

> **注:** 最大 25 件（各イベントタイプについて最大 5 件）のフィールドイベントを追加できます。

4. 必要に応じて、以下の操作を行います。
   - : ごみ箱アイコンを選択してエンベロープイベントを削除します。
   - : フィールド名の［X］アイコンを選択してそのフィールドを変更します。
5. すべてのオプションを設定したら、ページ右上にある［保存して閉じる］を選択します。
   以上の手順により、DocuSign エンベロープイベントによる Salesforce フィールドの更新がセットアップされました。

署名者によるエンベロープデータの更新を Salesforce 側に書き戻すしくみ

文書の書き戻し機能では、DocuSign エンベロープの受信者が文書上のデータを更新した場合に、その内容が自動的に Salesforce 側に反映されます。DocuSign eSignature での署名プロセスで更新されたデータおよび文書が、Salesforce 側に書き戻されます。

文書の書き戻し機能では、DocuSign エンベロープの受信者が文書上のデータを更新した場合に、その内容が自動的に Salesforce 側に反映されます。

重要: ユーザーの Salesforce プロファイルで[API ログインの多要素認証]が有効な場合、文書、差し込みフィールド、データの書き戻しは機能しません。詳しくは、Salesforce サポートサイトを参照してください。

例: 差し込みフィールドの更新

エンベロープの受信者が、契約書に配置された Salesforce の差し込みフィールドの内容を更新します。

たとえば、商談の[金額]フィールドの値を 20,000 ドルから 25,000 ドルに変更します。

この受信者が署名を完了すると、Salesforce レコードの[金額]フィールドが 25,000 ドルに更新されます。

例: 完了した文書を Salesforce レコードに戻して保存する

DocuSign のカスタムボタンを使って、eSignature 用の文書を送信します。

受信者が署名プロセスを完了します。

署名された最終バージョンの文書が Salesforce レコードにアップロードされます。

例: フェーズの更新

DocuSign のカスタムボタンを使って、eSignature 用の文書を送信します。

受信者が署名プロセスを完了します。

Salesforce レコードのフェーズが更新されます(「ニーズの把握」、「商談成立」など)。

エンベロープテンプレートの作成時には、以下の書き戻しオプションを設定できます。

1. 書き戻しのタイプ

書き戻しのタイプ	書き戻しのアクション
完了した文書を Salesforce レコードに保存する	署名プロセスが完了したときに、署名済みの文書を Salesforce レコード上に保存します。
すべての文書を単一の PDF に結合する	エンベロープのすべての文書を単一の PDF に結合します。
完了証明書を Salesforce レコードに保存する	署名プロセスのすべてのエンベロープイベントを記録した証明書を保存します。
フェーズの更新	署名が完了したときに、Salesforce のフェーズ(「ニーズの把握」、「商談成立」など)を更新します。

関連情報

エンベロープテンプレートのオプション: [オプション]ステップ

エンベロープテンプレートに文書の書き戻しを設定する

エンベロープテンプレートに文書の書き戻しを設定する手順について説明します。

エンベロープテンプレートに文書の書き戻しを設定するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として、エンベロープテンプレートの[オプション]ページを開きます。
   a. Salesforce 画面の左上にある[アプリケーションランチャー]アイコン()をクリックします。
   b. ドロップダウンメニューから[すべて表示]リンクを選択します。
   c. [DocuSign アプリケーションランチャー]タイルを選択します。
   d. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
   e. 編集するテンプレートの右端にある下向き矢印()を選択します。
   f. [編集]を選択します。エンベロープテンプレートの作成ページが開きます。
   g. [オプション]の矢印を選択します。矢印を選択すると、テキストが表示されます。
2. [文書の書き戻し]セクションで、Salesforce 側へのデータの書き戻しオプションを選択します。
   - 完了した文書を Salesforce の(オブジェクト名)レコードに保存する: このボックスにチェックをオンにすると、DocuSign の署名プロセスが完了したときに、署名された文書が Salesforce に自動的に保存されるようになります。
     - ファイル名: Salesforce 側に保存される文書の命名規則を設定します。
       - 文書名: 文書のファイル名がそのまま保持されます。
       - 文書名 + エンベロープステータス: 文書のファイル名の末尾に DocuSign ステータスが追加されます。たとえば、Completed(完了)、Voided(無効化)などが追加されます。
       - 文書名 + .pdf: 文書のファイル名が保持され、PDF ファイルとして保存されます。
       - 文書名 + エンベロープステータス + .pdf: 文書のファイル名の末尾に、DocuSign のステータス(Completed、Voided など)と拡張子.pdf が追加されます。
   - すべての文書を単一 PDF に結合する: このチェックボックスをオンにすると、エンベロープ内のすべての文書が単一の PDF ファイルとして保存されます。
     - ファイル名: すべての文書を単一 PDF に結合する場合の命名規則を設定します。
       - メールの件名: DocuSign メールの件名に基づいたファイル名が使用されます。
       - メールの件名 + エンベロープのステータス: DocuSign メールの件名の末尾に DocuSign ステータス(Completed、Voided など)が追加されます。
       - メールの件名 + .pdf: DocuSign メールの件名に基づいたファイル名が使用され、PDF ファイルとして保存されます。
       - メールの件名 + エンベロープのステータス + .pdf: DocuSign メールの件名に基づいたファイル名が使用され、末尾に DocuSign ステータス(Completed、Voided など)と拡張子.pdf が追加されます。
       - ″Envelope″ + エンベロープ ID + .pdf: ファイル名には「Envelope」に DocuSign エンベロープ ID が追加されたものが設定され、拡張子.pdf が追加されます。
   - 完了証明書を Salesforce の(オブジェクト名)レコードに保存する: このチェックボックスをオンにすると、署名プロセスのすべてのエンベロープイベントの完全な詳細を含む証明書が Salesforce に自動的に保存されるようになります。

     注: 完了証明書には、各署名者の詳細、署名者の IP アドレス、署名画像、主要イベントのタイムスタンプなどが記録されます。

3. すべてのオプションを設定したら、ページ右上にある[保存して閉じる]を選択します。
   以上の手順により、エンベロープテンプレートの文書の書き戻しオプションが設定されました。これにより、エンベロープへの署名が完了したときに、Salesforce 組織側に文書ファイル、ファイル名、Salesforce 項目、ステージの情報が適用されます。

Salesforce モバイルアプリ用の DocuSign エンベロープテンプレートを設定する

ここでは、Salesforce モバイルアプリでエンベロープを送信するための DocuSign エンベロープテンプレートを設定します。

Salesforce モバイルアプリでのエンベロープ送信を自動化する DocuSign エンベロープテンプレートを作成できます。

Salesforce モバイルアプリでは、通常の DocuSign エンベロープの送信画面（Web ブラウザー上でテンプレートを使用しない場合）が正しく動作しません。このため、Salesforce モバイルアプリ用の DocuSign エンベロープテンプレートを作成する必要があります。

重要: Apple iOS デバイスでエンベロープを送信する場合は、[設定]>[Salesforce]の順に開き、[Web サイト越えトラッキングを許可]を有効にする必要があります。

モバイル対応のエンベロープテンプレートを作成する場合、以下の考慮事項があります。

- 受信者および文書をエンベロープテンプレートに追加する。
- 文書上に Salesforce フィールドと DocuSign フィールドを配置する。
- [クイック送信用のエンベロープテンプレート]オプションを有効にする。

Salesforce 組織を設定してクイック送信用のエンベロープテンプレートを作成するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce の管理者として[私のドメイン]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン（）を選択します。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]ボックスに「私のドメイン」と入力します。
   d. ページ左側で[私のドメイン]を選択します。

   [私のドメイン]ページが開きます。
2. [私のドメイン]ページで、以下の設定を行います。
   a. [[私のドメイン]の詳細]セクションで、[編集]を選択します。
   b. [サードパーティ Cookie がブロックされているときに Visualforce URL にインスタンス名を含める]チェックボックスをオフにします。
   c. [保存]を選択します。
3. クイック送信用の DocuSign エンベロープテンプレートを作成します。
4. Salesforce オブジェクト（[取引先]や[商談]など）のページレイアウトにそのテンプレートを追加します。

以上の手順により、クイック送信用の DocuSign エンベロープテンプレートが作成され、そのカスタムボタンがページレイアウトに追加されました。また、Salesforce 設定で Salesforce モバイル送信機能が有効になりました。

DocuSign アプリケーションランチャー（CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce）の過去のバージョンをダウンロードする

DocuSign アプリケーションランチャーパッケージの過去のバージョンのダウンロードについて。このパッケージには、DocuSign CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce の各アプリが含まれています。これらのアプリの過去のバージョンは、Salesforce AppExchange からダウンロードすることはできません。

Salesforce AppExchange では、DocuSign アプリケーションランチャー（DAL）の最新バージョンが提供されます。このパッケージには、以下のアプリが含まれています。

- DocuSign CLM
- DocuSign Gen
- DocuSign Negotiate
- DocuSign eSignature for Salesforce

> **注:** これらのアプリのいずれかをインストールすると、4 つのアプリが自動的にインストールされます。

DocuSign アプリケーションランチャーパッケージの過去のバージョンを AppExchange からダウンロードすることはできません。このページでは、パッケージの過去のバージョンをダウンロードできます。

このページの内容は、新しいバージョンがリリースされるたびに更新されます。

過去の DocuSign アプリケーションランチャー（CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce）のダウンロードとリリースノート

表 1. 実稼働版のダウンロードリンク

バージョン	インストールリンク	リリースノート
実稼働版 DAL 3.5	DAL 3.5 インストーラー	DocuSign Apps Launcher for Salesforce リリースノート v3.5
実稼働版 DAL 3.1.3	実稼働版 DAL 3.1.3 インストーラー	DocuSign Apps Launcher for Salesforce リリースノート v3.1.3

表 2. サンドボックス版のダウンロードリンク

バージョン	インストールリンク	リリースノート
サンドボックス版 DAL 3.5	サンドボックス版 DAL 3.5 インストーラー	DocuSign Apps Launcher for Salesforce リリースノート v3.5
サンドボックス版 DAL 3.1.3	サンドボックス版 DAL 3.1.3 インストーラー	DocuSign Apps Launcher for Salesforce リリースノート v3.1.3

DocuSign アプリケーションランチャートラブルシューティングページを使用してアカウント全体の問題を解決する

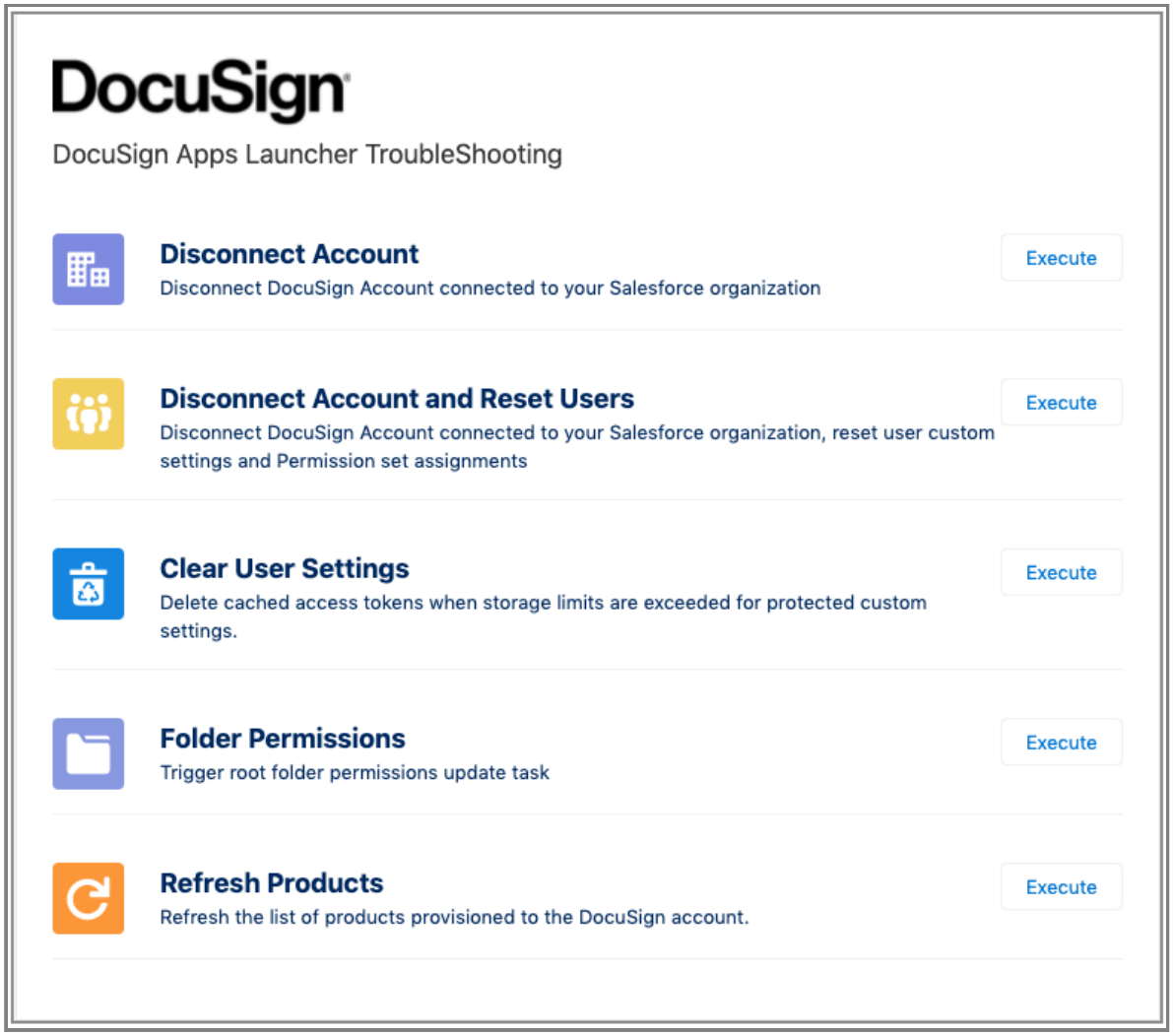
DocuSign アプリケーションランチャーのトラブルシューティングは、管理者が DocuSign アプリに関する問題のトラブルシューティングを行うための Salesforce ページです。

DocuSign Apps Launcher for Salesforce（DocuSign アプリケーションランチャー）パッケージは複数のアプリで構成されており、Salesforce AppExchange からインストールできます。このパッケージには、DocuSign Gen、DocuSign Negotiate、DocuSign eSignature Essentials、および DocuSign CLM のアプリが含まれています。

DocuSign アプリケーションランチャーのトラブルシューティングページでは、管理者がこれらのアプリに関する問題のトラブルシューティングを行えます。このページは、DocuSign アプリケーションランチャーのバージョン 2.5 以降で使用できます。使用するには、Salesforce ユーザーが DocuSign 管理者権限を持っている必要があります。

トラブルシューティングページでは、管理における共通のテーマがまとめられています。問題を解決するために複数の DocuSign や Salesforce の設定を変更しなければならない場合でも、1 つのボタンからトラブルシューティングを開始できます。

各アクションは、タスクの右にある［Execute（実行）］を選択するだけで簡単に実行できます。



トラブルシューティングページでは、以下のタスクを実行できます。

- アカウントの切断: DocuSign アカウントと Salesforce 組織との接続を解除します。
- アカウントの切断とユーザーのリセット: DocuSign アカウントと Salesforce 組織との接続を解除し、ユーザーのカスタム設定と権限セットの割り当てをリセットします。
- ユーザー設定のクリア: 保護されたカスタム設定のストレージの制限を超えた場合に、キャッシュされたアクセストークンを削除します。
- フォルダー権限: ルートフォルダー権限の更新タスクを開始します。これにより、すべてのコンテンツのユーザー権限がリセットされます。
- 製品の更新: DocuSign アカウントにプロビジョニングされた製品のリストを更新します。

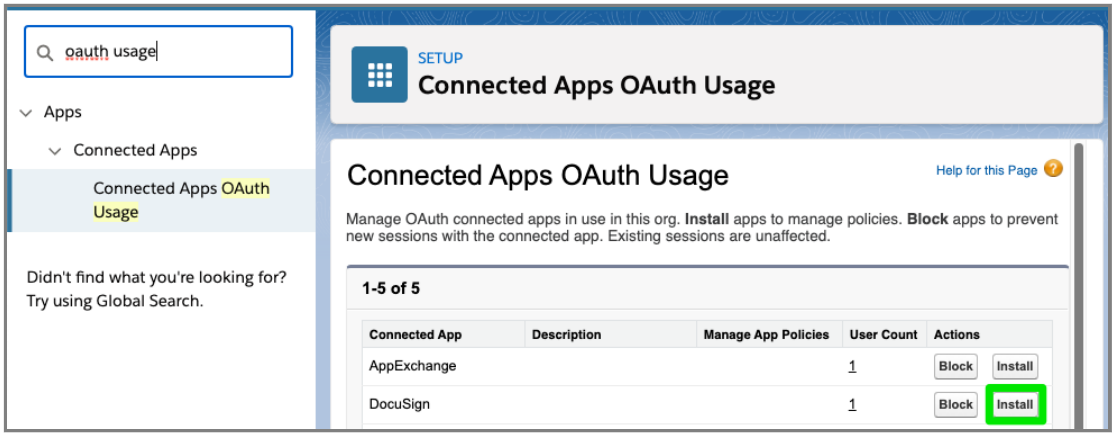
アプリケーションランチャートラブルシューティングパッケージをインストールする

DocuSign アプリケーションランチャートラブルシューティングパッケージ（DocuSign Apps Launcher Troubleshooting）は、[接続アプリケーションの OAuth 利用状況]ページから Salesforce 組織にインストールします。

DocuSign アプリケーションランチャートラブルシューティングパッケージ（DocuSign Apps Launcher Troubleshooting）は、[接続アプリケーションの OAuth 利用状況]ページから Salesforce 組織にインストールします。このパッケージをインストールするには、事前に DocuSign アプリケーションランチャーパッケージをインストールしておく必要があります。トラブルシューティングパッケージは、DocuSign アプリケーションランチャーのバージョン 2.5 以降で使用できます。

トラブルシューティングパッケージを Salesforce 組織にインストールするには、以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として[接続アプリケーションの OAuth 利用状況]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]フィールドに「接続アプリケーションの」と入力します。
   d. 左側のナビゲーションバーで[接続アプリケーションの OAuth 利用状況]を選択します。
2. [DocuSign]エントリの右側にある[インストール]を選択します。[接続アプリケーションをインストールしますか?]画面が開きます。



3. [インストール]を選択します。

以上の手順により、トラブルシューティングパッケージが Salesforce 組織にインストールされました。管理者は、1 つのページから一連のトラブルシューティングタスクにアクセスできます。

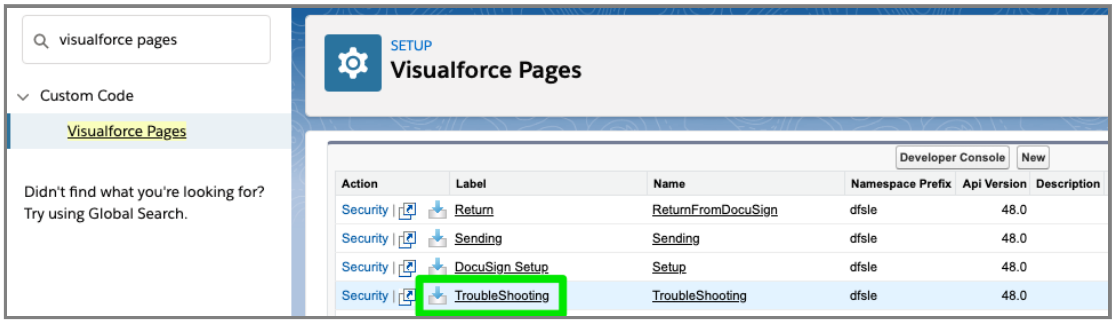
アプリケーションランチャーのトラブルシューティングページにアクセスする

Salesforce 組織で DocuSign アプリケーションランチャーのトラブルシューティングページを開く手順について説明します。

まず、DocuSign アプリケーションランチャートラブルシューティングパッケージ（DocuSign Apps Launcher Troubleshooting）を Salesforce 組織にインストールする必要があります。これにより、Salesforce の［セットアップ］インターフェイスからアクセスできるようになります。

Salesforce 組織で DocuSign アプリケーションランチャーのトラブルシューティングページを開くには、以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として、［Visualforce ページ］ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン（ ）を選択します。
   b. ［設定］を選択します。
   c. ［クイック検索］フィールドに「Visualforce」と入力します。
   d. 左側のナビゲーションバーで［Visualforce ページ］を選択します。
2. ［表示ラベル］列の［TroubleShooting］リンクを選択します。



3. ［プレビュー］を選択します。［DocuSign アプリケーションランチャーのトラブルシューティング］ページが開きます。
4. アクションの右にある［Execute（実行）］を選択します。

以上の手順により、DocuSign アプリケーションランチャートラブルシューティングページが開きました。このページからアカウント全体に対するトラブルシューティングを実行できます。

アプリケーションランチャーのトラブルシューティングページで DocuSign と Salesforce の接続を解除する

DocuSign トラブルシューティングページの［アカウントの切断］機能を使用して、DocuSign と Salesforce 間の接続を解除します。

DocuSign アプリケーションランチャートラブルシューティングページを使用すると、管理者がアプリやユーザーのポリシーを変更できます。

Salesforce 組織と DocuSign アカウントとのインテグレーションを解除する方法もありますが、

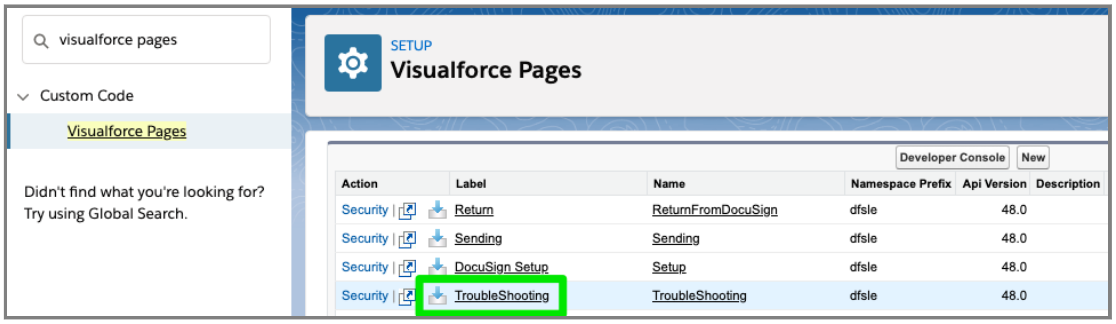
通常は［DocuSign セットアップ］タブの［接続の解除］リンクを使用します。その後で、同じ接続を再設定したり、別の DocuSign アカウントに接続したりできます。
［DocuSign セットアップ］タブで接続を解除できない場合は、トラブルシューティングページを使用します。

［アカウントの切断］機能を使用するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として、［Visualforce ページ］ページを開きます。

a. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
b. [設定]を選択します。
c. [クイック検索]フィールドに「Visualforce」と入力します。
d. 左側のナビゲーションバーで[Visualforce ページ]を選択します。

2. [表示ラベル]列の[TroubleShooting]リンクを選択します。



3. [プレビュー]を選択します。[DocuSign アプリケーションランチャーのトラブルシューティング]ページが開きます。
4. [アカウントの切断]アクションの右にある[Execute(実行)]を選択します。
「DocuSign アカウントからログアウトしました」というメッセージが表示されます。トラブルシューティングページが開き、「接続されている DocuSign アカウントはありません」というメッセージが表示されます。

以上の手順により、Salesforce 組織と DocuSign アカウントとの接続が解除されました。同じ接続を再設定したり、別の DocuSign アカウントを接続したりできるようになりました。DocuSign アカウントを接続する手順については、こちらを参照してください。

アプリケーションランチャーのトラブルシューティングページで DocuSign と Salesforce の接続を解除してユーザーをリセットする

DocuSign アカウントと Salesforce 組織との関連付けを解除して、ユーザーのカスタム設定と権限セットの割り当てをリセットします。これを行うには、DocuSign トラブルシューティングページの「アカウントの切断とユーザーのリセット」機能を使用します。

DocuSign アプリケーションランチャートラブルシューティングページを使用すると、管理者がアプリやユーザーのポリシーを変更できます。

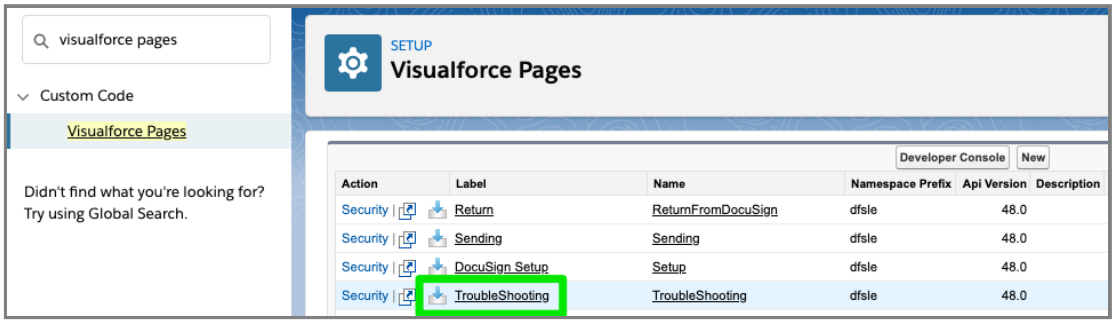
これを行うツールの 1 つとして、DocuSign トラブルシューティングページの「アカウントの切断とユーザーのリセット」機能を使用できます。この機能では、以下のアクションが実行されます。

- Salesforce 組織と DocuSign アカウントとの接続を解除する。
- カスタムのユーザー設定をリセットする。
- すべての権限セットの割り当てを解除する。

これにより、Salesforce 組織から DocuSign の接続と権限を完全に削除できます。

「アカウントの切断とユーザーのリセット」機能を使用するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として、[Visualforce ページ]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]フィールドに「Visualforce」と入力します。
   d. 左側のナビゲーションバーで[Visualforce ページ]を選択します。
2. [表示ラベル]列の[TroubleShooting]リンクを選択します。



3. [プレビュー]を選択します。[DocuSign アプリケーションランチャーのトラブルシューティング]ページが開きます。
4. アカウントの接続とユーザーのリセット: 右側の[実行]を選択します。
   「DocuSign アカウントからログアウトしました。間もなく、ユーザーのカスタム設定と、DocuSign アプリケーションランチャーの権限セット割り当てが消去されます」というメッセージが表示されます。
   トラブルシューティングページが開き、「接続されている DocuSign アカウントはありません」というメッセージが表示されます。

以上の手順により、Salesforce 組織と DocuSign アカウントとの接続が解除されました。同じ接続を再設定したり、別の DocuSign アカウントを接続したりできるようになりました。DocuSign アカウントを接続する手順については、こちらを参照してください。
DocuSign ユーザーの権限を追加する手順については、こちらを参照してください。

アプリケーションランチャーのトラブルシューティングページでユーザー設定をクリアする

DocuSign トラブルシューティングページの CUSTOM_SETTINGS_LIMIT_EXCEEDED の問題を、「ユーザー設定のクリア」機能で解決します。

DocuSign アプリケーションランチャートラブルシューティングパッケージを使用すると、管理者がアプリやユーザーのポリシーを変更できます。

これにより、CUSTOM_SETTINGS_LIMIT_EXCEEDED エラーメッセージの問題も解決できます。

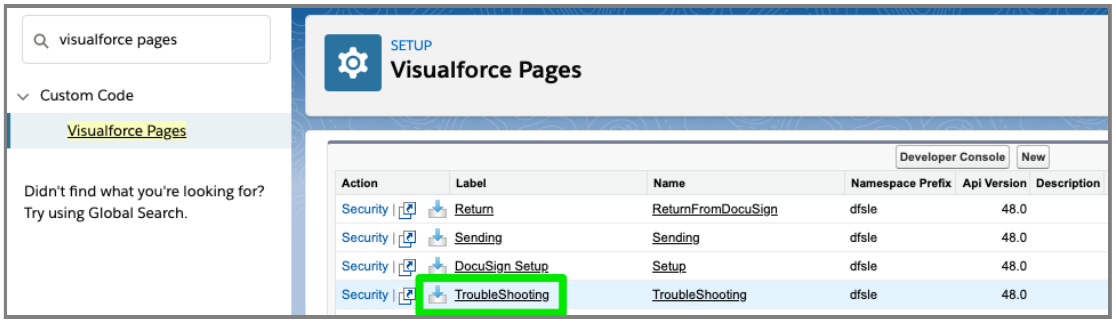
このエラーメッセージは、過度に多くのアクセストークンを持つ Salesforce Experience Cloud ユーザーがエンベロープを送信しようとすると表示されます。

これらのトークンは、ユーザーや管理者が気付かないうちに、カスタム設定に保存される場合があります。これにより、カスタム設定で Salesforce のストレージ制限違反が発生します。

管理者はトラブルシューティングページの「ユーザー設定のクリア」機能を使用して、すべてのユーザーのアクセストークンを削除できます。これにより、保護されたカスタム設定のストレージの制限を超えたときに、キャッシュされたアクセストークンを削除できます。

「ユーザー設定のクリア」機能を使用するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として、[Visualforce ページ]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]フィールドに「Visualforce」と入力します。
   d. 左側のナビゲーションバーで[Visualforce ページ]を選択します。
2. [表示ラベル]列の[TroubleShooting]リンクを選択します。



3. [プレビュー]を選択します。[DocuSign アプリケーションランチャーのトラブルシューティング]ページが開きます。
4. [ユーザー設定のクリア]アクションの右にある[Execute(実行)]を選択します。
   「ジョブが正常にキューに保存されました。[Apex 一括ジョブ]ページと DocuSign ログに結果が記録されます」というメッセージが表示されます。

以上の手順により、キャッシュされていたアクセストークンがクリアされました。Salesforce Experience Cloud ユーザーは、再びエンベロープを送信できます。

アプリケーションランチャーのトラブルシューティングページでフォルダー権限をリセットする

DocuSign トラブルシューティングページの[フォルダー権限]機能では、Salesforce 組織内の DocuSign コンテンツに対するフォルダー権限をリセットできます。

DocuSign アプリケーションランチャートラブルシューティングページを使用すると、管理者がアプリやユーザーのポリシーを変更できます。

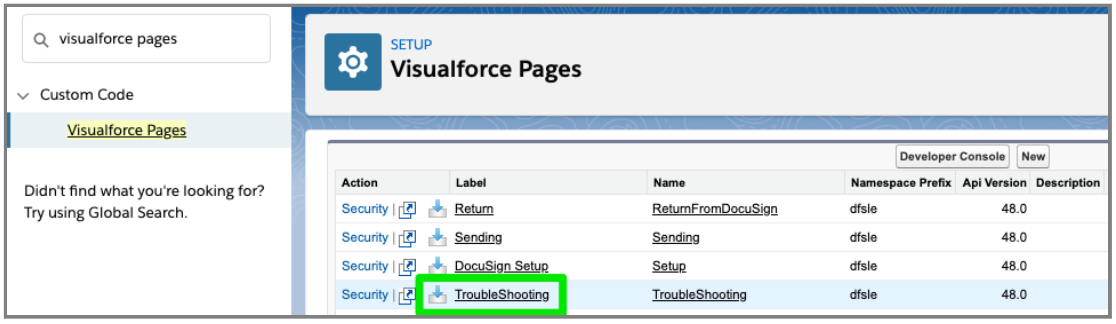
DocuSign トラブルシューティングページの[フォルダー権限]機能では、Salesforce 組織内の DocuSign コンテンツに対するフォルダー権限をリセットできます。管理者は 1 つのボタンを選択するだけで、すべてのカスタムフォルダー権限をすばやくリセットできます。

[フォルダー権限]機能を使用するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として、[Visualforce ページ]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]フィールドに「Visualforce」と入力します。

d. 左側のナビゲーションバーで[Visualforce ページ]を選択します。

2. [表示ラベル]列の[TroubleShooting]リンクを選択します。



3. [プレビュー]を選択します。[DocuSign アプリケーションランチャーのトラブルシューティング]ページが開きます。
4. アカウントの接続とユーザーのリセット: アクションの右にある[Execute(実行)]を選択します。ページの表示が更新されます。

以上の手順により、DocuSign コンテンツのカスタムフォルダー権限がすべて消去されました。

DocuSign アカウントにプロビジョニングされる製品をトラブルシューティングページで更新する

[製品の更新]機能を使用して、Salesforce 組織内のアプリや設定をアクティブ化したり更新したりする方法について説明します。

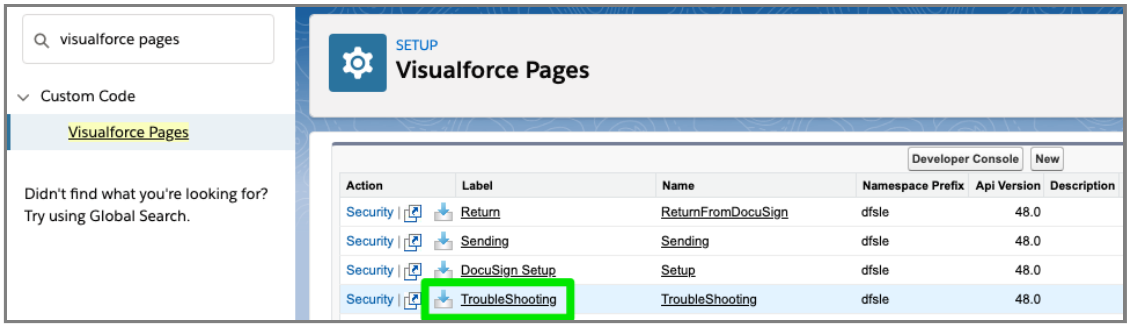
DocuSign アプリケーションランチャートラブルシューティングページを使用すると、管理者がアプリやユーザーのポリシーを変更できます。

[製品の更新]機能を使用すると、Salesforce 組織内のアプリや設定をアクティブ化したり更新したりできます。

- 新たに追加した製品(DocuSign Gen や Negotiate を新規購入した場合など)を[保留中]から[アクティブ]に切り替える。
- 前回確認したアカウント製品のカスタム設定を更新する。
- アカウント機能の設定を最新の状態にする。

[製品の更新]機能を使用するには、以下の手順に従います。

1. Salesforce 管理者として、[Visualforce ページ]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]フィールドに「Visualforce」と入力します。
   d. 左側のナビゲーションバーで[Visualforce ページ]を選択します。
2. [表示ラベル]列の[TroubleShooting]リンクを選択します。



3. [プレビュー]を選択します。[DocuSign アプリケーションランチャーのトラブルシューティング]ページが開きます。
4. 製品の更新: 右側の[実行]を選択します。
ページの表示が更新されます。「DocuSign アカウントの製品が更新されました」というメッセージが表示されます。

これにより、設定が更新され、保留中のアプリがアクティブ化されました。

古いバージョンの DocuSign eSignature for Salesforce アプリを Salesforce 組織からアンインストールする

古いバージョンの DocuSign eSignature for Salesforce アプリを Salesforce 組織からアンインストールする方法について説明します。

Salesforce 組織で使用できる DocuSign eSignature アプリには、2 つの種類があります。

- スタンドアロン版の **DocuSign eSignature for Salesforce**(**Legacy**)**:** 古いバージョンの DocuSign for Salesforce アプリで、2020 年に Salesforce AppExchange から削除されています。
- **DocuSign eSignature for Salesforce:** 現行バージョンの DocuSign for Salesforce アプリで、DocuSign アプリケーションランチャーパッケージに DocuSign Gen、DocuSign Negotiate、および DocuSign CLM のアプリと一緒に含まれています。

スタンドアロン版のアプリも現在サポートされますが、開発は完了しており今後廃止される予定です。

現行バージョンの eSignature for Salesforce にアップグレードして、最新の機能をご利用ください。

古いバージョンの eSignature ユーザー、レコード、およびボタンを現行バージョンに移行したら、古いバージョンをアンインストールできます。

ただし、まず古い eSignature for Salesforce の依存関係を解除する必要があります。この依存関係は古い eSignature for Salesforce からの参照を指し、Salesforce 組織でアクティブなまま残ります。たとえば、古いバージョンの eSignature 権限セット、コンポーネント、およびカスタムボタンがこれに相当します。

DocuSign eSignature アプリを Salesforce 組織からアンインストールするには、以下の手順に従います。

- ステップ 1: 古いバージョンの eSignature for Salesforce 権限セットからユーザーを削除する
- ステップ 2: 古いバージョンの eSignature コンポーネントを Salesforce レイアウトから削除する
- ステップ 3: 古いバージョンの eSignature のカスタムボタンを Salesforce レイアウトから削除する
- ステップ 4: 古いバージョンの DocuSign eSignature for Salesforce アプリを Salesforce 組織からアンインストールする

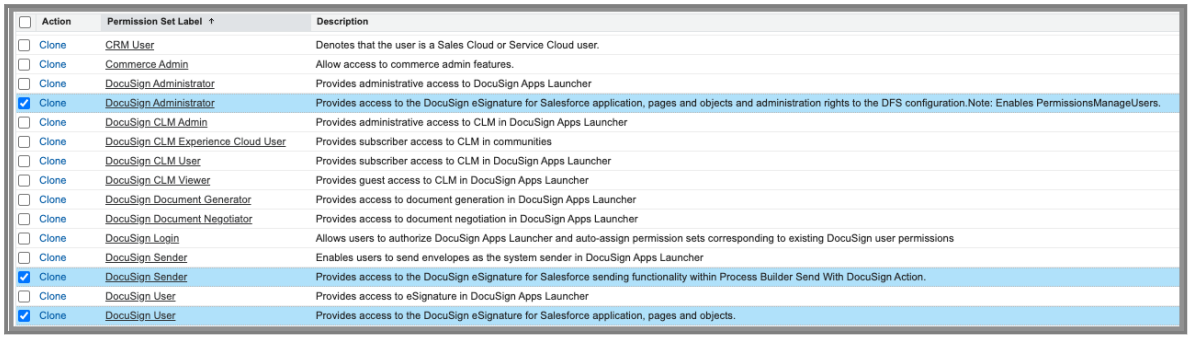
ステップ 1: 古いバージョンの eSignature for Salesforce 権限セットからユーザーを削除する

ここでは、古いバージョンの DocuSign eSignature for Salesforce の権限セットからすべてのユーザーを削除します。

以下の DocuSign eSignature for Salesforce 権限セットから、すべてのユーザーを削除する必要があります。

- DocuSign 管理者（DocuSign Administrator）
- DocuSign 差出人（DocuSign Sender）
- DocuSign ユーザー（DocuSign User）

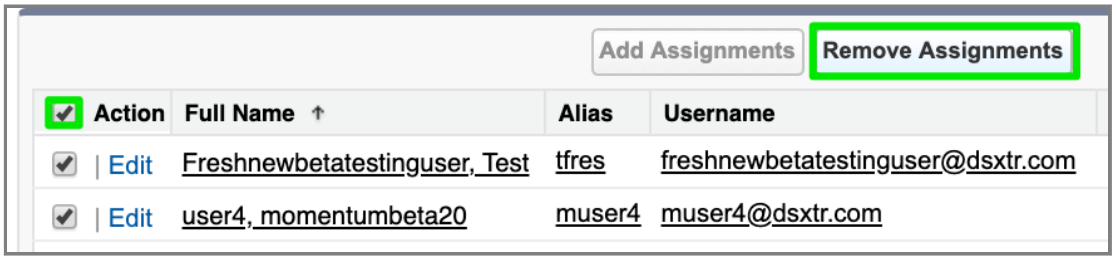
重要: 次の図のように、同じ名前の権限セットが表示される場合は、[説明]列に「DocuSign Apps Launcher」と表示されていないものを削除してください。



Action	Permission Set Label ↑	Description
Clone	CRM User	Denotes that the user is a Sales Cloud or Service Cloud user.
Clone	Commerce Admin	Allow access to commerce admin features.
Clone	DocuSign Administrator	Provides administrative access to DocuSign Apps Launcher
Clone	DocuSign Administrator	Provides access to the DocuSign eSignature for Salesforce application, pages and objects and administration rights to the DFS configuration.Note: Enables PermissionsManageUsers.
Clone	DocuSign CLM Admin	Provides administrative access to CLM in DocuSign Apps Launcher
Clone	DocuSign CLM Experience Cloud User	Provides subscriber access to CLM in communities
Clone	DocuSign CLM User	Provides subscriber access to CLM in DocuSign Apps Launcher
Clone	DocuSign CLM Viewer	Provides guest access to CLM in DocuSign Apps Launcher
Clone	DocuSign Document Generator	Provides access to document generation in DocuSign Apps Launcher
Clone	DocuSign Document Negotiator	Provides access to document negotiation in DocuSign Apps Launcher
Clone	DocuSign Login	Allows users to authorize DocuSign Apps Launcher and auto-assign permission sets corresponding to existing DocuSign user permissions
Clone	DocuSign Sender	Enables users to send envelopes as the system sender in DocuSign Apps Launcher
Clone	DocuSign Sender	Provides access to the DocuSign eSignature for Salesforce sending functionality within Process Builder Send With DocuSign Action.
Clone	DocuSign User	Provides access to eSignature in DocuSign Apps Launcher
Clone	DocuSign User	Provides access to the DocuSign eSignature for Salesforce application, pages and objects.

1. 管理者として[権限セット]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]ボックスに「権限セット」と入力します。

   [権限セット]ページが開きます。
2. [DocuSign Administrator]権限セット（[説明]列に「DocuSign Apps Launcher」と表示されていないもの）のリンクを選択します。
   [DocuSign Administrator]権限セットページが開きます。
3. ページ上部の[割り当ての管理]を選択します。
4. [アクション]の横のチェックボックスをオンにして、すべてのユーザーを選択します。
5. [割り当てを解除]を選択します。



[この権限セットからこれらのユーザを削除しますか?]ダイアログボックスが開きます。

6. [OK]を選択します。
   ダイアログボックスが閉じます。[DocuSign Administrator]権限セットページが開きます。
7. [完了]を選択します。
   ページの表示が更新されます。[氏名]列に「表示するレコードがありません」と表示されます。
8. [DocuSign Sender]および[DocuSign User]の権限セットについて、上記の手順を繰り返します。

ステップ 1 が完了しました。古いバージョンの DocuSign eSignature for Salesforce の権限セットからすべてのユーザーが削除されました。「ステップ 2: 古いバージョンの eSignature コンポーネントを Salesforce レイアウトから削除する」に進みます。

ステップ 2: 古いバージョンの eSignature コンポーネントを Salesforce レイアウトから削除する

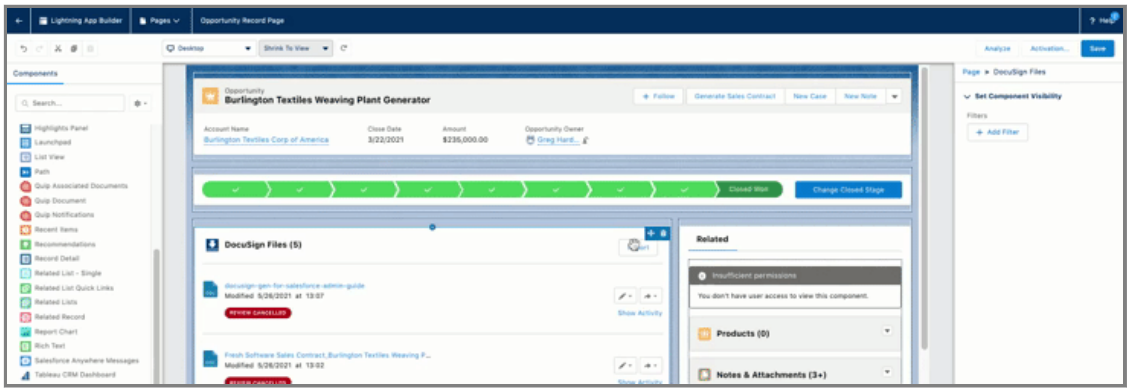
Salesforce ページレイアウトから古いバージョンの DocuSign eSignature for Salesforce コンポーネントを削除する方法について説明します。

古いバージョンの DocuSign eSignature for Salesforce アプリをアンインストールすると、すべての DocuSign コンポーネントが削除されます。ただし、コンポーネントがいずれかのレイアウトに追加されている場合は削除されません。

ここでは、レイアウトから DocuSign コンポーネントを削除する方法について説明します。

1. 管理者として[Lightning アプリケーションビルダー]ページを開きます。
   a. Salesforce レコード([取引先]や[商談]など)を開きます。
   b. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
   c. ドロップダウンメニューから[編集ページ]を選択します。

   [Lightning アプリケーションビルダー]ページが開きます。
2. 以下のコンポーネントを見つけます。
   - DocuSign Sending
   - DocuSign EnvelopeConfiguration
   - DocuSign EnvelopeConfigurationManageLayouts
3. コンポーネントにマウスポインターを置き、右上のごみ箱ボタン( )を選択します。



コンポーネントが削除されます。

4. ページ右上の[保存]を選択します。
5. この手順を繰り返し、ほかのすべての DocuSign eSignature コンポーネントを削除します。
6. レイアウトからすべてのコンポーネントを削除したら、ページ左上の[戻る]矢印()を選択します。
7. 古いバージョンの eSignature コンポーネントを含んでいるすべての Salesforce レイアウト(取引先、商談など)についてこの手順を繰り返します。

ステップ 2 が完了しました。Salesforce ページレイアウトから古いバージョンの DocuSign eSignature for Salesforce コンポーネントが削除されました。「ステップ 3: 古いバージョンの eSignature のカスタムボタンを Salesforce レイアウトから削除する」に進みます。

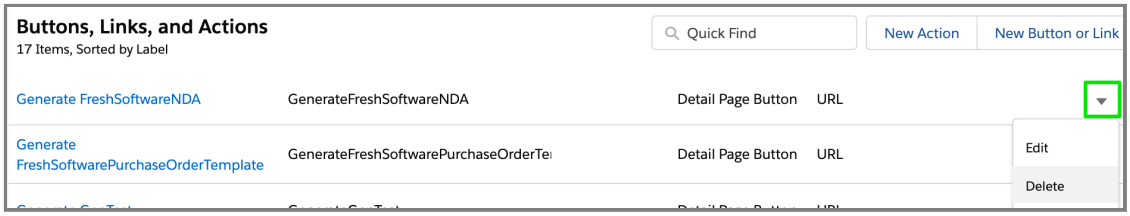
ステップ 3: 古いバージョンの eSignature のカスタムボタンを Salesforce レイアウトから削除する

Salesforce ページレイアウトから従来の DocuSign eSignature for Salesforce のカスタムボタンを削除する方法について説明します。

古いバージョンの DocuSign eSignature for Salesforce のカスタムボタンを Salesforce ページレイアウトから削除してからでないと、DocuSign eSignature for Salesforce アプリをアンインストールできません。

Salesforce ページレイアウトからすべての古いカスタムボタンを削除するには、以下の手順に従います。

1. 管理者として[ボタン、リンク、およびアクション]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン()を選択します。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]ボックスに「オブジェクトマネージャ」と入力します。
   d. 左側の列で、オブジェクト([取引先]や[商談]など)を選択します。
   e. [ボタン、リンク、およびアクション]を選択します。
2. 削除するカスタムボタンの横の矢印()を選択します。
3. ドロップダウンメニューから[削除]を選択します。



4. 「よろしいですか?」というメッセージが表示されたら、[削除]を選択します。
   ページの表示が更新され、カスタムボタンがリストから削除されます。

> 注:「このボタンまたはリンクが別の機能で使用されているため、このカスタムボタンまたはカスタムリンクの削除要求を完了できませんでした」というメッセージが表示されることがあります。この場合は、そのオブジェクト([取引先]や[商談]など)の Salesforce ページレイアウトを開き、カスタムボタンをページレイアウトから削除します。

5. ボタンを追加したすべての Salesforce レイアウト（取引先、商談など）についてこの手順を繰り返します。

以上の手順により、Salesforce ページレイアウトから古いバージョンの DocuSign eSignature for Salesforce のカスタムボタンが削除されました。「ステップ 4: 古いバージョンの DocuSign eSignature for Salesforce アプリを Salesforce 組織からアンインストールする」に進みます。

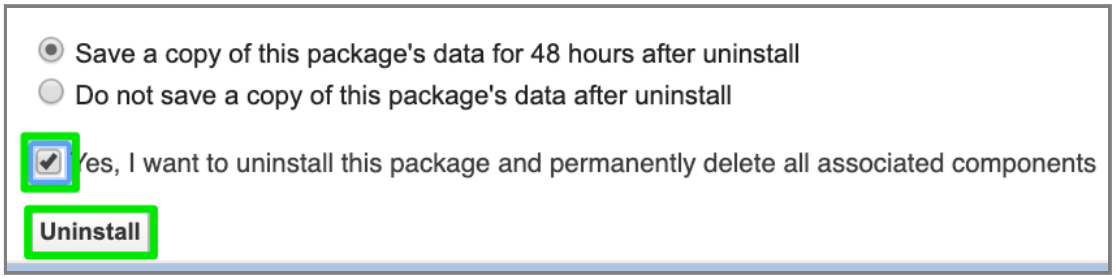
ステップ 4: 古いバージョンの DocuSign eSignature for Salesforce アプリを Salesforce 組織からアンインストールする

古いバージョンの DocuSign eSignature for Salesforce アプリを Salesforce 組織からアンインストールする方法について説明します。

古いバージョンの DocuSign eSignature for Salesforce に依存するすべての項目が削除されました。Salesforce 組織から DocuSign eSignature for Salesforce アプリをアンインストールするには、以下の手順に従います。

1. 管理者として、[インストール済みパッケージ]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]ボックスに「インストール済みパッケージ」と入力します。

   [インストール済みパッケージ]ページが開きます。
2. DocuSign eSignature for Salesforce パッケージの横の[アンインストール]を選択します。
   [パッケージのアンインストール]ページが開きます。
3. ページ下部の[はい。このパッケージをアンインストールして、すべての関連コンポーネントを永久に削除します]チェックボックスをオンにします。
4. [アンインストール]を選択します。



> **注:** 従来の eSignature for Salesforce アプリに依存する項目が残っている場合は、「パッケージをアンインストールできません」というメッセージが表示されます。リストにある残りの項目を削除してから、手順を繰り返してアプリをアンインストールします。

以上の手順により、古いバージョンの DocuSign eSignature for Salesforce に依存するすべての項目が削除され、このアプリが Salesforce 組織から削除されました。これで新しい eSignature for Salesforce アプリへの移行は完了です。

Salesforce 組織から DocuSign アプリケーションランチャーパッケージをアンインストールする

Salesforce 組織から DocuSign アプリケーションランチャーパッケージをアンインストールする方法について説明します。

必要に応じて、DocuSign アプリケーションランチャーパッケージ（CLM、Gen、Negotiate、eSignature for Salesforce）を Salesforce 組織からアンインストールできます。たとえば、以下の場合に DocuSign アプリケーションランチャーをアンインストールします。

- アプリケーションランチャーを以前のバージョンに戻す場合。
- 管理者のみにインストールしていた最新バージョンをすべてのユーザー用に再インストールする場合。
- ベータバージョンがインストール済みの組織に公式リリースをインストールする場合。

パッケージをアンインストールするには、既存のアプリケーションランチャーに依存するすべての項目を Salesforce 組織から削除しておく必要があります。依存する項目とは、Salesforce 組織内のアプリケーションランチャーアプリからの参照を指します。たとえば、DocuSign の権限セット、コンポーネント、カスタムボタンなどです。

ここでは、Salesforce 組織から DocuSign アプリケーションランチャーパッケージをアンインストールする方法について説明します。

1. DocuSign アプリケーションランチャーの権限セットからユーザーを削除する
2. Salesforce レイアウトから DocuSign アプリケーションランチャーコンポーネントを削除する
3. Salesforce レイアウトから DocuSign アプリケーションランチャーのカスタムボタンを削除する
4. Salesforce 組織から DocuSign アプリケーションランチャーパッケージをアンインストールする

ステップ 1: DocuSign アプリケーションランチャーの権限セットからユーザーを削除する

DocuSign の権限セットからすべてのユーザーを削除する方法について説明します。DocuSign アプリケーションランチャーパッケージをアンインストールする前にこの手順を実行する必要があります。

以下の権限セットからユーザーを削除する必要があります。

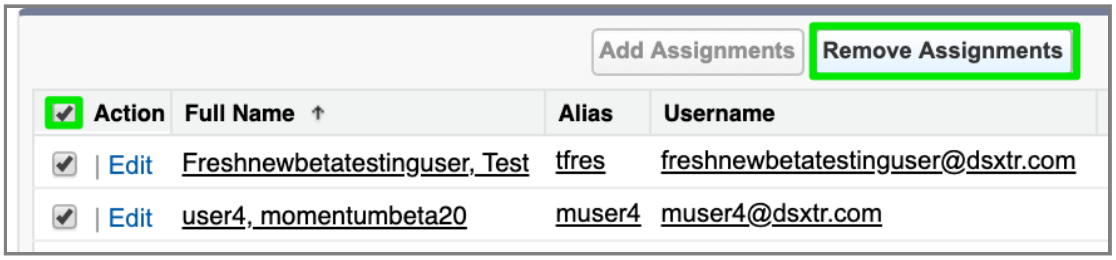
- DocuSign 管理者
- DocuSign CLM 管理者

DocuSign アプリケーションランチャーのほかの権限セットでもユーザーの削除が必要になる場合があります。

1. 管理者として[権限セット]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]ボックスに「権限セット」と入力します。

   [権限セット]ページが開きます。

2. [DocuSign 管理者]リンクを選択します。
   [DocuSign 管理者]権限セットページが開きます。
3. ページ上部の[割り当ての管理]を選択します。
4. [アクション]の横のチェックボックスをオンにして、すべてのユーザーを選択します。
5. [割り当てを解除]を選択します。



   [この権限セットからこれらのユーザを削除しますか?]ダイアログボックスが開きます。
6. [OK]を選択します。
   ダイアログボックスが閉じます。[DocuSign 管理者]権限セットページが開きます。
7. [完了]を選択します。
   ページの表示が更新されます。[氏名]列に「表示するレコードがありません」と表示されます。
8. この手順を、DocuSign CLM 管理者権限セットと DocuSign アプリケーションランチャーのほかの権限セットに対して繰り返します。

ステップ 1 が完了しました。DocuSign アプリケーションランチャーの権限セットからすべてのユーザーが削除されました。「ステップ 2: Salesforce レイアウトから DocuSign アプリケーションランチャーコンポーネントを削除する」に進みます。

ステップ 2: Salesforce レイアウトから DocuSign アプリケーションランチャーコンポーネントを削除する

Salesforce レイアウトから DocuSign アプリケーションランチャーのすべてのコンポーネントを削除する方法について説明します。DocuSign アプリケーションランチャーパッケージをアンインストールする前にこの手順を実行する必要があります。

DocuSign アプリケーションランチャーパッケージをアンインストールすると、すべての DocuSign コンポーネントも合わせて削除されますが、レイアウト上に追加済みのコンポーネントは削除されません。

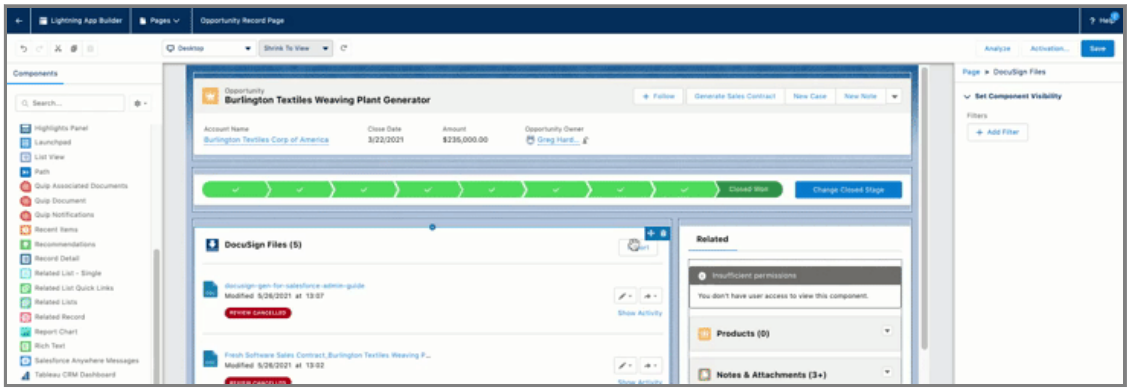
ここでは、レイアウトから DocuSign コンポーネントを削除する方法について説明します。

1. 管理者として[Lightning アプリケーションビルダー]ページを開きます。
   a. Salesforce レコード([取引先]や[商談]など)を開きます。
   b. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
   c. ドロップダウンメニューから[編集ページ]を選択します。

   [Lightning アプリケーションビルダー]ページが開きます。
2. 以下のコンポーネントを見つけます。
   - DocuSign CLM ファイル
   - DocuSign エンベロープのステータス

- DocuSign ファイル

3. コンポーネントにマウスポインターを置き、右上のごみ箱ボタン( )を選択します。



コンポーネントが削除されます。

4. ページ右上の[保存]を選択します。
5. この手順を繰り返し、ほかのすべての DocuSign コンポーネントを削除します。
6. レイアウトからすべてのコンポーネントを削除したら、ページ左上の[戻る]矢印( )を選択します。
7. この手順を、DocuSign アプリケーションランチャーのコンポーネントが追加された Salesforce の各レイアウト([取引先]や[商談]など)に対して繰り返します。

ステップ 2 が完了しました。Salesforce レイアウトから DocuSign アプリケーションランチャーのすべてのコンポーネントが削除されました。「ステップ 3(オプション): Salesforce レイアウトから DocuSign アプリケーションランチャーのカスタムボタンを削除する」に進みます。

ステップ 3(オプション): Salesforce レイアウトから DocuSign アプリケーションランチャーのカスタムボタンを削除する

Salesforce ページレイアウトから DocuSign アプリケーションランチャーのカスタムボタンを削除する方法について説明します。

関連するカスタムボタンを削除せずに DocuSign アプリケーションランチャーをアンインストールすることもできますが、不要なボタンがレイアウト上に表示されないようにするためには、カスタムボタンを削除してからアンインストールしてください。

ここでは、Salesforce レイアウトからアプリケーションランチャーのすべてのカスタムボタンを削除する方法について説明します。

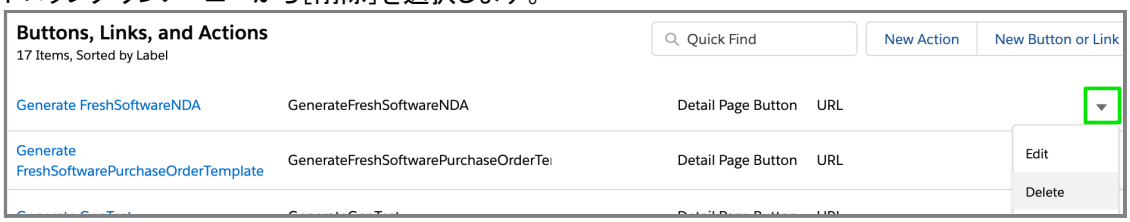
1. 管理者として[ボタン、リンク、およびアクション]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]ボックスに「オブジェクトマネージャ」と入力します。

d. 左側の列で、オブジェクト（[取引先]や[商談]など）を選択します。

e. [ボタン、リンク、およびアクション]を選択します。

2. 削除するカスタムボタンの横の矢印（▼）を選択します。

3. ドロップダウンメニューから[削除]を選択します。



4. 「よろしいですか?」というメッセージが表示されたら、[削除]を選択します。
ページの表示が更新され、カスタムボタンがリストから削除されます。

> 注:「このボタンまたはリンクが別の機能で使用されているため、このカスタムボタンまたはカスタムリンクの削除要求を完了できませんでした」というメッセージが表示されることがあります。この場合は、そのオブジェクト（[取引先]や[商談]など）の Salesforce ページレイアウトを開き、カスタムボタンをページレイアウトから削除します。

5. この手順を、DocuSign アプリケーションランチャーのカスタムボタンのある Salesforce の各レイアウト（[取引先]や[商談]など）に対して繰り返します。

以上の手順により、Salesforce レイアウトからすべての DocuSign アプリケーションランチャーのカスタムボタンがすべて削除されます。「ステップ 4: Salesforce 組織から DocuSign アプリケーションランチャーパッケージをアンインストールする」に進みます。

ステップ 4: Salesforce 組織から DocuSign アプリケーションランチャーパッケージをアンインストールする

Salesforce 組織から DocuSign アプリケーションランチャーパッケージをアンインストールする方法について説明します。

DocuSign アプリケーションランチャーに依存するすべての項目を削除したため、Salesforce 組織から DocuSign アプリケーションランチャーパッケージをアンインストールします。

1. 管理者として、[インストール済みパッケージ]ページを開きます。

a. ページ右上の歯車アイコン（⚙）を選択します。

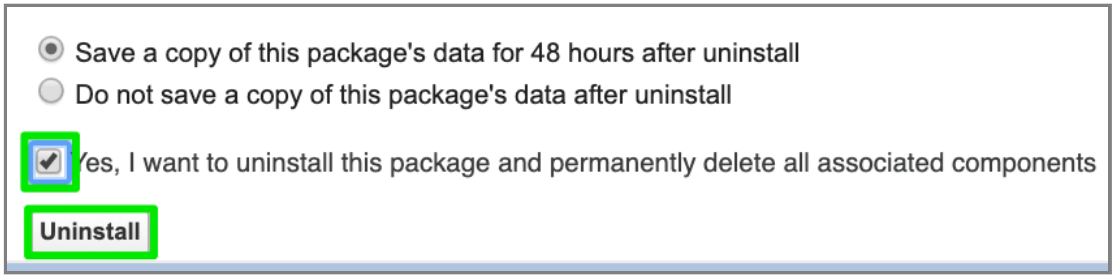
b. [設定]を選択します。

c. [クイック検索]ボックスに「インストール済みパッケージ」と入力します。

[インストール済みパッケージ]ページが開きます。

2. [DocuSign Apps Launcher]パッケージの[アンインストール]を選択します。
[パッケージのアンインストール]ページが開きます。

3. ページ下部の［はい。このパッケージをアンインストールして、すべての関連コンポーネントを永久に削除します］チェックボックスをオンにします。
4. ［アンインストール］を選択します。



> **注:** DocuSign アプリケーションランチャーパッケージに依存する項目が残っている場合場合は、「パッケージをアンインストールできません」というメッセージが表示されます。リストにある残りの項目を削除してから、手順を繰り返してアプリをアンインストールします。

以上の手順により、DocuSign アプリケーションランチャーに依存する項目が削除され、このパッケージが Salesforce 組織からアンインストールされました。これで、Salesforce AppExchange から最新のバージョンをインストールできるようになりました。

eSignature for Salesforce トラブルシューティングガイド

ここでは、DocuSign Apps Launcher for Salesforce（DocuSign アプリケーションランチャー）パッケージでインストールされる DocuSign eSignature for Salesforce アプリで問題が発生した場合のトラブルシューティングについて説明します。

ここでは、DocuSign Apps Launcher for Salesforce（DocuSign アプリケーションランチャー）パッケージでインストールされる DocuSign eSignature for Salesforce アプリで問題が発生した場合のトラブルシューティングについて説明します。

以下の内容について説明します。

- エンベロープテンプレートに受信者の DocuSign 役割と eSignature フィールドがない
- エンベロープテンプレートのエラー:「このエンベロープにはアクセスできません」
- 文書プレビューエラー:「文書の生成時に問題が発生しました」
- PDF ファイルをエンベロープテンプレートにアップロードするとエラーメッセージ「PDF ファイルの検証が失敗しました」が表示される
- ユーザーの再認証が 1 時間ごとに要求される
- エンベロープと受信者のステータスが更新されない
- 文書と日付が Salesforce 側に書き戻されない
- DocuSign 接続アプリのログイン履歴に「制限された IP（Restricted IP）」エラーが記録される
- エンベロープテンプレートエラー:「ドロップダウンフィールドのいくつかにオプションがありません」
- Gen から CLM にアップグレードした後で CLM の権限が有効になるまで 1 時間ほどかかる
- DocuSign と Salesforce のリレーションにより、Gen for Billing 管理者が DocuSign アプリケーションランチャーをアンインストールできない

- Gen 文書を署名者に送信するときに Salesforce 文書が重複して表示される
- 差し込みフィールドの作成時にエンベロープテンプレートのエラー「Salesforce サービスへの接続に失敗しました」が発生する
- DocuSign と Salesforce の接続を解除して再接続した後もエンベロープテンプレートに差し込みフィールドを追加できない
- Gen テンプレートとエンベロープテンプレートのエラー:「ユーザーは、ロックの所有者ではありません」
- iOS 用の Safari や Salesforce モバイルアプリでエンベロープの送信や署名ができない
- Salesforce で DocuSign のボタンを選択したときにエラーメッセージ「Authorization flow, user receives "The link you followed wasn't valid for your session. Return to the Previous Page, Refresh It, and Try Again.」が表示される。
- Salesforce API の呼び出し時に「INVALID_SESSION_ID」というエラーメッセージが表示される
- Salesforce API の呼び出し時に「Object reference not set to an instance of an object」というエラーメッセージが表示される
- エンベロープテンプレートに PDF をアップロードするとエラー「このファイルのサイズが上限を超えています」が表示される

エンベロープテンプレートに受信者の DocuSign 役割と eSignature フィールドがない

DocuSign eSignature for Salesforce のエンベロープテンプレートに受信者を追加するときに、DocuSign と Salesforce で役割が競合していると問題が発生することがあります。

DocuSign eSignature for Salesforce のエンベロープテンプレートに受信者を追加するときに、DocuSign と Salesforce で役割が競合していると問題が発生することがあります。

エンベロープテンプレートに設定されている受信者が Salesforce と DocuSign の両方の役割（ロール）を持つ場合、以下の問題が発生することがあります。

- 受信者の DocuSign 役割が Salesforce 役割に置き換わる。
- これらの受信者の DocuSign フィールドがエンベロープテンプレートから削除される。

再現手順:

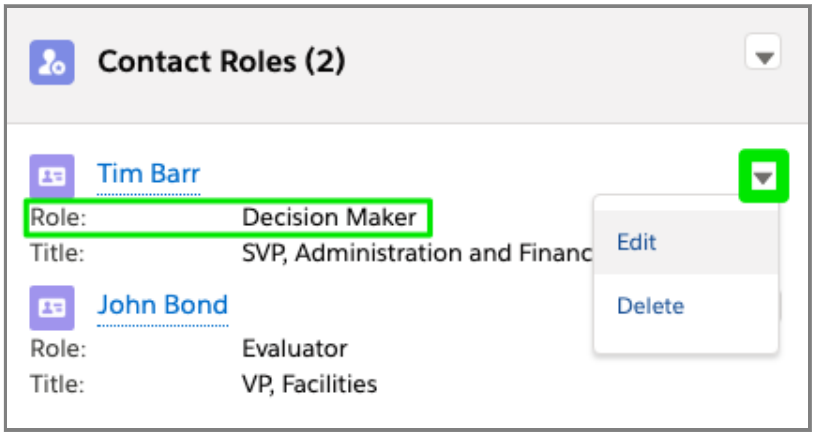
1. エンベロープテンプレートに DocuSign 受信者を追加します。
2. [関連リスト]から Salesforce の受信者（OpportunityContactRole など）を追加します。
3. エンベロープテンプレートを保存します。
4. eSignature for Salesforce でエンベロープの作成プロセスを開始します。
5. [受信者]ステップに進みます。受信者の DocuSign 役割が Salesforce 役割に置き換えられます。

   > **注:** この問題は、Salesforce の役割（Decision Maker、Evaluator など）を持つ受信者でのみ発生します。

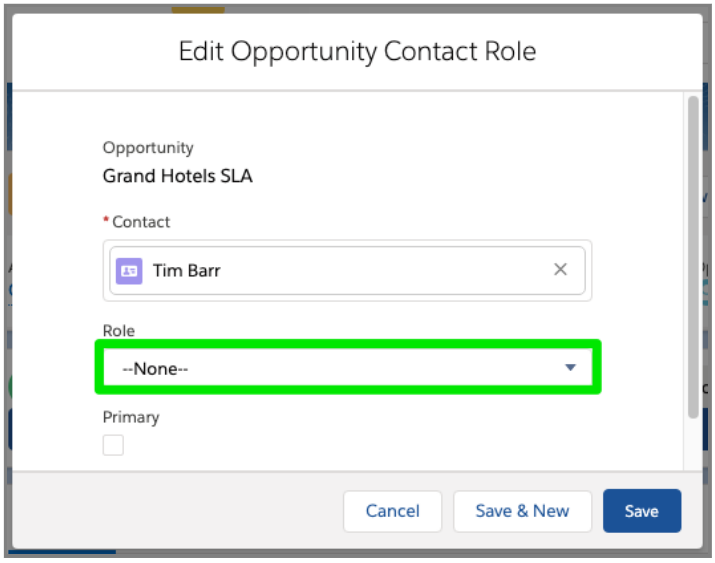
6. [準備と送信]ステップに進みます。DocuSign 受信者のフィールドが削除されます。
   結果: 受信者の DocuSign 役割と eSignature フィールドがテンプレートから削除されます。

解決策: Salesforce の取引先責任者から[ロール]フィールドを削除する

1. 取引先責任者の[ロール]フィールドを含んでいる Salesforce レコードページを開きます。
2. [取引先責任者の役割]セクションを見つけます。
3. 編集する取引先責任者の左にある下矢印(▼)を選択します。
4. [編集]を選択します。[取引先責任者の役割を編集]ダイアログボックスが開きます。



5. [ロール]ドロップダウンメニューを選択します。
6. [--なし--]を選択します。
7. [保存]を選択します。



[取引先責任者の役割]セクションに戻ると、[ロール]フィールドが空白になっています。
以上の手順により、受信者の Salesforce 役割の競合の問題が解決されます。エンベロープテンプレートを使って署名者に文書を送信するときに、DocuSign の役割とフィールドが正しく保持されます。

エンベロープテンプレートのエラー:「このエンベロープにはアクセスできません」

この問題を解決するには、アカウントのデフォルトを[アカウントのデフォルト設定を差出人が上書きすることを許可する]に設定します。これにより、エンベロープテンプレートを[文書]ページに保存して、後で編集できるようになります。

エンベロープテンプレートの作成時に[文書]ページの[保存して閉じる]ボタンを選択したときに、「このエンベロープにはアクセスできません」というエラーが発生することがあります。このエラーは、[文書]ページでのみ発生します。[受信者]、[フィールドの配置]、[オプション]、[カスタムボタン]のページで[保存して閉じる]を選択してもこのエラーは発生しません。

再現手順:

1. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
2. ページ右上の[新規]をクリックします。
3. テンプレート名を入力して、標準オブジェクト([取引先]や[商談]など)を選択します。
4. すぐに[文書]ページの[保存して閉じる]をクリックします。
   結果: エラーメッセージ「このエンベロープにはアクセスできません」が表示されます。ユーザーはテンプレートの作成を続行できません。

解決策: 関連付けられている **DocuSign** アカウントの[アカウントのデフォルト設定を差出人が上書きすることを許可する]設定を有効にする

1. 管理者として、Salesforce 組織に接続済みの DocuSign アカウントにログインします。
2. [設定]タブを選択します。
3. 左側のナビゲーションペインの[リマインダーと有効期限]を選択します。
4. [アカウントのデフォルト設定を差出人が上書きすることを許可する]チェックボックスをオンにします。
5. [保存]をクリックします。
   以上の手順により、アカウントのデフォルトが、[アカウントのデフォルト設定を差出人が上書きすることを許可する]に設定されました。これにより、エンベロープテンプレートを[文書]ページに保存して、後で編集できるようになります。

文書プレビューエラー:「文書の生成時に問題が発生しました」

デモ環境の DocuSign アカウントの管理者資格情報を使用して DocuSign と Salesforce を接続した場合、Gen テンプレート作成プロセスの[文書のプレビュー]ステップで「文書の生成時に問題が発生しました」というエラーメッセージが表示されることがあります。

この問題は、デモ環境の DocuSign アカウントが Salesforce に接続されている場合に断続的に発生します。デモ環境の DocuSign アカウントの管理者資格情報を使用して DocuSign と Salesforce を接続した場合、Gen テンプレート作成プロセスの[文書のプレビュー]ステップで「文書の生成時に問題が発生しました」というエラーメッセージが表示されることがあります。この場合、以下のような問題が発生します。

- 受信者の DocuSign 役割が Salesforce 役割に置き換わる。
- これらの受信者の DocuSign フィールドがエンベロープテンプレートから削除される。

Salesforce ロールによりエンベロープテンプレートから **DocuSign** の役割とフィールドが削除される

再現手順**:**

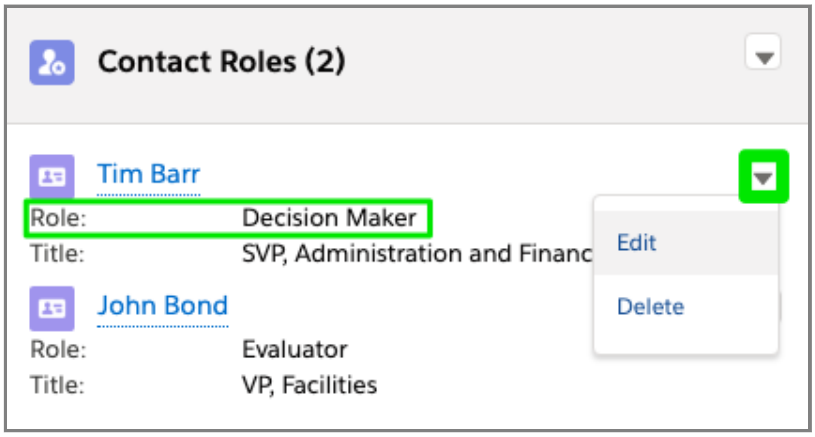
1. エンベロープテンプレートに DocuSign 受信者を追加します。
2. [関連リスト]から Salesforce の受信者(OpportunityContactRole など)を追加します。
3. エンベロープテンプレートを保存します。
4. eSignature for Salesforce でエンベロープの作成プロセスを開始します。
5. [受信者]ステップに進みます。受信者の DocuSign 役割が Salesforce 役割に置き換えられます。

> 注**:** この問題は、Salesforce の役割(Decision Maker、Evaluator など)を持つ受信者でのみ発生します。

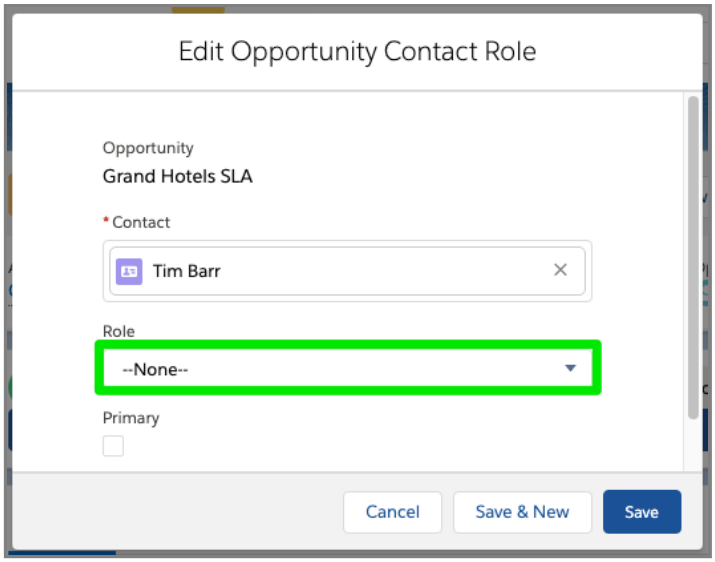
6. [準備と送信]ステップに進みます。DocuSign 受信者のフィールドが削除されます。
   結果**:** 受信者の DocuSign 役割と eSignature フィールドがテンプレートから削除されます。

解決策 **1: Salesforce** の取引先責任者から[ロール]フィールドを削除する

1. 取引先責任者の[ロール]フィールドを含んでいる Salesforce レコードページを開きます。
2. [取引先責任者の役割]セクションを見つけます。
3. 編集する取引先責任者の左にある下矢印(▼)を選択します。
4. [編集]を選択します。[取引先責任者の役割を編集]ダイアログボックスが開きます。



5. [ロール]ドロップダウンメニューを選択します。
6. [--なし--]を選択します。
7. [保存]を選択します。



[取引先責任者の役割]セクションに戻ると、[ロール]フィールドが空白になっています。

解決策 2: Salesforce と DocuSign との接続を解除し、キャッシュをクリアしてから再接続する

1. [DocuSign セットアップ]タブを開きます。
2. ページ右上の[接続を解除]リンクを選択します。
3. Salesforce からログアウトします。
4. Web ブラウザーのキャッシュを消去します。
5. Salesforce にログインし直します。
6. 管理者として DocuSign アプリケーションランチャーを開きます。[Salesforce に DocuSign を接続]ページが開きます。
7. Salesforce に DocuSign を接続します。

> **注:** Salesforce と DocuSign を接続するときに、デモ環境の同じ DocuSign 管理者アカウントを使用してください。

以上の手順により、受信者の Salesforce 役割の競合の問題が解決されます。エンベロープテンプレートを使って署名者に文書を送信するときに、DocuSign の役割とフィールドが正しく保持されます。

PDF ファイルをエンベロープテンプレートにアップロードするとエラーメッセージ「PDF ファイルの検証が失敗しました」が表示される

エンベロープテンプレート作成プロセスの[文書]ステップで PDF ファイルをアップロードするときに、問題が発生する場合があります。この問題は、すべての PDF で発生するわけではありません。

PDF ファイルをエンベロープテンプレートにアップロードするときに、エラーメッセージ「PDF ファイルの検証が失敗しました（The Validation of the PDF File Failed）」が表示されることがあります。

この問題は、すべての PDF で発生するわけではありません。

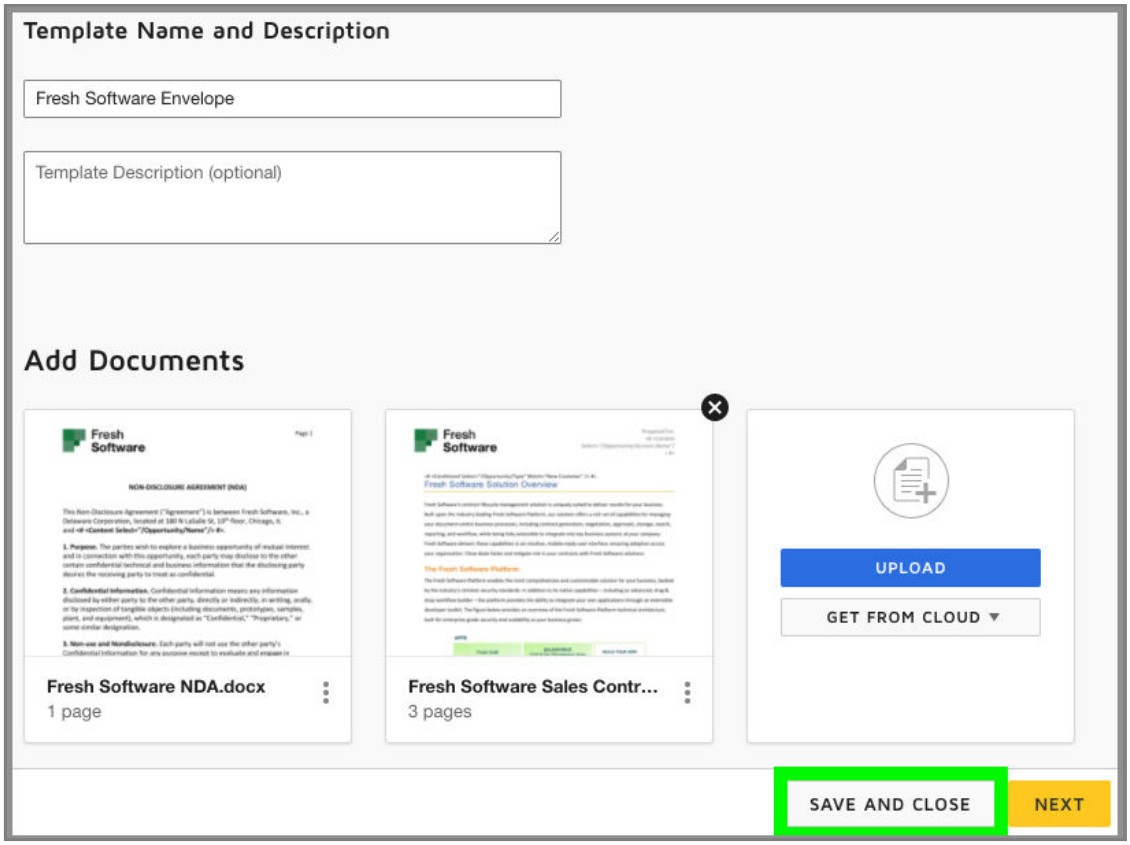
再現手順**:**

1. ［文書］ステップで、PDF ファイルをエンベロープテンプレートにアップロードします。文書のロードに失敗します。
2. 「PDF ファイルの検証が失敗しました」という内容のエラーが表示されます。
   結果**:** PDF がエンベロープテンプレートに追加されません。

> 注**:** エンベロープテンプレートでアップロードできる PDF ファイルのサイズは、3MB 以下である必要があります。この制限は、次回以降のリリースで緩和される予定です。

解決策 **1:** 関連付けられている **DocuSign eSignature** アカウントに直接ログインしてそのエンベロープテンプレートに **PDF** をアップロードします。

1. Salesforce 組織アカウントで、エンベロープテンプレートの［保存して閉じる］を選択します。
2. Web ブラウザーで新しいタブを開き、DocuSign アカウントにログインします。
3. ［テンプレート］タブを選択します。
   ［マイテンプレート］ページが開きます。
4. 作成しているエンベロープテンプレートを選択します。
   そのテンプレートのページが開きます。
5. ［編集］を選択します。
   テンプレートの編集ページが開きます。
6. ［アップロード］を選択します。
7. 目的の PDF ファイルをアップロードします。
8. ［保存して閉じる］を選択します。



以上の手順により、Salesforce 内ではサイズ制限のためアップロードできない PDF ファイルが正しくテンプレートに追加されました。Salesforce レコードからこのテンプレートを使って送信するエンベロープには、アップロードした PDF が同封されます。

重要: Salesforce 内でこのテンプレートを編集するとエラーが発生し、変更ができなくなることに注意してください。

解決策: PDF ファイルを Salesforce にアップロードしておき、エンベロープ作成時にそれを添付する

1. Salesforce レコードの[メモ＆添付ファイル]に PDF ファイルをアップロードします。
2. エンベロープテンプレートの作成プロセスを完了します。
3. Salesforce のレコードからエンベロープテンプレートのカスタムボタンを選択します。
4. [Salesforce から追加]を選択します。[Salesforce から追加]ダイアログボックスが開きます。
5. [メモ＆添付ファイル]にアップロードした PDF のチェックボックスをオンにします。
6. [追加]を選択します。
7. エンベロープの送信プロセスを完了します。
   以上の手順により、エンベロープテンプレートに追加できなかった PDF ファイルが、送信時に[メモ＆添付ファイル]から追加されました。

ユーザーの再認証が 1 時間ごとに要求される

[API ログインの多要素認証]設定または[ログイン IP アドレスの制限]を変更して、ユーザーが 1 時間ごとに資格情報の再入力を求められる問題を解決します。

一部のユーザーで、1 時間ごとに資格情報の入力を求められます。この問題の原因には、以下の 2 つがあります。

- Salesforce 組織で、ユーザーのプロファイルの[API ログインの多要素認証]が有効になっている。この場合、DocuSign のサーバー間 API 更新が正しく機能しません。
- ユーザーのプロファイルで[ログイン IP アドレスの制限]が指定されている。この場合、DocuSign サーバーからのユーザーの API ログインが不可能になります。

解決策 1: ユーザーのプロファイルで[API ログインの多要素認証]を無効にする

1. Salesforce の[ユーザプロファイル]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]ボックスに「プロファイル」と入力します。
   d. 左側のナビゲーションバーで[プロファイル]を選択します。
2. 編集するプロファイルの名前を選択します([標準ユーザ]など)。そのプロファイルのページが開きます。
3. [編集]を選択します。
4. [API ログインの多要素認証]チェックボックスをオフにします。
5. [保存]を選択します。
   以上の手順により、1 時間ごとの資格情報の入力が不要になります。

解決策 2: ユーザーのプロファイルで[ログイン IP アドレスの制限]を無効にする

1. Salesforce の[ユーザプロファイル]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]ボックスに「プロファイル」と入力します。
   d. 左側のナビゲーションバーで[プロファイル]を選択します。
2. 編集するプロファイルの名前を選択します([標準ユーザ]など)。そのプロファイルのページが開きます。
3. [ログイン IP アドレスの制限]を選択します。
4. IP アドレス範囲の左にある[削除]を選択します。
5. 「ログイン IP アドレスの制限を削除しますか?」というメッセージが表示されたら、上部のリンクの[OK]を選択します。
6. 必要に応じて[削除]アクションを繰り返して、残りのアドレス範囲を削除します。
   以上の手順により、1 時間ごとの資格情報の入力が不要になります。

解決策 3: DocuSign エンドポイントの IP アドレスを許可リストに追加する

1. DocuSign の信頼済み IP アドレス範囲を追加します。
2. 必要に応じて、Salesforce のログイン履歴のログから、制限された IP アドレス（**Salesforce の IP アドレス**など）を追加します。
   以上の手順により、1 時間ごとの資格情報の入力が不要になります。

エンベロープと受信者のステータスが更新されない

[API ログインの多要素認証]設定または[ログイン IP の範囲]を変更して、エンベロープや受信者のステータスが更新されない問題を解決します。

[DocuSign エンベロープのステータス]と[DocuSign 受信者のステータス]が更新されない場合、以下の 2 つの原因が考えられます。

- Salesforce 組織で、ユーザーのプロファイルの[API ログインの多要素認証]が有効になっている。この場合、DocuSign のサーバー間 API 更新が正しく機能しません。
- ユーザーのプロファイルで[ログイン IP アドレスの制限]が指定されている。この場合、DocuSign サーバーからのユーザーの API ログインが不可能になります。

解決策 1: ユーザーのプロファイルで[API ログインの多要素認証]を無効にする

1. Salesforce の[ユーザプロファイル]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]ボックスに「プロファイル」と入力します。
   d. 左側のナビゲーションバーで[プロファイル]を選択します。
2. 編集するプロファイルの名前を選択します（[標準ユーザ]など）。そのプロファイルのページが開きます。
3. [編集]を選択します。
4. [API ログインの多要素認証]チェックボックスをオフにします。
5. [保存]を選択します。
   以上の手順により、[DocuSign エンベロープのステータス]と[DocuSign 受信者のステータス]が更新されるようになりました。

解決策 2: ユーザーのプロファイルで[ログイン IP アドレスの制限]を無効にする

1. Salesforce の[ユーザプロファイル]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]ボックスに「プロファイル」と入力します。

d. 左側のナビゲーションバーで[プロファイル]を選択します。

2. 編集するプロファイルの名前を選択します([標準ユーザ]など)。そのプロファイルのページが開きます。
3. [プロファイル]ページの上部にある[ログイン IP アドレスの制限]を選択します。
4. IP アドレス範囲の左にある[削除]を選択します。
5. 「ログイン IP アドレスの制限を削除しますか?」というメッセージが表示されたら、[OK]を選択します。
6. 必要に応じて[削除]アクションを繰り返して、残りのアドレス範囲を削除します。
以上の手順により、[DocuSign エンベロープのステータス]と[DocuSign 受信者のステータス]が更新されるようになりました。

解決策 3: DocuSign エンドポイントの IP アドレスを許可リストに追加する

1. DocuSign Gen for Salesforce の信頼できる IP アドレス範囲を追加します。
2. ユーザーのログイン履歴に記録されている、制限された IP アドレスをすべて追加します。
以上の手順により、[DocuSign エンベロープのステータス]と[DocuSign 受信者のステータス]が更新されるようになりました。

文書と日付が Salesforce 側に書き戻されない

[API ログインの多要素認証]設定または[ログイン IP の範囲]を変更して、文書と日付が Salesforce 側に書き戻されない問題を解決します。

DocuSign テンプレートで有効にした書き戻しが正しく機能しない場合は、以下の 2 つの原因が考えられます。

- Salesforce 組織で、ユーザーのプロファイルの[API ログインの多要素認証]が有効になっている。この場合、DocuSign のサーバー間 API 更新が正しく機能しません。
- ユーザーのプロファイルで[ログイン IP アドレスの制限]が指定されている。この場合、DocuSign サーバーからのユーザーの API ログインが不可能になります。

解決策 1: ユーザーのプロファイルで[API ログインの多要素認証]を無効にする

1. Salesforce の[ユーザプロファイル]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]ボックスに「プロファイル」と入力します。
   d. 左側のナビゲーションバーで[プロファイル]を選択します。
2. 編集するプロファイルの名前を選択します([標準ユーザ]など)。そのプロファイルのページが開きます。
3. [編集]を選択します。
4. [API ログインの多要素認証]チェックボックスをオフにします。
5. [保存]を選択します。
以上の手順により、エンベロープの Salesforce 差し込みフィールドに変更が加えられると、Salesforce のレコードが更新されるようになりました。

解決策 2: ユーザーのプロファイルで[ログイン IP アドレスの制限]を無効にする

1. Salesforce の[ユーザプロファイル]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]ボックスに「プロファイル」と入力します。
   d. 左側のナビゲーションバーで[プロファイル]を選択します。
2. 編集するプロファイルの名前を選択します([標準ユーザ]など)。そのプロファイルのページが開きます。
3. [プロファイル]ページの上部にある[ログイン IP アドレスの制限]を選択します。
4. IP アドレス範囲の左にある[削除]を選択します。
5. 「ログイン IP アドレスの制限を削除しますか?」というメッセージが表示されたら、[OK]を選択します。
6. 必要に応じて[削除]アクションを繰り返して、残りのアドレス範囲を削除します。
   以上の手順により、エンベロープの Salesforce 差し込みフィールドに変更が加えられると、Salesforce のレコードが更新されるようになりました。

解決策 3: DocuSign エンドポイントの IP アドレスを許可リストに追加する

1. DocuSign Gen for Salesforce の信頼できる IP の範囲を追加します。
2. ユーザーのログイン履歴に記録されている、制限された IP アドレスをすべて追加します。
   以上の手順により、テンプレートへの文書の書き戻し機能が正しく動作するようになります。

DocuSign 接続アプリのログイン履歴に「制限された IP (Restricted IP)」エラーが記録される

[API ログインの多要素認証]設定または[ログイン IP の範囲]を変更すると、DocuSign 接続アプリのログイン履歴で発生する「制限された IP」エラーの問題を修正できます。

DocuSign 接続アプリのログイン履歴に「制限された IP(Restricted IP)」のエラーが記録される場合、2 つの原因が考えられます。

- Salesforce 組織で、ユーザーのプロファイルの[API ログインの多要素認証]が有効になっている。この場合、DocuSign のサーバー間 API 更新が正しく機能しません。
- ユーザーのプロファイルで[ログイン IP アドレスの制限]が指定されている。この場合、DocuSign サーバーからのユーザーの API ログインが不可能になります。

解決策 1: ユーザーのプロファイルで[API ログインの多要素認証]を無効にする

1. Salesforce の[ユーザプロファイル]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。

b. [設定]を選択します。
c. [クイック検索]ボックスに「プロファイル」と入力します。
d. 左側のナビゲーションバーで[プロファイル]を選択します。

2. 編集するプロファイルの名前を選択します([標準ユーザ]など)。そのプロファイルのページが開きます。
3. [編集]を選択します。
4. [API ログインの多要素認証]チェックボックスをオフにします。
5. [保存]を選択します。
以上の手順により、DocuSign 接続アプリのログイン履歴に「制限された IP」エラーが記録されなくなります。

解決策 2: ユーザーのプロファイルで[ログイン IP アドレスの制限]を無効にする

1. Salesforce の[ユーザプロファイル]ページを開きます。
a. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
b. [設定]を選択します。
c. [クイック検索]ボックスに「プロファイル」と入力します。
d. 左側のナビゲーションバーで[プロファイル]を選択します。
2. 編集するプロファイルの名前を選択します([標準ユーザ]など)。そのプロファイルのページが開きます。
3. [プロファイル]ページの上部にある[ログイン IP アドレスの制限]を選択します。
4. IP アドレス範囲の左にある[削除]を選択します。
5. 「ログイン IP アドレスの制限を削除しますか?」というメッセージが表示されたら、[OK]を選択します。
6. 必要に応じて[削除]アクションを繰り返して、残りのアドレス範囲を削除します。
以上の手順により、DocuSign 接続アプリのログイン履歴に「制限された IP」エラーが記録されなくなります。

解決策 3: DocuSign エンドポイントの IP アドレスを許可リストに追加する

1. DocuSign Gen for Salesforce を信頼できる IP アドレス範囲に追加します。
2. ユーザーのログイン履歴に記録されている、制限された IP アドレスをすべて追加します。
以上の手順により、DocuSign 接続アプリのログイン履歴に「制限された IP」エラーが記録されなくなります。

エンベロープテンプレートエラー:「ドロップダウンフィールドのいくつかにオプションがありません」

エンベロープテンプレートに Salesforce の選択リストの差し込みフィールドを追加する場合、特定の手順に従う必要があります。

エンベロープテンプレートに Salesforce の選択リストの差し込みフィールドを追加する場合、特定の手順に従う必要があります。

[フィールドの配置]ページでフィールドを文書に追加するときに、「ドロップダウンフィールドのいくつかにオプションがありません」というエラーメッセージが表示されます。

[フィールドの配置]ページは DocuSign アカウントのページであり、Salesforce 組織からフィールドにアクセスできないとこの問題が発生します。

再現手順:

1. Salesforce 管理者として、DocuSign エンベロープテンプレートを開きます。
2. [フィールドの配置]の矢印を選択します。[フィールドの配置]ページが開きます。
3. ページ左側で[差し込みフィールド]タブを選択します。
4. Salesforce の選択リストフィールドを文書にドラッグします。

結果:「ドロップダウンフィールドのいくつかにオプションがありません」というエラーメッセージが表示されます。

解決策: [戻る]を選択してから[保存して閉じる]ボタンを選択する

1. ページ右下にある[戻る]を選択します。[テンプレートの名前と説明]ページが開きます。
2. ページ右下にある[保存して閉じる]を選択します。
   エンベロープテンプレートに選択リストフィールドが正しく追加されました。この問題は、次回以降のリリースで解決される予定です。

Gen から CLM にアップグレードした後で CLM の権限が有効になるまで 1 時間ほどかかる

DocuSign Gen を DocuSign CLM にアップグレードした場合、新しい CLM の権限が有効になるまで 1 時間程度かかります。1 時間経過後に[DocuSign セットアップ]タブの表示を更新すると、CLM の管理者ページが表示されます。

DocuSign Gen アカウントを DocuSign CLM にアップグレードした場合、新しい CLM の権限が有効になるまで 1 時間程度かかります。1 時間経過後に[DocuSign セットアップ]タブの表示を更新すると、CLM の管理者ページが表示されます。

再現手順:

1. DocuSign Gen アカウントを DocuSign CLM にアップグレードします。
2. 1 時間経過する前に、新しい CLM 管理者として Salesforce にログインします。
3. [DocuSign セットアップ]タブを選択します。

結果: DocuSign アプリケーションランチャーのホーム画面には、CLM の管理者画面ではなく、Gen-Negotiate の管理者画面が表示されます。

解決策: 1 時間経過したら、[DocuSign セットアップ]タブの表示を 2 回更新する

1. DocuSign Gen アカウントを DocuSign CLM にアップグレードしたら、1 時間待ちます。
2. Salesforce 組織にログインします。
3. [DocuSign セットアップ]タブを開きます。Gen-Negotiate の管理者画面が表示されます。
4. ページの表示を 1 回更新します。Gen-Negotiate の管理者画面が再度表示されます。
5. ページの表示をもう 1 回更新します。CLM の管理者画面が表示されます。

これにより、CLM 管理者が[DocuSign セットアップ]タブの CLM 管理者ページにアクセスできるようになりました。上記手順を繰り返す必要はありません。この問題は、次回以降のリリースで解決される予定です。

DocuSign と Salesforce のリレーションにより、Gen for Billing 管理者が DocuSign アプリケーションランチャーをアンインストールできない

Gen for Billing 管理者が DocuSign アプリケーションランチャーをアンインストールしようとすると、「パッケージをアンインストールできません」という内容のエラーが表示される場合があります。この場合、まず余分なリレーションシップ、権限セット、および Apex クラスコンポーネントを組織から削除する必要があります。

Gen for Billing 管理者が DocuSign アプリケーションランチャーをアンインストールしようとすると、「パッケージをアンインストールできません」という内容のエラーが表示される場合があります。この場合、まず余分なリレーションシップ、権限セット、および Apex クラスコンポーネントを組織から削除する必要があります。

再現手順:

1. 標準的な DocuSign と Salesforce の依存関係（DocuSign コンポーネント、権限セットの割り当てなど）を削除します。
2. Salesforce 組織で[設定]>[インストール済みパッケージ]に移動します。
3. [DocuSign Apps Launcher]パッケージの[アンインストール]を選択します。
4. Salesforce に表示される指示に従って、パッケージをアンインストールします。

結果:「パッケージをアンインストールできません」という内容のエラーメッセージが表示され、削除が必要な Gen for Billing の依存関係リストが表示されます。

解決策: Gen for Billing のすべての依存関係を削除してからパッケージをアンインストールします。

1. Salesforce 管理者として、[インストール済みパッケージ]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン（）をクリックします。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]ボックスに「インストール済みパッケージ」と入力します。
   d. ページ左側で[インストール済みパッケージ]を選択します。
2. [DocuSign Apps Launcher]パッケージの[アンインストール]を選択します。
3. Salesforce に表示される指示に従って、パッケージをアンインストールします。「パッケージをアンインストールできません」という内容のエラーメッセージが表示され、削除が必要な Gen for Billing の依存関係リストが表示されます。
4. 標準的な DocuSign と Salesforce の依存関係（DocuSign コンポーネント、権限セットの割り当てなど）を削除します。
5. 以下の Gen for Billing 依存関係を削除します。
   - InvoiceTriggerGenBilling: Apex トリガ詳細ページでこのトリガーを削除します。
   - DocuSign ログ: [項目とリレーション]ページでこのカスタムオブジェクトを削除します。
   - DocuSign Billing Admin: この権限セットからすべてのユーザーを削除します。

6. Salesforce に表示される指示に従って、DocuSign アプリケーションランチャーパッケージをアンインストールします。
   以上の手順により、DocuSign と Salesforce の依存関係をすべて削除し、DocuSign アプリケーションランチャーパッケージをアンインストールできました。

Gen 文書を署名者に送信するときに Salesforce 文書が重複して表示される

Gen 文書を署名者に送信するときにファイルが重複する問題を解決します。

エンベロープ作成プロセスの[文書]ステップで、文書が重複して表示されることがあります。

再現手順:

1. DocuSign エンベロープテンプレートを作成します。
2. エンベロープテンプレートの[文書]ページで[Salesforce レコードの文書を添付する]チェックボックスをオンにします。
3. ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
4. Gen テンプレートを作成します。
5. Gen テンプレートの[ボタンの作成]のページで、エンベロープテンプレートへのリンクを追加します。
6. レコードの Gen カスタムボタンを選択して、文書を生成します。
7. 表示されるページで[DocuSign で送信]を選択します。

結果: [文書]ページに Salesforce の添付ファイルが重複して表示されます。

解決策: 重複する Salesforce ファイルのチェックボックスをオフにしてから送信する

1. Salesforce レコードの Gen ボタンを選択します。
   Gen によって新しい文書が作成され、プレビューページが開きます。
2. [署名者への送信]を選択します。
   エンベロープの作成プロセスの[文書]ページが開きます。
3. 重複して表示されている Salesforce 文書のいずれかのチェックボックスをオフにします。
4. 残りのエンベロープの作成プロセスを実行します。
   以上の手順により、重複する Salesforce 文書の問題が解決され、エンベロープが送信されます。

関連情報

DocuSign eSignature for Salesforce でエンベロープテンプレートを作成して電子署名プロセスを自動化する
Microsoft Word を使用して Gen テンプレートを作成する

差し込みフィールドの作成時にエンベロープテンプレートのエラー「Salesforce サービスへの接続に失敗しました」が発生する

DocuSign アカウントと Salesforce 組織の接続を解除して再接続します。これにより接続がリセットされ、問題が解決されます。

DocuSign エンベロープテンプレートに差し込みフィールドを追加するときに、以下のようなエラーメッセージが表示されます。

- 保存エラー: 一部のフィールドが同期されていない可能性があります。
- サービスに接続できません。
- Salesforce サービスへの接続に失敗しました。

再現手順:

1. [DocuSign エンベロープテンプレート]タブを選択します。
2. ページ右上の[編集]をクリックします。
3. [差し込みフィールド]タブを選択します。
4. [フィールドの追加]を選択します。
5. すぐに[文書]ページの[保存して閉じる]をクリックします。
   結果: エラーメッセージ「保存エラー: 一部のフィールドが同期されていない可能性があります。サービスに接続できません。Salesforce サービスへの接続に失敗しました」が表示され、新しい差し込みフィールドを追加できません。

解決策: DocuSign アカウントと Salesforce 組織の接続を解除して再接続する

1. Salesforce の[DocuSign セットアップ]タブで[接続の解除]リンクを選択します。
2. [DocuSign にログイン]を選択します。
   以上の手順により、DocuSign アカウントと Salesforce 組織の接続がリセットされ、DocuSign エンベロープテンプレートに差し込みフィールドを追加できるようになります。

関連情報

DocuSign と Salesforce の接続を解除して再接続した後もエンベロープテンプレートに差し込みフィールドを追加できない

DocuSign と Salesforce の接続を解除して再接続した後もエンベロープテンプレートに差し込みフィールドを追加できない

この問題を解決するには、最初に[DocuSign セットアップ]タブの[接続の解除]を選択します。その後で、DocuSign eSignature アカウントにアクセスして、DocuSign Connect 設定の Salesforce リンクを削除します。

DocuSign エンベロープテンプレートに差し込みフィールドを追加するときに、以下のようなエラーメッセージが表示されます。

- 保存エラー: 一部のフィールドが同期されていない可能性があります。
- サービスに接続できません。
- Salesforce サービスへの接続に失敗しました。

この場合、Salesforce の DocuSign アカウントの接続を解除して再接続しても、DocuSign エンベロープテンプレートへの差し込みフィールドの追加など、一部の機能で問題が発生します。さらに、DocuSign のトラブルシューティングページに従って接続を解除して再接続しても、問題が解決されません。

> **注:** この問題は、一般的なシナリオでは発生しません。通常、管理者が[DocuSign セットアップ]タブの[接続の解除]リンクを使用するだけで、Salesforce と DocuSign 間の接続をリセットできます。

再現手順:

1. [DocuSign セットアップ]タブで[接続の解除]リンクを選択します。
2. [DocuSign にログイン]を選択します。
3. Salesforce と DocuSign を再接続します。
4. DocuSign エンベロープテンプレートを開きます。
5. 新しい差し込みフィールドを追加します。
   結果:「保存エラー: 一部のフィールドが同期されていない可能性があります」というエラーメッセージが表示されます。このため、差し込みフィールドを追加できません。

解決策: DocuSign の接続を解除してから DocuSign eSignature アカウント内で DocuSign Connect 設定の Salesforce リンクを削除する

1. Salesforce の[DocuSign セットアップ]タブで[接続の解除]リンクを選択します。
2. 管理者として、Salesforce 組織に接続済みの DocuSign アカウントにログインします。
3. [設定]タブを選択します。
4. ページの左側で[DocuSign Connect]を選択します。
5. [DocuSign Apps Launcher]の横にある[アクション]ドロップダウンメニューを選択します。
6. リストから[削除]を選択します。
7. [Connect 設定の削除]ダイアログボックスの[削除]を選択します。

8. Salesforce に戻り、[DocuSign にログイン]を選択します。
   以上の手順により、DocuSign アカウントと Salesforce 組織の両方でアカウントのリンクが切断され、Salesforce 内でアカウントが再接続されました。これで、エンベロープテンプレートに差し込みフィールドを追加できるようになります。

Gen テンプレートとエンベロープテンプレートのエラー:「ユーザーは、ロックの所有者ではありません」

Gen テンプレートまたはエンベロープテンプレートを編集するときに発生する「ユーザーは、ロックの所有者ではありません」エラーの解決方法について説明します。

DocuSign エンベロープテンプレートや DocuSign Gen テンプレートを編集しようとすると、

「ユーザーは、ロックの所有者ではありません。このテンプレートは、他のユーザーまたはアプリケーションによってロックされています」という内容のエラーメッセージが表示されます。

この問題が発生すると、テンプレートを編集したり変更内容を保存したりできなくなります。

再現手順:

1. Gen テンプレートまたはエンベロープテンプレートを開くか、作成します。
2. 通常のテンプレート作成手順に従って情報を追加または編集します(フィールドの追加、ボタンの作成など)。
3. [保存して閉じる]を選択せずに Web ブラウザーのタブを閉じます。
4. 同じテンプレートを開きます。
5. テンプレートの編集を試みます。
   結果:「ユーザーは、ロックの所有者ではありません。このテンプレートは、他のユーザーまたはアプリケーションによってロックされています」という内容のエラーメッセージが表示されます。このエラーが表示されると、編集も[保存して閉じる]の選択も実行できなくなります。

解決策: Salesforce にログインし直すか、Web ブラウザーのキャッシュを削除します。

1. ページ右上の Salesforce ユーザーアイコンを選択します。
2. ドロップダウンメニューから[ログアウト]を選択します。
3. Salesforce 組織にログインし直します。
4. Gen テンプレートの編集を再び試みます。
5. エラーメッセージが引き続き表示される場合は、Web ブラウザーのキャッシュを削除します。
6. Salesforce 組織にログインし直します。
7. Gen テンプレートの編集を再び試みます。
   以上の手順により、テンプレートのロックが解除されます。Gen テンプレートやエンベロープテンプレートを編集したり、変更内容を保存したりできるようになりました。

iOS 用の Safari や Salesforce モバイルアプリでエンベロープの送信や署名ができない

問題の解決方法

iOS 用の Safari を使って DocuSign エンベロープを送信または署名しようとすると、以下のような問題が発生します。

- エンベロープに DocuSign フィールドを追加する画面が空白で表示される。
- エンベロープに署名する画面が空白で表示される。
- 「URL が移動しました」という内容ののエラーページが表示される。

この問題は、Safari モバイルブラウザーまたは Salesforce モバイルアプリを使用しているときに発生します。

これらのエラーが発生すると、エンベロープを送信したり、署名したりできません。

重要: DocuSign も Salesforce も、Safari モバイルブラウザーの使用をサポートしていません。Apple iOS デバイスで送信または署名する場合は、Google Chrome、Mozilla Firefox、または Salesforce モバイルアプリを使用してください。

Safari モバイルブラウザーを使ってエンベロープを送信したり文書に署名したりしないでください。Google Chrome、Mozilla Firefox、または Salesforce モバイルアプリを使用してください。

Salesforce で DocuSign のボタンを選択したときにエラーメッセージ「The link you followed wasn't valid for your session. Return to the Previous Page, Refresh It, and Try Again.」が表示される。

新規 DocuSign ユーザーが Salesforce で DocuSign オブジェクトを選択したときに表示されるエラーメッセージとその解決策について説明します。

Salesforce ユーザーに DocuSign ユーザーアカウントを割り当てた後で、「リンクが無効である」という内容のエラーメッセージが表示されることがあります。

この場合、Salesforce で DocuSign のボタンやコンポーネントを選択したときに、認証が求められます。

ユーザーが DocuSign と Salesforce の資格情報を入力しても、エラーメッセージが表示されます。

エラーメッセージには、「The link you followed wasn't valid for your session. Return to the Previous Page, Refresh It, and Try Again.」と表示されます。

この問題が発生すると、Salesforce で DocuSign のアプリや機能にアクセスできなくなります。

再現手順:

1. ユーザーが、DocuSign ユーザーのアクティブ化メールを受け取ります。

2. DocuSign のパスワードを作成し、自分のアカウントをアクティブ化します。
3. Salesforce で DocuSign のボタンやコンポーネントを選択します。
4. 認証画面が開いたら、DocuSign と Salesforce の資格情報を入力します。
   結果: エラーメッセージ「The link you followed wasn't valid for your session. Return to the Previous Page, Refresh It, and Try Again.」が表示されます。この問題が発生すると、Salesforce で DocuSign のアプリや機能にアクセスできなくなります。

解決策: Web ブラウザーの[戻る]を選択してから、ページの表示を更新します。

1. Web ブラウザーの[戻る]を選択します。
2. Web ブラウザーの更新ボタンを選択します。
3. DocuSign オブジェクトを再度選択します。
   以上の手順により、Salesforce での DocuSign オブジェクトの認証プロセスが完了し、管理者がアクセスを許可したすべての DocuSign アプリとサービスが利用可能になります。

Salesforce API の呼び出し時に「INVALID_SESSION_ID」というエラーメッセージが表示される

レイアウトリストの表示、ボタンの発行、Salesforce からの文書の取得を行うときに、「INVALID_SESSION_ID」という Web サービスエラーが表示されることがあります。

Salesforce API の呼び出し時に「INVALID_SESSION_ID」というエラーメッセージが表示されることがあります。

再現手順:

1. 以下のいずれかの Salesforce API コマンドを呼び出します。
   - レイアウトリストの表示
   - ボタンの発行
   - 署名者に送信する文書の Salesforce からの取得

   結果: エラーメッセージ「INVALID_SESSION_ID」が表示され、API コマンドを実行できません。

解決策: Salesforce で[ログイン時の IP アドレスとセッションをロックする]オプションを無効にします。

1. Salesforce 管理者として、[セッションの設定]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]ボックスに「セッションの設定」と入力します。
   d. 左側のナビゲーションバーで[セッションの設定]を選択します。
2. [セッションの設定]セクションの[ログイン時の IP アドレスとセッションをロックする]チェックボックスをオフにします。
3. [保存]を選択します。
4. いったん Salesforce からログアウトしてログインし直します。

5. API トランザクションを再実行します。
   以上の手順により、[ログイン時の IP アドレスとセッションをロックする]オプションが無効になりました。

Salesforce API の呼び出し時に「Object reference not set to an instance of an object」というエラーメッセージが表示される

レイアウトリストの表示、ボタンの発行、Salesforce からの文書の取得を行うときに、「Object reference not set to an instance of an object」という Web サービスエラーが表示されることがあります。

Salesforce API の呼び出し時に「Object reference not set to an instance of an object」というエラーメッセージが表示されることがあります。

再現手順:

1. 以下のいずれかの Salesforce API コマンドを呼び出します。
   - レイアウトリストの表示
   - ボタンの発行
   - 署名者に送信する文書の Salesforce からの取得

   結果: エラーメッセージ「Object Reference is not set to an instance of an object」が表示され、API コマンドを実行できません。

解決策: Salesforce で[ログイン時の IP アドレスとセッションをロックする]オプションを無効にします。

1. Salesforce 管理者として、[セッションの設定]ページを開きます。
   a. ページ右上の歯車アイコン( )を選択します。
   b. [設定]を選択します。
   c. [クイック検索]ボックスに「セッションの設定」と入力します。
   d. 左側のナビゲーションバーで[セッションの設定]を選択します。
2. [セッションの設定]セクションの[ログイン時の IP アドレスとセッションをロックする]チェックボックスをオフにします。
3. [保存]を選択します。
4. いったん Salesforce からログアウトしてログインし直します。
5. API トランザクションを再実行します。
   以上の手順により、[ログイン時の IP アドレスとセッションをロックする]オプションが無効になりました。

エンベロープテンプレートに **PDF** をアップロードするとエラー「このファイルのサイズが上限を超えています」が表示される

エンベロープテンプレートで PDF のファイルサイズエラーを回避する方法について説明します。

エンベロープテンプレートの［文書］ステップでに PDF をアップロードするとに、エラーが発生することがあります。この問題は、すべての PDF で発生するわけではありません。

注:

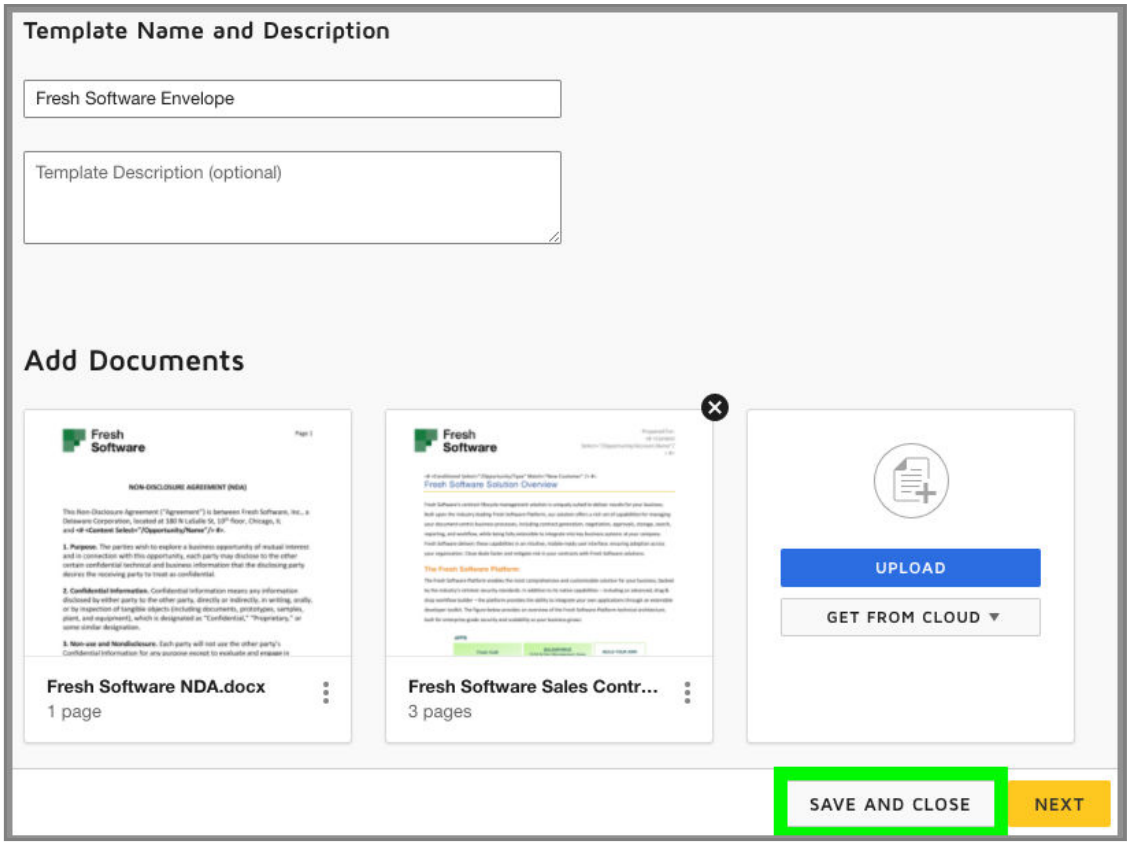
- このエラーは、**3MB** を超えるサイズのファイルをアップロードすると発生します。Salesforce 内の DocuSign テンプレートには、3MB のファイル制限があります。
- ただし、関連付けられている DocuSign eSignature アカウントに直接ログインして同じテンプレートにアクセスする場合、ファイルサイズの上限は **25MB** になります。

再現手順:

1. ［文書］ステップで、PDF ファイルをエンベロープテンプレートにアップロードします。文書のロードに失敗します。
2. エラーメッセージ「このファイルのサイズが上限を超えています」が表示されます。
   結果: エンベロープテンプレートに PDF が追加されません。

解決策 **1:** 関連付けられている **DocuSign eSignature** アカウントに直接ログインしてそのエンベロープテンプレートに **PDF** をアップロードします。

1. Salesforce 組織アカウントで、エンベロープテンプレートの［保存して閉じる］を選択します。
2. Web ブラウザーで新しいタブを開き、DocuSign アカウントにログインします。
3. ［テンプレート］タブを選択します。
   ［マイテンプレート］ページが開きます。
4. 作成しているエンベロープテンプレートを選択します。
   そのテンプレートのページが開きます。
5. ［編集］を選択します。
   テンプレートの編集ページが開きます。
6. ［アップロード］を選択します。
7. 目的の PDF ファイルをアップロードします。
8. ［保存して閉じる］を選択します。



以上の手順により、Salesforce 内ではサイズ制限のためアップロードできない PDF ファイルが正しくテンプレートに追加されました。Salesforce レコードからこのテンプレートを使って送信するエンベロープには、アップロードした PDF が同封されます。

重要: Salesforce 内でこのテンプレートを編集するとエラーが発生し、変更ができなくなることに注意してください。

解決策: PDF ファイルを Salesforce にアップロードしておき、エンベロープ作成時にそれを添付する

1. Salesforce レコードの[メモ＆添付ファイル]に PDF ファイルをアップロードします。
2. エンベロープテンプレートの作成プロセスを完了します。
3. Salesforce のレコードからエンベロープテンプレートのカスタムボタンを選択します。
4. [Salesforce から追加]を選択します。[Salesforce から追加]ダイアログボックスが開きます。
5. [メモ＆添付ファイル]にアップロードした PDF のチェックボックスをオンにします。
6. [追加]を選択します。
7. エンベロープの送信プロセスを完了します。
   以上の手順により、エンベロープテンプレートに追加できなかった PDF ファイルが、送信時に[メモ＆添付ファイル]から追加されました。

DocuSign eSignature for Salesforce - 用語集

自動配置テキスト**:** ユーザーが指定するリテラル文字列で、それに対して何らかのアクションを実行したり、指定したデータや入力で文字列が置き換えられたりします。

文書の一括作成**:** 複数のテンプレート文書を関連付けて、すべての文書を一括生成します。

データフィールド**:** 電子形式またはデジタル形式で格納される数量、文字、記号など、特定の種類のレコードに関連する特定の情報。

データソース**:** 生成する文書に取り込む（差し込む）データの取得元。

DocuSign Gen ユーザー**:** ユーザーまたは管理者として DocuSign Gen アカウントにアクセスできるユーザー。

DocuSign フィールド**:** DocuSign を使って文書上に配置され、署名者が署名したり特定のデータを入力したりできるフィールド。オプションで、署名者が DocuSign フィールド内に入力した情報を Salesforce 側のデータに反映させることもできます。署名、署名日、役職などの DocuSign フィールドがあります。

差し込みフィールドのインポート**:** DocuSign などの既存のテンプレートから差し込みフィールドを選択して、テンプレート設定として適用します。

メインデータソース**:** ユーザーが文書生成アクション処理を起動する Salesforce オブジェクト。たとえば、メインデータソースとして[商談]オブジェクトを選択した場合、そのオブジェクトおよび関連オブジェクト（[取引先]オブジェクトや商談品目名など）の任意のデータを生成文書内に取り込むことができます。